IBM Marketing Operations バージョン 9 リリース 0 2013 年 1 月 15 日

管理者ガイド



- お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、235ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Operations バージョン 9、リリース 0、モディフィケーション 0 および新しい版で明記され ていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

- 原典: IBM Marketing Operations Version 9 Release 0 January 15, 2013 Administrator's Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター
- 第1刷 2013.10
- © Copyright IBM Corporation 2002, 2012.

目次

第1章 IBM Marketing Operations の智	ŝ
理	. 1
クラスター環境での IBM Marketing Operations の管	ř
理	. 1
オプション機能について	. 1
詳細情報	. 2
ユーザーの管理について	. 3
ユーザーの同期について	. 4
IBM Marketing Operations 管理プロセスの概要	. 4
「管理設定」ページ	. 5
システム全体の休業日について	. 8
休業日を追加するには..........	. 9
休業日を削除するには..........	. 9
非営業の営業日のリストを変更する方法...	. 10
「休業日の変更のまとめ」ページ	. 10
トリガー	. 10
トリガーを追加する方法.........	. 11
トリガー・バインディングを追加または編集する)
方法	. 11
トリガー・バインディング・ダイアログ	. 12
「予算」タブのカスタマイズについて	. 13
「明細項目の詳細」テーブルにテキスト列を追加]
する方法	. 13
テキスト列の無効化または削除について...	. 14
予算のベンダー列の有効化	. 14
拡張検索の公開について	. 14
保存された検索を公開または非公開するには .	. 14
ロックされたオブジェクトのリストの表示	. 15
Marketing Operations のパフォーマンスの調整	. 15
IBM Marketing Operations インターフェースのカス	
タマイズ	. 16
マーケティング・オブジェクト・タイプの名前変	2
更...............	. 16
メニューのカスタマイズ	. 21
複数ロケールのサポート	. 23
オブジェクト・タイプのローカライズについて	. 23
ローカライズされた形式と記号の設定について	. 24
承認プロセスの構成	. 24
「拒否理由」を必須にするには......	. 25
マークアップ機能の構成	. 25
マークアップ・ツールの可用性の変更について	. 26
Adobe Acrobat マークアップを有効にする方法.	. 26
固有の IBM Marketing Operations マークアップ	E
有効にする方法	. 27
マークアップを無効にする方法	. 27
システム・ログの構成	. 28

第2章 カスタム・マーケティング・オブ	
ジェクト・タイプの作成.......	29
カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプ	
の処理の概要	30
マーケティング・オブジェクトの状態について	31
グローバル状態ファイルの編集	31
状態遷移について	32
マーケティング・オブシェクト・ダイブの追加 マーケティング・オブジェクト・タイプを追加す	33
る方法....................................	33
	33
マーケティング・オブジェクト・タイプの定義フ	24
マーケティング・オブジェクト・タイプのプロパ	54
ティー・ファイルについて	35
マーケティング・オブジェクト・タイプの編集 . マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作	36
成	36
マーケティング・オブジェクト・テンプレートを	50
作成する方法...............	36
マーケティング・オブジェクト・タイプと別のタイ	
プとの関連付けについて	36
第3章 レポートの使用	39
Cognos における IBM Marketing Operations のレポ	
ートおよびフォルダー名	39
Cognos での IBM Marketing Operations レホートの 作成お上びカスタマイブについて	40
Cognos での IBM Marketing Operations データ・モ	40
デルの更新	40
IBM Marketing Operations データ・モデルを更新	
する方法	41
カスタム・メトリックの照会対象の例	41
Cognos でのレポート・フィルターの作成	41
Cognos レポートでのハイパーリンクの作成	43
カスタム・レホートの例: プロジェクト・パフォーマ	
$\lambda \cdot \forall \forall \forall \forall d = (d + d + d + d + d + d + d + d + d + d $	43
管理レホートについて、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
不住中のユーザーおよい安住サマリーを生成する	47
には 拒否理由分析レポートを生成するには	47 47
	т/
第4章 テンプレートの概要	49
テンプレートの概念	49
別のテンプレートた作品する担合	50

がVノンノレ ドと下成する物ロ	•	·	·	•	•	. 52
一連のテンプレートに関する決定						. 52
テンプレート・コンポーネントについ	17	•				. 54
テンプレートの作成方法						. 56
カスタム・テンプレートの計画						. 57

カスタマイズ可能な項目	. 58
「サマリー」タブのサンプル	. 59
カスタム・タブの例	. 60
テンプレートの複数ロケール・サポートの構成	. 60
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート	. 61
キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設	
	. 62
オファー・テンプレート	62
第 5 音 テンプレートの作成な上が管理	62
ホップレート な迫加またけ短度するには	03
ランプレートを迫加または柵朱りるには テンプレートへの亦再の影響	. 0/
テンプレートを完美するための テンプレートの	08
「プロパティー」々ゴ	60
単一のテンプレートをエクスポートするにけ	71
手 のノンノレ 「モニンハホ」「りつには	/1
めの テンプレートの「タブ」タブ	72
タブをテンプレートに追加するには	73
テンプレートでタブまたはフォームを移動するに	10
	. 74
カスタム・フォームまたはタブをテンプレートか	
ら削除するには............	. 74
フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作	
成	. 75
「ルール・ビルダー」ダイアログ	. 75
フォルダーとファイルを追加するための、テンプレ	
ートの「添付ファイル」タブ	. 77
他の Web サイトにアクセスするための、テンプレ	
ートの「カスタム・リンク」タブ	. 77
イベントでトリガーされるアラートをセットアップ	
するためのテンプレートの「アラートのカスタマイ	
ブーカブ	
	79
ス」 クノー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79
へ」 タク · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	. 79 . 79
ス」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79 79 80
A」 タノ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81
(ス) タノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81
ヘ」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79 79 80 81 81
ヘ」シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81
(ス) タノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81
 ス」シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83
 ス」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 85
 ヘ」 クノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 85
 ス」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87
 ス」シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87
 ス」シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87
 ス」シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 88
 ス」シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 88
 ス」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 87 . 88
 ス」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 87 . 87 . 88
 ス」 シノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 88 . 88 . 90
 ス」クノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 88 . 90 . 91 . 93
 ス」クノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 88 . 90 . 91 . 93
 ス」タク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 79 . 79 . 80 . 81 . 81 . 82 . 83 . 83 . 83 . 83 . 85 . 87 . 87 . 87 . 88 . 90 . 91 . 93 . 93

テンプレート・コンポーネントの作業 .			. 96
「ワークフロー・テンプレート」ペーシ	۶.		. 97
「データ・マッピングの定義」ページ			. 99
「アイコン」ページ 102
テンプレート検証について.....			. 103
データベース検証について. . .			. 104
属性検証について.......			. 104

第6章 フォームの作成および管理 ... 105

	「フォームの定義」ページ..........	05
7	'ォームの作成................	06
	フォームを作成する方法	06
	共有属性をインポートする方法	07
	フォーム・エディター・インターフェース 1	07
	属性グループ	08
ク	「リッドの作成................	09
	グリッド・タイプについて	10
	編集可能グリッドを作成する方法	10
	新しいグリッド・ダイアログの作成 1	11
	既存の編集可能グリッドを読み取り専用グリッド	
	として表示する方法	12
	グリッドをリストとして表示する方法	13
	例: マーケティング・オブジェクトのリストの作	
	成	15
ら	·ーゲット・セル・スプレッドシートについて 1	19
	TCS を作成するには	20
	ターゲット・セル・スプレッドシートのデフォル	
	ト・セル属性	21
5	'ォームの公開..................	22
	フォームを公開する方法	22
-	'ォームのエクスポート	22
	フォームをエクスポートする方法	22
-	'ォームのインポート	23
	フォームをインポートする方法	23
	フォームのインポートにおけるトラブルシューテ	
	イング	24
-	コンピューター間でのフォームの移動	24
-	パオームのルックアップ値の管理	24
-	データベース表を変更せずにルックアップ値を無	
	効にするには	25
_	パオームのコピー 1 1 オームのコピー 1	25
_	パオームのローカライズ	26
	フォームをローカライズする方法 1	27
1	スト選択項目のデータ投稿の有効化	28
民	存のオブジェクトへのフォームの追加	29
-7		2)
	き7章 フォームでの属性の使用1	31
桿	進属性	32
N	larketing Operations と Campaign の統合の属性に	
~		33
	キャンペーン属性	33
	ヤル属性	33
	オファー属性 1	34
扂	はいたいです。 「性の作成、編集および削除について」	34
1-	共有属性を作成および有効化するには 1	34
	共有属性を編集する方法	35

	共有属性	まを削除	する	5方	法										135
	「共有属	属性」 リ	スト	• •	\sim	-:	ジ								135
	ローカル	レ属性を	作质	むす	る	方衫	去								136
	ローカル	レ属性を	編集	しす	る	に	よ								136
	ローカル	レ属性を	削隊	余す	る	方衫	去								136
属	生参照.														137
	標準の履	属性フィ	-)	レド											137
	属性デー	ータベー	スタ	明に	つ	()-	το	ワデ		91	ベー	ス	の考	エラ	
	慮事項.														139
属	生タイプ	につい	τ												139
	キャンハ	ペーン属	性、	セ	JV,	属	生、	お	よび	びえ	ナフ	P	一厚	萭	
	性の属性	_も タイフ	•												141
	「テキス	スト」 属	性グ	71	プ										142
	「単一邊	医択」 属	性グ	71	プ										143
	「単一邊	選択 - ラ	ř-	タハ	<i>`</i> -	・ス	J	属性	Ėタ	1	プ				143
	「複数遺	選択 - ラ	ř-	タハ	<i>`</i> -	・ス	J	属性	Ėタ	1	プ				144
	「「はぃ	1」また	は	[[]	61	え」		属	性	9-	イプ				145
	「10 進	数」属	生夕	17	プ										146
	「金額」	属性タ	15	プ.											146
	「計算」	属性タ	15	プ.											147
	「URL	フィー	レド	」原	禹怕	Ėタ	1	プ							148
	「オブシ	ジェクト	参照	Ę]	属	性	9-	イプ							149
	「イメー	-ジ」属	性グ	71	プ										150
	「クリコ	ニイティ	ブ	UR	LJ	属	性	ター	イフ	ŕ					150
	「オブシ	ジェクト	属性	主フ	イ	—)	11	、参	照」	厚	属性	9	17	プ	151
	「単一リ	リスト・	オフ	ブジ	I	ク	ト参	診照	J	属性	生夕	1	プ		152
	「依存こ	フィール	ド」	属	性	9-	17	プ							153

第8章 メトリックの操作155

X	トリック	のタ-	イプ											155
X	トリック	作成の	の概要	要										157
X	トリック	、メ	トリ	ック	・デ	イン	、ン	シ	ョン	``	お。	よて	ĸ	
X	トリック	・テン	ンプリ	レー	トの	操作	₫.							157
X	トリック	・プロ	コパミ	ティ										158
X	トリック	・ディ	ィメ	ンシ	эン	のフ	rμ	パう	ティ	_				159
X	トリック	・テン	ンプリ	レー	トお	よて	ドメ	\mathbb{P}^{1}	リッ	ク	• -	テン	/	
プリ	ノート・	グルー	ープの	の作	成.									159
	メトリッ	ヮク・	テン	プレ	/— ŀ	・を	乍成	ま	たじ	は編	集	す	3	
	メトリッ 方法 .	ック・ 	テン	プレ ・	/— ŀ 	・を(・	乍成 .	えま	た) ・	よ編	i集	す;	3	160
	メトリッ 方法 . メトリッ	ック・ ック・	テン グル	プレ ・ ーフ	ィート ・・・ パー・	・を ・ ・	乍成 · ·	えま ・ ・	たじ ・ ・	よ編 ・ ・	i集 ·	す ・ ・	3	160 161
X	メトリッ 方法 . メトリッ トリック	ック・ ・・ ック・ のロ-	テン グル -カ	プレ ・ ーフ ライ	/ート ・・・ パ・・ ズ・	・を ・ ・	乍成 · ·	えま ・ ・	たじ ・ ・	よ編 ・ ・	i集 · ·	す ・ ・	3	160 161 161
×	メトリッ 方法 . メトリッ トリック メトリッ	ック・ ・ク・ のロ- ック・	テン グル 一プロ	プレ ・一フ イテ	✓ート ✓ート ✓ ・ ✓ ・ ズ・ ✓ ・	・を(・ ・	乍 「 「 「 「 下 」 「 「 「 「 「 「 「 「 「	ま ・ ・ ・ イ	たい ・・・ ルの	よ編 ・・・・ ハイ	集・・・ン	す・・・ポ	3	160 161 161
×	メトリッ 方法 . メトリッ トリック メトリッ ノトリッ	ック・ ・ク・ ・ク・ ・ のロ・ ・ ・	テン グル ーカ フロ	プ・ーラパ・	/ート ・・ パ・・ ズ・ ・ ・・	·を(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	乍	ま・・・ ・ イ・	た! ・ ・ ルロ	よ編 ・・・ のイ	幕・・・ン・	す・・・ポ・	3 · · · _ ·	160 161 161 162
メメ	メトリッ 方法 ・ トリック メトリック トリック トリック	·ク・. ·クロ・ ・クロ・	テン グルフロ ンプ	プレ ・一ライ ア・レ	√−ト	を ・・・・・ ・ ・ ・ 、 エグ	乍 · · · フ · ス	ま ・・・イ ・ ポ	たド ・ ・ ルロ ・ ト	は ・・・ ・ ク・・ お		す・・・ポ・び1	ъ,	160 161 161 162
メメン	メトリッ 方法 リット メリント メリク ン トリー ト ・ ク ・	ック・ ・ クロー ・ テ、・ ・ テ、・	テン グルフロ ア・プロ・プロ・プロ・	プ・ーラパ・レ・	✓ート ✓ート ✓ ズ・ ✓ ズ・ ✓ ベート ✓ ベート ✓ ベート ✓ ベート ✓ ベート	を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	乍 · · · フ · ス ·	ま・・・イ・ポ・	た i · · · ル i · · · · · ·	よ ・・・ ク・・ お・・	集 · · · ン · よ ·	す・・・ポ・びへ	S, .	160 161 161 162 162

第9章 セキュリティーのセットアップ 163

グローバル・セキュリティー・ポリシーについて		163
役割について		164
デフォルトのセキュリティー・ポリシー役割につ)	
いて		164
カスタム・セキュリティー・ポリシー役割につい	J	
τ		165
オブジェクト・アクセス役割について		165
「プロジェクトの役割」について.....		166
セキュリティー・ポリシーおよび権限について		166

権限について	167
セキュリティー・ポリシーのプランニング	168
セキュリティー・ポリシーの構成について	169
グローバル・セキュリティー・ポリシーを編集す	
る方法..................	169
セキュリティー・ポリシーを作成するには	171
役割に対するユーザー可視性オプションを構成す	
る方法	171
セキュリティー・ポリシー役割を割り当てるには	172
テンプレートのアクセス権限の制御について	173
プロジェクトと要求に関するアクヤス制御につい	170
T	173
プロジェクト要求のヤキュリティー構成例	174
	1/1
第 10 章 アラートのセットアップ1	77
イベントでトリガーされるアラートについて	177
リマインダーについて	178
デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定	170
KONT	179
デフォルトのアラート・サブスクリプションを設	117
定するには	180
「デフォルトのアラート・サブフクリプション」	100

19	「アノオルトの/フート・サノスクリノション」	
50	ページ	180
50	リマインダーとワークフロー・タスクの日付につ	
51	いて	181
52	アラートの通知メッセージのカスタマイズ	181
53	アラート通知メッセージをカスタマイズする方法	182
	「アラート設定」ページ..........	183
5	カスタム・アラート・メッセージの例	185
55	アラート数のリフレッシュ間隔の変更	186
57	IBM Marketing Operations によるアラート送信元の	

ibivi wiaiketing	Op	cra	uon	10 1	C 0	·.~	/	/	1	ロノ		
決定方法												187

第 11 章 リスト・オプションの定義		189
カスタマイズ可能リスト		189
オプションをリストに追加するには.....		191
リスト・プロパティーについて		191
リスト・オプションを有効化、無効化、または削除	¥	
するには		192
リストのローカライズについて		192

第 12 章 プロジェクト正常性ルールの

実装													-				-	195
重要業	績評	陌	指	標に	20	り	τ											196
デフォ	ルト	の	正'	常性	έル	-	ル	27	っし	17	•							197
プロジ	エク	ィト	Ø	正常	馆性	ス	テ	-/	タフ	ζ•	ル	-	ルを	と構	杤	えす	-	
るには																		198
ルール	をフ	°Π	ジ	ェク	ット	•	テ	ンフ	プレ	/	ト	に	割り) 当	í7	23)	
には																		199
ラベル	と色	うを	力	スら	7	1	ズ	する	31	こは								200

第13章 メタデータのエクスポートお

よびインポート...........	201
メタデータのエクスポートについて....	. 201
メタデータを一括してエクスポートする方法.	. 202
メタデータのインポートについて	. 204

テンプレート・メタデータをインポートする方法 205 メタデータをインポートする方法......207
第 14 章 デジタル資産のライブラリー
のセットアップ
ライブラリーの作成方法
有効化されたライブラリーと無効化されたライブラ
リーについて
第 15 章 アカウントのセットアップ 213
アカウント管理者について
 アカウント管理者について
アカウント管理者について

第	16	章	詳約	田下	ピッ	ック	,		•	•					2	219
フィ	ィール	ノドル	こプロ	コグ	ラマ	チッ	ク	に	直を	:入	力					219
	フィー	ール	ドに	プロ	グラ	マラ	チッ	ク	に	直を	と入	力	す	る	列	220
	サーノ	バー	・サ	イド	σI	D /	主成	お	よび	びフ	プロ	ジ	Ľ	ク		
	ト属	生の	検証													220
	サンフ	プル	Java	1	ンタ	ーフ	7エ	— j	ス.							222
グリ	リッド	の権	贠証.													227
,	バリラ	デー	ター	・イ	ンタ	'	フェ	_	ス.							227
	デー	タ検	証ル	ール	につ)()]	τ.									228
7	検証)	レー	ル.													228
IBI	M 技	術	サポ	<u>.</u> —	トへ	の	連絡	絡	•	•						233
特調	記事	項.														235
商橋	₩ 示 .						•						•	•		237
プラ	ライン	<i>、</i> シ-	-•7	ポリ	シー	およ	い	利月	目条	作	に	푗`	する	る考	7	
慮哥	퇵項.	•		•					•		•				•	237

第1章 IBM Marketing Operations の管理

IBM[®] Marketing Operations を使用すると、コストを削減し、市場に出すまでの時間 を短縮しながら、マーケティング・プログラムのスタッフ、タスク、および予算を 編成することができます。

Marketing Operations は Web ベース・アプリケーションです。

システム要件

ハードウェア、オペレーティング・システム、Web サーバー、およびデータベース の要件については、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」という資料で説明されています。

クライアント・コンピューター

クライアント・コンピューターを構成して、以下の要件を満たすようにします。

- Internet Explorer では、ユーザーが Web ページにアクセスするたびに、保管されているページの最新バージョンがないかチェックする必要があります。例えば、Internet Explorer 9 では、「ツール」>「インターネット オプション」を選択して、「閲覧の履歴」セクションで「設定」をクリックします。「Web サイトを表示するたびに確認する」を選択します。
- クライアント・コンピューターにポップアップ・ブロッカー (ad ブロッカー) ソ フトウェアがインストールされている場合、Marketing Operations が正しく機能し ない場合があります。Marketing Operations URL のポップアップ (例えば http://myMachine:7001/plan) を許可します。

クラスター環境での IBM Marketing Operations の管理

IBM Marketing Operations をクラスター環境で実行する場合、システム管理作業の 実行時には、1 つを除きすべての Marketing Operations インスタンスをシャットダ ウンすることをお勧めします。

オプション機能について

IBM Marketing Operations には、中核となる、すぐに使用可能な機能を拡張するオ プションがいくつかあります。組織で、Marketing Operations を他の IBM 製品と統 合したり、アドオン・モジュールを有効にしたりすることができます。

Marketing Operations フィーチャーのセットを拡張するために、組織では以下のことを行えます。

- IBM Campaign を Marketing Operations と統合します。
- Marketing Operations と Campaign が統合されたら、オプションのオファー統合を 有効にします。
- IBM Digital Recommendations を Marketing Operations と統合します。

- 計画、プログラム、およびプロジェクトの会計活動をサポートする財務管理モジ ュールを有効にします。
- 電子ファイルの集中保管および集中管理をサポートするデジタル資産管理モジュールを有効にします。
- Marketing Operations を拡張するためのアプリケーション・プログラミング・イン ターフェース (API) を含む統合サービス・モジュールを有効にします。

これらのオプションは別々にライセンス交付を受け、その結果、すべての組織で運 用可能であるわけではありません。

詳細情報

組織に属するさまざまなスタッフが、さまざまなタスクを達成するために IBM Marketing Operations を使用します。 Marketing Operations に関する情報は一連のガイドに記載されており、それぞれは特定の目的およびスキル・セットを持つチーム・メンバーが使用することを目的としています。

表 1. Marketing Operations 資料セットのガイド

操作	参照先	対象読者
 プロジェクトを計画および管理します。 ワークフロー・タスク、マイルストーン、およびスタッフを確立します。 プロジェクト費用を追跡します。 内容に関するレビューおよび承認を得ます。 レポートを作成します。 	IBM Marketing Operations ユーザー・ ガイド	 プロジェクト・マネージャー クリエイティブ・デザイナー ダイレクト・メール・マーケティ ング・マネージャー
 テンプレート、フォーム、属性、 およびメトリックを設計します。 ユーザー・インターフェースをカ スタマイズします。 ユーザー・アクセス・レベルおよ びセキュリティーを定義します。 オプション機能を実装します。 Marketing Operations を構成および チューニングします。 	IBM Marketing Operations管理者ガイド	 ・ プロジェクト・マネージャー ・ IT 管理者 ・ 実装コンサルタント
 マーケティング・キャンペーンを 作成します。 オファーを計画します。 Marketing Operations と Campaign の間の統合を実装します。 Marketing Operations と IBM Digital Recommendations の間の統 合を実装します。 	IBM Marketing Operations and IBM Campaign 統合ガイド	 プロジェクト・マネージャー マーケティング実行の専門家 ダイレクト・マーケティング・マネージャー

表1.	Marketing	Operations	資料セッ	トのガイ	ド	(続き)
-----	-----------	-------------------	------	------	---	------

操作	参照先	対象読者
 新しいシステム機能について学習します。 既知の問題および回避策を調査します。 	IBM Marketing Operations リリース・ ノート	Marketing Operations を使用する全員
 Marketing Operations をインストー ルします。 Marketing Operations を構成しま す。 Marketing Operations の新規バージ ョンにアップグレードします。 	IBM Marketing Operations インストー ル・ガイド	 ソフトウェア実装コンサルタント IT 管理者 データベース管理者
Marketing Operations を他のアプリケ ーションと統合するカスタム手順を 作成します。	「 <i>IBM Marketing Operations 統合モジ</i> ュール」および Marketing Operations で「 ヘルプ」>「製品資料」 をクリッ クし、IBM <i><version></version></i> PublicAPI.zip フ ァイルをダウンロードして入手できる API JavaDoc。	 IT 管理者 データベース管理者 実装コンサルタント
Marketing Operations データベースの 構造について学習します。	IBM Marketing Operations システム・ スキーマ	データベース管理者
作業中に詳細情報が必要になった場合	 ヘルプを表示して「ユーザー・ガイ ド」、「管理者ガイド」、または 「インストール・ガイド」を検索ま たは参照します。「ヘルプ」>「こ のページのヘルプ」をクリックして ください。 すべての Marketing Operations ガイ ドにアクセスします。「ヘルプ」> 「製品資料」をクリックしてください。 すべての IBM Enterprise Marketing Management (EMM) 製品のガイドに アクセスします。「ヘルプ」>「す べての IBM EMM Suite 資料」を クリックしてください。 	Marketing Operations を使用する全員

ユーザーの管理について

IBM Marketing Platform とともにインストールされた機能を使用して、ユーザーと ユーザー・グループを作成および管理します。他のユーザーの処理を行う前に、自 身の」 IBM Marketing Operations ユーザーの「地域設定」プリファレンスが、ご使 用のインストール済み環境のデフォルト・ロケールと一致していることを確認して ください。インストール済み環境のデフォルト・ロケールは、「設定」>「構成」 >「Marketing Operations」にある defaultLocale プロパティーで定義されます。 ユーザーおよびユーザー・グループの作成、ユーザー・プリファレンスの設定、お よびアプリケーション・アクセス権限の割り当てについて詳しくは、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。 ユーザーの作成後、それらのユーザーを、適切なアクセス・レベル (PlanUserRole や PlanAdminRole など) を持つユーザー・グループに割り当てます。この処理によって、ユーザーに Marketing Operations にアクセスする権限が与えられます。

ユーザーおよびユーザー・グループの作成後、Marketing Operations ユーザー・テー ブルを Marketing Platform ユーザー・テーブルと同期させなければなりません。こ れにより、デフォルトの Marketing Operations セキュリティー・ポリシー役割がユ ーザーに割り当てられます。『ユーザーの同期について』を参照してください。

予期したとおりにユーザーが Marketing Operations に表示されない場合、またはロ グイン時にユーザーがエラーを受け取った場合は、ユーザー・グループに Marketing Operations へのアプリケーション・アクセス権限があり、ユーザー・テーブルが同 期されていることを確認してください。

ユーザーの同期について

ユーザーを同期することにより、IBM Marketing Platform または IBM Marketing Operationsで入力されたすべてのユーザー情報を、確実にシステム・テーブルに含めることができます。

usermanagerSyncTime プロパティーによって設定されたスケジュールで、自動的に 同期が行われます。このプロパティーは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」の下にあります。

また、手動で Marketing Operations ユーザー・テーブルを Marketing Platform ユー ザー・テーブルと同期させることもできます。この処置により、スケジュールされ ている次回の同期が行われる前に、新規ユーザーが Marketing Operations にログイ ンできるようになり、変更内容が反映されます。

ユーザーを手動で同期させるには

- 1. Marketing Operations にログインします。
- 2. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 3. 「ユーザーの同期」をクリックします。

IBM Marketing Operations 管理プロセスの概要

IBM Marketing Operations をインストールし、セットアップしたら、ユーザーは 「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」の手順に従ってこの製品にサイン インし、使用することができます。最良の結果を得るために、すべての管理者は 「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を読んでこの製品を理解してか ら、そのセットアップを行うようにしてください。 Marketing Operations のインス トールおよびセットアップを行うには、以下の手順に従います。

- 1. Marketing Operations をインストールします。
- 2. Marketing Operations を構成します。

Marketing Operations のインストールおよび構成について詳しくは、「*IBM Marketing Operations インストール・ガイド*」を参照してください。

- 3. テンプレートを作成します。 49 ページの『第 4 章 テンプレートの概要』を参照してください。
- セキュリティー・ポリシーをセットアップし、アラートを構成します。163 ページの『第9章 セキュリティーのセットアップ』および177ページの『第10章 アラートのセットアップ』を参照してください。
- 5. 資産をセットアップします。211 ページの『第 14 章 デジタル資産のライブラ リーのセットアップ』を参照してください。
- 6. リスト定義をセットアップします。189ページの『第 11 章 リスト・オプションの定義』を参照してください。

「管理設定」ページ

「ユーザーのパーソナライズ」セクション

「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択すると、「管理設定」ページが表示されます。このページには、以下のセクションおよびリンクが表示されます。

表2. 管理設定: 「ユーザーのパーソナライズ」セクション

セクション	説明
ユーザーのパーソ	このセクションには、ユーザーが自分にとって重要な情報を表示および
ナライズ	受信できるように、Marketing Operations をカスタマイズするためのリ
	ンクが表示されます。詳しくは、「IBM Marketing Operations ユーザー
	ズ・ガイド」を参照してください。

「システム管理設定」セクション

表3. 「システム管理設定」セクション:制限オプション

リンク	説明
セキュリティー・ ポリシー設定	システムで定義されているすべてのセキュリティー・ポリシーへのリン クが表示されます。詳しくは、171 ページの『セキュリティー・ポリシ ーを作成するには』を参照してください。
ユーザー権限	Marketing Operations を使用することが許可されているすべてのユーザ ーが、割り当てられているグループ別にリストに表示されます。詳しく は、172ページの『セキュリティー・ポリシー役割を割り当てるには』 を参照してください。
ユーザーの同期	Marketing Operations のユーザーを IBM Marketing Platform のユーザー と同期させます。詳しくは、4 ページの『ユーザーの同期について』を 参照してください。 クラスター環境でユーザーを同期させる場合には、次回、Marketing
	Platform と同期するときに変更が他のサーバーに伝搬されます。
メニューの同期	Marketing Platform のメニューと Marketing Operations で定義されてい るメニューを同期させます。

表4. 「システム管理設定」セクション: アクセス可能なオプション

リンク	説明
デフォルトのアラ	Marketing Operations オブジェクトのデフォルトのアラート・サブスク
ート・サブスクリ	リプションを設定および編集するためのページが表示されます。詳しく
プション	は、179ページの『デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定
	について』を参照してください。

表5. 「システム管理設定」セクション: ルート・レベルのオブジェクト定義

リンク	説明
アカウント定義	注: このリンクは、Marketing Operations の財務管理モジュールを使用
(Account	するシステムでのみ使用可能です。
Definitions)	Marketing Operations アカウントを管理するためのリンクが表示されます。
予算の明細項目列	「予算」タブの「明細項目の詳細」テーブルにテキスト列を追加するた めのページが表示されます。
資産ライブラリー 定義	資産ライブラリーを管理するためのリンクが表示されます。詳しくは、 211 ページの『第 14 章 デジタル資産のライブラリーのセットアップ』 を参照してください。

表6. 「システム管理設定」セクション: プロジェクト・オプション

リンク	説明
正常性ステータス	プロジェクトの 4 つの考えられる正常性ステータスに関連付けられたユ ーザー・インターフェースのラベルおよび色をカスタマイズする場合に クリックします。200ページの『ラベルと色をカスタマイズするには』 を参照してください。
正常性ルール	プロジェクトの正常性ステータス・スコアの計算に使用するルールを表示および管理する場合にクリックします。ルールを追加、編集、削除したり、ルールをプロジェクト・テンプレートに割り当てたりできます。 198ページの『プロジェクトの正常性ステータス・ルールを構成するには』を参照してください。
プロジェクトの正 常性の再計算	すべてのプロジェクトの正常性ステータス・スコアの再計算を手動で開 始する場合にクリックします。 195 ページの『第 12 章 プロジェクト 正常性ルールの実装』を参照してください。
プロジェクト正常 性日次メール	計画ユーザーまたは計画管理者のセキュリティー・ポリシー役割を持 つ、すべてのユーザーが使用できます。プロジェクト正常性ステータス 通知を購読または購読中止する場合にクリックします。これらのメッセ ージは自動日次プロセスによってのみトリガーされるので、何らかの理 由でこのプロセスが実行されていない場合は送信されません。 詳しくは、「 <i>Marketing Operations インストール・ガイド</i> 」で、 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「Scheduler」>
	'udily」ノロハノイニ で参照してへたさい。

表 6. 「システム管理設定」セクション: プロジェクト・オプション (続き)

リンク	説明
日中スケジューラ	プロジェクト正常性ステータス・スコアの定期的な再計算のバッチ処理
-	のステータスを ON または OFF で示します。この設定を ON または
	OFF にすることで、日中スケジューラーを実行するかどうかを示すこと
	ができます。
	詳しくは、「Marketing Operations インストール・ガイト」 C、
	Marketing Operations Image: Second system Scheduler Image: Second system
	「intraDay」プロパティーを参照してください。
日次スケジューラ	プロジェクト正常性ステータス・スコアの計算の日次バッチ処理のステ
-	ータスを示します。この設定を ON または OFF にすることで、日次ス
	ケジューラー を実行するかどうかを示すことができます。
	送」ノけ 「Machaning Ormations インフトール・ガイド」で
	$F \cup \{v_{\alpha}, \neg Marketing \cup perations \land \lor \land \land \land \neg \land \land \land \neg \land \land \land \land \land \land \land \land \land \land$
	Marketing Operations] > umoConfiguration] > [Scheduler] >
	「すうけい」プロパティーを参照してください

表7. 「システム管理設定」セクション: その他のオプション

リンク	説明
リストの定義	管理者がリスト値を設定または定義できる使用可能なリストへのリンク が表示されます。詳しくは、189ページの『カスタマイズ可能リスト』 を参照してください。
テンプレート構成	テンプレートおよびテンプレート・コンポーネントを操作するための機能へのリンクが表示されます。詳しくは、63ページの『第5章テンプレートの作成および管理』を参照してください。
	注: クラスター環境では、何らかのテンプレート構成作業を開始する前には、サーバーを 1 つだけ残してシャットダウンする必要があります。
休業日	システム全体の休業日の設定を更新するためのページが表示されます。 詳しくは、8ページの『システム全体の休業日について』を参照してく ださい。
公開された検索の 管理	Marketing Operations ユーザーによって保存された検索を公開するため のページが表示されます。詳しくは、14ページの『拡張検索の公開に ついて』を参照してください。
マーケティング・ オブジェクト・タ イプ設定	システムのカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを表示お よび管理できるページが開きます。詳しくは、33ページの『マーケテ ィング・オブジェクト・タイプの追加』を参照してください。
(Marketing Object Type Settings)	注: クラスター環境では、何らかのマーケティング・オブジェクト構成 作業を行う前には、サーバーを 1 つだけ残してシャットダウンする必 要があります。
トリガー・バイン ディング	システムで定義されているトリガー、およびそれらがどのようにプロシ ージャーにバインドされているかに関する詳細をリストするページが表 示されます。詳しくは、10ページの『トリガー』を参照してくださ い。
アラートのカスタ マイズ	指定したイベントのアラートのテキストを変更できるページが表示され ます。詳しくは、177ページの『第 10 章 アラートのセットアップ』 を参照してください。

表7. 「システム管理設定」セクション: その他のオプション (続き)

リンク	説明
Marketing Operations のアッ プグレード	アップグレードする Marketing Operations コンポーネントを選択できる ページが表示されます。詳しくは、「 <i>IBM Marketing Operations インス</i> トール・ガイド」を参照してください。
データ・マイグレ ーション	メタデータをエクスポートおよびインポートするためのオプションが表 示されます。201ページの『第 13 章 メタデータのエクスポートおよ びインポート』を参照してください。
不在中-委任の自 動追加	外出中機能に関するシステム全体の設定にアクセスすることができま す。
	 ユーザーの外出時にタスク、承認、および要求をカバーする代行者を指定することができます。この設定により、代行者として別のチーム・メンバーだけを選択できるのか、あるいはすべての Marketing Operations ユーザーを選択できるのかを定義します。 「代行ユーザーの自動追加を有効にする (Enable Auto Addition of Delegate User)」を「はい」に設定すると、タスク、承認、または要求が割り当てられたときに、必要に応じて代行者がプロジェクトのチーム・メンバーとして追加されます。 「代行ユーザーの自動追加を有効にする (Enable Auto Addition of Delegate User)」を「いいえ」に設定すると、すべての同じプロジェクトについて既にチーム・メンバーになっているユーザーだけを代行者として選択することができます。 この設定は、プロジェクト・テンプレートごとにオーバーライドすることができます。
	外出中機能について詳しくは、「IBM Marketing Operations ユーザー ズ・ガイド」を参照してください。
不在中のユーザー および委任サマリ ー	不在中のチーム・メンバーに関する情報をレポートするためのオプショ ンを提供します。詳しくは、47 ページの『不在中のユーザーおよび委 任サマリーを生成するには』を参照してください。
拒否理由と独立し た承認との関連付 け	独立した承認について、承認を拒否するユーザーが定義済みリストから 理由を選択することを求められるように Marketing Operations を構成で きます。 24 ページの『承認プロセスの構成』を参照してください。
キャンペーン・オ ファーのインポー ト	IBM Marketing Operations が Campaign と統合されているシステムでの み使用することができ、オプションのオファー統合を有効にします。 現在 IBM Campaign で使用可能なオファー、オファー・テンプレー ト、フォルダー、およびリストが列挙されます。オファーの有効化につ いて詳しくは、「 <i>IBM Marketing Operations and Campaign 統合ガイ</i> ド」 を参照してください。

システム全体の休業日について

IBM Marketing Operations では、デフォルトでタスクに関する作業が一切実行され ない日を指定することができます。Marketing Operations は、休業日をタスクの所要 時間の計算から除外します。 各種の休業日タイプ (休日など) を 1 つ以上定義した後、特定の休業日を個々に、 または日付範囲で入力することができます。休業日タイプについて詳しくは、189 ページの『第 11 章 リスト・オプションの定義』を参照してください。

休業日を追加するには

休業日を追加する際は、そのタイプを指定する必要があります。休業日タイプのリ ストに必要なオプションが含まれていることを確認するには、「**設定**」

- >「Marketing Operations 設定」>「リスト定義」をクリックします。 189 ページの 『第 11 章 リスト・オプションの定義』を参照してください。
- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「その他のオプション」セクションで、「休業日」をクリックします。

「休業日」ページが表示されます。

- 3. 新規の休業日の「開始日」と「終了日」を入力します。1 日で終わるイベントを 簡単に入力できるようにするため、デフォルトで、終了日は開始日と同じ日に設 定されます。
- 4. 休業日の名前を「名前」フィールドに入力します。
- 5. イベントのタイプを「**タイプ**」リストから選択します。
- 6. 「承認」をクリックします。

変更を有効にするために「**変更の保存**」をクリックするように促すメッセージが 表示されます。

注: 過去の日付 (過ぎてしまった日付) を追加することはできません。

- 7. 「変更の保存」をクリックします。 この変更がいずれかのプロジェクトに影響 する場合、影響を受けるプロジェクトが、そのプロジェクト所有者の名前と E メール・アドレスとともにシステムによってリストされます。
- 8. 休業日をさらに追加するには、「前のページに戻る」をクリックします。

休業日を削除するには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「その他のオプション」セクションで、「休業日」をクリックします。

「休業日」ページが表示されます。

- 3. リストから日付を 1 つまたは複数選択します。
- 4. 「削除」をクリックします。

変更を有効にするために「**変更の保存**」をクリックするように促すメッセージが 表示されます。

注: 過去の日付 (過ぎてしまった日付) を削除することはできません。

- 5. 「変更の保存」をクリックします。 この変更がいずれかのプロジェクトに影響 する場合、影響を受けるプロジェクトが、そのプロジェクト所有者の名前と E メール・アドレスとともにシステムによってリストされます。
- 6. 休業日をさらに削除するには、「前のページに戻る」をクリックします。

非営業の営業日のリストを変更する方法

一般に、休日やその他の非営業日のリストは、暦年の最初の、マーケティング・カ レンダーの詳細の設定前に定義します。ただし、タスク、プロジェクト、およびプ ログラムの日付を既に設定してしまった後に、それらの非営業日を変更する必要が 生じる場合があります。この場合、非営業の営業日のリストを変更するプロセスは 以下のようになります。

- 1. 非営業の営業日のリストに対する変更を行います。
- 2. 変更が何らかのプロジェクトまたはタスクに影響する場合、「非営業の営業日 (Non-working Business Dates)」サマリー・ページを使用して、影響を受けるプロ ジェクトの所有者に通知する必要があります。

「休業日の変更のまとめ」ページ

「休業日の変更のまとめ」ページには、次のフィールドがあります。

表8. 「休業日の変更のまとめ」ページのフィールド

フィールド	説明
名前	影響を受けるプロジェクト (複数の場合もあり)のプロジェクト所有者 の名前。
E メール・アドレ	影響を受けるプロジェクト (複数の場合もあり) のプロジェクト所有者
X	$O \in \mathcal{Y} - \mathcal{V} \cdot \mathcal{Y} \in \mathcal{V}$
プロジェクト・リ	影響を受けるプロジェクトと、そのプロジェクトの期間中に該当し、追
スト	加または削除された実際の非営業日のリスト。

このページは、変更による影響を受けるプロジェクトを所有するプロジェクト所有 者に E メール通知を送信する場合に使用します。「プロジェクト・リスト」フィー ルド内のテキストを E メールにカット・アンド・ペーストすることで、プロジェク ト所有者は変更の影響を迅速に評価できます。

トリガー

特定のオブジェクトに関連するイベントによってプロシージャーが実行されるよう、トリガーをセットアップすることができます。

例えば、特定のプロジェクトの状態が「ドラフト」から「アクティブ」に変更され るたびに、データをデータベースに挿入するとします。トリガーを使用してこれを 行うには、以下を定義します。

- レコードを外部データベース表に挿入するためのプロシージャー。
- DirectMail というプロジェクト・テンプレート。
- プロジェクトの状態が変更された(例えば、「ドラフト」から「アクティブ」に) ときに起動するように設定された、DirectMail テンプレートのトリガー・バイン ディング。

DirectMail テンプレートに基づくプロジェクトの場合、指定された状態変更が発生 するとシステムはプロシージャーを呼び出します。

以下のトリガー・ルールが適用されます。

• トリガーは、イベントの直前または直後に実行されます。

トリガーは、システム・イベントのサブセット(プロジェクト、要求、マーケティング・オブジェクト、承認、タスク、ワークフロー・スプレッドシート、グリッド行、ユーザー、請求書、予算、アカウント、およびリソースが関与するイベントを含む)の発生時に実行されます。

一般に、トリガーは可能な限りの最も詳細なレベルで定義します。例えば、任意の オブジェクトに対してトリガー・バインディングを設定するのではなく、特定のプ ロジェクト・テンプレートの特定のイベントに対してトリガー・バインディングを 構成します。

そのインストール済み環境のトリガー・バインディングのリストを表示するには、 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択し、「トリガー・バインディン グ」をクリックします。

トリガーを追加する方法

オブジェクトに関する特定の条件が満たされた場合にトリガーを自動的に実行する には、事前にいくつかの作業を実行しておく必要があります。以下の手順では、ト リガーを追加するプロセスを示します。

注: 一部の作業は、IBM Marketing Operations の外部で行うものです。

- 1. IProcedure インターフェースを実装するプロシージャーを Java[™] で作成しま す。 詳しくは、「*IBM Marketing Operations 統合モジュール*」ガイドを参照し てください。
- そのプロシージャーをプロシージャー・フォルダーに入れます。このディレクト リーは、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「integrationServices」の下にある integrationProcedureDefinitionPath プロパティーで指定します。
- 3. プロシージャーをビルドします。
- プロシージャーを procedure-plugins.xml 定義ファイルと、 integrationProcedureDefinitionPath で定義されたディレクトリーに追加しま す。
- 5. Web サーバーを再始動します。
- Marketing Operations にログインして、トリガー・バインディングを追加します。 『トリガー・バインディングを追加または編集する方法』を参照してください。

トリガー・バインディングを追加または編集する方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「トリガー・バインディング」を選 択して、システム内の現在のトリガー・バインディングを表示します。
- 「新規トリガー・バインディングの追加 (Add New Trigger Binding)」をクリッ クするか、既存のバインドで「編集」をクリックします。 ダイアログが開きま す。
- トリガー・バインディングに識別できる「名前」を付けて、オブジェクト・タイ プ、テンプレート、コンテキスト、およびイベントを選択します。 12ページの 『トリガー・バインディング・ダイアログ』を参照してください。

4. 「**保存**」をクリックしてバインディングを保存してから、「トリガー・バインディング」リスト・ページに戻ります。

トリガー・バインディング・ダイアログ

トリガー・バインディングを作成または編集する場合、以下の情報を指定します。 この情報は、「トリガー・バインディング」リスト・ページに表示されます。

表9. 「トリガー・バインディング」ダイアログのデータ入力コントロール

列	説明
名前	バインドのテキスト名。名前は固有でなければなりません。
Marketing Operations オブジェクト	トリガーが定義されているオブジェクトのタイプ。デフォルトは 「任意の Marketing Operations オブジェクト (Any Marketing Operations Object)」です。
テンプレート	フィルターとして使用するテンプレート。選択したテンプレート は、そのテンプレートに対応するオブジェクトのすべてのインスタ ンスに適用されるフィルターになります。プロジェクトは、テンプ レートを持つオブジェクトです。そのため、検索を特定のテンプレ ートに制限するフィルター基準を指定します。この基準のデフォル トは「任意のテンプレート (Any Template)」です。これは、オブ ジェクトのすべてのテンプレートがフィルターに含まれること、あ るいは指定されたオブジェクトに検討対象のテンプレートがないこ とを意味します。
コンテキスト	トリガーのコンテキスト。例えば、コンテキストはタスクやワーク フローの場合があります。デフォルトである「 任意の」 とは、どの コンテキストもフィルター基準の検討対象になることを意味しま す。
イベント	フィルター操作のイベント。オブジェクトに対して「任意のイベン ト (Any Event)」が選択されていない限り、選択されたオブジェク ト、テンプレート、およびコンテキストに対応するイベントのみが 表示されます。「任意のイベント (Any Event)」が選択されている 場合、すべてのイベントが表示されます。
遅延	トランザクションのコミット後、一定時間の経過後にプロシージャ ーが実行されます。トリガーを含んでいたトランザクションは、そ のプロシージャー・コンテキストには表示されません。そのプロシ ージャーには、別個のトランザクション・コンテキストが提供され ます。
検証	検証トリガーは、現在のトランザクションがコミットされる前に、 データを検証するプロシージャーを呼び出します。このトリガー は、それを含むコンテキストによってプロシージャー呼び出しをセ ットアップします。このコンテキストにはデータベース・トランザ クションが含まれています。

表9. 「トリガー・バインディング」ダイアログのデータ入力コントロール (続き)

列	説明
排他	排他バインディングとは、複数のバインディングが一致した場合 も、他のプロシージャーと一緒に実行されないプロシージャーで す。(複数の排他バインドが一致した場合、すべての排他バインド が実行されます。)
	このボックスにチェック・マークを付けない場合、バインディング は包括バインディングになります。包括バインディングは、2 つ以 上のトリガーの選択条件が一致する場合に、他のプロシージャーと 一緒に実行されるプロシージャーを示します。一致するプロシージ ャーが排他の場合、一致する排他プロシージャーのみが実行されま す。
	最も具体性の高い排他バインドのみが一致となります。したがっ て、例えば、3 つの排他トリガー (グローバルなものが 1 つ、すべ てのプロジェクトに対するものが 1 つ、特定のプロジェクト・テ ンプレートに対するものが 1 つ) がある場合、起動されたイベント が 3 つすべてと一致すると、特定のプロジェクト・テンプレート に対する排他トリガーのみが実行されます。
プロシージャー (Procedure)	トリガーにバインドされているプロシージャー。つまり、トリガー の起動時に実行されるプロシージャー。 11 ページの『トリガーを 追加する方法』を参照してください。

「予算」タブのカスタマイズについて

プログラムおよびプロジェクトの「予算」タブにある「明細項目の詳細」テーブル をカスタマイズする場合、最大で3つのテキスト列を追加できます。これは一括変 更です。指定するテキスト列は、Marketing Operationsのプログラムとプロジェクト 内のすべての「明細項目の詳細」テーブルに表示されます。「予算」タブへの変更 は、新規と既存の両方のプログラムとプロジェクトに適用されます。

また、「予算」タブの「明細項目の詳細」テーブルに「ベンダー」列を含めること もできます。この列は、プログラムとプロジェクトのいずれかで有効にすること も、両方で有効にすることも、無効にすることもできます。

注: 「予算」タブは、財務管理モジュールの機能です。このモジュールがない場合、このセクションで説明しているオプションやコントロールは表示されません。

「明細項目の詳細」テーブルにテキスト列を追加する方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択し、「予算の明細項目列」をク リックします。
- 2. 列を追加するには、列見出しにするラベルを入力します。 ラベルのテキストを 入力すると、自動的にその列が有効になります。
- 3. 「変更の保存」をクリックします。

すべてのプログラムとプロジェクトの「明細項目の詳細」テーブルの「予算」タブ に、新しい列が表示されます。列ラベルを編集する場合は、編集したいときにこれ らの手順を再度行います。

テキスト列の無効化または削除について

テキスト列は、一時的に無効にすることも、完全に削除することもできます。「設 定」>「Marketing Operations 設定」>「予算の明細項目列」をクリックします。

テキスト列を「明細項目の詳細」テーブルで無効にしながら列ラベルは完全に削除 しないようにするには、「**無効化」**をクリックします。テキスト列を無効化する と、「**無効化**」オプションが「**有効化**」オプションに置き換わります。

テキスト列を「明細項目の詳細」テーブルから削除するには、「**削除**」をクリック します。「**変更の保存**」をクリックすると、テキスト列フィールドが必要に応じて 再番号付けされ、新しいフィールドが画面下部に追加されます。使用可能なテキス ト列の総数は 3 つのままです。

予算のベンダー列の有効化

予算の明細項目をユーザーが編集するときに「ベンダー」列が表示されるようにす るには、「設定」>「構成」> 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」で 「FMPrgmVendorEnabled」プロパティーおよび「FMProjVendorEnabled」プロパティ ーを True に設定します。

拡張検索の公開について

ユーザーがオブジェクトを効率的に検索できるように、IBM Marketing Operations には拡張検索機能が用意されています。ユーザーは検索条件の入力後、この検索を 識別できる名前を指定して保存して、後に使用できるようにすることができます。

管理者が拡張検索機能を使用して検索を保存する場合は、この検索を公開するためのオプションがシステムに用意されます。また管理者は、すべての保存済み検索を参照して、公開または非公開とする検索を選択することもできます。検索を公開すると、すべての Marketing Operations ユーザーがそれを使用できるようになります。

検索について詳しくは、「IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド」を参照し てください。

保存された検索を公開または非公開するには

ユーザーが拡張検索の条件を保存した後、管理者はこれを公開してすべての Marketing Operations ユーザーが使用できるようにすることができます。反対に、以 前に公開された検索が広範囲に必要ではなくなったなら、それを非公開検索に戻す こともできます。

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「公開された検索の管理」を選択し ます。

「公開された検索の管理」ページが開きます。

 デフォルトでは、このページには自分の検索のみがリストされています。別のユ ーザーによって作成された検索を使用するには、「ユーザー名で検索」フィール ドでそのユーザーを選択します。

- 検索を公開するには、「利用可能な保存済み検索」リストで検索を選択してから、「>>」をクリックします。この検索が「保存された検索を公開」リストに移動されます。
- 検索を非公開にするには、「保存された検索を公開」リストで検索を選択してから、「<<」をクリックします。この検索が「利用可能な保存済み検索」リストに移動されます。
- 5. 「変更の保存」をクリックします。

ロックされたオブジェクトのリストの表示

IBM Marketing Operations には、アプリケーションで現在ロックされているオブジ ェクトのリストを表示するためのツールが含まれます。

1. このツールを使用するには、ブラウザー・ウィンドウに以下の URL を入力しま す。

http://<Platform_host>:<Platform_port>/unica/jsp/main.jsp? redirectURL=http://<UMO_host>:<UMO_port>/ plan/affiniumplan.jsp?cat=adminobjectlocklist

ログイン画面が表示されます。

2. Marketing Operations 管理者レベルのアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

オブジェクト・ロックのリストのあるページが表示されます。

オブジェクト・ロックのページに、オブジェクト、グリッド、およびグリッド行で グループ化された現在のロックが表示されます。このページには、ID と、ロックさ れているオブジェクトの所有者であるユーザーの情報を含む、各ロックに関する情 報が表示されます。

注: 「オブジェクト・ロック管理 (Object Lock Admin)」ページからログアウトする には、以下の URL を入力します。

http://<Platform_host>:<Platform_port>/unica/jsp/main.jsp

「ログアウト」をクリックして、セッションを終了します。

Marketing Operations のパフォーマンスの調整

IBM Marketing Operations には、システム・パフォーマンスを向上させるために設 定する構成プロパティーがあります。これらの構成プロパティーにアクセスするに は、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」をクリックします。

リストの結果サイズの最大値の設定

データベース照会の制約に関する問題を解決するために、すべてのシステム・リスト・ページの結果セットを、指定した値に制限することができます。
 「umoConfiguration」>「database」をクリックすると、
 commonDataAccessLayerMaxResultSetSize プロパティーを構成できます。

照会のバッチ・サイズの設定

パフォーマンスに敏感な照会では、結果セットのバッチ・サイズを定義できます。 指定した数のレコードのみが一度に戻されます。

「umoConfiguration」>「database」をクリックすると、

commonDataAccessLayerFetchSize プロパティーを構成できます。デフォルト設定 は、0 つまり無制限です。推奨値は 500 です。

カレンダー・ページの項目カウントの最大値の設定

ユーザーがカレンダー・ビューで項目を確認したりエクスポートしたりする際のパフォーマンス問題を管理するには、表示されるオブジェクト(計画、プログラム、 プロジェクト、およびタスク)の数を制限できます。

「umoConfiguration」>「listingPages」をクリックすると、

maximumItemsToBeDisplayedInCalendar プロパティーを構成できます。デフォルト 設定は、0 つまり無制限です。最大値は 500 です。

カレンダー表示を制限する場合、拡張検索を使用すると、検索対象にする項目を選 択することができます。

IBM Marketing Operations インターフェースのカスタマイズ

IBM Marketing Operations では、ユーザー・インターフェースをカスタマイズする オプションを提供します。以下を行うことができます。

- 標準マーケティング・オブジェクト・タイプを名前変更して、ページやメニュー に表示するラベルを変更します。
- メニューを作成して名前変更します。
- メニュー項目の再編成と名前変更、および URL にリンクするメニュー項目の追加を行います。

ユーザー・インターフェースのいくつかのドロップダウン・リストに表示するオプ ションを定義することもできます。詳しくは、189ページの『第 11 章 リスト・オ プションの定義』を参照してください。

マーケティング・オブジェクト・タイプの名前変更

マーケティング・オブジェクト・タイプのユーザー・インターフェースに表示する ラベルおよびその他のテキスト・ストリングを変更できます。標準 Marketing Operations マーケティング・オブジェクト・タイプには、計画、プログラム、プロ ジェクト、承認、および資産などがあります。また、組織の必要に応じて、カスタ ム・マーケティング・オブジェクト・タイプを追加することもできます。 29 ペー ジの『第 2 章 カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプの作成』を参照 してください。

オブジェクト・タイプを名前変更するには、以下のファイルの1つ以上を編集します。

 <MarketingOperations_Home>/messages/com/ibm/umo/ext/ UMOConfigurationMessages_<defaultLocale>.properties (標準マーケティング・ オブジェクト・タイプの場合) または UMOMktObjectConfigurationMessages_<defaultLocale>.properties (カスタム・ マーケティング・オブジェクト・タイプの場合)

このファイルには、list パラメーターと ui パラメーターが収められています。

- list パラメーターは、ユーザーがオブジェクト・タイプのメニュー項目を選 択すると表示されるリスト・ページのラベルおよびテキスト・ストリングを定 義します。例えば、projectlist.columnList.PROJECT_STATUS.header=Status など。
- ui パラメーターは、そのオブジェクト・タイプの単一インスタンスのデータ を表示するページについて、ラベルおよびテキスト・ストリングを定義しま す。例えば、

```
projectsui.tabset.tab_edit_workflow.item_addTask.display=Add Task Row
など。
```

<MarketingOperations_Home>/conf/<defaultLocale>/sysmodules.xml

『sysmodules.xml ファイルについて』を参照してください。

• <MarketingOperations_Home>/conf/<defaultLocale>/sysmenu.xml

19ページの『sysmenu.xml ファイルについて』を参照してください。

変更内容を Marketing Operations ユーザー・インターフェースで有効にするには、 アプリケーション・サーバーを再始動して、メニューを Marketing Platform と同期 する必要があります。

組織が複数ロケールをサポートしている場合、標準マーケティング・オブジェクト・タイプ用に表示されるラベルをローカライズすることができます。 23 ページの 『オブジェクト・タイプのローカライズについて』を参照してください。

sysmodules.xml ファイルについて

<MarketingOperations_Home>/conf/<locale>/sysmodules.xml ファイルは、標準マ ーケティング・オブジェクト・タイプのユーザー・インターフェースに表示される ラベルを定義します。このファイルには、module 要素のセクションと item 要素の セクションがあります。

- module 要素は、Marketing Operations のメニューでマーケティング・オブジェクト・タイプがどのように表示されるかを定義します。
- item 要素は、オブジェクト・タイプ名が Marketing Operations で別途使用される 場合のために、その単数形と複数形のバージョンを定義します。

標準マーケティング・オブジェクト・タイプのそれぞれについて、sysmodules.xml ファイルには 1 つの module 要素と 2 つの item 要素が含まれています。例え ば、en_US/sysmodules.xml ファイルにはプロジェクトの以下の値が含まれていま す。

```
<module id="projects">
	<display>Projects</display>
	<description>Projects Module</description>
	<helptip>Projects</helptip>
	<link>uapprojectservlet?cat=projectlist</link>
	<helpfile>plan.htm</helpfile>
</module>
<item id="project">Project</item>
<item id="projects">Project</item>
```

メニューおよびページに表示されるラベルを変更する場合、編集対象のファイルの 1 つはデフォルト・ロケールの sysmodules.xml ファイルです。例えば、ユーザ ー・インターフェース全体に渡って「projects」を「promotions」に変更するには、モ ジュールの <display> 要素の値と、プロジェクトの <item> 要素の両方の値を編集 します。

```
<module id="projects">
	<display>Promotions</display>
	<description>Projects Module</description>
	<helptip>Projects</helptip>
	<link>uapprojectservlet?cat=projectlist</link>
	<helpfile>plan.htm</helpfile>
</module>
<item id="project">Promotion</item>
<item id="projects">Promotion</item>
```

URL にリンクするメニュー項目を追加する場合は、sysmodules.xml ファイルも編 集します。22ページの『URL にリンクするメニュー項目を追加する方法』を参照 してください。

sysmodules.xml ファイルで行った変更を Marketing Operations ユーザー・インター フェースに適用するには、サーバーを再始動して、メニューを Marketing Platform と同期する必要があります。

注: 組織のデフォルト・ロケールは、インストール中に設定されます。この設定を 確認するには、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」をクリックして、 defaultLocale 構成プロパティーを調べます。

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを作成する際には、Marketing Operations が sysmodules.xml ファイルに自動的に module 要素とその単数形と複 数形の item 要素を追加します。詳しくは、29ページの『第2章 カスタム・マー ケティング・オブジェクト・タイプの作成』を参照してください。

sysmodules.xml ファイルの要素:

sysmodules.xml ファイルでモジュールを定義するには、以下の要素を使用します。

module

<module> 要素は、モジュールを定義する要素のコンテナー要素です。この要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	モジュールの固有の名前。

<module> 要素には値がありません。この中には、子要素 <display>、
<description>、および <link> を入れることができます。

display

<display> 要素は、Marketing Operations がインターフェースのこのモジュールに使用する名前を定義します。この要素には属性がなく、子要素もありません。要素値は、使用する名前です。

description

<description> 要素は、このモジュールの説明を定義します。この要素には属性が なく、子要素もありません。この要素値は、使用する説明です。

link

sysmenu.xml ファイルについて

<MarketingOperations_Home>/conf/<locale>/sysmenu.xml ファイルはメニューおよびメニュー項目のラベル (メニュー項目と任意のセパレーターのシーケンスを含む) を定義します。

ユーザー・インターフェースのメニューおよびメニュー項目は、sysmenu.xmlの要素で定義されます。最初、メニュー項目は module 要素の sysmodules.xml ファイルに定義された値に対応しています。 sysmenu.xml ファイルの各項目には、それに対応する module 要素が sysmodules.xml ファイル内に必要です。

メニューのメニュー項目の再編成、作成したメニューの名前変更、またはメニュー 項目の追加が必要な場合、編集対象のファイルの 1 つはデフォルト・ロケールの sysmenu.xml ファイルです。 sysmenu.xml ファイルで行った変更を Marketing Operations ユーザー・インターフェースに適用するには、アプリケーション・サー バーを再始動して、メニューを Marketing Platform と同期する必要があります。

sysmenu.xml ファイルの要素:

以下の要素を使用して、sysmenu.xml ファイルにメニューとメニュー項目を定義します。

menugroup

<menugroup> 要素はユーザー・インターフェースのメニューを識別します。メニューおよびそのメニューで提供する項目のラベルを定義する要素が含まれています。 この要素には、次の属性があります。

属性	説明
id	メニューの固有 ID。

<menugroup> 要素には値がありません。この中には、子要素 <display> と
<menuitem> を入れることができます。

display

<display> 要素は、Marketing Operations がこのメニューのユーザー・インターフェ ースに表示するラベルを定義します。この要素には属性がなく、子要素もありませ ん。属性値は、使用する名前です。

menuitem

<menuitem> 要素は、メニューの項目を定義します。この要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	このメニュー項目に対応するモジュールの固有 ID。対応するモジュー ル ID の値が sysmodules.xml ファイルに存在していなければなりませ ん。
type	このメニュー項目に対応するモジュールのタイプ。オプション。

<menuitem> 要素には、値も子要素もありません。

2 つのメニュー項目の間に水平線を組み込むには、sysmenu.xml の <menuitem> 要素同士の間に <separator/> 要素を追加します。

マーケティング・オブジェクト・タイプを名前変更するには

- 1. sysmodules.xml ファイルを開きます。
- 2. このファイルの <syscatalogitems> セクションを見つけます。名前変更するマー ケティング・オブジェクト・タイプの単数形と複数形の名前を定義する <item> 要素については、値を好みの用語に置き換えます。
- 3. 名前変更するマーケティング・オブジェクト・タイプの <module> セクション を見つけます。そのセクションで、<display> 要素の値を好みの用語に変更しま す。
- 4. sysmodules.xml ファイルを保存して閉じます。
- UMOConfigurationMessages_<defaultLocale>.properties ファイル (標準マー ケティング・オブジェクト・タイプの場合) または UMOMktObjectConfigurationMessages_<defaultLocale>.properties ファイル (カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプの場合) を開きます。

名前変更するマーケティング・オブジェクト・タイプについて、そのオブジェ クト・タイプ名を含んでいるすべてのリストおよび ui プロパティー値 (= 符号 に続く部分) を見つけます。

- 6. 名前の値を好みの用語に変更します。ファイルを保存して閉じます。
- 7. sysmenu.xml ファイルを開きます。このファイルで定義するメニュー項目名 は、sysmodules.xml によって定義される表示名をオーバーライドします。
- 8. メニュー項目名の値を好みの用語に変更します。ファイルを保存して閉じま す。
- 9. Marketing Operations アプリケーション・サーバーを再始動します。
- 10. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックしま す。

注: この手順を実行した後でメニューが予期したとおりに表示されない場合 は、configTool ユーティリティーを使用して、メニュー項目を手動でインポー トしてください。このツールの使用について詳しくは、「*IBM Marketing Operations インストール・ガイド*」を参照してください。デプロイメント前の Marketing Operations の構成に関するセクションと、手動による Marketing Operations の登録のステップを参照してください。

メニューのカスタマイズ

Marketing Operations のメニューとメニュー・オプションは、所属する組織のニーズ に基づいて構成できます。Marketing Operations では、以下のいずれのカスタマイズ も実行できます。

- メニューの作成
- メニューの項目の再編成
- メニューの項目の名前変更
- 以前に作成したメニューの名前変更
- URL にリンクするメニュー項目の追加

デフォルトのメニュー (「操作」、「分析」など)を名前変更することはできません。ただし、これらのメニュー内の項目を名前変更することは可能です。

メニューの作成方法

メニューを作成する前に、メニューのモジュールと、そのメニューに組み込む各項 目のモジュールが sysmodules.xml ファイルに含まれている必要があります。

- 1. sysmodules.xml ファイルを開きます。
- 2. 新規メニューの固有 ID 値を指定した <module> 要素を追加します。
- 3. メニューに組み込む各メニュー項目の <module> が存在していることを確認し てください。

それぞれについて、ID 値をメモします。

- 4. sysmodules.xml ファイルを保存して閉じます。
- 5. sysmenu.xml ファイルを開きます。
- 6. メニューを作成するには、<menugroup> 要素を追加します。

sysmodules.xml ファイルの新規メニューの <module> 要素に入力したものと同 じ ID 値をこの要素に入力します。

7. メニューのメニュー項目を作成するには、その <menugroup> に <menuitem> 要素を追加します。

各 <menuitem> 要素が、ステップ 3 で識別した sysmodules.xml ファイルのい ずれかの <module> 要素と同じ ID 値を持つことを確認します。

- 8. sysmenu.xml ファイルを保存して閉じます。
- 9. Marketing Operations サーバーを再始動します。
- 10. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックしま す。

メニューの項目の再編成

メニューの項目は再編成できます。項目をあるメニューから別のメニューへ移動し たり、メニューの項目の順序を変更したりすることができます。 メニューの項目の再編成は、sysmenu.xml ファイル内の <menuitem> 要素の場所を 変更することにより行います。完了したら、「設定」>「Marketing Operations 設 定」>「メニューの同期」をクリックします。

メニューまたはメニューの項目を名前変更する方法

- 1. sysmenu.xml ファイルを開きます。
- 名前変更するメニューの <menugroup> 要素、または名前変更するメニュー項目の <menuitem> 要素を見つけます。
- 3. 以下のいずれかのオプションを実行します。
 - a. 要素に子要素 <display> がある場合は、<display> 要素の値を表示するテキス トに変更します。
 - b. 要素に子要素 <display> がない場合は、表示するテキストが値になる子要素 <display> を作成します。
- 4. sysmenu.xml ファイルを保存して閉じます。
- 5. Marketing Operations アプリケーション・サーバーを再始動します。
- 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックします。

URL にリンクするメニュー項目を追加する方法

- 1. sysmodules.xml ファイルを開きます。
- 2. モジュールを作成します。

< 要素の値は、リンク先の URL でなければなりません。

3. ID 属性とタイプ属性の値をメモします。

後のステップでこれらを sysmodules.xml ファイルに入力する必要があります。

- 4. sysmodules.xml ファイルを保存して閉じます。
- 5. sysmenu.xml ファイルを開きます。
- 6. リンクを追加するメニューの <menugroup> を見つけます。
- 7. 以前に作成したモジュールを参照する <menuitem> 要素を追加します。
- 8. sysmenu.xml ファイルを保存して閉じます。
- 9. Marketing Operations サーバーを再始動します。
- 10. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの同期」をクリックしま す。

メニューの同期

Marketing Operations でメニューに変更を加えた場合は必ず、メニューを同期して変 更内容が表示されるようにしてください。

注: マーケティング・オブジェクト・タイプを作成した場合は、メニューに変更を 加えたものとみなされます。Marketing Operations では、sysmodules.xml ファイル と sysmenu.xml ファイルは自動的に変更されますが、メニューの同期は手動で行う 必要があります。

メニューを同期するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「メニューの 同期」をクリックします。

複数ロケールのサポート

複数ロケールに Marketing Operations ユーザーが存在する組織の場合、ユーザー・ インターフェースに表示されるラベルおよびその他のテキスト・ストリングを、各 ロケールの言語をサポートするように構成できます。「設定」>「構成」

>「Marketing Operations」を選択すると表示される supportedLocales および defaultLocale 構成プロパティーで、組織のロケールを識別します。これらのプロ パティーは、インストール時に設定されます。

Marketing Operations では、以下のオブジェクトをローカライズできます。

- 標準マーケティング・オブジェクト・タイプおよびカスタム・マーケティング・ オブジェクト・タイプ。『オブジェクト・タイプのローカライズについて』を参 照してください。
- テンプレート・プロパティー。60ページの『テンプレートの複数ロケール・サポートの構成』を参照してください。
- フォーム属性。126ページの『フォームのローカライズ』を参照してください。
- メトリック。161ページの『メトリックのローカライズ』を参照してください。
- アラート。182ページの『アラート通知メッセージをカスタマイズする方法』を 参照してください。
- リスト (プロジェクト・テンプレートのユーザー役割を含む)。192ページの『リ ストのローカライズについて』を参照してください。

注: <MarketingOperations_Home>/messages/com/ibm/umo/core/ UMOMessages_<locale>.properties ファイルに変更を加えてシステム警告やエラ ー・メッセージをローカライズすることはサポートされていません。システムのア ップグレードやその他のプロセスによって、これらのファイルは上書きされます。

オブジェクト・タイプのローカライズについて

組織が複数ロケールをサポートしている場合、マーケティング・オブジェクト・タ イプのユーザー・インターフェース・ラベルとテキスト・ストリングを各ロケール の言語に翻訳することができます。これらのラベルおよびテキスト・ストリングを 組織に合わせてローカライズするには、オブジェクト・タイプの名前変更の手順に 従ってください。サポートされる各ロケールの sysmodules.xml ファイルおよび sysmenu.xml ファイルと、UMOConfigurationMessages_<locale>.properties ファイ ルまたは UMOMktObjectConfigurationMessages_<locale>.properties ファイルを編 集します。

- 標準マーケティング・オブジェクト・タイプの場合、IBM Marketing Operations はロケールごとにプロパティー・ファイルを提供します。このファイルには、各 標準マーケティング・オブジェクト・タイプのユーザー・インターフェース・ラ ベルとストリングを定義するプロパティー・セットが収められています。これら のファイルは、
 MarketingOperations_Home>/messages/com/ibm/umo/ext/ UMOConfigurationMessages_
- カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプの初回作成時に、Marketing Operations はロケールごとにプロパティー・ファイルをもう 1 つ作成します。このファイルには、カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのラベルおよびストリングを定義するプロパティーが収められています。カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを追加するごとに、システムは、これらのファ

イルにそのタイプのプロパティー・セットを追加します。これらのファイルは、 <*MarketingOperations_Home*>/messages/com/ibm/umo/ext/ UMOMktObjectConfigurationMessages_<*locale*>.properties ファイルです。

これらのファイルでは、list パラメーターは、ユーザーがオブジェクト・タイプの メニュー項目を選択すると表示されるページのラベルおよびテキスト・ストリング を定義します。 ui パラメーターは、そのオブジェクト・タイプの単一インスタン スのデータを表示するページについて、ラベルおよびテキスト・ストリングを定義 します。

例えば、プロジェクトのマーケティング・オブジェクト・タイプについて、このパ ラメーターがプロジェクト・リスト・ページの「所有者」列のラベルを以下のよう に定義します。

projectlist.columnList.PROJECT_OWNER.header

英語の言語プロパティー・ファイルでは、このパラメーターの値は次のようになり ます。

projectlist.columnList.PROJECT OWNER.header=Owner

ドイツ語の言語プロパティー・ファイルの場合は、次のようになります。

projectlist.columnList.PROJECT_OWNER.header=Besitzer

詳しくは、16ページの『マーケティング・オブジェクト・タイプの名前変更』を参照してください。

ローカライズされた形式と記号の設定について

AarketingOperations_Home>/conf/<locale>/format_symbols.xml ファイルには、 サポートするロケールごとに、日付、通貨、月、および曜日の表示をローカライズ するための値が格納されます。

注: IBM では、format_symbols.xml ファイルの編集はお勧めしません。

format_symbols.xml ファイルを編集する必要がある場合は、以下のガイドラインに 従ってください。

- Windows では、このファイルを、Windows のデフォルトの ANSI ではなく、 UTF-8 形式で保存する必要があります。
- 日付/時刻設定を編集する場合は、<date-format> と <date-time-format> の両方 に同じ日付形式の値を指定する必要があります。そうしないと、Marketing Operations での作業中にエラーを受け取ります。

承認プロセスの構成

IBM Marketing Operations では、構造化された承認プロセスでチーム・メンバーに 情報を配布し、そのコメントを引き出します。承認の結果、ユーザーは以下のいず れかのオプションを選択します。

- 承認済み
- 変更を行うことで承認されました
- 拒否済み

承認プロセスを組織に合わせてカスタマイズするため、承認を拒否するユーザーに 対して、事前定義された「**拒否理由」**の選択を必須とすることができます。提供さ れた理由を分析するのに役立つ管理レポートが利用できます。

承認処理について詳しくは、「IBM Marketing Operations ユーザーズ・ガイド」を 参照してください。

「拒否理由」を必須にするには

ユーザーが承認を拒否する際に拒否理由を必須にするには、以下の構成手順を実行 します。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「承認」 の下で、specifyDenyReason 構成プロパティーを True に設定します。詳しく は、「*IBM Marketing Operations インストール・ガイド*」を参照してください。
- 2. Marketing Operations アプリケーション・サーバーを再始動します。
- 3. カスタマイズ可能な「承認拒否理由」リストにオプションを追加します。詳しく は、189ページの『カスタマイズ可能リスト』を参照してください。
- 4. 独立した承認に対してこの機能を有効にする場合、このタイプの承認に適用する 「承認拒否理由」オプションを選択します。「設定」>「Marketing Operations 設定」>「拒否理由と独立した承認との関連付け」を選択します。
- 5. 承認タスクに対してこの機能を有効にする場合、各プロジェクト・テンプレート に適用する「承認拒否理由」オプションを選択します。詳しくは、89ページの 『テンプレートの承認オプションを選択するには』を参照してください。

マークアップ機能の構成

Marketing Operations には、添付ファイルに関するコメントを作成するためのマーク アップ・ツールが用意されています。 Marketing Operations ユーザーが承認依頼を 送信してレビューを求めると、承認者はコメントを直接電子ファイルに入れること ができ、他のユーザーはそこでコメントを表示することができます。

Marketing Operations には、2 つのタイプのマークアップ・ツールが用意されています。

- 固有の Marketing Operations マークアップ: 固有のマークアップ・オプションには、PDF、HTML、JPG、PNG、GIF および BMP の各形式のファイルに適用できる、さまざまなマークアップ機能が提供されています。ユーザーは、URL が提供されれば、Web サイト全体をマークアップすることができます。その後、コメントを Marketing Operations に保存できます。固有のマークアップは、デフォルト・オプションです。この場合、クライアント・マシンに Acrobat がインストールされている必要はありません。
- Adobe Acrobat マークアップ: このマークアップ・ツールでは、各クライアント・マシンに Adobe Acrobat がインストールされていることが必要です。ユーザーは、すべての Acrobat のコメント機能を適用し、その後で、編集した PDF を Marketing Operations に保存することができます。

マークアップ・オプションはグローバル設定です。(異なるユーザーのグループに対して異なるマークアップ・オプションを有効にすることはできません。)

マークアップ・ツールの可用性の変更について

デフォルトでは、固有の Marketing Operations マークアップ・ツールが有効化され ています。ユーザーが使用できるマークアップ・ツールのタイプは、「設定」>「構 成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「マークアップ」でマーク アップ構成プロパティーを変更することにより、変更できます。ただし、ユーザー がマークアップの表示と編集を開始した後でマークアップ・ツールを変更すると、 深刻な結果になります。

- Acrobat マークアップから固有のマークアップに切り替えると、ユーザーは、 Acrobat で作成されたマークアップの表示や編集ができなくなります。
- 固有のマークアップから Acrobat マークアップに切り替えると、ユーザーは、固 有のマークアップ・ツールで作成されたマークアップの表示や編集ができなくな ります。

注:最良の結果を得るために、ユーザーがマークアップ・ツールの使用を開始した 後は、マークアップ構成を変更しないようにしてください。マークアップ・ツール の可用性を変更する前に、ユーザーへの影響を慎重に考慮してください。

Adobe Acrobat マークアップを有効にする方法

Adobe Acrobat マークアップを有効にすると、すべてのユーザーに対して固有の Marketing Operations マークアップが無効になります。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「マーク アップ」をクリックします。
- 2. 「設定の編集」をクリックします。
- 3. 「markupServerType」プロパティーを SOAP に設定します。
- 「markupServerURL」 プロパティーを Marketing Operations ホスト・サーバーの URL (完全修飾ホスト名と Web アプリケーション・サーバーが listen するポー トを含めます) に設定します。

次のパス形式を使用し、<server> および <port> の値を特定の値に置き換えま す。

http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl

5. useCustomMarkup プロパティーを True に設定します。

Windows ユーザーが、Acrobat の「注釈を送受信 (Send Receive Comments)」ボ タンではなく、Marketing Operations のカスタムの「コメントを送信 (Send Comments)」ボタンを使用するようにする場合は、「useCustomMarkup」プロパ ティーを False に設定します。その後で、ユーザーは、Marketing Operations の 「注釈」ツールバーを有効にするように、Acrobat を構成する必要があります。 PDF のレビューについて詳しくは、「*Marketing Operations ユーザー・ガイド*」 を参照してください。

- 6. 「保存」をクリックします。
- 7. Marketing Operations を再始動して、変更を有効にします。

クライアント・コンピューターでの Adobe のインストールおよび構成

Adobe マークアップをユーザーが効率的に使用できるようにするには、IBM Marketing Operations にアクセスするために使用される各クライアント・コンピュー ターに Adobe Acrobat をインストールします。

Microsoft Windows プラットフォームでそれぞれインストールした後、 <MarketingOperations_Home>¥tools ディレクトリーからクライアント・コンピュー ターに、カスタマイズした UMO_Markup_Collaboration.js ファイルをコピーする必 要があります。このファイルを、Adobe Acrobat をインストールしたディレクトリ ーの Javascripts サブディレクトリーにコピーします。以下に例を示します。

C:¥Program files¥Adobe¥Acrobat

6.0¥Acrobat¥Javascripts¥UMO_Markup_Collaboration.js

このディレクトリーに sdkSOAPCollabSample.js ファイルが存在する場合は、削除 してください。

次のことに注意してください。

- ユーザーが他の承認者のコメントを表示できない場合は、 UM0_Markup_Collaboration.js ファイルが欠落しているか、正しくない可能性が あります。
- このファイルをコピーする前に Acrobat を実行する場合は、マークアップ機能を 使用するためにコンピューターを再始動する必要があります。

さらに、Internet Explorer ブラウザーを使用して IBM Marketing Operations にアク セスするユーザーは、ブラウザーで PDF が表示されるように Internet Explorer の 設定を行う必要があります。

固有の IBM Marketing Operations マークアップを有効にする方 法

固有の Marketing Operations マークアップを有効にすると、Adobe Acrobat マーク アップが無効になります。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「マーク アップ」をクリックします。
- 2. 「設定の編集」をクリックします。
- 3. 「markupServerType」プロパティーを MCM に設定します。
- 4. 「保存」をクリックします。
- 5. Marketing Operations を再始動して、変更を有効にします。

マークアップを無効にする方法

管理者がマークアップを無効にすると、ユーザーは PDF にコメントを追加できません。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「マーク アップ」をクリックします。
- 2. 「設定の編集」をクリックします。

- 3. markupServerType プロパティー値を消去します。
- 4. 「保存」をクリックします。
- 5. Marketing Operations を再始動して、変更を有効にします。

システム・ログの構成

構成、デバッグ、およびエラー情報をログに記録するために、Marketing Operations は Apache log4j ユーティリティーを使用します。

このユーティリティーがシステム・ログに含めるメッセージのタイプを変更するに は、<*MarketingOperations_Home*>/conf/plan_log4j.xml ファイルで **level** プロパ ティーの値を変更します。

ログ・レベルは FATAL、ERROR、WARN、INFO、または DEBUG に設定できま す。キャプチャーされるメッセージの数はこの順番で増加します。例えば、問題の トラブルシューティングに役立てるために最大数のメッセージを記録するには、 plan_log4j.xml ファイルの末尾までスクロールして、次のようにレベルを DEBUG に変更します。

<root>

```
<level value="DEBUG"/>
<appender-ref ref="ASYNC_SYS_LOG"/>
</root>
```

調査が完了したら、レベルの値をデフォルトの WARN に戻します。

<root>

ヒント: plan_log4j.xml ファイルは、更新の 60 秒後に再ロードされるので、この ファイルの編集後にサーバーを再始動する必要はありません。

第 2 章 カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプの作 成

マーケティング・オブジェクトは、チームが開発し、マーケティング活動の過程で 再使用する作業成果物です。

標準のマーケティング・オブジェクト・タイプについて

IBM Marketing Operations には、多くの組織がマーケティングの目標を計画して管 理するために使用する作業成果物を表す、標準のマーケティング・オブジェクト・ タイプのセットがあります。

- 計画
- プログラム
- プロジェクト
- 資産
- ٠

以下の標準のマーケティング・オブジェクト・タイプは、Marketing Operations でオ プション機能が有効になると追加されます。

- 請求書 (財務管理モジュール)
- オファー (Marketing Operations および Campaign を持つシステムは統合され、オファー統合が有効になります)

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプについて

組織内で、ユーザーはマーケティング・オブジェクトの他のタイプを追跡する必要 がある場合があります。マーケティング・オブジェクトには、レター、クレジッ ト・カード、バナー広告などの物理的な項目を含めることができます。マーケティ ング・オブジェクトは、クレジット・カード・オファー、ターゲット・セグメント 定義、特典プログラム定義などのビジネス・コンポーネントを表す場合もありま す。 Marketing Operations で管理して追跡するそれぞれの物理項目またはビジネ ス・コンポーネントごとに、カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを 定義できます。上記に挙げた例を前提として、以下のカスタム・マーケティング・ オブジェクト・タイプを作成します。

- ・レター
- クレジット・カード
- バナー広告
- クレジット・カード・オファー
- ターゲット・セグメント定義
- 特典プログラム定義

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを追加したら、それぞれに 1 つ 以上のテンプレートを作成します。例えば、形式の異なるレターに対して個別のレ ターのテンプレートを作成することができます。各テンプレートは、複数回使用し てそのタイプのレターの異なるインスタンスを作成することができます。

マーケティング・オブジェクト・タイプのコンポーネント

以下の図は、IBM Marketing Operations 内のマーケティング・オブジェクト・タイ プの内部表記を記したもので、各コンポーネントの相互関係を示しています。



通常、オブジェクト・インスタンスは、「開始されていません」、「進行中」、お よび「完了」などの一連の状態またはワークフロー・ステータスを遷移します。単 ーの XML ファイルが、すべてのマーケティング・オブジェクト・タイプ (標準お よびカスタム) で可能性のある状態を定義します。マーケティング・オブジェク ト・タイプに選択できる状態や、各状態間で許可される遷移を指定するには、その マーケティング・オブジェクト・タイプを更新します。

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプの処理の概要

- 1. 新しいマーケティング・オブジェクト・タイプに新しい状態が必要な場合は、グ ローバル状態ファイルで新しい状態を定義します。詳しくは、31ページの『グ ローバル状態ファイルの編集』を参照してください。
- 2. 新しい状態を定義したら、Web サーバーを再始動してその新しい状態を使用で きるようにします。
- カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを追加します。マーケティン グ・オブジェクト・タイプを追加する際には、有効な状態、および状態間の遷移 を指定します。 詳しくは、33ページの『マーケティング・オブジェクト・タイ プの追加』を参照してください。
- 4. Web アプリケーション・サーバーを再始動して、新しいマーケティング・オブ ジェクト・タイプを使用できるようにします。
- そのマーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを作成します。詳し くは、36ページの『マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作成』を 参照してください。
6. ユーザーは、そのマーケティング・オブジェクト・テンプレートからマーケティ ング・オブジェクト・インスタンスを作成します。詳しくは、「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してください。

マーケティング・オブジェクトの状態について

すべてのマーケティング・オブジェクトには、そのステータスを示す状態がありま す。マーケティング・オブジェクトがそのライフサイクル内を移動していく間に、 状態が変化します。

デフォルトでは以下の状態が有効です。

- 開始前
- 進行中
- 保留中
- キャンセル済み
- 完了

グローバル状態ファイルを編集することにより、追加の状態を作成できます。

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成するときに、そのタイプで可能な状態を状態のグローバル・リストから指定します。

グローバル状態ファイルの編集

グローバル状態ファイルには、そのインストール済み環境のマーケティング・オブ ジェクトで可能なすべての状態がリストされます。globalstates.xml ファイルは、 <MarketingOperations_Home>¥conf¥<locale> フォルダー内にあります。

以下の XML タグを使用して、このファイルに状態を定義します。

表10. グローバル状態の XML タグ

タグ	説明
id	状態の固有の識別子。ID 値にスペースを含めることはできません。
displayName	この状態にあるオブジェクトに関して表示するラベル。例えば、「In
	Progress」など。
icon	この状態を表すために displayName の横に表示されるビジュアル・イ ンジケーター。参照先のイメージ・ファイルは、WAR ファイルの webapp/images ディレクトリー内に置かれていなければなりません。最 良の結果が得られるのは 20x20 ピクセルのサイズの GIF フォーマット のイメージです。システムは、これ以外のサイズのイメージを自動的に 20x20 ピクセルにサイズ変更します。
frozen	 この状態でオブジェクトを編集できるかどうかを示すフラグ。 false: オブジェクトがこの状態にあるときに、ユーザーはオブジェクトを編集できます。 true: オブジェクトがこの状態にあるときに、ユーザーはオブジェクトを編集できません。

IN PROGRESS 状態のエントリーの例を以下に示します。

```
<state id="IN_PROGRESS">
<displayName>In Progress</displayName>
<icon>status_onschedule.gif</icon>
<frozen>false</frozen>
</state>
```

重要: Marketing Operations インスタンスが使用するグローバル状態ファイルを更新 するには、Web サーバーを再始動する必要があります。

状態遷移について

ユーザーは、マーケティング・オブジェクト・インスタンスを処理する際に、個々 のインスタンスの編集中にそのステータスを変更したり、そのオブジェクト・タイ プのリスト・ページで複数選択したインスタンスのステータスを変更したりするこ とができます。ユーザーは可能な遷移のリストから、インスタンスの現在のステー タスや、マーケティング・オブジェクト・タイプに定義された状態遷移に応じて、 使用可能な値を選択します。

遷移 ステータス変更前 ステータス変更後 開始 開始前 進行中 キャンセル 開始前 キャンセル済み 保留中 続行 進行中 キャンセル 進行中 キャンセル済み 一時停止 進行中 保留中 完了 完了 開始されていません / 進行中 再始動 開始されていません / 進行中 キャンセル済み

デフォルトでは、以下の遷移が定義されています。





例えば、マーケティング・オブジェクト・インスタンスが「進行中」である場合 に、ユーザーは以下を選択できます。

- 「一時停止する (Pause it)」:ステータスを「保留」に変更します。
- 「完了する (Finish it)」:ステータスを「完了」に変更します。
- 「キャンセルする (Cancel it)」: ステータスを「キャンセル済み」に変更しま す。

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成するときに、遷移を追加または削除 します。

マーケティング・オブジェクト・タイプの追加

名

マーケティング・オブジェクト・テンプレートを作成する前、およびユーザーがそのタイプのインスタンスを作成する前に、マーケティング・オブジェクト・タイプ を IBM Marketing Operations に追加します。

注: IBM Marketing Operations には、マーケティング・オブジェクト・タイプを追加 した後に更新するためのユーザー・インターフェースはありません。開始前に、マ ーケティング・オブジェクト・タイプで提供する必要のある状態遷移を判別し、必 要な情報を収集しておいてください。

マーケティング・オブジェクト・タイプを追加する方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「その他のオプション」セクションで、「マーケティング・オブジェクト・タイ プ設定」をクリックします。「マーケティング・オブジェクト・タイプ設定」 ページが表示されます。
- 3. 「**マーケティング・オブジェクト・タイプの**追加」をクリックします。「マー ケティング・オブジェクト・タイプの追加」ページが表示されます。
- オブジェクト・タイプの詳細を指定します。このページのフィールドに関する説 明を以下に示します。
- 「変更の保存」をクリックして、新しいマーケティング・オブジェクト・タイプ を追加します。マーケティング・オブジェクト・タイプを保存すると、 Marketing Operations はその指定内容が入った XML 定義ファイルとプロパティ ー・ファイルを作成します。
- 組織が複数のロケールをサポートしている場合、ユーザー・インターフェースに 表示されるラベルおよびテキスト・ストリングを各ロケールの言語に翻訳しま す。詳しくは、23ページの『オブジェクト・タイプのローカライズについて』 を参照してください。

重要:新しいマーケティング・オブジェクト・タイプを使用可能にするには、Web アプリケーション・サーバーを再始動します。

「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加」ページ

このページでは、マーケティング・オブジェクト・タイプの内部名と表示名、ユー ザーがどのようにインスタンスにナビゲートするか、および有効な状態と状態遷移 について定義します。

フィールド説明マーケティング・このマーケティング・オブジェクト・タイプの内部名。名前には、英数オブジェクト・タ字および下線のみが使用できます。この名前の小文字のみのバージョン

イプ・モジュール | が、このマーケティング・オブジェクト・タイプの XML 定義ファイル

の名前とプロパティー・ファイルのパラメーターで使用されます。

表11. 「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加」ページのフィールド

表11. 「マーケティング・オブジェクト・タイプの追加」ページのフィールド (続き)

フィールド	説明
マーケティング・	メニューおよびリストでマーケティング・オブジェクト・タイプに使用
オブジェクト・タ	されるラベル。
イプ表示名	
マーケティング・	このマーケティング・オブジェクト・タイプの要旨。
オブジェクト・タ	
イプ・モジュール	
の説明	
マーケティング・	将来の使用に備えて予約されています。
オブジェクト・タ	
イプ・モジュール	
のヘルプ・ヒント	
マーケティング・	単数形の名前が必要な場合に Marketing Operations ユーザー・インター
オブジェクト名	フェースのリンクおよびタイトルで使用されるラベル (例えば、「Add
(単数)	Creative」)。
マーケティング・	複数形の名前が必要な場合に Marketing Operations インターフェースの
オブジェクト名	リンクおよびタイトルで使用されるラベル (例えば、「All
(複数)	Creatives).
マーケティング・	このマーケティング・オブジェクト・タイプのリスト・ページにアクセ
オブジェクト・タ	スするためのナビゲーション・メニューを追加するには、「 表示名を指
イプ・メニュー設	定して新しいメニュー・グループを作成」を選択して、メニュー名を指
定	定します。
	マルコームニュンガ ナゴッ カト カノーのハリコト ペ ックフカム
	このマークテイング・オフンエクト・タイブのリスト・ハーンにアクセ フナスためのよびゲーン」 ナポン」 た町 ケのノー に迫加する
	人りるにめのり ビリーション・オノンヨンを既存のスーユーに迫加りる
	には、「既存のメニュー・クルークに追加」とメニューを選択します。
初期状態	このマーケティング・オブジェクト・タイプのすべての新規作成インス
	タンスに割り当てる状態を指定します。
遷移名	1 つのマーケティング・オブジェクト状態から別の状態への遷移を示す
	ラベル。
	注:この名前はこの画面にしか表示されず、このタイプのマーケティン
	グ・オブジェクトを処理しているユーザーには表示されません。
開始	この遷移の最初の状態。マーケティング・オブジェクト・インスタンス
	の遷移前の状態。グローバル状態ファイルで定義されている状態を選択
	します。
終了	この遷移の 2 番目の状態。マーケティング・オブジェクト・インスタ
	ンスの遷移後の状態。グローバル状態ファイルで定義されている状態を
	選択します。

マーケティング・オブジェクト・タイプの定義ファイルについて

マーケティング・オブジェクト・タイプを作成すると、IBM Marketing Operations はデータベース表を更新し、マーケティング・オブジェクト・タイプの定義を格納 するために以下の XML ファイルを作成します。

 mo_<name>_map.xml。これは、マーケティング・オブジェクトの「サマリー」タブ に表示する標準属性を定義します。これらの属性のラベルを変更することもでき ます。 mo_<name>_state.xml。これは、オブジェクトの状態間に定義されている遷移のメ タデータを含みます。システムで定義されているすべてのマーケティング・オブ ジェクト状態のメタデータは globalstates.xml ファイルで定義されます。新し い状態を追加する場合は、その状態をこのファイルで定義する必要があります。

ここで、<name> は、マーケティング・オブジェクト・タイプの作成時に「マーケテ ィング・オブジェクト・タイプ・モジュール名」フィールドに指定した名前の小文 字のみのバージョンです。

マーケティング・オブジェクト定義ファイルは、
</br><

注: 8.6.0 より前のバージョンでは、システムはマーケティング・オブジェクト・タ イプに対して 2 つの追加ファイル、mo_<name>_list.xml および mo_<name>_ui.xml を作成していました。これらのファイルは作成されなくなりましたが、バージョン 8.6 へのアップグレード前に作成されたファイルが、参照用として

<MarketingOperations_Home>¥conf¥backupUiListConfig ディレクトリーに保存され
ています。

重要: マーケティング・オブジェクト定義ファイルは削除しないでください。削除 すると、Web サーバーを始動することも、IBM Marketing Operations を使用するこ ともできません。

マーケティング・オブジェクト・タイプのプロパティー・ファイル について

最初に作成するカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプ用に、Marketing Operations は各ロケールのプロパティー・ファイルを作成します。このプロパティ ー・ファイルは、オブジェクト・タイプのユーザー・インターフェースのラベルと ストリングを定義します。これらのプロパティー・ファイルは、 *<MarketingOperations_Home>*/messages/com/ibm/umo/ext/ UMOMktObjectConfigurationMessages_*clocale*>.properties ファイルです。

別のカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを追加するごとに、システ ムは、これらのプロパティー・ファイルにそのタイプのパラメーター・セットを追 加します。新規パラメーターの先頭は <name>_ui および <name>_list になります。 ここで、<name> は、マーケティング・オブジェクト・タイプの作成時に「マーケテ ィング・オブジェクト・タイプ・モジュール名」フィールドに指定した名前の小文 字のみのバージョンです。

マーケティング・オブジェクト・タイプのユーザー・インターフェースのラベルと ストリングを変更するには、デフォルト・ロケールのプロパティー・ファイルを編 集します。詳しくは、16ページの『マーケティング・オブジェクト・タイプの名前 変更』を参照してください。

マーケティング・オブジェクト・タイプのユーザー・インターフェースのラベルと ストリングをローカライズするには、サポートされるロケールごとにプロパティ ー・ファイルを編集します。詳しくは、23ページの『オブジェクト・タイプのロー カライズについて』を参照してください。

マーケティング・オブジェクト・タイプの編集

作成したマーケティング・オブジェクト・タイプを変更するには、マーケティン グ・オブジェクト・タイプの定義ファイルおよびプロパティー・ファイルを変更す る必要があります。マーケティング・オブジェクト・タイプのメニューでの表示方 法を変更するには、IBM Marketing Operations インストール・ディレクトリー下の ¥conf¥<locale>¥sysmenu.xml ファイル内の対応するエントリーを変更する必要があ ります。詳しくは、16ページの『IBM Marketing Operations インターフェースのカ スタマイズ』と23ページの『複数ロケールのサポート』を参照してください。

マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作成

マーケティング・オブジェクト・タイプを定義した後、そのタイプのマーケティン グ・オブジェクト・テンプレートを最低 1 つ作成します。テンプレートが作成され るまで、ユーザーはそのマーケティング・オブジェクト・タイプのインスタンスを 作成できません。

マーケティング・オブジェクト・テンプレートを作成する方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「その他のオプション」セクションで、「テンプレート構成」をクリックしま す。
- 3. 「**テンプレート**」をクリックします。

「テンプレート」ページには、システム内にある標準およびカスタムのマーケテ ィング・オブジェクト・タイプごとのセクションがあります。例えば、 「Creatives」という名前のカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプを 構成した場合、「Creatives テンプレート」というセクションが表示されます。

- マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを作成するには、ページ のそのタイプに該当するセクションで「テンプレートの追加」をクリックしま す。
- 5. 「テンプレートの追加」ページで、新しいテンプレートのプロパティーを指定し ます。 詳しくは、63ページの『第 5 章 テンプレートの作成および管理』を参 照してください。
- 6. 「変更の保存」をクリックして新しいテンプレートを追加します。

マーケティング・オブジェクト・タイプと別のタイプとの関連付けについて

マーケティング・オブジェクト・タイプを、プロジェクトまたは別のマーケティン グ・オブジェクトと関連付けることができます。例えば、パンフレットが常に含ま れるタイプのプロジェクトを組織が持っているとします。パンフレット用のカスタ ム・マーケティング・オブジェクト・タイプをセットアップした後、プロジェクト を作成すると 1 つ以上のパンフレットがユーザーに通知されるようにプロジェク ト・テンプレートを構成します。その結果、ユーザーがプロジェクトで作業をして 「選択」コントロールをクリックすると、パンフレットのリストが表示されます。 リストには、システム内のパンフレットのすべてのインスタンスを含めることも、 特定のパンフレット・テンプレートから作成されたものだけを含めることもできま す。 また、テンプレートを構成して以下のことを行うこともできます。

- あるテンプレートで定義されている標準属性またはカスタム属性を、別のテンプレートからプロジェクトやその他のオブジェクト・インスタンスを作成する際に表示する。属性を表示できるのは、それぞれのマーケティング・オブジェクト・タイプを相互に関連付けている場合のみです。
- ユーザーが別のタイプのマーケティング・オブジェクトを作成すると、指定した マーケティング・オブジェクトのインスタンスを自動的に作成する。例えば、ユ ーザーが特定のタイプのプロジェクトを作成すると、自動的にパンフレットを作 成するようにすることができます。この機能は、マーケティング・オブジェク ト・タイプを別のマーケティング・オブジェクトに関連付けている場合は使用で きません。

別のマーケティング・オブジェクト・タイプのデータを含むようにテンプレートを 構成するには、フォームを作成して、それに属性を追加します。

- あるタイプのマーケティング・オブジェクトを別のタイプのマーケティング・オブジェクトと関連付けるには、「単一選択オブジェクト参照」または「複数選択 オブジェクト参照」の属性タイプを持つ属性をフォームに追加し、そのフォーム をテンプレートに追加します。
- あるテンプレートで定義された属性を、別のタイプのオブジェクト・インスタン スで表示するには、「オブジェクト属性フィールド参照」属性を同じフォームに 追加します。属性を表示するには、「単一選択オブジェクト参照」属性を使用し てマーケティング・オブジェクトを関連付ける必要があります。

フォームについて詳しくは、105ページの『第6章フォームの作成および管理』 を参照してください。属性について詳しくは、131ページの『第7章フォームで の属性の使用』を参照してください。

第3章 レポートの使用

IBM Marketing Operations には、デフォルトで 1 組のレポートおよびダッシュボー ド・レポート・コンポーネントが用意されています。 Marketing Operations レポー ト・パッケージには、別のビジネス・インテリジェンス・アプリケーションである IBM Cognos[®] で作成された追加のレポートおよびダッシュボード・レポート・コン ポーネントがあります。

- Marketing Operations ユーザーがレポートにアクセスする方法は 2 つあります。
 - 個別のプロジェクトやマーケティング・オブジェクトなど、単一のオブジェクト・インスタンスの情報のレポートを作成するには、その項目の「分析」タブをクリックします。
 - 複数のオブジェクトのデータが含まれる Cognos レポートを生成するには、
 「分析」>「操作の分析」を選択します。

レポート管理者は、これらのレポートの変更、レポートの新規作成、カスタム 属性の追加、フィルターのセットアップなどを行うことができます。

Marketing Operations 管理者向けに、さまざまなアクティビティーをモニターするのに役立つレポートが用意されています。詳しくは、47ページの『管理レポートについて』を参照してください。

Marketing Operations レポート・パッケージのインストールについて詳しくは、 「*IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。ダッシ ュボードの作成および管理について詳しくは、「*IBM EMM Marketing Platform 管理* 者ガイド」を参照してください。

Cognos における IBM Marketing Operations のレポートおよびフォルダ 一名

Cognos Connection では、レポートをディレクトリー構造で表示します。最上位にあるフォルダーは「パブリック・フォルダー (Public Folders)」という名前です。IBM Marketing Operations レポート・パッケージが Cognos にインストールされると、パブリック・フォルダーには Marketing Operations 用の以下のサブフォルダーが含まれるようになります。

- Unica 計画 (Affinium Plan)。 IBM Marketing Operations の「分析ホーム」ページにリストされている複数オブジェクト・レポートが含まれます。 Report Studioで新しい複数オブジェクト・レポートを作成する場合は、そのレポートをこのフォルダーに保存します。必要に応じて、このフォルダー内にサブフォルダーを作成して、レポートを階層構造に編成することができます。
- Unica 計画 オブジェクト固有のレポート (Affinium Plan Object Specific Reports)。個別の IBM Marketing Operations オブジェクト・インスタンスの「分 析」タブにリストされている単一オブジェクト・レポートが含まれます。このフ ォルダーには、計画、プログラム、プロジェクト、およびチーム用のサブフォル ダーが含まれます。新しい単一オブジェクト・レポートを作成する場合、そのレ ポートを該当するサブフォルダーに保存します。

ベスト・プラクティスとして、フォルダーの名前は変更しないでください。これを 行う場合、以下のことに注意してください。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「reports」の下にある reportsAnalysisSectionHome プロパティーおよび reportsAnalysisTabHome プロ パティーを編集して、フォルダーの名前と一致するようにします。
- フォルダー名には、特殊文字(引用符や「<」など)は使用しないでください。デフォルトのレポート・フォルダー名を変更する場合は、英数字とスペース文字およびハイフン文字(「-」)のみを使用してください。
- 「Unica 計画 オブジェクト固有レポート (Affinium Plan Object Specific Reports)」フォルダーの名前を変更する場合、Report Studio で「四半期ごとのプ ロジェクト予算サマリー (Project Budget Summary by Quarter)」レポートを編 集する必要があります。このレポートには「費用内訳の詳細 (Detailed Expense Breakout)」レポートにリンクする URL が含まれており、この URL はそのレポ ート・フォルダー名にハードコーディングされます。フォルダー名を変更した場 合、新しいフォルダー名を参照するようにリンクを編集する必要があります。
- 「Unica 計画 オブジェクト固有レポート (Affinium Plan Object Specific Reports)」フォルダー内のサブフォルダーの名前は変更しないでください。

Cognos での IBM Marketing Operations レポートの作成およびカスタマ イズについて

Cognos では、IBM Marketing Operations データ・モデルに基づいてレポートを作成 することができ、Marketing Operations レポート・パックでそれらのレポートを編集 できます。

一般的なカスタマイズ作業には以下が含まれます。

- レポートへのカスタム属性およびカスタム・メトリックの追加
- レポート用のフィルターの作成
- レポート列から関連する IBM Marketing Operations オブジェクトへのハイパーリンクの追加

レポートを作成またはカスタマイズする前に、Cognos で IBM Marketing Operations データ・モデルを更新して、レポートで使用する新しい属性やメトリックを含めま す。

新しいレポートを Cognos 内の適切なフォルダーに保存します。

Cognos での IBM Marketing Operations データ・モデルの更新

IBM Marketing Operations システムまたはカスタム・テーブルに変更が生じた場合 (例えば、カスタム属性やカスタム・メトリックを追加した場合など)、それらの変更 を反映するように、必ず Cognos 内の Marketing Operations データ・モデルを更新 してください。そうでないと、その新しい属性やメトリックを Cognos レポートで 使用できません。

IBM Marketing Operations データ・モデルを更新する方法

- レポートに含めるカスタム属性を識別し、それらの属性に必要なテーブル (ルックアップ・テーブルを含む)を識別します。
- 2. Cognos Framework Manager のインポート・ビューを使用して、属性のメタデー タをインポートします。
- Cognos Framework Manager のモデル・ビューを使用して、カスタム属性とそれ らが属するオブジェクトとの間の適切な関係を定義します。(例えば、プロジェ クトのカスタム属性をプロジェクトに関連付けます。)ルックアップ・テーブル との適切な関係を定義します。
- 4. Cognos Framework Manager のビジネス・ビューを使用して、照会項目を定義 し、それらを照会対象内に集約します。
- 5. データ・モデルを再公開します。

カスタム属性およびカスタム・メトリックの照会対象が、報告書作成プログラムで 使用できるようになります。

カスタム・メトリックの照会対象の例

オブジェクト・タイプに関連付けられているすべてのメトリックに対して、単一の 照会対象を定義することができます。プロジェクトに関連付けられているメトリッ クの照会対象の例を以下に示します。

Select

```
UAP PROJECTS.PROJECT ID,
     a.METRIC_VALUE1 as TotalRevenue,
     b.METRIC_VALUE1 as ResponseRateActual,
b.METRIC_VALUE2 as ResponseRateTarget,
     c.METRIC VALUE1 as TotalLeadsGeneratedActual,
     c.METRIC VALUE2 as TotalLeadsGeneratedTarget,
     d.METRIC VALUE1 as TotalCostPassed
From
     UAP PROJECTS
LEFT JOIN
(select PROJECT ID, METRIC VALUE1 from UAP PROJ METRICS
where UAP_PROJ_METRICS.METRIC_ID = 'TotalRevenue') as a
ON a.PROJECT ID = UAP PROJECTS.PROJECT ID
LEFT JOIN
(select PROJECT_ID, METRIC_VALUE1, METRIC_VALUE2 from UAP_PROJ_METRICS
where UAP PROJ METRICS.METRIC ID = 'ProjectResponseRate') as \overline{b}
ON b.PROJECT ID = UAP PROJECTS.PROJECT ID
LEFT JOIN
(select PROJECT_ID, METRIC_VALUE1, METRIC_VALUE2 from UAP_PROJ_METRICS
where UAP_PROJ_METRICS.METRIC_ID = 'NumberOfLeadsGeneratedPassed') as c
ON c.PROJECT_ID = UAP_PROJECTS.PROJECT_ID
LEFT JOIN
(select PROJECT ID, METRIC VALUE1 from UAP PROJ METRICS
where UAP PROJ METRICS.METRIC ID = 'TotalCostPassed') as d
ON d.PROJECT_ID = UAP_PROJECTS.PROJECT_ID
```

Cognos でのレポート・フィルターの作成

Cognos レポートを作成する場合、レポートを実行するスタッフが、アプリケーショ ンですべてのデータを選択するのではなく、結果をフィルタリングできるように図 る必要が生じることがあります。 Cognos Report Studio を使用すると、さまざまな フィルターを作成できます。 IBM Marketing Operations ユーザーは、多くの場合、 以下を行うフィルターを必要とします。

- オブジェクトの名前またはコードによるフィルタリング
- オブジェクトがアクティブな時点によるフィルタリング
- オブジェクトのステータス、タイプ、またはこの両方によるフィルタリング

ベスト・プラクティスとして、フィルター・プロンプトは必須ではなくオプション にしてください。レポートを実行するユーザーにとって、オプション・フィルター の方が簡単です。

名前およびコードの検索でのベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスとして、選択と検索のプロンプトを使用して、ユーザーがオ ブジェクト名またはオブジェクト・コードに基づいてレポートをフィルタリングで きるようにしてください。 IBM Marketing Operations データ項目では、 *<Object>*].[*<item>*] という命名方式が使用されます。 (例えば、プロジェクト ID の データ項目は [PlanBV].[Project].[ProjectID] です。)

選択と検索のプロンプトを作成する場合、1 つのタイプの値をユーザーに表示する ために指定し、別のタイプの値をデータベースの検索に使用するために指定できま す。例えば、以下のプロンプト制御構成は、ユーザーにプロジェクト名またはプロ ジェクト・コードを要求しますが、検索はプロジェクト ID を使用して行います (通常は、プロジェクト ID を使用する検索の方が高速です)。

- ・ 使用する値: [PlanBV].[Project].[Project ID]
- 表示する値: [PlanBV].[Project].[Project Name (Code)]

日付の検索でのベスト・プラクティス

Cognos で、特定の日付範囲の間にアクティブなオブジェクトを返す (IBM Marketing Operations の拡張検索とまったく同じ) 日付フィルターを作成するには、範囲オプションを有効にした日付プロンプトを使用し、開始日と終了日の両方を含むフィルターを作成します。これにより、以下のいずれかの基準を満たすオブジェクトが返されます。

- アクティブな日付範囲内に開始する
- アクティブな日付範囲内に終了する
- アクティブな日付範囲より前に開始し、なおかつ、アクティブな日付範囲より後に終了する

次のフィルターは、Target_Date_Prompt という日付プロンプトに入力された日付範 囲の間にアクティブなプロジェクトを検索します。

[PlanBV].[Project].[Project Start Date] in_range ?Target_Date_Prompt? OR [PlanBV].[Project].[Project End Date] in_range ?Target_Date_Prompt? OR ([PlanBV].[Project].[Project Start Date] <= ?Target_Date_Prompt? AND [PlanBV].[Project].[Project End Date] >= ?Target_Date_Prompt?)

オブジェクトのステータスおよびタイプのフィルターにおけるベス ト・プラクティス

ステータスおよびタイプは決まったものが少数あるだけなので、ステータスまたは タイプのフィルタリングには単純な複数選択制御を使用します。 ユーザーにオブジェクトのステータスまたはタイプ (あるいはこの両方) を要求する には、以下を行います。

- ステータスを要求するには、<OBJECT>ステータス照会対象を使用する複数選択 制御を使用します。
- タイプを要求するには、<OBJECT> テンプレート照会対象を使用する複数選択制 御を使用します。

Cognos レポートでのハイパーリンクの作成

Cognos レポート内に、ユーザーをそのレポートから IBM Marketing Operations 内 の対応するオブジェクトに誘導するハイパーリンクを作成することができます。例 えば、レポートにプロジェクトのリストが表示されていて、ハイパーリンクを作成 した場合、ユーザーはプロジェクト名をクリックして、そのプロジェクトの「サマ リー」タブに移動することができます。ハイパーリンクは、ユーザーに E メールで 送信されるレポートでも機能します。リンクをクリックしたユーザーは、Marketing Operations にログインすることを求められる場合があります。

ハイパーリンクは以下のオブジェクトに作成できます。

- 計画
- プログラム
- プロジェクト
- プロジェクト要求
- 独立した承認
- 作業および承認タスク
- 請求書

IBM Marketing Operations レポート・パッケージには、ハイパーリンクを作成でき る各オブジェクトの URL 照会項目が含まれます。例えば、計画の URL 照会項目 が「Plan URL」という名前の場合があります。オブジェクトの URL 照会項目は、 そのオブジェクトの照会対象内にリストされます。

Cognos Report Studio で、該当する URL 照会項目を使用してハイパーリンクの URL ソースを定義します。

カスタム・レポートの例: プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カス タム)

IBM Marketing Operations レポート・パッケージには、2 つのバージョンのプロジ ェクト・パフォーマンス・サマリーがあります。プロジェクト・パフォーマンス・ サマリーでは、デフォルトの属性のみが使用されます。プロジェクト・パフォーマ ンス・サマリー (カスタム) には、カスタム属性とカスタム・メトリックが含まれま す。このセクションでは、プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム) を 生成するために、Cognos で Marketing Operations データ・モデルおよびレポートに 行われた変更について説明します。

識別されているカスタム属性とカスタム・メトリック

プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム)を生成するために、以下のカ スタム属性とカスタム・メトリックが必要でした。

属性	列	ルックアップ・テーブル
イニシアチブ	dyn_projectatts.init_type_id	lkup_initiative
事業部門	dyn_projectatts.business_unit_id	lkup_business_unit
製品ファミリー	dyn_projectatts.prod_family_id	lkup_prod_family
セグメント	dyn_projectatts.segment_id	lkup_segments

以下は、レポートに必要なカスタム・メトリックです。

- 合計収益: metricid = 'TotalRevenue' (actual)
- 応答率: metricid = 'ResponseRate' (actual)
- 合計生成リード数: metricid = 'NumberOfLeadsGeneratedPassed' (actual, target)
- ROI: metricid = 'ROI' (actual)

カスタム属性に関連付けられたメタデータ

カスタム属性をサポートするために、dyn_projectatts テーブルの以下の列がインポートされました。

- init_type_id
- segment_id
- business_unit_id
- prod_family_id

カスタム属性をサポートするために、以下のルックアップ・テーブルがインポートされました。

- lkp_initiative
- · lkup_segments
- lkup_business_unit
- lkup_prod_family

モデル・ビューで定義された関係および照会

Cognos Framework Manager のモデル・ビューでは、以下に示す関係が定義されました。



ここに示すように、プロジェクトの照会対象定義が、カスタム属性の照会項目によ って更新されました。

And I success a success a success		108	-
vallable model objects:		▶ 월 日	E Y
S C Model View	Query Items and Calculations:		
R C Common	Name	Source	- 1
H Ca List Definitions	Project URL	Plan Model View PlanMV Projects Project	
(8) C Projects	Project Request Flag	Plan Model View PlanMV Projects Project	
🗄 🗀 Pograms	Template Name	Plan Model View PlanMV Projects Project	
38 Ca Plana	Template Display	Plan Model View PlanMV Projects Project Template	1.1
III Ca Accounts	Busness Unit	Plan Model Viel/ PlanMV Custom Athibutes Ensiness Util Browness Unit	
8: C Approvals	I Intaive	Plan Model View PlanMV Custom Athibutes Initiative Initiative	
8 GB Budgets	Product Family	Plan Model View PlanMV Custors Attributes Product Family Product Family	
E O Proces	Segnera	Plan Model View PlanMV. Custom Athibutes. Segment Segment	•
E Driect Custom Amburg	Filmer		100
R. Butiness Unit	- Marca	L Burn	121
- Business Unit ID	hane	Usage	-1-
C Business Uni			
E Initiative			
- Se Initiative ID			
Intalive			-
Product Family			
Product Family ID	Model Objects Pheview		
Product Fame			
E Samari D	Iest		
- Segneral D			
R. III Project Partomance (

ビジネス・ビューに追加された照会項目

Cognos Framework Manager のビジネス・ビューに、以下の照会項目が追加されました。

列	タイプ/追加情報	照会項目
イニシアチブ	ストリング。グル	プロジェクト・カスタム属性.イニシアチブ
	一フ別の列	
事業部門	ストリング	プロジェクト・カスタム属性.事業部門
セグメント	ストリング	プロジェクト・カスタム属性.セグメント
製品ファミリー	ストリング	プロジェクト・カスタム属性.製品ファミリ
		-
合計収益	通貨	プロジェクト・パフォーマンス・サマリ
		ー・メトリック.合計収益
応答率 (Actual)	パーセント	プロジェクト・パフォーマンス・サマリ
		ー・メトリック.応答率 (Actual)

列	タイプ/追加情報	照会項目
応答率 (Target)	パーセント	プロジェクト・パフォーマンス・サマリ
		ー・メトリック.応答率 (Target)
応答率差異 (Response	パーセント、計算	応答率 (Actual) - 応答率 (Target)
Rate Variance)		
合計生成リード数	数值	プロジェクト・パフォーマンス・サマリ
(Actual)		ー・メトリック.合計生成リード数 (Actual)
合計生成リード数	数值	プロジェクト・パフォーマンス・サマリ
(Target)		ー・メトリック.合計生成リード数 (Target)
合計生成リード数差異	数值、計算	合計生成リード数 (Actual) - 合計生成リー
(Total Leads Generated		ド数 (Target)
Variance)		
ROI	パーセント、ソー	プロジェクト・パフォーマンス・サマリ
	ト列、計算	ー・カスタム・メトリック].[合計収益]-[プ
		ロジェクト予算].[実際の合計])/[プロジェク
		ト予算].[実際の合計]

レポートで追加および削除された列

Cognos Report Studio では、「プロジェクト名 (コード)」、「プロジェクト開始日 (Project Start Date)」、および「プロジェクト終了日 (Project End Date)」を除くすべ ての列がレポートから削除されました。

レポートに追加された列は以下のとおりです。

- イニシアチブ
- 事業部門
- セグメント
- 製品ファミリー
- 合計収益
- 応答率 (Actual)
- 応答率 (Target)
- 応答率差異 (Response Rate Variance)
- 合計生成リード数 (Actual)
- 合計生成リード数 (Target)
- 合計生成リード数差異 (Total Leads Generated Variance)
- ROI

作成されたプロンプト

以下の2つのプロンプトが作成されました。

プロンプト	プロンプト・タイプ	照会対象
イニシアチブ	検索と選択	プロジェクト・カスタム属性.イニ シアチブ
事業部門	検索と選択	プロジェクト・カスタム属性.事業 部門

管理レポートについて

Marketing Operations 管理者向けに、さまざまなユーザー・アクティビティーをモニ ターするのに役立つレポートが用意されています。

- プロジェクト所有者と要求所有者は各々自分のプロジェクトの「スタッフ」タブで不在中のチーム・メンバーを確認できます。管理者は、不在中パラメーターが設定されたすべてのユーザーをトラッキングできます。『不在中のユーザーおよび委任サマリーを生成するには』を参照してください。
- ・ 承認を「拒否」する応答をするユーザーに対し、組織はその理由を入力するよう 求める場合があります。選択された拒否理由を長期的に分析すること、あるいは 特定のプロジェクトまたは独立した承認の拒否理由を分析することができます。
 『拒否理由分析レポートを生成するには』を参照してください。

不在中のユーザーおよび委任サマリーを生成するには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「不在中のユーザーおよび委任サマ リー」を選択します。
- 「プロジェクト/要求」のリストで、「なし」、「すべて」、またはリストされた プロジェクト/要求をクリックして選択します。 複数のプロジェクトおよび要求 を選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックします。
- 3. 「承認」のリストで、「なし」、「すべて」、または 1 つ以上のリストされた 承認をクリックして選択します。
- 4. 「**ユーザー**」のリストで、「すべて」、または 1 つ以上のリストされたユーザ 一名をクリックして選択します。
- 5. 「検索」をクリックします。 選択したプロジェクト、要求、および承認のそれ ぞれで、不在中のプロジェクトのチーム・メンバー、要求の受信者、または承認 者のリストが表示されます。指定された代理人と委任の開始日も表示されます。
- 6. オプションで、スプレッドシートにレポートを保存します。「**エクスポート**」を クリックします。

プロジェクト所有者と参加者が不在中の設定を使用する方法について詳しくは、 「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してください。

拒否理由分析レポートを生成するには

ワークフローの承認と独立した承認に対して、さまざまなレポートを利用できま す。これらのレポートを生成する手順は類似しています。

- 1. 「分析」>「操作の分析」をクリックします。
- 2. ワークフローの承認のレポートを生成するには、「**ワークフロー承認の拒否理由** 分析レポート」をクリックします。

独立した承認のレポートを生成するには、「**独立した承認の拒否理由分析レポー ト**」をクリックします。

3. ワークフローの承認では、プロジェクト・テンプレートまたは「すべてのテンプ レート」を選択します。

- 4. オプションで、ワークフローの承認のプロジェクト名を入力するか、または独立 した承認の承認名を入力します。
- 5. オプションで、開始日と終了日を入力します。 この日付範囲内に終了日が収ま るプロジェクト、またはこの範囲内に期日が収まる独立した承認がレポートに含 まれます。

すべての日付のレポートを実行するには、デフォルトの開始日と終了日の値を削 除します。

レポートには、承認のリストとともに、拒否の合計数と、承認拒否の理由として選 択された各項目の割合が示されます。

第4章 テンプレートの概要

マーケティング・オブジェクト・タイプ(計画、プログラム、またはプロジェクト) のテンプレートは、組織がオブジェクトについて収集する必要のある情報を定義し ます。請求書テンプレートは、組織が請求書に取り込む必要のある情報を定義しま す。

IBM Marketing Operations をインストールしたら、すぐに使用開始できるように IBM によって提供されているマーケティング・オブジェクト・タイプと請求書テン プレートのサンプルを使用できます。テンプレートのサンプルを使用することによ り、テンプレートとは何かを理解し、テンプレートがどのように Marketing Operations で使用されるかを確認することができます。テンプレートを理解した ら、サンプルのテンプレートをカスタマイズするか、独自のテンプレートを作成す ることができます。

テンプレートの概念

テンプレートは、タブ・コントロールのセットを含む、さまざまな標準コンポーネ ントやオプションのコンポーネントからなります。

標準タブ: 計画テンプレート、プログラム・テンプレート、プロジェ クト・テンプレート

IBM Marketing Operations で計画、プログラム、またはプロジェクト用のテンプレートを作成または編集するとき、以下の標準タブにデータを入力します。カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートには、計画テンプレートと同じ標準タブがあります。

	計画/カスタ		プロジェク	
タブ名	Д	プログラム	Ъ	詳細情報
プロパティー	Х	Х	Х	69ページの『テンプレートを定
				義するための、テンブレートの 「プロパティー」タブ』
タブ	Х	Х	Х	72 ページの『ユーザー・インタ ーフェースをカスタマイズするた めの、テンプレートの「タブ」タ ブ』
添付ファイル	Х	Х	Х	77 ページの『フォルダーとファ イルを追加するための、テンプレ ートの「添付ファイル」タブ』
カスタム・リンク	Х	Х	Х	77 ページの『他の Web サイト にアクセスするための、テンプレ ートの「カスタム・リンク」タ ブ』

表 12. 計画、プログラム、およびプロジェクトのテンプレートの標準タブ

	計画/カスタ		プロジェク	
タブ名	Д	プログラム	Ъ	詳細情報
アラートのカスタ	Х	Х	Х	79 ページの『イベントでトリガ
マイズ				ーされるアラートをセットアップ
				するためのテンプレートの「アラ
				ートのカスタマイズ」タブ』
予算の承認ルール		Х	Х	79 ページの『明細項目の承認を
				自動化するためのテンプレートの
				「予算の承認ルール」タブ』
プロジェクトの役			Х	82 ページの『参加者を組み込む
割				ためのプロジェクト・テンプレー
				トの「プロジェクトの役割」タ
				フ』
要求			Х	83ページの『要求プロセスを構
				成するためのプロジェクト・テン
				ブレートの「要求」タブ』
キャンペーン*			Х	93ページの『Campaign と通信
				するためのプロジェクト・テンプ
				レートの「キャンペーン」タブ』
ワークフロー			Х	87ページの『プロジェクト・テ
				ンプレートの「ワークフロー」タ
				ブ』

表 12. 計画、プログラム、およびプロジェクトのテンプレートの標準タブ (続き)

* このタブは、IBM Marketing Operations と Campaign が統合されている場合の み、使用可能になります。

テンプレートをセットアップするために使用するタブは、ユーザーがオブジェク ト・インスタンスを作成するときに表示されるタブとは異なります。例えば、ユー ザーが計画、プログラム、またはプロジェクトをテンプレートから作成するとき、 「プロパティー」タブは識別情報を収集し、「分析」タブはオブジェクト・インス タンスに関する情報を報告するためのオプションを示します。テンプレートにメト リックが指定される場合、それらは「トラッキング」タブに表示されます。

標準タブ: 請求書テンプレート、資産テンプレート、オファー・テン プレート

財務管理モジュールが有効な場合、請求書テンプレートが使用可能となります。 IBM Marketing Operations と Campaign が統合され、オプションのオファー統合も 有効になっている場合は、オファー・テンプレートが使用可能となります。

請求書テンプレート、資産テンプレート、オファー・テンプレートには、以下の標 準タブがあります。

表 13. 請求書テンプレート、資産テンプレート、およびオファー・テンプレートの標準タブ

タブ名	請求書	資産	オファー	詳細情報
プロパティー	X	Х	Х	69 ページの『テンプレートを 定義するための、テンプレー トの「プロパティー」タブ』

タブ名	請求書	資産	オファー	詳細情報
タブ	X	Х	Х	72ページの『ユーザー・イン ターフェースをカスタマイズ するための、テンプレートの 「タブ」タブ』
アラートのカス タマイズ	X	X	Х	79ページの『イベントでトリ ガーされるアラートをセット アップするためのテンプレー トの「アラートのカスタマイ ズ」タブ』
添付ファイル			Х	77 ページの『フォルダーとフ ァイルを追加するための、テ ンプレートの「添付ファイ ル」タブ』
カスタム・リン ク			Х	77 ページの『他の Web サイ トにアクセスするための、テ ンプレートの「カスタム・リ ンク」タブ』
予算の承認ルー ル	X			79ページの『明細項目の承認 を自動化するためのテンプレ ートの「予算の承認ルール」 タブ』

表 13. 請求書テンプレート、資産テンプレート、およびオファー・テンプレートの標準タブ (続き)

フィールド

フィールドとは、マーケティング・マネージャーの電話番号や添付ファイルのデー タ型など、1 つのデータのためのデータ入力コントロールのことです。 Marketing Operations では、属性を使用してユーザー・インターフェースに表示されるフィー ルド (または他のコントロール) を定義します。

フィールドには、標準フィールドとカスタム・フィールドがあります。詳しくは、 131ページの『第7章フォームでの属性の使用』を参照してください。

カスタムのフォームおよびタブ

テンプレートに含める標準フィールドとカスタム・フィールドを定義した後に、フ ォームを使用してそれらのフィールドをレイアウトに編成します。それから、フォ ームをテンプレートの「サマリー」タブに追加できます。テンプレートのタイプに よっては、フォームをカスタム・タブとしてテンプレートに追加できます。テンプ レートの「タブ」タブで、カスタム・フォームをテンプレートに追加します。カス タムのフォームとタブの追加について詳しくは、73ページの『タブをテンプレート に追加するには』を参照してください。

メトリック

メトリックはオブジェクトのパフォーマンスを測定します。標準的な財務メトリッ クにはコストや売上が含まれ、パフォーマンス・メトリックは特定のマーケティン グ・キャンペーンにおけるコンタクト数やレスポンス数をトラッキングできます。 以下の方法でメトリックを構成できます。

- 他のメトリック値に基づいて計算を行うメトリックをセットアップする。例えば、メトリックで、キャンペーンの利益を収入からコストを減じた値として計算できます。
- メトリックをグループ化する。
- メトリックとそのグループの両方を定義する。
- プロジェクトからプログラムへ、およびプログラムから計画へメトリックをロー ルアップする。

メトリックについて詳しくは、155ページの『第 8 章 メトリックの操作』を参照 してください。

添付ファイル・フォルダー

「添付ファイル」タブにフォルダーを追加して、ユーザーがその添付ファイルを意味のあるカテゴリーに編成できるようにします。ユーザーが添付ファイルを追加するとき、それをフォルダーに追加できます。例えば、ユーザーはパンフレットを添付ファイルとして追加して、テンプレートで提供される「Creative Ideas」フォルダーにファイリングできます。ユーザーが独自のフォルダーを「添付ファイル」タブに追加することはできません。

別のテンプレートを作成する場合

テンプレートは、いつでも追加することができます。計画、請求書、資産について は例外があり、これらのマーケティング・オブジェクト・タイプについては単一の テンプレートしかセットアップできません。

一般的に、新しいテンプレートを設計および実装するのは、マーケティング・オブ ジェクト・タイプに関してキャプチャーしたい情報(データ入力フィールド、メト リックなど)が、既存のテンプレートで収集される情報と大幅に異なる場合のみで す。例えば、あるタイプのプロジェクトで、特定のメトリックをキャプチャーする ために、固有のワークフローを指定し、添付ファイルとして参照資料の特定の一部 を提供します。これらの要件の1つまたはすべては、別のタイプのプロジェクトで はまったく異なります。プロジェクト・テンプレートを作成するのは、プロジェク トの各タイプに適切なフレームワークを提供するためです。

別の種類のマーケティング・プログラムに対して、異なるプロジェクト・テンプレ ートを使用することもできます。例えば、以下のようなプロジェクトが考えられま す。

- 定常化した毎月のダイレクト・メール処理プロジェクト。
- 特定のターゲットに的を絞った、新製品立ち上げ前後のダイレクト・マーケティング・プログラムのプロジェクト・テンプレート。

これらのプロジェクト・タイプでは、それぞれ独自のプロジェクト・テンプレートを使用することができます。

一連のテンプレートに関する決定

組織のビジネス要件を満たすためにテンプレートのセットを作成する方法を例示し ます。 マーケティング販促用品一式を組織内で作成または変更することを中心とするプロジェクトに関して組織が必要なすべての情報を収集するには、「マーケティング販促用品」というプロジェクト・テンプレートを作成します。この場合、マーケティング販促用品が必要となるプロジェクトを組織内のメンバーが作成するときは、常に「マーケティング販促用品」テンプレートを選択して、このテンプレートからプロジェクトを作成します。プロジェクトの作成について詳しくは、「*IBM Marketing Operations* ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

また、組織は新しいダイレクト・マーケティング・キャンペーンを策定して実行し ます。これらのプロジェクトで必要な情報を収集するために、「データベース・マ ーケティング・キャンペーン」という別のテンプレートを作成します。この場合、 特定のデータベース・マーケティング・キャンペーンのプロジェクトを組織内のメ ンバーが作成するときは、常に「データベース・マーケティング・キャンペーン」 テンプレートを選択して、このテンプレートからプロジェクトを作成します。

所有しているマーケティング・プロジェクトの種類またはマーケティング・プログ ラムの種類と同じ数のテンプレートを所有することができます。

サンプル・テンプレート

IBM Marketing Operations には、サンプルのプログラム・テンプレートとプロジェ クト・テンプレートがいくつか用意されています。これらのテンプレートを変更し て、新しいテンプレートを作成できます。Marketing Operations には、計画、請求 書、資産用に、デフォルト・テンプレートが 1 つずつ用意されています。これらの テンプレートは必要に応じて編集できますが、これらのオブジェクト・タイプ用に 新しいテンプレートを作成することはできません。これらのサンプルは、IBM Marketing Operations のインストール済み環境の配下に存在する以下のファイル内に 格納されています。

¥tools¥admin¥sample_templates¥sampleTemplates<database>.zip

<database> は、使用しているデータベースです。例えば、Oracle データベースを使用している場合は、sampleTemplatesOracle.zip. をインポートする必要があります。

サンプル・テンプレートのリスト

プログラムのサンプル・テンプレートを以下に示します。

- 「データベース・マーケティング」には、ダイレクト・マーケティング・キャン ペーンを策定して実装するプログラムに関する基本的な情報が含まれています。
- 「生産立ち上げ」には、新しい生産立ち上げキャンペーンを策定して実行するプログラムに関する基本的な情報が含まれています。

プロジェクトのサンプル・テンプレートを以下に示します。

- 「データベース・マーケティング・キャンペーン」には、ダイレクト・マーケティング・キャンペーンを策定して完成させるプロジェクトに関する基本的な情報が含まれています。
- 「展示会」には、展示会を計画するプロジェクトに関する基本的な情報が含まれ ています。
- 「マーケティング販促用品」には、マーケティング販促用品を開発するプロジェ クトに関する基本的な情報が含まれています。

 「IBM キャンペーン」。 IBM Marketing Operations と Campaign の統合が有効 になっている場合、これには、IBM Campaign のキャンペーンとリンクされてい るプロジェクトに関する情報が含まれています。

サンプル・テンプレートのインポートについて詳しくは、205ページの『テンプレ ート・メタデータをインポートする方法』を参照してください。

テンプレート・コンポーネントについて

テンプレートには、デフォルトのデータだけではなく、管理者が作成して管理する さまざまなコンポーネントも含まれています。テンプレート・コンポーネントは、 モジュラー形式で再利用可能な構造であり、さまざまなタイプのマーケティング・ オブジェクトのインスタンスを作成するユーザーのニーズを満たすことができるよ うになっています。

テンプレートおよびテンプレート・コンポーネントで作業するには、「設定」

>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」をクリックして「テンプレ ート構成」ページを開きます。

具体的には、テンプレートに以下のコンポーネントを含めることができます。

表 14. テンプレートのコンポーネント

コンポーネント	説明
フォーム	データの収集のために編成された要素のグループ。マーケティング・オ ブジェクト・テンプレートでは、各タブに 1 つ以上のフォームが含ま れます。マーケティング・オブジェクト・テンプレートをまたいで(例 えば、プロジェクト・テンプレートとプログラム・テンプレートの両方 で)フォームを使用することができます。 フォームを作成するには、データを収集する属性を作成し、フォームの
	定義に結合します。「テンプレート構成」ページで、「フォーム」をク リックします。詳しくは、105ページの『第6章フォームの作成およ び管理』を参照してください。
共有属性	データの値を収集するデータの要素。各属性は、「はい」と「いい え」、定義済みのリストやデータベースのルックアップ・テーブルから の単一選択など、データの収集について特定の形式を持っています。詳 しくは、139ページの『属性タイプについて』を参照してください。共 有属性を定義した後で、さまざまなフォームにインポートできます。
	属性を作成するには、「テンプレート構成」ページで、「共有属性」を クリックします。詳しくは、131ページの『第 7 章 フォームでの属性 の使用』を参照してください。
ルール	入力したデータが有効であることを確認するためにフォームへ自動的に 適用できる検査機能のセット。
	XML エディターを使用してルール・ファイルを作成し、Marketing Operations に追加します。そのためには、「テンプレート構成」ページ で「ルール」をクリックします。詳しくは、227ページの『グリッドの 検証』を参照してください。

表 14. テンプレートのコンポーネント (続き)

コンポーネント	説明
メトリック	パフォーマンスまたは収支データを追跡して測定する、ユーザー入力、 または計算による数値。メトリックはメトリック・テンプレートに割り 当てられます。メトリック・テンプレートは、計画、プログラム、また はプロジェクト・テンプレートに関連付けることができます。メトリッ ク・テンプレートをオブジェクト・テンプレートに関連付ける場合、そ のオブジェクトのインスタンスには「追跡」タブが含まれます。 メトリックおよびメトリック・テンプレートを作成して編集するには、 「テンプレート構成」ページで、「メトリック」をクリックします。詳 しくは、155ページの『第8章 メトリックの操作』を参照してくださ い。
ワークフロー	ステージ、タスク、マイルストーン、担当者、依存関係など、プロジェ クトの完了に必要な作業を編成してスケジュールを設定するデータ。ワ ークフローは、プロジェクト・テンプレートでのみ使用されます。
	ワークフロー・テンプレートを作成または編集するには、プロジェク ト・テンプレートまたは任意のプロジェクト・インスタンスの「ワーク フロー」タブでワークフローを定義します。その後、その作業を別のワ ークフロー・テンプレートとして保存できます。プロジェクト・テンプ レートまたはプロジェクト・インスタンスの「ワークフロー」タブにワ ークフロー・テンプレートをインポートして、以前指定した値を置き換 えることができます。
	ワークフロー・テンプレートを無効化、有効化、または削除したり、別 の Marketing Operations インスタンスにエクスポートまたはインポート したりするには、「テンプレート構成」ページで「 ワークフロー 」をク リックします。詳しくは、87ページの『プロジェクト・テンプレート の「ワークフロー」タブ』を参照してください。
データ・マッピン グ	IBM Campaign と Marketing Operations の統合が有効の場合、データ・マッピング・ファイルは、各システムで確立されたトラッキングとロールアップのメトリックが対応する方法を確立します。
	XML エディターを使用してデータ・マッピング・ファイルを作成し、 「テンプレート構成」ページの「 データ・マッピング 」をクリックして Marketing Operations に追加します。詳しくは、 99 ページの『「デー タ・マッピングの定義」ページ』を参照してください。
アイコン	ユーザー・インターフェースでマーケティング・オブジェクトを表すイ メージ。画像編集ソフトウェアを使用してアイコンのイメージを作成 し、「テンプレート構成」ページで「 アイコン 」をクリックして、 Marketing Operations に追加します。詳しくは、102ページの『「アイ コン」ページ』を参照してください。

可能なテンプレートのコンポーネントのグラフィカル表現を以下に示します。



これらのテンプレート・コンポーネントを定義して使用可能に設定したら、テンプ レートとして組み立てます。

テンプレートの作成方法

カスタム・テンプレートの作成は、ボトムアップのプロセスです。このプロセスで は、必要な各コンポーネントを作成してから、完全なテンプレートに組み立ててい きます。オブジェクトのインスタンスを作成する場合は、完全なテンプレートを使 用します。例えば、プログラムを作成する場合はプログラム・テンプレートを使用 し、プロジェクトを作成する場合はプロジェクト・テンプレートを使用します。

作業 1: 計画

Marketing Operations でテンプレートの作成を開始する前に、組織のニーズを分析 し、必要なテンプレートの種類を計画します。詳しくは、57ページの『カスタム・ テンプレートの計画』を参照してください。

作業 2: 属性とフォームの定義

必要なフィールドの種類と、フィールドの編成方法を分析したら、属性とフォーム を作成します。詳しくは、134ページの『属性の作成、編集および削除について』 と106ページの『フォームの作成』を参照してください。

作業 3: メトリックの定義

必要なメトリックの種類を分析したら、該当するメトリックを作成して編集しま す。詳しくは、157ページの『メトリック作成の概要』を参照してください。

作業 4: その他のテンプレート・コンポーネントの定義

適切なソフトウェアを使用して、テンプレートで必要なアイコンとデータ・マッピ ング・ファイルを作成します。

作業 5: テンプレートの定義

各コンポーネントをテンプレートに組み立てます。カスタム・タブを作成し、テン プレートで使用するアイコン、フォーム、メトリックなどを指定することができま す。詳しくは、67ページの『テンプレートを追加または編集するには』を参照して ください。

作業 6: テンプレートのテスト

作成した新しいテンプレートを使用してオブジェクトを作成します。テンプレート の作成は反復プロセスであるため、個々のコンポーネントに戻って微調整を行う必 要が生じる可能性があります。さらに、コンポーネントを交換し、新しいオブジェ クトを作成して再テストを行う場合もあります。テンプレートからオブジェクトを 作成する方法について詳しくは、「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」 を参照してください。

カスタム・テンプレートの計画

カスタム・テンプレートの作成に伴う作業では、ほとんどの場合、テンプレートに 必要なフィールドを判断し、それらのフィールドの編成方法を決定する必要があり ます。属性とフォームの作成を開始する前に、この情報を紙に書き出してくださ い。この計画ステップにより、作成処理が簡素化されます。

カスタム・テンプレートの作成を開始する前に、組織で必要となるテンプレートの 種類を決定し、オブジェクトに追加するタブと、各タブに表示する各フィールドを 示すストーリー・ボードまたはスプレッドシートを作成します。

例えば、プロジェクトを要求した事業部門をそのプロジェクトでリストしたい場合 は、事業部門フィールドについて以下の情報を記録します。

属性情報	值
共有またはローカ	共有
ル	
属性カテゴリー	フォーム
属性タイプ	1 つ選択
内部名	BusinessUnit
表示名	事業部門
タブIグループ	「販促用品要求情報」セクションの下にある「サマリー」タブ内。

表 15. フィールドに関する情報の追加前の記録例

表15. フィールドに関する情報の追加前の記録例 (続き)

属性情報	值
フィールド・タイ	ドロップダウン・リスト
フ	
有効値または値の 取得元のデータベ ース表	リテール・バンキング、投資サービス、保険、クレジット・カードのパ ンフレット、ポスト・カード、データ・シート、折り込み広告、ホワイ ト・ペーパー、印刷広告、または Marketing Operations がこれらの値を 検索するテーブルや列の名前。
必須か	はい
ヘルプ・ヒント	この販促用品を要求している事業部門を入力します。

フォーム内のすべてのフィールドについてこの計画ステップを実行したら、属性と フォームを作成できます。

カスタマイズ可能な項目

テンプレート用にカスタマイズできる項目は、マーケティング・オブジェクト・タ イプによって異なります。テンプレートをカスタマイズできるさまざまな方法の概 要を以下に示します。

- すべてのテンプレート・タイプについて、「サマリー」タブにカスタム・フィー ルドを追加することができます。例については、59ページの『「サマリー」タブ のサンプル』を参照してください。
- カスタム・フィールドを持つタブを、プログラム、プロジェクト、オファー、およびカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートに追加することができます。
 60ページの『カスタム・タブの例』を参照してください。
- メトリックを作成してメトリック・テンプレートに追加してから、メトリック・ テンプレートを計画、プログラム、またはプロジェクトのテンプレートに関連付 けることができます。ユーザーがこれらのマーケティング・オブジェクト・タイ プのいずれかのインスタンスを処理すると、「トラッキング」タブにメトリック が表示されます。155ページの『第8章メトリックの操作』を参照してください。
- プロジェクトの「ワークフロー」タブでは、ステージ、タスク、依存関係、期間 など、ほとんどすべての特性をカスタマイズできます。 87 ページの『プロジェ クト・テンプレートの「ワークフロー」タブ』を参照してください。
- 「添付ファイル」タブでは、ユーザーが添付ファイルを編成する際に役立つフォ ルダーを定義します。テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトに出現 するデフォルト添付ファイルを追加することもできます。 77 ページの『フォル ダーとファイルを追加するための、テンプレートの「添付ファイル」タブ』を参 照してください。
- プロジェクト、要求、カスタム・マーケティング・オブジェクトの場合、テンプレートに組み込まれているタブ (カスタム・タブと標準タブ)ごとに、セキュリティー権限をカスタマイズすることができます。173ページの『テンプレートのアクセス権限の制御について』を参照してください。
- 「予算」タブをカスタマイズできます。このタブは、財務管理モジュールが有効になっている場合に、プログラムとプロジェクトで使用することができます。
 13ページの『「予算」タブのカスタマイズについて』を参照してください。

テンプレートを構成して、さまざまなロケール用の値をローカライズすることもで きます。 60ページの『テンプレートの複数ロケール・サポートの構成』を参照し てください。

「サマリー」タブのサンプル

次のイメージは、「データベース・マーケティング・キャンペーン」サンプル・テ ンプレートから作成されたプロジェクトの「サマリー」タブです。

 Database Marketing 	Campaign		O Not Started
Description:			
Team Members:			
asm admin (Owner)			R
Project Code:		Use Security Policy:	
CMP 1000		Global	
Parent Items and Code:			
🔝 Database Marketing Car	mpaign 1 (CMP1000)		
Target Start:		Target End:	
• Campaign Info			
Business Unit		Initiative Type	
Credit Card		Product Launch	
Target Audience		Channel(s)	
Platinum		Direct Mail	
Product Family		Product(s)	
Credit Card			

以下の点に注意してください。

- タブの上部(「データベース・マーケティング・キャンペーン」セクション)のフィールドは、標準フィールドです。標準フィールドは変更できません。
- タブの下部(「キャンペーン情報」セクション)のフィールドは、カスタム・フィールドです。カスタム・フィールドを作成するには、属性をフォームに追加して、関連する複数のフィールドがグループにまとめられるようにします。

カスタム・フィールドでは、プロジェクトに必要な情報を取得することができま す。これらのフィールドに入力された値は、レポート作成や分析の目的で後で使用 することができます。以下に、カスタム・フィールドの例をいくつか示します。

- ユーザーがフリー・テキストを入力するためのテキスト・ボックス。
- ドロップダウン・リストまたは複数選択リスト・ボックス。ユーザーはこのリストから1つまたは複数の値を選択します。管理者は、ユーザーの選択元となる静的リストを指定するか、リストの値の取得元となるデータベース表を指定することができます。
- ラジオ・ボタン。ユーザーは事前定義された複数のオプションからオプションを
 1 つだけ選択します。

カスタム・タブの例

次のイメージは、「データベース・マーケティング・キャンペーン」販促プロジェ クトの「クリエイティブ展開」タブを示しています。このタブはカスタム・タブで す。

Summary	People	Creative Development	Campaign Development	Workflow	1
1		×	<u>_</u>	≥ 🚔	X
🕶 Datab	ase Mark	eting Campaign			
Group					
Objective	5				
To come u	p with coll	ateral for the new database	e marketing campaign.		
Backgroun	nd Info				
Need new	strategy as	s old wasn't selling.			
Audience	Profile				
All gold cu	stomers				
Competiti	on				
Need to se	cope this.				

この例におけるこのタブの目的は、プロジェクトの作成と実稼働の手順を示すこと です。「クリエイティブ展開」タブには、マーケティング・キャンペーンの目的、 背景、およびオーディエンスのプロファイルに関する情報を取得するフィールドが あります。

現在は紙のフォームに記入して他の部署や取引先に渡す方法で情報を取得している プロジェクトについて、カスタム・タブを追加することより、こうした情報を取得 することができます。この情報をプロジェクトに取り込むことにより、ユーザーが 情報を入力し、すべてのチーム・メンバーがその情報を確認できるようになるた め、情報が不足している場合に発生する遅延を最小限に抑えることができます。

テンプレートの複数ロケール・サポートの構成

IBM Marketing Operations のテンプレートには、複数のロケールを使用する組織を サポートする機能が組み込まれています。プログラムまたはプロジェクトのテンプ レートを Marketing Operations に追加すると、そのテンプレートの properties フ ァイルがシステムによって保存されます。このファイルは、以下のように、 Marketing Operations のホーム・フォルダーの下に保存されます。

<MarketingOperations_Home>¥templates¥db¥properties¥
<template_id>_<default_locale>.properties

ここで、<template_id> はテンプレートに割り当てられる内部 ID であり、
<default_locale> は「設定」>「構成」> Marketing Operations > defaultLocale
プロパティーによって指定されます。

以下のフィールドに入力される値は、プログラムおよびプロジェクトのテンプレートの properties ファイルに保管されます。

• 「プロパティー」タブ: 「名前」、「説明」、および「デフォルト名」。

- 「タブ」タブ: 「表示名」。
- 「添付ファイル」タブ: 「名前」。
- 「カスタム・リンク」タブ: 「表示名」および「説明」。

例えば、properties ファイルの en_us バージョンには、以下の内容が含まれま す。

attachment_folder.display_name.folder1=Reference Attachments
template.default_name.tradeshow=Tradeshow
template.display_name.tradeshow=Tradeshow Template
custom_link.display_name.new=New Custom Link
tab.display_name.contact=Contact Info
template.description.tradeshow=Use this template for requests/projects
to prepare for tradeshow attendance.
tab.display_name.tradeshowsummary=Tradeshow Attributes
attachment folder.display name.folder2=Project Deliverable(s)

組織がサポートしている他のロケールと同じ数だけ、これらの値をローカライズで きます。

- 1. properties ファイルのコピーを作成します。
- 新規ファイルの名前を <テンプレート ID>_<他のサポートされるロケール
 .properties に変更します。
- 3. ファイルを編集して各フィールドの値を翻訳してから、ファイルを保存します。

注: テンプレートをローカライズしても、カスタム・タブや「サマリー」タブのセ クションを提供するために追加されたフォームはローカライズされません。フォー ムは、別途ローカライズする必要があります。 126 ページの『フォームのローカラ イズ』を参照してください。

デフォルト・ロケールの properties ファイルは、以下のシチュエーションで使用 されます。

- ロケールはサポートされているものの、それに対応する properties ファイルが ない場合。
- ロケールがサポートされていない場合。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート

IBM Marketing Operations が IBM Campaign と統合されると、キャンペーン・プロ ジェクト・テンプレートによって、キャンペーン・プロジェクトの作成がガイドさ れます。

プロジェクト・テンプレートを追加する際に、そのテンプレートがキャンペーン・ プロジェクト・テンプレートであることを指定します。統合システムでは、すべて の新規プロジェクト・テンプレートには「キャンペーン」タブが含まれます。各テ ンプレートの「キャンペーン」タブのオプションを指定してください。特に、「タ ーゲット・セル・スプレッドシート」の指定は必須です。 Campaign のコンタクト およびレスポンスのメトリックをインポートする場合は、メトリックのマップ・フ ァイルを指定する必要があります。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計

作成できるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートの数に制限はありません。 例えば、実行するキャンペーンのタイプごとに別個のキャンペーン・プロジェク ト・テンプレートを作成できます。

一般に、必要なフォームの固有の組み合わせごとに、別個のテンプレートを作成す る必要があります。例えば、キャンペーンのターゲット・セルを定義するためにさ まざまな情報を収集する必要がある場合、バージョンの異なるターゲット・セル・ スプレッドシートを作成して、それらを別個のテンプレートに関連付ける必要があ ります。同様に、一部のカスタム・キャンペーン属性が特定のタイプのキャンペー ンにのみ関連している場合、異なるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを 作成してさまざまなカスタム・キャンペーン属性を使用できるようにし、それらの タブ上での表示順序や編成を制御できます。

オファー・テンプレート

IBM Marketing Operations が Campaign と統合されていて、オプションのオファー 統合も有効になっている場合は、Marketing Operations にオファー・テンプレートを 作成して、ユーザーがオファーを作成する際の手引きをします。オファー・テンプ レートを処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート 構成」>「テンプレート」を選択し、「オファー・テンプレート」セクションのオプ ションを使用します。

オファー・テンプレートの機能と、オファーの管理および使用について詳しくは、 管理者およびユーザー向けの Campaign のガイドを参照してください。

オファー統合を有効にすると、Campaign から、既存の任意のオファー・テンプレートとそれらのカスタム・オファー属性を、オファー、オファー・リスト、およびオファー・フォルダーとともにインポートできます。オファー統合の有効化について詳しくは、「IBM Marketing Operations and Campaign 統合ガイド」を参照してください。

第5章 テンプレートの作成および管理

テンプレートの作成および管理のプロセス全体について詳しくは、56ページの『テ ンプレートの作成方法』を参照してください。

テンプレートやテンプレート・コンポーネントを作成および管理するには、「テン プレート構成」ページを使用します。ページを表示するには、「**設定**」

>「Marketing Operations 設定」を選択します。それから、「テンプレート構成」 をクリックします。

「テンプレート構成」ページの項目および機能は、「テンプレート構成」と「テン プレート・コンポーネント」という 2 つのセクションにまとめられています。ま た、すべてのテンプレートを検証するためのオプションもあります。

「テンプレート構成」セクション

「テンプレート構成」ページの「テンプレート構成」セクションには「**テンプレー** ト」リンクが含まれます。このリンクは、既存のすべてのテンプレートおよびテン プレート・フォルダーのリストをマーケティング・オブジェクト・タイプ別にまと めて表示するページを開きます。このページのリンクを使用して、テンプレートを 作成、削除、および整理したり、個々のテンプレートを編集またはエクスポートし たりすることができます。

テンプレートの検証

テンプレートおよびフォームを検証して検証エラーを表示するユーティリティーを 実行するには、「テンプレート構成」セクションの「**テンプレートの検証」**をクリ ックします。

「テンプレート・コンポーネント」セクション

このページの「テンプレート・コンポーネント」セクションには、以下のリンクが 含まれます。

表 16. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク

リンク	説明
フォーム	「フォームの定義」ページを開きます。このページには、フォーム の定義がリストされていて、フォームで作業を行うためのオプショ ンが提供されています。フォーム定義ごとに以下の情報が表示され ます。
	 フォームの名前 ユーザーが「フォーム」フィールドに入力した値の保存先のデー タベース表の名前 フォームを使用するテンプレートのリスト
	このページのリンクおよびアイコンを使用して、フォームを作成、 インポート、有効化、無効化、削除、エクスポート、コピー、公 開、および管理します。
	詳しくは、105ページの『第6章フォームの作成および管理』を 参照してください。

表 16. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク (続き)

リンク	説明
メトリック	「メトリック・テンプレート」、「メトリック」、および「メトリ ック・ディメンション」の各セクションを含むページが開きます。 リストされているそれぞれの項目の名前と簡単な説明が表示されま す。
	メトリック・テンプレートについては、以下の情報とオプションが 表示されます。
	 ID。メトリック・テンプレートをオブジェクト・テンプレートに 追加する場合に使用します。
	 メトリック・テンプレートを使用するテンプレートのリスト。
	 個々のメトリック・テンプレートを編集または削除するためのリンク。
	 メトリックのプロパティー・ファイルをエクスポートするための 「プロパティー・ファイルのエクスポート」リンク。
	 メトリック・テンプレート用の XML ファイル、またはプロパティー・ファイルをインポートするための「メトリック・テンプレートのインポート (Import Metrics Template)」リンク。
	 メトリック・テンプレートを追加するための「メトリック・テン
	プレートの追加 (Add Metrics Template)」リンク。
	メトリックについては、以下の追加情報とオブションが表示されま す。
	 ID。メトリックをメトリック・テンプレートに追加する場合に使用します。
	• メトリックを使用するプロジェクトのリスト。
	• 個々のメトリックを編集または削除するためのリンク。
	 メトリックを追加するための「メトリックの追加 (Add Metrics)」リンク。
	メトリック・ディメンションについては、以下の追加情報とオプシ ョンが表示されます。
	 それぞれのメトリック・ディメンションのタイプ(「実際」、 「ターゲット」、「その他」)。
	 個々のメトリック・ディメンションを編集または削除するための リンク。
	 メトリック・ディメンションを追加するための「メトリック・ディメンションの追加 (Add Metrics Dimension)」リンク。
	IBM Marketing Operations バージョン 8.5.0 へのアップグレード前 にレガシー・メトリック仕様ファイルがアップロードされている場 合には、「レガシー・メトリックの仕様ファイル (Legacy Metrics Specification Files)」リンクを使用してそれらを取得します。 Marketing Operations 8.5.0 以降では、ユーザーがファイルをさらに 追加することはできません。
	詳しくは、 155 ページの『第 8 章 メトリックの操作』を参照して ください。

表 16. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク (続き)

リンク	説明
ワークフロー	別々に保存されたワークフロー・テンプレートのリストが表示さ
	れ、以下の情報が表示されます。
	• 名前
	• ワークフロー・テンプレート内のステージおよびタスクの数
	• 初回作成日と最終修正日
	• 有効状態か無効状態か
	プロジェクトのテンプレートまたはインスタンスの「ワークフロ ー」タブで行った作業を保存して、ワークフロー・テンプレートを 作成します。このリスト・ページのリンクを使用して、ワークフロ ー・テンプレートを削除、有効化または無効化、インポート、ある いはエクスポートすることができます。
	詳しくは、 97 ページの『「ワークフロー・テンプレート」ペー ジ』を参照してください。
データ・マッピング	データ・マップのリストが表示され、以下の情報が表示されます。
	• データ・マッピング・ファイル名
	 タイプ:「キャンペーンのメトリックは、インポート」(以前のバ ージョンからのデータ・マップがある場合、他の値が表示される ことがあります)。
	 マッピングを使用するテンプレートのリスト。
	 このページのリンクを使用して、データ・マッピング・ファイル を追加および削除することができます。
	詳しくは、99ページの『「データ・マッピングの定義」ページ』 を参照してください。
アイコン	アイコンのリストが表示され、以下の情報が表示されます。
	• アイコン・イメージ (大きいイメージと小さいイメージ)
	• アイコン名
	• アイコンを使用するテンプレートのリスト
	 アイコンを削除するための「削除」リンク (ファイルは、ディス ク上の保存場所からは削除されません)
	「 アイコンの追加 」をクリックして、アイコンを追加します。
	詳しくは、 102 ページの『「アイコン」ページ』を参照してください。
ルール	「ルール定義」ページが開きます。「 ルール定義の追加 (Add Rules Definition)」をクリックして、ルールを追加します。
	 詳しくは、228ページの『データ検証ルールについて』を参照して ください。
表 16. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク (続き)

リンク	説明
共有属性	属性カテゴリー別に編成された、システムの共有属性のリストが表 示され、以下の情報が表示されます。
	 表示名
	• 属性のタイプ
	• 属性を使用するテンプレートのリスト
	詳しくは、131ページの『第 7 章 フォームでの属性の使用』を参照してください。

また、エクスポート機能とインポート機能を使用して、テンプレートをあるコンピ ューター・システムから他のコンピューター・システムに移動することもできま す。詳しくは、201ページの『第 13 章 メタデータのエクスポートおよびインポー ト』を参照してください。

テンプレートを追加または編集するには

テンプレートを作成する前に既存のテンプレート・コンポーネントを調べて、新規 テンプレートに再利用できるものがないか、あるいは新規コンポーネントが必要か どうかを確認します。テンプレート・コンポーネントには、パフォーマンスと収支 データの追跡のためのメトリックまたはメトリック・テンプレート、データ収集の ための属性とフォーム、およびプロジェクト管理タスクの特定とスケジューリング のためのワークフロー・テンプレートが含まれます。

必要なテンプレート・コンポーネントを特定した後で、テンプレートを作成できま す。テンプレートの作成手順は、通常はオブジェクト・タイプごとに同じですが、 以下の例外があります。

- IBM Marketing Operations は、計画に対して1つのテンプレート、請求書に対して1つのテンプレート、資産に対して1つのテンプレートしか提供しません。
 必要に応じてこれらのテンプレートを編集することはできますが、計画テンプレート、請求書テンプレート、資産テンプレートをさらに作成することはできません。
- プロジェクト・テンプレート、プログラム・テンプレート、および計画テンプレートでは、「プロパティー」タブでメトリックのテンプレートを選択できます。
- 各プロジェクト・テンプレートで、そのテンプレート内のワークフローを指定したり、以前定義して再利用可能なワークフロー・テンプレートをインポートしたりできます。
- IBM Marketing Operations-Campaign の統合が有効になっている場合、「キャンペーン」タブでプロジェクト・テンプレートをキャンペーン・プロジェクト・テンプレートとして特定します。

テンプレートを追加または編集するには、次のようにします。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「その他のオプション」セクションで、「テンプレート構成」をクリックし、次に「テンプレート」をクリックします。

- 「テンプレート」ページで、作業するマーケティング・オブジェクトのタイプの セクションまでスクロールします。
- 4. テンプレートを作成するには、そのセクションの「**テンプレートの追加**」をクリ ックします。既存のテンプレートを編集するには、名前をクリックします。
- テンプレートの「プロパティー」タブでデータを入力します。このタブは、ユー ザーがこのテンプレートから作成するインスタンスの「サマリー」タブに対応し ます。テンプレートの表示名を「名前」に、内部テンプレート ID を「テンプレ ート ID」に指定する必要があります。「テンプレート ID」には、小文字の英 数字の値のみを使用できます。アクセント付き文字または非ローマ字を使用しな いでください。

プロジェクト・テンプレート、プログラム・テンプレート、および計画テンプレ ートでは、このタブでメトリック・テンプレートを選択して、セキュリティー・ ポリシーを設定することもできます。詳しくは、69ページの『テンプレートを 定義するための、テンプレートの「プロパティー」タブ』を参照してください。

- 6. 「プロパティー」タブで「変更の保存」をクリックします。
- 7. 他のタブのデータを入力して、テンプレートを完成させます。使用可能なタブ は、作成または編集しているテンプレートのタイプによって異なります。

重要: 各タブの編集を終了する場合は、テンプレート内の別のタブをクリックする前に、「変更の保存」をクリックします。これをクリックしないと、変更内容は保存されません。

	計画/カスタ	プログラ	プロジ			
タブ名	Д	Д	ェクト	請求書	資産	オファー
タブ	Х	X	Х	Х	Х	X
添付ファイル	Х	X	Х			X
カスタム・リンク	Х	X	Х			X
アラートのカスタマイ	X	X	Х	Х	Х	X
ズ						
予算の承認ルール		X	Х	Х		
プロジェクトの役割			Х			
要求			Х			
ワークフロー			Х			
Campaign			Х			

表 17. 各タイプのテンプレートで利用可能なタブ

これらのテンプレートの各タブで提供されるオプションについて詳しくは、後続 のセクションを参照してください。

テンプレートへの変更の影響

テンプレートを編集するときには、これまでにそのテンプレートから作成されたオ ブジェクトのすべてのインスタンスが変更されるということに注意してください。

ただし、ワークフロー、メトリック、および添付ファイル・フォルダーは、これに は該当しません。オブジェクト・テンプレートのワークフロー・テンプレートまた はメトリック・テンプレートを変更する場合や、添付ファイル・フォルダーを追加 または削除する場合、変更が加えられた後に作成されるオブジェクトにのみ、変更 が適用されます。既存のワークフローは変更されません。また、既存のプロジェク ト、プログラム、または計画の添付ファイル・フォルダーもメトリックも変更され ません。

テンプレートを定義するための、テンプレートの「プロパティー」タブ

すべてのオブジェクトについて、テンプレートの「プロパティー」タブでは、以下 のプロパティーが含まれ、設定することができます。プロジェクト・テンプレート の場合は、このタブに追加のプロパティーが表示されます。

プロパティー	説明
名前	「テンプレート」リスト・ページに表示される、テンプレートの表示 名。
説明	テンプレートの簡略説明。ユーザーがマーケティング・オブジェクト・ インスタンスを追加するときに、テンプレート選択ページに表示されま す。
アイコン	テンプレートの大きいアイコンと小さいアイコンのイメージ。大きいア イコンは、ユーザーがこのテンプレートに基づくインスタンスを作成す るときに表示されます。小さいアイコンは、「テンプレート」リスト・ ページ内のテンプレート名の横に表示されます。他のイメージ・ファイ ルをインポートするには、「 アイコンの変更 」をクリックします。
セキュリティー・ ポリシー	テンプレートにアクセスできるユーザーを決めるセキュリティー・ポリ シーのリスト。 注: プロジェクト・テンプレートに関するさまざまなフィールドが表示 されます。
テンプレート ID	テンプレートの内部 ID。小文字英数字の値のみ使用します。アクセン ト記号付きの文字、ローマ字以外の文字、スペースは使用しないでくだ さい。
	 注: 計画テンプレートおよび請求書テンプレートの場合、このフィールドは表示専用です。計画と請求書のテンプレートはそれぞれ 1 つだけであり、それらの ID は変更できません。 テンプレート ID は、オブジェクト・タイプ全体で固有になっている必要があります。例えば、tradeshow という同じ ID を 2 つのプロジェクト・テンプレートで使用することはできません。2 つの「tradeshow」プロジェクト・テンプレートを使用する場合、tradeshow01 や tradeshow02 など、それぞれのテンプレートで異なる ID を使用する必要があります。
	さらに、テンプレート ID は、使用するとそれを削除しても再び使用 することはできません。 ・ このフィールドは、ユーザーがこのテンプレートに基づく最初のオブ ジェクト・インスタンスを作成するまでは、編集できます。

表18. すべてのテンプレートのプロパティー

表18. すべてのテンプレートのプロパティー (続き)

プロパティー	説明
デフォルト名	このテンプレートから作成されたオブジェクト・インスタンス (プログ ラム、資産、またはマーケティング・オブジェクトなど) につけるデフ ォルトの名前。自動作成されるマーケティング・オブジェクトの場合、 この名前は、システムによってマーケティング・オブジェクトが自動作 成されるときに生成される固有名の一部です。
	このノイールトは、ノラングのままでもかまいません。
ID プレフィック ス	オブジェクトの外部 ID のプレフィックス。Marketing Operations のそ れぞれの計画、プログラム、プロジェクト、またはマーケティング・オ ブジェクトには、割り当てられている外部 ID があります。例えば、最 初のプロジェクトの ID は 1001 というようになります。
	ID プレフィックスはテンプレートごとに設定できるので、オブジェクトの基になっているテンプレートを簡単に見分けられます。例えば、「Tradeshow」プロジェクト・テンプレートに TRS という ID プレフィックスを選択します。すると、初めて作成した「Tradeshow」プロジェクトの ID は TRS1001 になります。
ID 生成クラス	オブジェクトの番号付けアルゴリズムを指定する Java クラス。デフォ ルトで、Marketing Operations では、それぞれのオブジェクト (計画、プ ログラム、またはプロジェクト) に連続番号が割り当てられます。
	ただし、外部 ID を設定するように定義したアルゴリズムを使用するように Marketing Operations を構成することもできます。この構成オプションを選択すると、「ID 生成クラス」がコードの生成に使用される Java クラスを指定します。この属性は、デフォルト以外のアルゴリズム に従って ID が生成させるようにする場合にのみ、編集する必要があります。
メトリック	プロセス (プロジェクト、プログラム、および計画)の場合に、オブジ ェクトに使用されるメトリック・テンプレートです。リストから使用可 能な任意のメトリック・テンプレートを選択することができます。

個々のテンプレートのメタデータをエクスポートするには、このタブの上部にある 「テンプレートのエクスポート」をクリックします。 71 ページの『単一のテンプ レートをエクスポートするには』を参照してください。

すべてのテンプレートに適用されるプロパティーのほかに、プロジェクト・テンプ レートには以下に示すプロパティーが含まれています。

表 19. プロジェクト・テンプレートのプロパティー

プロパティー	説明
セキュリティー・	プロジェクト要求がプロジェクトになった場合に「使用」セキュリティ
ポリシー使用モデ	ー・ポリシーを決定する方法を指定します。このフィールドの値が「ユ
ル	ーザー・セキュリティー・ポリシー」の場合、このタブの「セキュリテ
	ィー・ポリシーの使用 」フィールドは使用不可になります。このテンプ
	レートからプロジェクトまたは要求を作成するユーザーが、アイテムが
	作成されるときに「使用」セキュリティー・ポリシーを指定します。こ
	のフィールドの値が「テンフレート・セキュリティー・ホリシー」の場
	台、このタフの「 セキュリティー・ホリンーの使用 」フィールトは使用
	可能になり、デンフレート開先者が「使用」ホリンーを選択します。
セキュリティー・ ポリシーの表示	ブロジェクトまたは要求を作成するときにこのテンプレートを選択でき るユーザーを決めるセキュリティー・ポリシーを指定します。
ヤキュリティー・	プロジェクトまたは要求が作成された後にそれらにアクセスできるユー
ポリシーの使用	ザーを決めるセキュリティー・ポリシーを指定します。
プロジェクト正常	プロジェクトの正常性を計算するためのルールを選択します。ルールに
性ステータス・ル	ついて詳しくは、195ページの『第 12 章 プロジェクト正常性ルール
ール	の実装』を参照してください。
「エクスポート」	カレンダーをエクスポートするときにエクスポートするプロジェクト・
タブ	タブを選択します。「サマリー」タブまたは任意のカスタム・タブを選
	択することができます。
	ユーザーがカレンダーをエクスポートすると、エクスポートされるカレ
	ンダー・データと一緒に、指定したタブへのリンクとタブのデータが含
	められます。ユーザーはこのリンクをクリックして、エクスポートされ
	たプロジェクトのデータを表示することができます。
「スタッフ」タブ	ユーザーの外出時にタスク、承認、および要求をカバーする代行者を指
への委任の自動追	定することができます。プロジェクト・テンプレート・レベルでシステ
加を有効にする	ム全体の設定をオーバーライドするときに使用します。
	• これを「はい」に設定すると、タスク、承認、または要求が代行者に
	割り当てられた場合に、その代行者がプロジェクトのチーム・メンバ
	ーとして自動的に追加されます (必要な場合)。
	• これを「いいえ」に設定すると、ユーザーは、すべての同じプロジェ
	クトのチーム・メンバーになっている代行者のみを選択できます。
	システム全体の設定については、5ページの『「管理設定」ページ』を
	参照してください。外出中機能については、「IBM Marketing Operations
	ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

単一のテンプレートをエクスポートするには

- 1. 「設定」メニューで、「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「**テンプレート構成」**をクリックします。
- 3. 「**テンプレート**」をクリックします。
- 4. エクスポートするテンプレートの名前をクリックします。

「プロパティー」タブが表示されます。

5. 「**テンプレートのエクスポート**」をクリックします。

- インポート操作でテンプレート・メタデータを受け取るシステムの「データベース・タイプ」を指定します。選択されたデータベース・タイプによって、エクスポート・プロセスで生成される SQL スクリプト・ファイルの形式が決まります。
- 「エクスポート」をクリックしてテンプレートをエクスポートします。または、 「閉じる」をクリックしてエクスポートをキャンセルし、説明の残りの部分をス キップします。
- 8. 「ファイルのダウンロード (File Download)」ダイアログで、「開く」または 「保存」をクリックします。

選択されたテンプレートの XML ファイルと SQL スクリプト・ファイルを含む 圧縮アーカイブが、システムによって作成されます。アーカイブ・ファイルを開 くか、または解凍すると、それらのファイルが表示されます。

ユーザー・インターフェースをカスタマイズするための、テンプレートの 「タブ」タブ

このタブを使用して、フォームを「サマリー」タブに追加したり、この機能がサポ ートされるマーケティング・オブジェクト・タイプのカスタム・タブを作成したり します。例えば、ユーザーが販促用品の印刷を依頼する契約を行う予定の、外部業 者に関する情報を収集する必要があるとします。これを行うには、ユーザーが複数 の業者のリストから印刷業者を選択するための属性を含めたフォームを作成しま す。また、ユーザーが販促用品の各ページの見積価格を入力するための、テキス ト・ボックスも組み込みます。そして、プロジェクト・テンプレート内の「タブ」 タブを使用してタブを追加し、その名前を「Printing」とします。

ヒント:オブジェクト・インスタンスで表示される標準タブの名前は、変更できません。

組織のセキュリティー・ポリシーを構成する場合は、それらのタブのカスタム・セ キュリティー権限を構成することができます。

フィールド	説明
表示名	タブ、または「サマリー」タブの新規セクションの表示名。
ページ・スタイル	 「サマリー」を選択すると、「サマリー」タブの下部にフォーム が追加されます。このオプションは、比較的少数の属性を含み、 ユーザーがインスタンスを作成または編集するときに「サマリ ー」タブでユーザーに示すフォームのために使用します。 「タブ」を選択すると、このフォーム専用のカスタム・タブが作 成されます。このオプションは、「Printing」タブの例のよう な、独自のページを必要とするフォームまたはフォームのグルー プに使用します。 このオプションは、テンプレート・タイプには使用できません。
フォーム	追加するフォームを選択します。

表 20. 新規タブを定義するためのフィールド

表 20. 新規タブを定義するためのフィールド (続き)

フィールド	説明
アイコンをクリックし てルールを追加	タブの各セクションは、展開してすべてのフィールドを表示する か、またはユーザーによる処理の準備が整うまで、折りたたんでフ ィールドを非表示にしておくことができます。デフォルトでは、す べてのセクションが展開されます。
	セクションを展開する条件を指定するために、if-then ステートメン トを使用したルールを作成することができます。ルールを指定した 場合は、そのルールの条件が満たされているときに限りフォームが 展開されます。条件が満たされていないときは、フォームが省略さ れます。
	詳しくは、 75 ページの『フォームの表示と非表示を切り替えるル ールの作成』を参照してください。
データ検証クラス	「 データ検証ルール 」ファイルを選択した際に、システムで提供さ れます。
データ検証ルール	データを収集するためのグリッドが使用されるフォームでは、ユー ザーの入力内容の編集検査を行うための検証機能が含まれた XML ファイルを適用することができます。「フォーム」フィールドで指 定したフォームに、1 つ以上のルール・ファイルが関連付けられて いる場合、このリストからその 1 つを選択します。 227 ページの 『グリッドの検証』を参照してください。
可視性	ユーザーがこのオブジェクトのインスタンスを追加するとき表示される一連のページに、この新しい「サマリー」タブのセクションや タブを含めたい場合には、「 ウィザードで表示 」を選択します。こ のオプションをクリアした場合は、ユーザーがオブジェクトを保存 した後に初めて、このセクションまたはタブが表示されます。
	プロジェクト・テンプレートに限り、この新しい「サマリー」タ ブ・セクションまたはタブがプロジェクトと要求の両方に適用され る場合は、「要求で表示」を選択します。このオプションをクリア した場合は、プロジェクトでのみ、このセクションまたはタブが表 示されます。

タブをテンプレートに追加するには

- 1. テンプレートを追加または編集し、その「タブ」タブをクリックします。
- 2. 「**タブの追加**」をクリックします。
- 3. 「表示名」テキスト・ボックスに、タブの記述名を入力します。

選択した名前は、ユーザーがこのテンプレートからインスタンスを作成するとき に表示されるタブの名前になります。

4. フォームを「**サマリー**」タブに表示するか独自のカスタム・タブに表示するかを 選択します。

このオプションは、テンプレート・タイプには使用できません。

5. オプションで、フォームを表示および非表示にするルールを作成します。 75 ペ ージの『フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成』を参照してくださ い。 6. フォームを「**フォーム**」リストから選択します。

このリストには、IBM Marketing Operations で使用可能なすべてのフォーム (キ ャンペーン・プロジェクトで使用される TCS (ターゲット・セル・スプレッドシ ート) フォームは除く) が表示されます。

- グリッドを追加する場合は、データ検証ルールを「データ検証ルール」リストから選択することができます。 詳しくは、219ページの『第 16 章 詳細トピック』を参照してください。
- 8. タブの可視性オプションを選択します。

このオプションは、テンプレート・タイプには使用できません。

9. 「変更の保存」をクリックしてタブを保存するか、「タブの追加」 をクリック して別のタブを追加します。

テンプレートでタブまたはフォームを移動するには

- 1. テンプレートを編集し、その「タブ」タブをクリックします。
- 2. 「移動」をクリックしてから、以下のいずれかのボタンをクリックします。
 - 「下へ」をクリックしてタブまたはフォームを下に移動します。「サマリー」 タブでフォームを下の方に移動すると、それがオブジェクトの「サマリー」タ ブで下の方に配置されます。カスタム・タブを下の方に移動すると、タブ・リ ストのさらに右側に配置されます。例えば、タブがリストの4番目である場 合、1つ下に移動すると5番目になります。
 - 「上へ」をクリックしてタブを上に移動します。上に移動または 1 つ前の位置に移動します。

注:「サマリー」タブでは、インスタンス・プロパティーの標準フォームは、どのカスタム・フォームよりも前に位置していなければなりません。

カスタム・フォームまたはタブをテンプレートから削除するには

重要:カスタム・フォームまたはタブをテンプレートから削除すると、そのテンプ レートから作成されたすべての既存のオブジェクト・インスタンスからもそれが削 除されます。ユーザーが公開済みテンプレートから既にオブジェクト・インスタン スを作成している場合は、その公開済みテンプレートからカスタム・フォームまた はタブを削除しないでください。そのようにすると、データが失われます。

- 1. テンプレートを編集し、その「タブ」タブをクリックします。
- 2. 削除するフォームまたはカスタム・タブを定義するセクションまでスクロールし、(ページの右側にある)「削除」をクリックします。

フォームまたはカスタム・タブがオブジェクト・テンプレートから削除されま す。

- 3. 「**OK**」をクリックします。
- 4. 「変更の保存」をクリックします。

フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成

カスタム・フォームまたはカスタム・タブを追加する際に、ユーザーがオブジェクト・インスタンスを作成および編集するときにデフォルトでフォームを表示する (すべて展開)か非表示にする(折りたたむ)かを選択できます。オプション情報を 収集するためのユーザー・コントロールを持つフォームを非表示にすると、テンプ レートからインスタンスを作成する処理を簡素化することができます。ユーザーは 必要に応じて非表示になっているフォームを展開できます。

- ルールを作成しない場合、フォームはデフォルトで表示されます。
- ルールを作成する場合は、if-then-else ステートメントの「if」部分の条件を指定し ます。条件が満たされると、フォームが表示されます。そうでない場合は、フォ ームは非表示になります。

ルールを作成するには、次のようにします。

- 1. テンプレートを編集し、その「タブ」タブをクリックします。
- ダイアログの下部でルール条件 (ステートメントの「if」部分)を作成します。各 条件のフォーム属性、演算子、リソースを選択します。 詳しくは、『「ルー ル・ビルダー」ダイアログ』を参照してください。
- 4. 「追加」をクリックして各条件を組み込みます。
- 5. AND 演算子と OR 演算子を使用して、複合条件を作成します。「追加」をクリ ックして各条件を組み込みます。
- 6. 条件が完成したら、「複合条件の保存」をクリックし、それをダイアログの「複 合条件」セクションに移動します。
- 作成したルールを完全な if-then-else ステートメントとして表示してロジックが 正しいことを確認するには、「プレビュー」をクリックします。必要に応じて、 ルールを印刷します。
- 8. 「保存して終了」をクリックして、ルールを適用します。

「ルール・ビルダー」ダイアログ

ルールとは、if-then-else ステートメントのことです。 IBM Marketing Operations で は、ルール・ビルダーを使用して、デフォルトでカスタム・フォームを展開するか または折りたたむ、新しいプロジェクト要求の受信者を割り当てる、予算の明細項 目の承認を要求するなど、さまざまなタイプのルールをテンプレート用に組み立て ます。

以下の表で、「ルール・ビルダー」ダイアログのフィールドについて説明します。

表 21. ルールを作成するための制御

フィールド	説明
複合条件	「ルール・ビルダー」ダイアログの下部にある「IF」セクションと
	「THEN 」セクションで作成される条件をリストします。
	既存の条件を編集するには、「 更新 」をクリックします。

表 21. ルールを作成するための制御 (続き)

フィールド	説明
次の複合条件が TRUE	ルールの「if」部分に各条件をリストします。このフィールドの下
の場合	にあるコントロールを使用して各条件を作成し、追加します。
属性の選択	このルールに使用できるテンプレート内の標準属性とカスタム属性
	をリストします。このリストには、グリッド属性は含まれません。
演算子	属性を選択した後に、演算子を選択します。システムは、属性のデ
	ータ型に応じてこのリストにデータを設定します。
	例えば、「説明」属性を選択したとします。演算子のリストは、次
	から開始、=、含む、および終了してとなります。金額属性の場
	合、演算子は <=、>=、=、>、<、および != となります。
値	属性および演算子を選択した後に、値を指定します。
	「if」ステートメントが完成した場合、「追加」をクリックしてそ
	れを保存します。別の条件を組み込むには、次のフィールドに進ん
	で続行します。
AND/OR	複数の条件を含むルールで、現在の条件と次の条件を接続するため
	に AND または OR を選択します。その後、「追加」をクリック
	してこの条件を保存してから、「新規」をクリックして新しい条件
	を指定します。
THEN	入力した 1 つまたは複数の条件が満たされたときの結果を指定し
	ます ("then")。
	 フォームを表示するか非表示にするかのルールでは、結果は「表示」となります。
	 予算の明細項目の承認を要求するルールでは、承認者を割り当て
	あり。
	• フロシェクト要求の受信者を割り当てるルールでは、ユーリーを 選択します。
	 IF リストに完全な条件が表示され、結果を指定した後に、「複合
	条件の保存」をクリックします。ダイアログの上部の「複合条件」
	セクションに、完全な if-then ステートメントが表示されます。
デフォルト・アクショ	1 つまたは複数の条件が満たされないときの結果を指定します
ン	("else")₀
	 フォームを表示するか非表示にするかのルールでは、デフォル
	ト・アクションは「非表示」です。
	• 予算の明細項目の承認を要求するルールでは、デフォルト・アク
	ションは「承認は必要ありません」です。明細項目は自動的に承 認されます。
	• プロジェクト要求の受信者を割り当てるルールでは、どの条件も
	満たされない場合に割り当てる「 デフォルト・リソース 」を選択 します。

if-then-else ルールの全体を確認または印刷するには、「**プレビュー**」をクリックします。

さまざまなタイプのルールを追加する方法について詳しくは、以下を参照してください。

- 75ページの『フォームの表示と非表示を切り替えるルールの作成』.
- 85ページの『例: テンプレート要求ルールの作成』.
- 80ページの『予算の承認ルールを作成するには』.

フォルダーとファイルを追加するための、テンプレートの「添付ファイル」 タブ

このタブで次の操作を行います。

- ユーザーが添付ファイルを追加したり編成したりできるように、1 つ以上の添付 ファイル・フォルダーを追加します。「フォルダーの追加」をクリックしてくだ さい。
- タブ上でフォルダーの相対位置を変更します。「上へ」および「下へ」をクリックして、添付ファイル・フォルダーを並べ替えます。
- フォルダーを削除します。削除するフォルダーの横の「削除」をクリックしてく ださい。フォルダー内のすべての添付ファイルも削除されます。
- テンプレートからオブジェクトが作成されるたびに特定のイメージと文書がデフォルトで添付されるように、1つ以上のファイルをテンプレートに添付します。
 「添付ファイルの追加」をクリックしてください。
- デフォルトの添付ファイルを削除します。削除するファイルの横の「削除」をクリックしてください。

フォルダーとデフォルトの添付ファイルを追加するには、以下を実行します。

- 1. テンプレートを追加または編集し、その「添付ファイル」タブをクリックしま す。
- 2. 少なくとも 1 つのフォルダーをタブに追加します。「フォルダーの追加」をク リックし、「名前」を指定します。
- 3. 添付ファイルを追加するには、フォルダーの横の「**添付ファイルの追加**」をクリ ックします。 「添付ファイルのアップロード」ダイアログが開きます。
- 4. ファイルのパスと名前を入力するか、または「参照」をクリックして添付ファイ ルを見つけます。
- 5. 「保存」をクリックして、ファイルを添付します。

添付ファイルがフォルダーの下のリストに表示されます。

6. 「添付ファイル」タブで「変更の保存」をクリックして、新規フォルダーとその 添付ファイルを保存します。

上記の手順を繰り返して、必要な数だけフォルダーと添付ファイルを追加しま す。

他の Web サイトにアクセスするための、テンプレートの「カスタム・リン ク」タブ

このタブを使用して、このテンプレートから作成されるオブジェクト・インスタン スの1つ以上のタブに表示されるカスタム・リンクを作成します。例えば、組織で 販促用品やダイレクト・マーケティングのオファーのためのIDコードを生成する ときに使用しているアプリケーションにリンクするようにすることができます。 カスタム・リンクを追加するには、「カスタム・リンクの追加」 をクリックしま す。各リンクには、動的 URL の照会部分などのパラメーターを追加することがで きます。リンクの URL 全体を構成するために、IBM Marketing Operationsでは、指 定した URL の末尾に疑問符 (?) が付加され、そしてパラメーターが追加されま す。パラメーターを含めるには、「パラメーターの追加」をクリックします。パラ メーターのフィールドが追加で表示されます。

このタブには、以下のプロパティーが含まれます。作業が完了したら、「**変更の保** 存」をクリックします。

表 22. カスタム・リンクのプロパティー プロパティー 説明

ブロパティー	説明
表示名	リンクの名前を入力します。この値がリンクの名前になります。
ID	カスタム・リンクの固有の内部 ID を入力します。
説明	リンクの説明テキストを入力します。このテキストは、ユーザーがカー
	ソルをリンク上に移動した際にヒントとして表示されます。
URL	ユーザーがリンクをクリックすると開く Web サイトの完全修飾 URL (http:// を含む) を入力します。新規ブラウザー・ウィンドウに Web サ イトが表示されます。
タブの可視性	ユーザーに対してこのリンクを表示する場所を定義するには、1 つ以上 のタブを選択します。選択したすべてのタブの下部に、リンクが表示さ れます。同じタイプのいずれかのテンプレートに追加済みのカスタム・ タブと、「サマリー」タブを選択することができます。
オプション	プロジェクト・テンプレートの場合、テンプレートから作成されたプロ ジェクトと要求の両方でリンクを表示することも、あるいはプロジェク トのみでリンクを表示することもできます。両方でリンクを表示するに は、「 要求で表示 」を選択します。

カスタム・リンクの URL には、パラメーターを含めることができます。例えば、 リンクから、「開始前」のオブジェクト用に 1 つのページを開き、「進行中」のオ ブジェクト用に別のページを開くことなどができます。

表23. カスタム・リンク・パラメーターのフィールド

プロパティー	說明
名前	パラメーターの名前を入力します。
値	リストから値を選択して、使用するオブジェクト・プロパティーのタイ プを定義します。選択した値によっては、追加の指定内容を収集するた めに別の「値」リストが表示されることがあります。選択した値に応じ て、この後続リストで選択可能なオプションが決まります。
	例えば、「 <オブジェクト・タイプ> のプロパティー 」の値を選択した 場合、オブジェクトの「ターゲット開始日」、「実際の終了日」、「セ キュリティー・ポリシー」、その他の関連プロパティーなどの値がリス トに表示されます。

複数のカスタム・リンクを追加することができます。「**カスタム・リンクの追加**」 をクリックして、一式の新しいプロパティー・フィールドを表示してください。複 数のカスタム・リンクを追加する場合は、それらの相対位置を変更することができ ます。「上へ」と「下へ」をクリックして、それらのリンクを並べ替えてくださ い。

イベントでトリガーされるアラートをセットアップするためのテンプレート の「アラートのカスタマイズ」タブ

このタブを使用して、アラート・メッセージをトリガーするイベントを指定しま す。指定されたイベントが、このテンプレートから作成されたオブジェクト・イン スタンスで発生すると、システムによって自動的に通知が送信されます。指定した 各イベントについて、通知メッセージのロケール、件名、メッセージ・テキスト、 ヘッダー、およびフッターをカスタマイズすることができます。

詳しくは、182ページの『アラート通知メッセージをカスタマイズする方法』を参照してください。

明細項目の承認を自動化するためのテンプレートの「予算の承認ルール」タ ブ

プログラム・テンプレート、プロジェクト・テンプレート、および請求書テンプレ ートの「予算の承認ルール」タブで承認ルールを作成して、承認処理を簡素化する ことができます。ルール・ビルダーを使用して、予算と請求書の明細項目を自動的 に承認するルールを定義できます。明細項目が追加または編集されるたびに、IBM Marketing Operations はそれを、テンプレートに設定されている承認条件に対して検 査します。明細項目が条件を満たしている場合、承認処理が開始されます。明細項 目が条件を満たしていない場合は、自動的に承認されます。

注: ルールを何も作成しない場合、IBM Marketing Operations はどのような承認も必要としません。

各明細項目には、個別の承認が必要です。設定されている条件によっては、1 つの 明細項目で、複数の承認者から複数の並行した承認が発生する場合があります。

ルール条件を作成するために、テンプレート内のどのフォームのどの属性でも使用 できます。プロジェクトおよびプログラムについて、以下の予算属性に基づく条件 を作成することもできます。

- 支払い日付
- ソース・アカウント
- コスト・カテゴリー
- コミット金額
- 予測金額
- ベンダー名

請求書について、以下の明細項目属性に基づく条件を作成することもできます。

- ソース・アカウント
- コスト・カテゴリー
- 単位あたりのコスト

- 数量
- 合計コスト

承認処理について詳しくは、「IBM Marketing Operations ユーザーズ・ガイド」を 参照してください。

Marketing Operations プレースホルダー・ユーザー用のルールを作成することができます。

- プログラム・テンプレート: プログラム所有者およびアカウント所有者
- プロジェクト・テンプレート: プロジェクト所有者およびアカウント所有者
- 請求書テンプレート:請求書所有者およびアカウント所有者

ルールを作成したら、このプレースホルダー・ユーザーを、組織内の実ユーザーに マップすることができます。

予算の承認ルールを作成するには

ルールを作成して、承認者が明細項目の変更をレビューする必要のある状態を特定 します。

- ルールを何も作成しない場合、承認は必要ありません。
- ルールを作成する場合は、指定した条件を満たす明細項目のみ、承認が必要になります。

ルールを定義してそれを満たす項目の承認を求めるには、if-then-else ステートメントを記述します。

- 1. テンプレートを編集してから、その「予算の承認ルール」タブをクリックしま す。
- 2. 「承認ルールの追加」をクリックします。 「ルール・ビルダー」ダイアログが 開きます。 75 ページの『「ルール・ビルダー」ダイアログ』を参照してくだ さい。
- 3. ダイアログの下部でルール条件 (ステートメントの「if」部分) を作成します。 各条件のフォーム属性、演算子、リソースを選択します。
- 4. 「追加」をクリックして条件を組み込みます。
- 5. AND 演算子と OR 演算子を使用して、複合条件を作成します。「追加」をク リックして各条件を組み込みます。
- 6. 「承認者の割り当て」リストから、条件が満たされた場合("then") に要求を受け取る承認者を選択します。 承認をオブジェクト・インスタンスまたはアカウントの所有者に割り当てるには、「オブジェクトの所有者」のいずれかを選択します。これらのオプションのいずれかを選択すると、システムにより、実際の所有者であるユーザーに承認が割り当てられます。
- 7. 条件が完成したら、「複合条件の保存」をクリックし、それをダイアログの 「複合条件」セクションに移動します。 条件が満たされると、承認処理が開始 されます。条件が満たされない場合 ("else") は、承認は必要ありません。
- 8.
- 作成したルールを完全な if-then-else ステートメントとして表示してロジックが 正しいことを確認するには、「プレビュー」をクリックします。必要に応じ て、ルールを印刷します。

- 10. 「保存して終了」をクリックします。 ルール・ビルダーが閉じます。
- 11. ルールの作成が終了したら、「予算の承認ルール」タブの「**変更の保存**」をク リックします。

複数のルールを作成できるため、複数の並行した承認処理が発生する可能性が あります。

条件を満たしている場合、各ルールごとに、割り当てられた承認者に明細項目の承 認要求が送信されます。明細項目がどのルールの条件も満たしていない場合は、自 動的に承認されます。

予算の承認ルールを編集するには

- 1. プログラム、プロジェクト、または請求書テンプレートを追加または編集して から、その「予算の承認ルール」タブをクリックします。
- 2. 変更したいルールの「**ルールの編集**」列で、「**ルールの作成**」(¹⁾) をクリッ クします。「ルール・ビルダー」ダイアログが開きます。 75 ページの『「ル ール・ビルダー」ダイアログ』を参照してください。
- 3. 条件の順序を変更するには、条件のいずれかを選択してから「上へ」または 「下へ」をクリックします。
- 4. 条件を削除するには、条件を選択してから「削除」をクリックします。
- 5. 条件を追加するには、「**複合条件の追加**」をクリックし、80ページの『予算の 承認ルールを作成するには』にある手順を実行します。
- 6. 条件を変更するには、条件を選択してから「更新」をクリックします。 条件が ルール・ビルダーの作業域に表示されます。条件をクリックして、条件の属 性、演算子、または値を編集するか、「承認者の割り当て」リストから他のユ ーザーまたは役割を選択します。
- 7. 条件を追加または変更したら、「複合条件の保存」をクリックします。
- 作成したルールを完全な if-then-else ステートメントとして表示してロジックが 正しいことを確認するには、「プレビュー」をクリックします。必要に応じ て、ルールを印刷します。
- 9. 「保存して終了」をクリックします。
- 10. 「予算の承認ルール」タブで「変更の保存」をクリックします。

予算の承認ルールを削除するには

- プログラム、プロジェクト、または請求書テンプレートを編集してから、その 「予算の承認ルール」タブをクリックします。
- 2. 削除したいルールの横にあるチェック・ボックスを選択します。
- 3. 「選択したルールの削除」をクリックします。
- 4. 「OK」をクリックして、ルールの削除を確定します。
- 5. 「予算の承認ルール」タブで「変更の保存」をクリックします。

参加者を組み込むためのプロジェクト・テンプレートの「プロジェクトの役割」タブ

このテンプレートから作成されたプロジェクトとプロジェクト要求に参加するユーザーのプロジェクトの役割を指定する場合に、このタブを使用します。

「プロジェクトの役割」タブにプロジェクトの役割を追加するには、その前に、そ れがシステムに存在している必要があります。プロジェクトの役割を作成するに は、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「リスト定義」>「役割」を選択し ます。詳しくは、189ページの『第 11 章 リスト・オプションの定義』を参照して ください。

プロジェクトまたは要求の各タブが指定の役割を持つチーム・メンバーだけによっ てアクセスされるように、組織のセキュリティー・ポリシーを構成することができ ます。詳しくは、166ページの『「プロジェクトの役割」について』を参照してく ださい。

セクション	説明
プロジェクト要求の受信者	このテンプレートから作成された要求を受け取るチーム・メン
	バーのプロジェクトの役割。「プロジェクトの役割」タブのこ
	のフィールドで指定する値は、「要求」タブの「 受信者役割 」
	フィールドに表示されます。要求の処理方法を構成する場合
	は、テンプレートの「要求」タブを使用します。
チーム・メンバー	このテンプレートから作成されたプロジェクトに参加するユー
	ザーのプロジェクトの役割。ユーザーは、「ワークフロー」タ
	ブで、これらのプロジェクトの役割をタスクに割り当てます。
レビュー担当者	レビュー担当者として参加するスタッフのプロジェクトの役
	割。ユーザーは、このテンプレートから作成されたプロジェク
	トに、これらの役割をレビュー担当者として割り当てます。

このタブには、以下のセクションがあります。

役割を追加するには、適切なセクションの「**名前**」リストをクリックして、役割を 選択します。リストには、「役割」リストで定義されたすべての役割が示されま す。

ヒント:「ワークフロー」タブでワークフロー・テンプレートをインポートすると き、ワークフロー・テンプレートで定義されたあらゆる役割がこのタブに自動的に 追加されます。

役割を削除するには、その役割の隣の「**削除**」をクリックします。ワークフロー・ タスクで、または「要求」タブで受信者として、オブジェクト・インスタンス内で 現在指定されている役割は削除できません。

要求プロセスを構成するためのプロジェクト・テンプレートの「要求」タブ

このタブは、このテンプレートから作成されたすべての要求に対して以下の項目を セットアップする場合に使用します。

- 要求の受信者、または要求の受信者の指定方法。
- 受信者が要求の通知を受け取る順序と、受信者が要求に応答する順序。
- 受信者が応答する必要がある時間の長さ。
- 再承認の処理方法。

プロジェクト・テンプレートの「要求」タブにあるルール・ビルダーを使用する と、どの受信者がプロジェクト要求を受け取るかを決定する条件 (または一連の条 件)をセットアップすることができます。次のことに注意してください。

- ・ 受信者ルールを持つテンプレートから作成されたプロジェクト要求は、ルール・ビルダーを使用してセットアップされたすべてのルールを使用します。
- テンプレートの受信者ルールを変更すると、テンプレートから作成された既存の すべての要求の動作に影響します。プロジェクト要求テンプレートに対するその 他の変更は、テンプレートから作成された新しい要求でのみ反映され、そのテン プレートから作成された既存の要求には反映されません。

「要求」タブ・フィールド

プロジェクト・テンプレートの「要求」タブにあるフィールドの説明を以下に示します。

「プロジェクト要求のセットアップ」セクション

次の表で、「プロジェクト要求のセットアップ」セクションのフィールドについて 説明します。

表 24. 「プロジェクト要求のセットアップ」セクションのフィールド

フィールド	説明
要求の説明	ユーザーがプロジェクト要求を追加するときに表示される説明。テ ンプレートの用途を簡潔に記述します。最大長は 300 文字です。
要求の再承認ルール	以下のオプションの 1 つを選択して、プロジェクト要求が戻され て再送信されるときにどのように扱われるかを定義します。
	 返されたプロジェクト要求を再送信する場合、すべての受信者が その要求を再度処理する (デフォルト)。
	 返されたプロジェクト要求を再送信する場合、その要求を拒否したユーザーが処理を開始する。
	 返されたプロジェクト要求を再送信する場合、その要求の所有者が、その要求の受信者を選択する。
	この場合、要求を再送信するときに、要求の所有者は、その要求 を受け入れた必須の受信者のみを選択できます。

「受信者のセットアップ」セクション

次の表で、「受信者のセットアップ」セクションのフィールドおよびユーザー・インターフェース・コントロールについて説明します。

表 25. 「受信者のセットアップ」セクションのフィールド

コントロール	説明
要求所有者は、受信者を追加または削除、あ	受信者を追加しない場合は、このチェック・ボックスにチェック・ マークを付けたままにしておく必要があります。チェック・マーク
こと加めたは前家には	を外すと、テンプレートを保存したときにエラー・メッセージが表
できます	云されます。このチェック・ボックスにチェック・マークを付ける
	小にれより。このアエフラーホフラハにアエフラー、 ラビドロる
	ここのテンテレートを使用するテロシェクト安水に、安水石が利
	しいう文化日を割り当てて、 ず削に併成でれた必須ではない 文化日割 り当てた亦再することができます
受信者ステップの追加	クリックすると、このセクションのグリッドに行が追加されます。
	各行には一連のフィールドがあり、それらを構成して要求の受信者
	を追加することができます。
受信者役割	「プロジェクトの役割」タブで構成した受信者役割が含まれている
	ドロップダウン・リスト。
受信者の割り当て	以下のオプションを有効にするドロップダウン・リスト。
	• ユーザー/チーム: このオプションを選択すると、ユーザーのドロ
	ップダウン・リストが使用可能になります。このリストから選択
	して、「 受信者役割」 フィールドで選択した役割にユーザーやチ
	ームを割り当てます。チームを選択した場合、受信者はチーム・
	メンバーまたは (要求をチーム・メンバーに割り当てる) チー
	ム・マネージャーになります。どちらになるかは、チームの「サ
	マリー」タブの「要求順序付けモデル」セクションで選択したオ
	プションによって異なります。
	 割り当てられている要求元・このオプションを選択すると、要求
	おりってうれているダネル このオファロッと という して ダネー
	り当てることができるとうになります。また。他のフィールド
	(「デフォルト期間」 「シーケンス」 「プロジェクトの所有
	(「ノノオル」→同じ、「ノーノンへ」、「ノロシェノ」、の所有 考」かど)を設定すると、これらの値がこの更求の受信者のデフ
	日」なこ)で KKビ y るこ、 これらの 値 べこの 安永の 文 旧石の ノ ノ + ルト 値に た りますが 一 亜
	イルト値になりよりか、安水有なこれらの値を変更りることができます
	• 適用ルール: このオフションを選択すると、「ルール・ヒルタ
	ー」ワインドワを開くときにクリックするアイコンが使用可能に
	なります。このウィンドウでは、「受信者役割」フィールドで選
	択した役割にユーサーを割り当てるためのルールを定義します。
	ルール・ビルダーの説明については、 75 ページの『 ルール・
	ビルダー」ダイアログ』を参照してください。
デフォルト期間	各レビュー・ステップで許可される時間。
	日数のカウント方法は、IBM Marketing Operations をインストール
	して構成したときに numberOfHoursPerDay プロパティーでセット
	アップされます。この設定のオプションの説明については、
	「Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してくださ
	No.
	アフォルト期間として設定されている期間内に受信者が応答しない
	場合、受信者にはアフートが通知されます。受信者がチームの場
	台、アラートはそのチームに対して構成されている「要求順序付け
	モデル」に従って送信されます。

表 25. 「受信者のセットアップ」セクションのフィールド (続き)

コントロール	説明
シーケンス	シーケンス番号を入力するテキスト・フィールド。受信者ごとにシ ーケンス番号を指定し、受信者が要求の通知を受け取って要求を承 認する順序を指定することができます。受信者が他の受信者と並行 して処理を行うか、他の受信者の前または後に処理を行うかを制御 することができます。複数の受信者に同じ番号を割り当てた場合、 これらの受信者が応答する順番になると、受信者全員が通知を受け 取ることになります。 このフィールドには数値を指定する必要があります。最大値は 99 です。デフォルトでは、受信者を追加するたびに、このフィールド の値が増加します。
プロジェクトの所有者	プロジェクトの所有者として指定された受信者は、要求が必須のレ ビュー担当者全員によって受け入れられた場合に、プロジェクトの 所有者になります。プロジェクトの所有者は、常に必須の受信者に なります。
必須	 必須の受信者かどうかを指定するチェック・ボックス。承認を行う 必要がある各受信者の横にあるボックスにチェック・マークを付け ます。このボックスをチェックしない場合、その受信者は必須の受 信者にはなりません。必須の受信者の場合、以下の動作に注意して ください。 必須の受信者の場合、次の順番の受信者は、現在の受信者が応答するまで通知されません(応答もできません)。 必須の受信者が要求を拒否した場合、次の順番の受信者には通知されず、要求が保留状態となり、その要求の所有者に通知されます。 複数の受信者のシーケンス番号が同じで(つまり、複数の受信者が同時に操作できる状態で)、必須の受信者の誰かが要求を拒否した場合、その要求処理は、同時に処理している必須受信者の全員が応答するまで続行されます。そのステップからのすべての応答が完了すると、システムは要求の所有者と、以前にその要求の通知を受け取った受信者に通知を送信します。 1人以上の受信者を「必須」に設定する必要があります。必須の受信者が存在しない要求を開始しようとすると、警告メッセージが表示されます。
指示	プロジェクト要求の「サマリー」タブでこの受信者に示される指示 を追加するためのダイアログが開きます。最大長は 1024 文字で す。
選択した受信者ステッ プの削除	受信者ステップを削除するには、グリッド内の行に対するチェック・ボックスを選択してから、このリンクをクリックします。

例: テンプレート要求ルールの作成

この例では、プロジェクト要求にレビュー担当者を割り当てるルールの作成方法に ついて説明します。以下のシナリオを想定します。

あなたは、印刷物によるキャンペーン広告を組織で作成する際に使用するプロジェクトのテンプレートを設定しています。

- プロジェクトには、プロジェクトの地域を指定する「地域」という名前のカスタム属性が含まれます。各地域には、NA(北アメリカ)、APAC(アジア太平洋)、 EURO(ヨーロッパ)という名前が付いています。
- プロジェクトが存在する地域に基づいてプロジェクト要求を検討するために、いくつかの製作チームが必要です。
- プロジェクト・テンプレートの「プロジェクトの役割」タブには、「プロジェクト要求の受信者」役割の1つとして「プロジェクト・マネージャー」が含まれます。

プロジェクト要求を(地域に基づいて)レビューする担当者をルールによって制御 し、要求者が他のレビュー担当者を追加できないようにすることにします。

- 1. プロジェクト・テンプレートを編集して、その「要求」タブをクリックしま す。
- 2. 「受信者のセットアップ」セクションで、「要求所有者は、受信者を追加また は削除、あるいはその両方を実行できます」ボックスをクリアします。
- 3. 「受信者ステップの追加」をクリックします。「受信者のセットアップ」セクションに新しい行が追加されます。
- 4. 「受信者役割」リストから、「プロジェクト・マネージャー」を選択します。
- 5. 「受信者の割り当て」リストから、「適用ルール」を選択します。
- 「ルールの作成」(¹⁾) をクリックします。「ルール・ビルダー」ダイアロ グが開きます。 75 ページの『「ルール・ビルダー」ダイアログ』を参照して ください。
- 7. 「ルール・ビルダー」ダイアログで、3 つの地域についてそれぞれ以下の手順 を実行します。
 - a. 「属性の選択」リストで、「地域」を選択します。
 - b. 演算子リストで、= を選択します。
 - c. 値フィールドに地域名 (NA、APAC、または EURO) を入力します。
 - d. 「追加」をクリックします。
 - e. 「THEN 次のリソースを割り当てる (THEN assign the following resource)」リストで、地域に適したチームを選択します。
 - f. 「複合条件の保存」をクリックします。

「複合条件」ボックスに if-then ステートメントが表示されます。

- 8. 地域のそれぞれに対して条件を作成した後、どの条件も満たされなかった場合 に要求を受け取るための「デフォルト・リソース」を選択します。
- 9. ルールを完全な if-then-else ステートメントとして表示し、ロジックが正しいこ とを確認するには、「プレビュー」をクリックします。必要に応じて、ルール を印刷します。
- 10. 「保存して終了」をクリックします。

「ルール・ビルダー」ダイアログが終了して「要求」タブに戻ります。

11. 受信者役割のために他のフィールドを完成させます。 83 ページの『「要求」 タブ・フィールド』を参照してください。

プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブ

「ワークフロー」タブでは、プロジェクトのタスクを特定および編成します。ワー クフローを確認して定義するには、スプレッドシート・スタイルのインターフェー スを使用します。最初は、「ワークフロー」タブは表示モードで表示されます。ワ ークフローを構成するステージ、タスク、マイルストーン、依存関係などのデータ をセットアップするには、編集モードに切り替えます。

テンプレートを作成する場合、ユーザーが作成する個々のプロジェクトのインスタ ンスの初期のワークフロー構造を指定するデータを「ワークフロー」タブに含める ことができます。ユーザーは類似するスプレッドシート・インターフェースにアク セスし、指定されたワークフローを個々のインスタンスの必要に応じて更新しま す。

柔軟性をさらに向上させるため、テンプレートまたは個々のインスタンスの「ワー クフロー」タブのデータを、別個のワークフロー・テンプレート・コンポーネント として保存できます。テンプレート・コンポーネントには、ワークフロー以外にも メトリックおよびフォームを組み込むことができ、それによって、さまざまなニー ズを満たすためのテンプレート設計を、よりモジュール式で効率的にすることがで きます。ワークフロー・テンプレート・コンポーネントは、プロジェクトのテンプ レート、またはプロジェクトのインスタンスにインポートできます。

注: テンプレートのワークフローを設計するときに、各タスクに関連付けるチーム・メンバー役割を指定できます。そうするためには、まず「プロジェクトの役割」タブ上で値を定義する必要があります。詳しくは、82ページの『参加者を組み込むためのプロジェクト・テンプレートの「プロジェクトの役割」タブ』を参照してください。

スケジューリング、日付の計算、タスクの更新のオプションなど、ワークフローの 構成について詳しくは、「*Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してくだ さい。

テンプレートのワークフローを構成するには

ワークフロー・データを組み込むプロジェクトのテンプレートをセットアップする には、テンプレートを作成し、チーム・メンバーの役割を指定してから、「ワーク フロー」タブを編集します。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「**テンプレート**」をクリックします。
- 「プロジェクト・テンプレート」セクションを見つけて、「テンプレートの追加」をクリックします。
- 4. 「**テンプレート・プロパティー**」フォームのフィールドに情報を入力して「**変 更の保存**」をクリックします。
- 5. 「プロジェクトの役割」タブで、参加者役割を指定してから「変更の保存」を クリックします。
- 「ワークフロー」タブを選択し、「編集」 をクリックします。 詳しくは、90 ページの『ワークフロー・スプレッドシートで編集モードを使用するには』を 参照してください。

ワークフローおよび承認タスクを追加し、それらをステージに編成します。 詳しくは、91ページの『ワークフロー・スプレッドシートにデータを入力するには』を参照してください。

作業中は頻繁に保存してください。

 タスクの依存関係を編集し、タスク・スケジューリングと期間を定義し、ユー ザーがこのテンプレートからインスタンスを作成するときに提供するその他の 値を入力します。 詳しくは、「Marketing Operations ユーザーズ・ガイド」を 参照してください。

作業中は頻繁に保存してください。

- 9. ワークフローが完成したら、「**保存して終了**」をクリックします。タブが表示 モードに戻ります。 詳しくは、『ワークフロー・スプレッドシートで表示モー ドを使用するには』を参照してください。
- 10. 組織が承認を拒否する理由の定義済みリストを維持する場合は、このテンプレートに適用される理由を指定します。 詳しくは、189ページの『第 11 章 リスト・オプションの定義』を参照してください。
- 各タスクの追加情報を構成するには、「ワークフロー」タブが表示モードのと きにタスク名をクリックします。 承認タスクに関しては、承認者を構成できま す。ワークフロー・タスクでは、添付ファイルを許可するかどうかを構成でき ます。
- 12. オプションで、「プロセス・フローチャートとして表示」アイコンをクリック して、ワークフローをプロセス・フローチャートとして表示します。

ワークフロー・スプレッドシートで表示モードを使用するには

プロジェクト・テンプレートで最初に「ワークフロー」タブをクリックすると、表 示モードで表示され、次のユーザー・インターフェース・コントロールが提供され ます。

コントロール	説明
「編集」リンク	編集モードに変更され、このプロジェクト・テンプレートのワーク
	フローを構成できます。
「テンプレートとして	このプロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブのデータ
保存」リンク	を別個のワークフロー・テンプレート・コンポーネントとして保存
	します。
「テンプレートのイン	プロジェクトの「ワークフロー」タブに、タスク、承認、マイルス
ポート」リンク	トーン、依存関係など、ワークフロー・テンプレートで定義されて
	いる値を設定します。このアクションは、このプロジェクトに対し
	て以前定義されたすべてのワークフローの値を置き換えます。
「承認オプション」リ	このテンプレートから生成された承認に関連する「承認拒否理由」
ンク	リストのオプションを特定するダイアログが開きます。
	注:承認が否定されたときに、レビュー担当者に理由の指定を求め
	るインストール済み環境でのみ利用できます。

表 26. プロジェクトの「ワークフロー」タブに表示される制御

表 26. プロジェクトの「ワークフロー」タブに表示される制御 (続き)

コントロール	説明
	「スプレッドシートとして表示」。スプレッドシート形式でワーク フローを表します。スプレッドシート・ビューでは、テーブル形式 の、各コンポーネントに関する詳細情報にアクセスできます。
	ワークフローをスプレッドシートで表示すると、各タスク名がリン クになります。
	 承認タスクをクリックすると、「承認の設定 (Setup Approval)」 ダイアログが開くので、承認者を選択して、マークアップを使用 するかどうかを指定します。
	 ワークフロー・タスクをクリックすると、「タスクの設定 (Setup Task)」ダイアログが開くので、添付ファイルをタスクに追加でき るかどうか、および説明を追加するかどうかを指定します。
	スブレッドシート・ビューはデフォルトのビューです。
0-0-0 0	「プロセス・フローチャートとして表示」。 ワークフローをプロ セス・フローチャートとして表現します。これは、ワークフローの 各ステージを、相互接続された一連のプロセス・ボックスとして示 します。

テンプレートの承認オプションを選択するには

承認を拒否したユーザーに対し、定義済みの理由を 1 つ指定するよう組織が求める 場合は、各タイプのプロジェクトに適用される理由のセットをテンプレートに指定 します。詳しくは、24ページの『承認プロセスの構成』を参照してください。

- プロジェクト・テンプレートを更新するには、「ワークフロー」タブにナビゲートします。
- 2. 「承認オプション」をクリックします。「承認拒否理由とテンプレートとの関連 付け」ダイアログが開きます。「承認拒否理由」リストのために定義されたす べてのオプションが左側に表示されます。
- 3. テンプレートの承認オプションを選択するには、利用可能な理由をクリックして、「>>」をクリックします。複数の理由を選択するには、Ctrl または Shift を 押しながらクリックします。
- 4. 「変更の保存」をクリックします。

ユーザーが承認を拒否する場合、「拒否理由」を選択する必要があります。

プロセス・フローチャート・ビューについて

プロセス・フローチャート・ビューは、タスクを次のようなネットワーク図のスタ イルで表示します。

- 各タスクは、タスク番号と ID を持つボックスとして表示されます。
- 依存関係を持つタスクは、依存するタスクに接続します。
- 順次タスクは、同じ線上に表示されます。
- 並行タスクは、別の線上に表示されます。
- ・ 独立/孤立したタスクは、接続がない独自の線上に表示されます。

ワークフロー・スプレッドシートで編集モードを使用するには

表示モードから編集モードに切り替えると、ワークフロー・スプレッドシートに変 更を加えることができます。ツールバーのアイコンをクリックして、ステージやタ スクの追加と削除を行い、その他のオプションにアクセスします。以下の表で、ツ ールバーを説明します。

表 27. 「ワークフロー」タブの編集ツールバーの使用

アイコン	説明
	「タスク行の追加」。ワークフローまたはスタッフのタスクの行をスプレッドシートに追加します。既存の行の後に新しい行を追加するには、 その行を選択してからこのアイコンをクリックします。Marketing Operations によって、それ以降のタスクが再番号付けされます。 注: 添付ファイルを許可するかどうかなど、タスクを構成するには、表
	ホモードに戻ってダスクの名前をクリックする必要があります。
<u>_</u>	「承認行の追加」。承認タスクの行をスプレッドシートに追加します。 既存の行の後に新しい行を追加するには、その行を選択してからこのア イコンをクリックします。Marketing Operations によって、それ以降の タスクが再番号付けされます。
	注:承認タスクのレビュー担当者を構成するには、表示モードに戻って タスクの名前をクリックする必要があります。
4	「順次」。デフォルトで、タスクは連続して追加されます。各タスク は、先行するタスクに依存します。別の依存オプションを使用するに は、このアイコンをクリックして選択を行ってから、その次のタスクを ワークフローに追加します。
	 依存なし
	• 連続
	 並行
	追加するタスクはそれぞれ、選択内容を変更するまで同じ依存関係のオ プションを使用します。
	タスクの依存関係を手動で変更することもできます。タスク名をクリッ クして、タスク番号を括弧で囲み、コンマで区切ったリストを入力しま す。詳細は、「IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド」の『タス クの依存関係の管理』を参照してください。
	「ステージ行の追加」。ステージをスプレッドシートに追加します。ス テージを使用してタスクをグループ化します。既存の行の後に新しいス テージを追加するには、その行を選択してからこのアイコンをクリック します。Marketing Operations によって、それ以降のタスクとステージ が再番号付けされます。
₩	選択した行を上に移動。タスクまたはステージの名前をクリックして選択してから、このアイコンをクリックして選択したコンポーネントを上に移動します。ステージを移動した場合、そのステージに関連するタスクもすべて移動されます。
	注: 行を移動した場合、Marketing Operations によってタスクの依存関係 が変更されることはありません。

表 27. 「ワークフロー」タブの編集ツールバーの使用 (続き)

アイコン	説明
	選択した行を下に移動。タスクまたはステージの名前をクリックして選択してから、このアイコンをクリックして選択したコンポーネントを下に移動します。ステージを移動した場合、そのステージに関連するタスクもすべて移動されます。 注:行を移動した場合、Marketing Operations によってタスクの依存関係が変更されることはありません。
X	 選択した行を削除。タスクまたはステージの名前をクリックして選択してから、このアイコンをクリックしてコンポーネントを削除します。 アークフロー・スプレッドシート内の最初のステージは削除できません。 ステージを削除するとき、Marketing Operations は関連するタスクを前のステージに追加します。それらのタスクは削除されません。
<u> </u>	 「ツール」。Shift キーを押しながらクリックして、スプレッドシートの1つ以上のセルを選択し、このアイコンをクリックして、次のオプションのいずれかを適用します。 コピー:選択されたセルの内容をクリップボードにコピーします。 貼り付け:選択されたセルから開始して、クリップボードの内容を貼り付けます。 後に行を貼り付け:選択されたセルの後ろに、クリップボードの内容を貼り付けます。 下方向へコピー/上方向へコピー:選択されたセルの値をその下またはその上のセルにコピーします。 消去:選択されたセルまたはセル・グループ内のすべての項目を消去します。 列の消去:選択された列内のすべての項目を消去します。 すべて消去:すべてのスプレッドシート・コンポーネントを消去します。
	「 直前の変更を元に戻す 」。ワークフローを直前の変更の前の状態に戻 します。
~	「 直前の変更をやり直す 」。「元に戻す」操作で元に戻した変更内容を 再適用します。

ワークフロー・スプレッドシートにデータを入力するには

プロジェクト・テンプレートの「ワークフロー」タブで編集モードで作業している 場合、ワークフローはスプレッドシート形式で表示されます。各タスクを表すに は、行をスプレッドシートに追加して、そのタスクの情報を取得するその行のセル を編集します。次の表で、スプレッドシートへのデータの入力に使用する各フィー ルドとセルについて説明します。

表28. 「ワークフロー」タブのフィールドとセル

フィールド	説明
タスク・コード・	ユーザーがこのテンプレートからプロジェクトを作成する場合、この
プレフィックス	ID がワークフローの各タスク ID のプレフィックスとして追加されま
	J.
ステージとタスク	最初の列のセルには、ワークフローのステージとタスクの名前が表示されます。依存先のタスク番号が、括弧に囲まれて各タスクの名前の後に表示されます。例えば、「コストの見積もり(2.3)」というラベルが付いたタスクは、タスク番号 2.3 に依存しています。追加の前提条件のタスクを示すには、タスク番号をコンマで区切って入力します。
	編集モードの場合は、ステージまたはタスクの名前をクリックして、名 前と依存関係を変更できます。
	変更を保存して表示モードに戻るときに、次のようにします。
	 承認タスクの名前をクリックすると、「承認の設定 (Setup Approval)」ダイアログが開くので、承認者を選択します。
	 ワークフロー (またはスタッフ)のタスクの名前をクリックすると、 「タスクの設定 (Setup Task)」ダイアログが開くので、添付ファイル をタスクに追加できるかどうかを指定します。
必須	必須タスクを示します。このテンプレートから作成したプロジェクト で、必須タスクはスキップすることも削除することもできず、名前を変 更することもできません。
依存関係の適用	このタスクが他のタスクに依存している場合に、システムが依存関係を どれくらい厳密に解釈するか決定します。このオプションが選択されて いる場合、依存しているタスクが完了するまで、システムによってプロ ジェクト・メンバーによるこのタスクの更新が制限されます。
メンバーの役割	デフォルトで、1 つ以上の役割をワークフロー・タスクに関連付けるこ とができます。役割を選択するには、フィールド内をクリックします。 このプロジェクト・テンプレートの「プロジェクトの役割」タブでチー ム・メンバーとして以前定義されたプロジェクトの役割のリストが表示 されます。複数の役割を定義するには、各役割の名前をクリックしま す。
	注:承認タスクの承認者を指定するには、表示モードに戻り、承認タス クの名前をクリックすると、「承認の設定 (Setup Approval)」ダイアロ グが開きます。
マイルストーン・ タイプ	タスクに対して、オプションのマイルストーン・タイプを指定できま す。タスクがプロジェクトにとってマイルストーンのタイプの1つで あることを示す際に選択可能なオプションは、システム管理者が構成し ます。マイルストーンの例として、「ジョブ開始」、「会議」、および 「イベント」があります。
	マイルストーンのタイプのセットアップについて詳しくは、 93 ページ の『マイルストーン・タイプのカスタマイズ』を参照してください。
固定日	タスクが自動日付再計算の影響を受けるかどうかを示します。他のタス クで行われた日付変更の影響を受けない、固定日付のタスクに対して、 このオプションを選択します。

表 28. 「ワークフロー」タブのフィールドとセル (続き)

フィールド	説明
デフォルト期間	このテンプレートからプロジェクトを作成するときに、このタスクに対 してデフォルトとして指定されるカレンダーの期間。期間を入力するに は、セル内をクリックして、時計のアイコンをクリックします。日、時 間、および分のフィールドが表示されます。
目標の取り組み	このテンプレートを使用してプロジェクトを作成するときに、このタス クに対してデフォルトで指定される、目標となる取り組み。取り組みを 入力するには、セル内をクリックして、時計のアイコンをクリックしま す。日、時間、および分のフィールドが表示されます。
スケジュール終了 日	 タスクのスケジュールが設定されている場合の時間の計算方法を示します。オプションは次のとおりです ・営業日:営業日のみで、休業日と週末を除外します。 ・週末:週末と営業日で、休業日を除外します。 ・休日:休業日と営業日で、週末を除外します。 ・すべて:すべての暦日が含まれます。

マイルストーン・タイプのカスタマイズ

IBM Marketing Operations は、プロジェクト・ワークフローで使用するデフォルト のマイルストーン・タイプのセットを提供します。ユーザーは、ワークフロー・ス プレッドシートが編集モードの場合に、マイルストーン・タイプのリストからオプ ションを選択できます。

マイルストーン・タイプとして使用可能なオプションは次のとおりです。

- チェックポイント
- 会議
- イベント
- 削除日
- ジョブの完了
- ジョブの開始

Marketing Operations のインストール済み環境に合わせて、マイルストーン・タイプ のリストをカスタマイズすることができます。マイルストーン・タイプのリストを 変更すると、システム上のすべてのワークフローに影響します。

表示されるオプションをカスタマイズするには、「設定」>「リスト定義」を選択して、「ワークフロー・マイルストーン・タイプ」リストを編集します。詳しくは、 189ページの『第 11 章 リスト・オプションの定義』を参照してください。

Campaign と通信するためのプロジェクト・テンプレートの「キャンペー ン」タブ

統合が有効になっている場合に、このタブを使用して IBM Marketing Operations から IBM Campaign への通信を構成します。

注: ユーザーがテンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、非キャンペーン・テンプレートをキャンペーン・テンプレートに変更することも、その逆に変更することもできなくなります。このタブの「キャンペーン・プロジェクト・テンプレート」オプションは使用不可になります。

キャンペーン・テンプレートを使用してプロジェクトを作成した後に、このタブに ある変更可能なオプションは「**メトリック・データ・マッピング**」設定だけとなり ます。その他のオプションのいずれかを変更するには、まずこのテンプレートを使 用して作成されたすべてのプロジェクトを削除する必要があります。

「キャンペーン」タブには、以下の設定があります。

表 29. プロジェクト・テンプレート用の「キャンペーン」タブのフィールド

フィールド	説明
キャンペーン・プ ロジェクト・テン プレート	このテンプレートをキャンペーン・プロジェクト・テンプレートとし、 その他の「キャンペーンの統合」フィールドを表示する場合に、このチ ェック・ボックスを選択します。
TCS フォーム	このテンプレートから作成されたプロジェクトに使用するターゲット・ セル・スプレッドシートが含まれるフォームを選択します。ドロップダ ウン・リストには、TCS が含まれるすべての公開済みフォームが含まれ ています。
メトリック・デー タ・マッピング	IBM Campaign キャンペーンから IBM Marketing Operations プロジェクトにレポート作成の目的でメトリックを送信するためのデータ・マップを含んだ XML ファイル。
TCS フォームの 表示名	「TCS」タブ上の選択したフォームの表示名。
パーティション ID	このテンプレートを使用して作成されるキャンペーン・プロジェクトに 対応するキャンペーンを、IBM Campaign インスタンスのどのパーティ ションで作成するかを識別します。
	デフォルト値は partition1 です。Campaign が単一のパーティションに インストールされている場合は、この値を使用します。 Campaign が複 数のパーティションにインストールされている場合、キャンペーンの作 成に使用するパーティションを指定することができます。
	IBM Marketing Operations を使用して、パーティションを指定できま す。指定するパーティションに対してアクセス権限があることと、統合 が有効になっていることを確認してください。
	Campaign パーティションのセットアップについて詳しくは、「 <i>IBM</i> <i>Campaign インストール・ガイド</i> 」を参照してください。
要求に TCS タブ を表示 (Show TCS tab in request)	プロジェクトを要求するためにテンプレートが使用された場合に TCS を表示するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェッ ク・ボックスがクリアされている場合、TCS はキャンペーン・プロジェ クトにのみ表示され、要求には表示されません。

表 29. プロジェクト・テンプレート用の「キャンペーン」タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
承認が必要	テンプレートで作成されたすべてのターゲット・セルに承認が必要な場合、このチェック・ボックスを選択します。選択されていない場合、 TCS グリッドには「承認」列も「すべて承認」や「すべて拒否」も表示 されません。
	注: バージョン 8.2 へのアップグレードの一環として、すべてのアップ グレード済みキャンペーン・テンプレートで「 承認が必要」 がクリアさ れます。 詳しくは、『TCS の承認について』を参照してください。

TCS の承認について

「承認が必要」チェック・ボックスがオンになっているテンプレートを使用してプロジェクトが作成されている場合、TCS (ターゲット・セル・スプレッドシート)内の行からリンクされているフローチャートを Campaign で実動モードで実行するためには、その前に、フローチャートにリンクしているすべての行を承認しておく必要があります。フローチャートを実動モードで実行する場合、このフローチャートに関連付けられている TCS の 1 つ以上の行が承認されていないと、Campaign はエラーを生成します。

必要に応じて、TCS 上の各行を個別に承認することができます。行は、入力済みで 内容が正しければ、TCS の他の行がまだ承認する準備が整っていない場合であって もすぐに承認できます。

「承認が必要」チェック・ボックスがオフになっているテンプレートを使用してプロジェクトが作成されている場合、TCSのトップダウン・セルについては、承認は必要ありません。この場合、TCSグリッドには、「承認」列も、「すべて承認」および「すべて拒否」も表示されません。「承認が必要」チェック・ボックスをクリアすると、キャンペーンにTCS承認が必要ない場合に時間を節約できます。

注: デフォルトでは、「承認が必要」はクリアされています。ただし、Marketing Operations 8.5 にアップグレードすると、すべてのアップグレードされたキャンペー ンのテンプレートでは「承認が必要」がオンになります。

インポートおよびエクスポート

「承認が必要」が選択されている場合、プロジェクトをエクスポートすると「承認 済みかどうか」列が一緒にエクスポートされます。

「承認が必要」がクリアされている場合は、「承認済みかどうか」 列はエクスポートされず、一致する CSV ファイルだけがインポートされます。

テンプレート・コンポーネントの作業

テンプレート・コンポーネントを確認および管理するには、「テンプレート構成」 ページを使用します。このページを表示するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」を選択します。このページの「テンプレ ート・コンポーネント」セクションには、さまざまなタイプのテンプレート・コン ポーネントへのリンクが含まれます。

表 30. 「テンプレート・コンポーネント」セクションのリンク

リンク	説明
フォーム	「フォームの定義」ページを開きます。このページには、インスト ール環境用のすべてのカスタム・フォームがリストされていて、フ ォームを作成および処理するためのオプションが提供されていま す。詳しくは、105ページの『第6章フォームの作成および管 理』を参照してください。
メトリック	「メトリック・テンプレート」、「メトリック」、および「メトリ ック・ディメンション」をリストするセクションを含み、それらを 作成および処理するためのオプションが提供されるページが開きま す。詳しくは、155ページの『第8章 メトリックの操作』を参照 してください。
ワークフロー	個別に作成して保存されたワークフロー・テンプレートのリストが 開きます。ワークフロー・テンプレートの作成は、プロジェクトの テンプレートまたはインスタンスの「ワークフロー」タブで行った 作業を保存することにより行います。このページは、ワークフロ ー・テンプレートの削除、有効化/無効化、インポート、およびエク スポートのオプションを提供します。詳しくは、97 ページの 『「ワークフロー・テンプレート」ページ』を参照してください。
データ・マッピング	IBM Marketing Operations-Campaign 統合が有効なインストール済み 環境では、2 つのシステム間のデータをマップする XML ファイル をリストします。このページのリンクを使用して、データ・マッピ ング・ファイルを追加および削除することができます。詳しくは、 99 ページの『「データ・マッピングの定義」ページ』を参照してく ださい。
アイコン	Marketing Operations のマーケティング・オブジェクトを表すのに 使用されるアイコンを示すページが開きます。このページのリンク を使用して、イメージ・ファイルを追加および削除することができ ます。詳しくは、102ページの『「アイコン」ページ』を参照して ください。
ルール	グリッドに入力されたデータを検証する XML ファイルをリストする「ルール定義」ページが開きます。このページのリンクを使用して、データ検証ルール・ファイルを追加および削除することができます。詳しくは、228ページの『データ検証ルールについて』を参照してください。
共有属性	システムの共有属性のリストが属性カテゴリー別に表示されます。 詳しくは、131ページの『第7章フォームでの属性の使用』を参 照してください。

「ワークフロー・テンプレート」ページ

「ワークフロー・テンプレート」ページのオプションを使用して、前に作成されて 保存されたワークフロー・テンプレートをインポート、エクスポート、削除、有効 化、または無効化できます。

「ワークフロー・テンプレート」ページでは、すべてのワークフロー・テンプレー トがリストされ、以下の情報および機能が提供されます。

表 31. 「ワークフロー・テンプレート」ページのオプション

コントロール	説明
名前	ワークフロー・テンプレートの名前。
ステージ / タスク	ワークフロー内のステージの数とタスクの数であり、文字「/」で区切
	って表示されます。例えば、5 つのステージと 30 個のタスクを持つ
	ワークフローに関するこの列の値は、5/30になります。
作成日	テンプレートが作成された日付。
最終修正日	テンプレートの最新の変更の日付。
Status	テンプレートが有効になっているか無効になっているか。ワークフロ
	ー・テンプレートが作成されると、そのステータスはデフォルトで
	「有効化」に設定されます。
「エクスポート」リ	ワークフロー・テンプレートを XML ファイルにエクスポートしま
ンク	す。それから、それを他の IBM Marketing Operations システムにイン
	ポートできます。
「ワークフロー・テ	ワークフロー・テンプレートのデータを持つ XML ファイルをインポ
ンプレートのインポ	ートします。通常、これらのファイルは他の IBM Marketing
ート」リンク	Operations システムからエクスポートして作成します。
「ワークフロー・テ	選択したテンプレートに有効または無効のマークを付けます。無効に
ンプレートの有効	されたワークフロー・テンプレートは、プロジェクトのテンプレート
化/無効化」リンク	にインポートできません。
選択したワークフロ	選択されたワークフロー・テンプレートを削除します。
ー・テンプレート・	
リンクの削除	

ワークフロー・テンプレートを作成および編集するには

プロジェクトのテンプレートまたはインスタンスの「ワークフロー」タブで作成したワークフローを、ワークフロー・テンプレートとして保存できます。

- プロジェクトのテンプレートまたはインスタンスで、「ワークフロー」タブを選択します。新しいテンプレートやインスタンスから開始することも、定義済みのワークフローを既に持っているテンプレートやインスタンスを選択することもできます。
- 新しいテンプレートまたはインスタンスの場合は、編集モードに変更します。新 しいプロジェクトの開始点としてテンプレートで提供するタスク、依存関係、お よび値をセットアップします。既存のテンプレートまたはインスタンスの場合 は、ワークフローをレビューします。
- 3. 表示モードの「ワークフロー」タブで、設定のレビューまたは定義を行うタスク 名をクリックします。

注: ワークフロー・テンプレートには、すべてのステージおよびタスクの定義と メンバー役割設定が保持されています。ただし、承認タスク用に構成された承認 者は保持されていません。ワークフロー・テンプレートをインポートした後で、 各プロジェクト・テンプレートでデフォルトの承認者を個別に構成する必要があ ります。

- 4. 「テンプレートとして保存」 をクリックします。
- 5. テンプレートの記述名を入力し、「続行」をクリックします。
- 「保存」をクリックします。ワークフロー・テンプレートは「ワークフロー・テンプレート」ページに表示され、任意のテンプレートまたはインスタンスにインポートできます。

ワークフロー・テンプレートを編集するには、プロジェクトのテンプレートを開き、編集するワークフロー・テンプレートを「ワークフロー」タブにインポートします。(ワークフロー・テンプレートのインポートは、以前定義した値を上書きするため、通常この目的のためには新しいテンプレートをセットアップします。)必要に応じてワークフローを編集して、ワークフローを同じ名前または別の名前のテンプレートとして保存し直すことができます。

ワークフロー・テンプレートを使用するには

- プロジェクトのテンプレートを作成します。使用する予定のワークフロー・テンプレートにプロジェクトの役割が含まれている場合、それらを定義する必要はありません。プロジェクトの役割は、ワークフロー・テンプレートとともにインポートされます。
- 2. 「**ワークフロー**」タブを選択します。
- 3. 表示モードの「ワークフロー」タブで、「**テンプレートのインポート**」をクリックします。

システムにより、インポートによって既存のワークフローが上書きされることを 示す警告が表示されます。

4. 「**OK**」をクリックします。

ワークフロー・テンプレートのリストが開きます。

5. リストからテンプレートを選択し、「**インポート**」をクリックします。

「ワークフロー」タブに、ワークフロー・テンプレートからのワークフロー・タ スクとステージが表示されます。タスク行が参照する役割も「プロジェクトの役 割」タブに表示されます。

- 6. 表示モードの「ワークフロー」タブで、承認者の構成を行う承認タスクをクリックします。
- 7. ステージやタスクを変更または追加するには、「編集」をクリックします。

それからプロジェクト・テンプレートに必要なカスタマイズをワークフローに加 えます。変更を保存するのを忘れないようにしてください。

8. ワークフローが完成したら、「**保存して終了**」をクリックして表示モードに戻り ます。

ワークフロー・テンプレートをエクスポートするには

個々のワークフロー・テンプレートをエクスポートすることができます。エクスポ ートされた XML ファイルを編集してから、ワークフロー・テンプレートを IBM Marketing Operations に再インポートして戻すこともできます。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「**テンプレート構成**」をクリックします。
- 3. 「**ワークフロー**」をクリックします。
- 4. エクスポートするワークフローの「**エクスポート**」リンクをクリックします。
- 5. XML ファイルの保存場所を選択し、保存します。
- 6. ファイルをテキスト・エディターまたは XML エディターで開き、変更を加え てから保存します。
- テンプレート・ライブラリーに戻ります(「設定」>「Marketing Operations 設定」)。
- 8. 「**ワークフロー・テンプレートのインポート**」をクリックし、編集した XML ファイルの場所を指定します。
- 前のバージョンと区別できるようにファイルに名前を付けます。 例えば、 Marketing Collateral をエクスポートした場合、編集したファイルに Marketing Collateral 2 というように名前を付けます (ファイルの名前は後で 変更できます)。
- テンプレートを作成し、新しいワークフローを使用します。または、既存のテンプレートを開き、古いワークフロー・テンプレートを新しいものに置き換えます。

「データ・マッピングの定義」ページ

「データ・マッピングの定義」ページでは、Marketing Operations のキャンペーン・ プロジェクトと Campaign のキャンペーンの間でデータをマップします。「テンプ レート構成」ページで「データ・マッピング」リンクを使用して、このページを開 き、データ・マッピングを構成します。

列	説明
名前	データ・マッピング・ファイルの名前。
タイプ	「キャンペーン・メトリックのインポート (Campaign Metrics Import)」: Marketing Operations のプロジェクト・メトリックを Campaign のコンタクト数およびレスポンス数にマップします。
	「「のハーションのマック・ファイルがめる場合は、「タイフ」列にこれ ら以外の値が表示されることがあります。
使用者	このデータ・マップを使用するテンプレートのリスト。

「データ・マッピングの定義」ページには次の列があります。

注: Marketing Operations 内でマップ・ファイルを作成することはできません。テキ スト・エディターまたは XML エディターを使用して、必要なマップ・ファイルを 作成および編集します。

IBM Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする

ユーザーがコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations にインポート できるようにするには、コンタクト数とレスポンス・タイプを Marketing Operations メトリックにマップする必要があります。

注: Campaign は、1 つのオーディエンス・レベル

(UA_ContactHistory、UA_ResponseHistory、および UA_DtlContactHist システム・テ ーブルにマップされるオーディエンス・レベル) についてのみ、データを Marketing Operations に渡します。このオーディエンス・レベルは、任意のデータ型または名 前の、任意のオーディエンス・キー・フィールドを持つ、任意のオーディエンス・ レベルにすることができます。オーディエンス・レベルについて詳しくは、 Campaign の資料を参照してください。

レスポンス・タイプは、Campaign データベース内の UA_UsrResponseType システ ム・テーブルに保管されます。メトリックをレスポンス・タイプにマップするに は、レスポンス・タイプの名前を知っておかなければなりません。

マッピングは、XML ファイルに保管されます。

IBM Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップするには

- Campaign で、トラッキングするレスポンス・タイプを含めるように、 UA_UsrResponseType テーブルのレスポンス・タイプのリストを必要に応じて変 更します。
- コンタクト数およびレスポンス・タイプに対応するメトリックを含めるように、 システムで使用する Marketing Operations メトリック・ファイルを編集します。
- 3. Marketing Operations メトリックをコンタクト数およびレスポンス・タイプと関 連付けるマップ・ファイルを作成します。
- 4. 作成したマップ・ファイルを Marketing Operations に追加します。
- 5. キャンペーン・テンプレートを作成し、「メトリック・データ・マッピング」ド ロップダウン・リストからマップ・ファイルを選択します。

コンタクトおよびレスポンスのデータが、そのテンプレートを使用して作成された すべてのプロジェクトのメトリックにマップされます。

メトリック・データ・マッピング・ファイルについて

メトリック・データ・マッピング・ファイルは、コンテナー要素 <metric-data-mapping> および </metric-data-mapping> を使用する必要があります。

マッピング・ファイル内の次の行は、以下のようになります。

```
<datasource type="webservice">
    <service-url>CampaignServices</service-url>
</datasource>
```

実際のマッピングは、要素 <metric-data-map> および </metric-data-map> に含まれる 必要があります。

メトリック

<metric> 要素を使用して、マッピング内のメトリックを定義します。 <metric> 要素に値はありませんが、子要素である <data-map-column> を含める必要があります。 <metric> 要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックの内部名
dimension-id	Campaign からの値を配置する列の番号。列には、左から右に向かって 番号が付けられます。最初の列は、列 0 になります。

data-map-column

<data-map-column> 要素は、マッピングにおけるデータ・ソース (コンタクト数また はレスポンス・タイプのいずれか) を定義するために使用します。

<data-map-column> 要素は、コンタクト数またはこのレスポンス・タイプがマップさ れるメトリックを定義する、<metric> 要素内に存在する必要があります。 <data-map-column> 要素に値はありませんが、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックにマップされるデータ・ソース。コンタクト数の場合は、
	contactcount を使用します。レスポンス・タイプの場合は、
	responsecount_< <i>ResponseTypeName</i> > を使用します。
type	この値は、常に number でなければなりません。

データ・マッピング・ファイルを追加するには

テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、データ・マッピング・ファイルを作成または編集します。データ・マッピング・ファイルを保持したら、 以下の手順を使用してそのファイルを Marketing Operations に追加します。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「テンプレート構成」>「データ・マッピング」をクリックします。
- 3. 「データ・マッピングの追加」アイコンをクリックします。

「データ・マッピングのアップロード」ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4. データ・マッピング・ファイルの名前を入力します。
- 5. データ・マッピングを定義する XML ファイルの場所を指定します。
- 6. 「続行」をクリックします。

データ・マッピング・ファイルを編集するには

データ・マッピング・ファイルを更新する場合は、先に XML ファイルを編集して からそれを Marketing Operations に再ロードする必要があります。

- 1. テキスト・エディターでデータ・マッピング XML ファイルを開き、変更を加え ます。
- 2. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 3. 「テンプレート構成」>「データ・マッピング」をクリックします。
- 4. 更新するファイルの名前をクリックします。

「データ・マッピングの更新」ダイアログが開きます。

- 5. 「ファイル」を選択し、XML ファイルの場所を指定します。
- 6. 「続行」をクリックします。

既存のファイルを上書きするかどうかたずねるプロンプトが出されます。

7. 「保存」をクリックして、既存のファイルを新しいバージョンで上書きします。

データ・マッピング・ファイルを削除するには

テンプレートでマッピング・ファイルを使用している場合、そのマッピング・ファ イルを削除することはできません。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「テンプレート構成」>「データ・マッピング」をクリックします。
- 3. 削除したいデータ・マッピング・ファイルの「削除」リンクをクリックします。

「アイコン」ページ

「アイコン」ページで、アイコン・ファイルを確認したり追加したりすることがで きます。これらのアイコンは、テンプレートまたはオブジェクト・インスタンスの タイプを識別するために、Marketing Operations ユーザー・インターフェースのさま ざまな部分に表示されるものです。

「テンプレート構成」ページの「**アイコン**」リンク(または、テンプレートの「サ マリー」タブの「**アイコンの変更**」)をクリックし、テンプレートとそれを元に作 成されたオブジェクトを識別するアイコンを管理します。

「アイコン」ページには次の列があります。

列	説明
イメージ	それぞれのアイコン用の大きいイメージと小さいイメージ。イメージを
	クリックしてアイコンの名前やイメージ・ファイルを変更します。
名前	アイコンの名前。
使用者	このアイコンを使用するオブジェクト・テンプレートのリスト。テンプ レートの「プロパティー」タブで、テンプレートによって使用されるア イコンを指定します。 69 ページの『テンプレートを定義するための、 テンプレートの「プロパティー」タブ』を参照してください。
削除	アイコン・イメージ・ファイルを削除するためのリンク。このリンク は、どのテンプレートでも使用されていないアイコンについてのみ使用 可能です。

Marketing Operations は、一式のデフォルトのアイコンを含めてインストールされま す。それらのアイコンから選択するか、または組織に合わせてカスタマイズされた アイコンを追加することができます。独自のカスタム・アイコンを追加する際は、 アイコンごとに以下の 2 つのファイル・サイズでアップロードします。

ファイル・イメージ:ユーザーがオブジェクト・インスタンスを作成する際に表示される、大きな (46x54 ピクセル)イメージ。
リスト・アイコン・イメージ:オブジェクト・インスタンスの横のリスト・ページに表示される、小さな (20x24 ピクセル)イメージ。例えば、プロジェクトのリスト・ページには、ページ上のすべてのプロジェクトのリスト・アイコンが含まれます。

イメージ・ファイルは、JPEG、PNG、または GIF のいずれかの形式でなければな りません。

アイコンを追加または編集するには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」をクリックし ます。
- 2. 「**アイコン**」をクリックします。

「アイコン」ページが表示されます。

3. アイコンを追加するには、「アイコンの追加」をクリックします。

アイコンを編集するには、アイコン・イメージ (大きいイメージまたは小さいイ メージ) をクリックします。

「アイコンの更新」ダイアログが開きます。

- 4. アイコンで特定するオブジェクトおよびテンプレートのタイプの「**名前**」を入力 します。例えば、プロジェクトのタイプの名前などです。
- 5. アイコン・イメージ・ファイルをアップロードします。
 - メイン・アイコンをアップロードするには、「ファイル・イメージ」で、パス およびファイル名を入力するか、または「参照」をクリックします。
 - リスト・アイコンをアップロードするには、「リスト・アイコン・イメージ」
 で、パスおよびファイル名を入力するか、または「参照」 をクリックします。

既存のファイルを置き換えるには、変更するアイコンのタイプの横にあるチェック・ボックスを選択する必要があります。

- 6. 「続行」をクリックして、ファイルを Marketing Operations にロードします。
- 7. 「変更の保存」をクリックして、アップロードを確定します。

新規アイコンまたは編集されたアイコンがリストに表示されます。

テンプレート検証について

Marketing Operations には、2 種類の定義済みテンプレート検証チェックがあります。

- データベース検証
- 属性検証

これらの検証チェックは、すべてのテンプレートに対していつでも行うことができ ます。「テンプレート構成」ページで、「**テンプレートの検証**」をクリックしま す。これらの検証チェックに関する情報が次に示されます。 インストール済み環境で定義されている場合は、システムに追加の検証手順を組み 込むこともできます。詳しくは、227ページの『グリッドの検証』を参照してくだ さい。

データベース検証について

データベース検証では、以下のことがチェックされます。

- データベース・スキーマの妥当性
- フォーム属性がデータベース内のデータ型と対応するかどうか。

データベース検証について、以下の点にご注意ください。

- このタイプの検証は、テンプレートのインポート、アップグレード、およびエク スポート時にシステムによって実行されます。エクスポートでは、いずれのテン プレートにもリンクしていないフォームのみが確認されます。
- インポートおよびアップグレードでは、テンプレートが無効でも保存することができます。警告が発行されますが、保存することができます。
- フォームを追加する際に、検証でエラーが検出されると、そのフォームを保存することはできません。

属性検証について

属性は、以下の方法で検証されます。

テンプレート属性検証では、2 つ以上のフォーム属性が、「サマリー」タブとその他の非「サマリー」タブの両方で同じテーブル列をポイントしているかどうかがチェックされます。

このタイプの検証は、テンプレートの保存時にシステムによって実行されます。

複数の異なるタブ上の 2 つ以上のフォーム属性が、同じテーブル列をポイントしている場合は、参照が重複していることを示すエラー・メッセージがシステムで 生成されます。

テンプレート属性タイプ検証では、2 つのテンプレートから作成された 2 つのフォーム属性が、同じテーブル列をポイントしているものの異なる属性タイプである(例えば、一方が「単一選択 - データベース」で、他方が「複数選択 - データベース」)かどうかがチェックされます。

異なるタイプの 2 つ以上のフォーム属性が同じテーブル列をポイントしている場合は、不整合が発生していることを示すエラーが生成されます。

第6章 フォームの作成および管理

フォームとは、オブジェクトに関する情報を収集する属性フィールドの集合です。 テンプレートを作成するときに、その中に入れるフォームを選択します。追加され る各フォームは、ユーザーがそのテンプレートを使用して作成するオブジェクト・ インスタンスの「サマリー」タブの別個のタブまたはセクションになります。

「設定」>「Marketing Operations 設定」 >「テンプレート構成」>「フォーム」を 選択し、フォームを作成および管理します。

「フォームの定義」ページ

「フォーム定義」ページには、システム用に定義された各カスタム・フォームがリ ストされています。フォームごとに、以下の列が表示されます。

表 32. 「フォーム定義」ページの列

列	説明		
名前	IBM Marketing Operations で使用するためのフォームの表示名と説明。		
Table	ユーザーがフォーム属性に対して入力した値を格納するデータベース表		
	の名前。		
使用者	このフォームを使用するテンプレートのリスト。		
アクション	この列には、以下に示すフォーム用のアクションのいずれかを表すアイ コンが表示されます。アイコンの上にカーソルを置くと、ヒントと使用 可能なオプションが表示されます。		
	 公開:オブジェクト・テンプレート内でフォームを使用できるようにします。フォームが公開されると、変更されるまで「無効化」が表示されます。 		
	 無効化: テンプレートの「タブ」タブの使用可能なフォームのリスト に、このフォームが表示されないようにします。フォームを無効にし ても、そのフォームが含まれる既存のテンプレートには影響を及ぼし ません。フォームが無効になると、「有効化」アクションが表示され ます。 		
	• 有効化: テンプレートの「タブ」タブの使用可能なフォームのリスト に、フォームが表示されるようにします。		
	72 ページの『ユーザー・インターフェースをカスタマイズするため の、テンプレートの「タブ」タブ』を参照してください。		
削除/元に戻す	この列には、以下に示すフォーム用のアクションのいずれかを表すアイ コンが表示されます。		
	 元に戻す:フォームが最後に公開されてから行われた変更を元に戻します。非公開の変更が存在しない場合、このオプションは「削除」に変わります。 		
	• 削除 : フォームを削除します。このオプションは、どのテンプレート でも使用されていないフォームの場合のみ有効です。		

表 32. 「フォーム定義」ページの列 (続き)

列	説明
エクスポート	フォームの最新の公開バージョンをエクスポートする場合にクリックし
	ます。
コピー	フォームのコピーを作成する場合にクリックします。
管理	フォーム内の属性が使用するルックアップ値を有効にしたり無効にした
	しりる場合にクリックします。

このリスト・ページには、以下のリンクも表示されます。

表 33. 「フォーム定義」ページのリンク

リンク	説明
新規フォーム作成	「フォーム・エディター」を開いてフォームを作成する場合にクリック
	します。
フォームのインポ	システムにインポートするフォームを選択する場合にクリックします。
- ŀ	

フォームの作成

IBM Marketing Operations でフォームを作成する前に、それを紙面上またはスプレッドシートで設計する必要があります。

新しいフォームに含める属性、それらに付けるラベル、それらをグループ化して順 序付ける方法、およびそれらが収集するデータを保管する場所を検討するようにし てください。拡張する対象には Marketing Operations ユーザー・インターフェース (つまり、表示されているフィールド) だけではなく、すぐに使用可能なシステム・ テーブルも含まれます。

IBM Marketing Operations により、ユーザーがフォームに入力するデータを保管す るデータベース表と列が作成されますが、テーブルと列の名前を指定する必要があ ります。テーブルは、フォームの公開時に作成されます。ユーザーがフォームに情 報を入力するときにルックアップ・テーブルから値を選択するようにする場合は、 管理者がルックアップ・テーブルを手動で作成する必要があります。

複数のフォームで使用する属性についても検討してください。これらは、フォーム を作成する前に、共有属性として作成する必要があります。

フォームを作成する方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 2. 「その他のオプション」の下で、「テンプレート構成」をクリックします。
- 3. 「テンプレート・コンポーネント (Template Components)」で、「フォーム」を クリックします。
- 「フォーム定義」ページで、「新規フォーム作成」をクリックします。 フォーム・エディター・インターフェースが表示されます。このインターフェースの操作について詳しくは、107ページの『フォーム・エディター・インターフェース』を参照してください。

5. 「フォーム・プロパティー」タブに入力して、「**変更の保存**」をクリックしま す。

「要素の追加 (Add an Element)」タブが表示されます。

- 6. 前に定義された共有属性をこのフォームで使用するには、「共有属性のインポー ト」をクリックしてから、「カスタム属性」リストでその属性を選択します。
- 7. このフォームのみにローカル属性を追加するには、「新規カスタム属性の作成」 をクリックします。
- 8. フォームに追加する要素と属性を、「要素の追加」タブからドラッグし、フォーム設計領域にドロップします。
- 9. 「**保存して終了**」をクリックしてフォームを保存し、「フォーム定義」ページに 戻ります。

共有属性をインポートする方法

インポートできる属性は、有効になっている属性のみです。詳しくは、134ページの『共有属性を作成および有効化するには』を参照してください。

- 1. 共有属性を使用するフォームを開きます。
- 2. 「要素の追加 (Add an Element)」タブで、「**共有属性のインポート**」をクリック します。

「共有属性」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3. 左側のリストで、インポートする属性を選択し、>> をクリックして「選択した 属性」リストに移動します。
- 4. 「**インポートして閉じる**」をクリックします。

フォーム・エディター・インターフェース

フォーム・エディターは、フォームの作成または編集時に表示されます。詳しくは、106ページの『フォームを作成する方法』を参照してください。

フォーム・エディターは、フォーム設計領域(左側)と一連のタブ(右側)で構成されています。フォーム設計領域には、フォームの現在の内容が表示されます。右側のタブのコントロールを使用して、フォームとその属性の情報を入力します。要素をクリックしてドラッグすることで、フォームに追加することができます。

右側には 2 つのタブがあります。「フォーム・プロパティー」タブには、以下のフ ィールドが含まれます。

表 34. フォーム・エディター・インターフェース:「フォーム・プロパティー」タブ

フィールド	説明			
フォーム名	IBM Marketing Operations で使用するフォームの名前。			
データベース表	ユーザーがフォームのフィールドに入力する回答が保管されるデータベ ース表の名前。 注:フォームとそのフォーム内のグリッドの両方に、同じデータベース 表を使用することはできません。			
フォームの説明	フォームについての説明。このテキストは、「フォームの説明」ページ のフォーム名の下に表示されます。			

「要素の追加 (Add an Element)」タブには、以下の 2 つのリスト・ボックスが含ま れます。

- 「一般要素」リスト・ボックスには、フォーム要素 (関連した属性のセットを識別するグループ・ヘッダーなど)が含まれます。
- 「カスタム属性」リスト・ボックスには、フォームに使用できるさまざまな属性のリストが含まれます。

このタブには、以下のリンクも含まれます。

表 35. フォーム・エディター・インターフェース:「要素の追加 (Add an Element)」タブ上の リンク

リンク	説明
新規カスタム属性	クリックすると「新規カスタム属性の作成」ダイアログが開き、ここで
の作成	ローカル属性を作成できます。
新しいグリッドの	クリックすると「グリッドの作成 (Create a Grid)」ダイアログが開き、
作成	ここで編集可能グリッドや読み取り専用グリッドを作成できます。
選択した属性の削	クリックすると、「 カスタム属性 」リスト・ボックスで選択した属性が
除	削除されます。
共有属性のインポ ート	クリックするとダイアログ・ボックスが表示され、そこで以前に定義し て有効にした共有属性を選択してインポートし、このフォームで使用す ることができます。

ローカル属性の作成または共用属性のインポートの後で、それらをフォームに追加 することができます。要素または属性をフォームに追加するには、それをクリック してフォーム設計領域内のグループのヘッダーの直下にドラッグします。

要素または属性をフォームに追加したら、それをクリックして、その設定値を表示 または編集します。フォームの要素または属性をクリックすると、現行値を含むダ イアログが表示され、右側のタブが覆われます。このダイアログには、選択したグ ループのヘッダーや属性をこのフォームに実装する方法を指定できる「編集」リン クが含まれます。詳しくは、109ページの『「属性グループの編集」ダイアログ』 または137ページの『属性参照』を参照してください。

属性グループ

フォームの各属性またはテーブルは、グループ内になければなりません。グループ を使用することにより、フィールドをエンド・ユーザー向けに論理的に編成できま す。グループを使用して、1 列の領域と 2 列の領域の両方を持つフォームを作成す ることもできます。

グループのヘッダーを表示できますが、ヘッダーは必須ではありません。

属性グループを作成する方法

フォームまたはフォーム上のグリッド・コンポーネントにグループ要素を直接配置 して、関連する属性セットを識別することができます。

- 1. 属性グループを作成するフォームを開きます。
- 2. 「要素の追加 (Add an Element)」タブをクリックします。

3. 「一般要素」リストの「属性グループのヘッダー」をクリックし、それをフォーム設計領域にドラッグします。

赤いカーソルは、フォーム上でのグループのヘッダーの配置 (既存のフォーム要素の前 (上) または後 (下)) を示します。

- 4. グループのヘッダーをフォーム上にドロップします。 「新規グループ <*n*>」が 表示されます。
- 5. 新しいグループのヘッダーをクリックして、そのグループの現在の設定を確認し ます。
- 「属性グループの編集」をクリックしてダイアログを開きます。このダイアログで、表示名を変更し、他のオプションを指定できます。『「属性グループの編集」ダイアログ』を参照してください。
- 7. グループの編集を完了したら、「**保存して終了**」をクリックしてウィンドウを閉 じ、フォームに戻ります。

「属性グループの編集」ダイアログ

属性グループは、カスタム・フォームにある属性を編成します。

表 36. 属性グループを編集するフィールド

フィールド	説明				
グループの内部名	J部で使用されるグループの一意の名前。スペースや特殊文字を使用し いでください。				
グループの表示名	フォームに表示されるグループのヘッダー。スペースおよび UTF-8 文 字を使用できます。				
説明	グループの説明。				
グループ・ヘッダ ーの表示	グループの表示名をフォームに表示する場合に選択します。グループの 表示名をフォームに表示しない場合は、クリアしてください。				
グループ・レイア ウト	属性をグループに表示する方法。「1 列」または「2 列」を選択してく ださい。				

グリッドの作成

グリッドとは、データを収集するためのスプレッドシートに似たツールです。グリ ッド・コンポーネントは、テーブルまたはリストとして、ユーザー・インターフェ ースに表示することができます。

グリッドは、編集可能または読み取り専用のいずれかです。編集可能なグリッドは 情報を入力するユーザー向けですが、読み取り専用グリッドにはこれまでに入力さ れた情報が表示されます。

グリッドをフォームに追加する場合、2箇所で設定を行います。

- グリッド・コンポーネントは、追加するグリッドのタイプと、入力したデータの 保存先や表示するデータの読み取り元となるデータベース表を定義します。
- グリッド属性は、グリッド内の各列を定義します。

グリッド・コンポーネントを作成するときに、グリッドを編集可能または読み取り 専用のいずれにするかを決定します。同じ情報を、ある形式では編集可能に、別の 形式では読み取り専用にする場合は、2 つのグリッド・コンポーネントを作成して、同じグリッド属性を含むように設定する必要があります。

グリッドに「属性グループのヘッダー」を使用して、属性をグリッド内でグループ 化することができます。グリッドには、グループ化された属性とグループ化されて いない属性を混在させることができます。

グリッド・タイプについて

以下のグリッド・タイプが使用可能です。各タイプの属性が実装された結果のユー ザー・インターフェース表示の説明が、後に続きます。

表 37. グリッド・タイプ

グリッド・タイプ	説明
行の切り捨て表示	読み取り専用グリッドを作成します。このグリッドでは、長す ぎてセルに収まらないテキストが切り捨てられます。
行の折り返し表示	読み取り専用グリッドを作成します。このグリッドでは、長す ぎてセルに収まらないテキストが、そのセル内で続けて次の行 に表示されます。
2 行シフト表示	読み取り専用グリッドを作成します。このグリッドでは、長す ぎてセルに収まらないテキストが、2 行目のインデントされた 行に続けて表示されます。
編集可能グリッド表示	編集可能グリッドを作成します。ユーザーは、グリッドのセル にデータを入力します。

編集可能グリッドを作成する方法

- 1. データ入力グリッドに含めるフォームを作成するか、開きます。
- 2. 「要素の追加」タブで、「新しいグリッドの作成」をクリックします。 グリッ ド・コンポーネントの情報を収集する「新しいグリッドの作成」ダイアログが開 きます。
- 3. 「**グリッド・タイプ**」ドロップダウン・リストから、「**編集可能グリッド表示**」 を選択します。
- 4. データベース表およびその他のフィールドに関する情報を入力します。 111 ペ ージの『新しいグリッド・ダイアログの作成』を参照してください。
- 5. 「保存して終了」をクリックします。

「要素の追加」タブで、「フォーム属性」のリストをクリックして展開します。 グリッド・コンポーネントが表示されます。

- フォームにグリッドを追加する場合は、それをグループ内に配置する必要があり ます。グリッドを含めるグループがまだフォームにない場合は、「属性グルー プ・ヘッダー」をクリックしてフォーム設計領域にドラッグし、適宜名前を付け ます。
- 「フォーム要素」のリストから、グリッド・コンポーネントをクリックしてドラ ッグし、グループにドロップします。
- 8. 属性 (または列) をグリッドに追加するには、「グリッド属性」リストを展開します。属性をクリックしてドラッグし、それらをグリッド・コンポーネントの名

前の上にドロップします。 属性の追加について詳しくは、107ページの『フォ ーム・エディター・インターフェース』を参照してください。

属性の順序を変更するには、属性名をクリックします。名前の上に移動アイコン が表示されます。そのアイコンをクリックしてドラッグすると、列を希望する位 置に移動できます。

グリッド属性のいくつかをグループ化する場合は、「**属性グループのヘッダー**」 をグリッド上にドラッグしてから、グリッド属性をグループ・ヘッダーの上にド ラッグします。

9. 「保存して終了」をクリックしてフォームを保存し、「フォームの説明」リスト・ページに戻ります。

新しいグリッド・ダイアログの作成

表 38. 「新しいグリッドの作成」ダイアログのフィールド

フィールド	説明
グリッド・タイプ	作成するグリッドのタイプ。
	 行の切り捨て表示
	 行の折り返し表示
	 2 行シフト表示
	• 編集可能グリッド表示
	110 ページの『グリッド・タイプについて』を参照してください。
TCS	編集可能なグリッドにのみ適用されます。キャンペーン・プロジェクト で使用するターゲット・セル・スプレッドシートを作成する場合は、こ のチェック・ボックスを選択します。それ以外のデータ入力グリッドの 場合は、チェック・ボックスを外します。
グリッド内部名	グリッド用のファイルを作成するときに使用する名前。
グリッド表示名	このグリッドの表示名。
データベース表	ユーザーがグリッドに入力するデータが含まれているデータベース表 (編集可能グリッドの場合)、またはグリッドに表示されるデータが含ま れているデータベース表 (読み取り専用グリッドの場合)。 注: グリッドのデータベース表は、フォームのデータベース表と同じで あってはなりません。
テーブル・キー列	 編集可能グリッドの場合は、親 ID (グリッドを保持するプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトの ID) が含まれる列の名前。複数の編集可能グリッド (ターゲット・セル・スプレッドシートを含む)で同じデータベース表が使用される場合、これらのグリッドでは同じテーブル・キー列を使用する必要があります。 既存の編集可能グリッドの読み取り専用バージョンの場合は、uap_grid_row_idを使用します。 既存の編集可能グリッドに関連していない読み取り専用グリッドの場合は、表示するデータが含まれているテーブルの行を一意に識別する列の名前。 注:グリッドを作成した後は、テーブル・キー列を変更しないでください。
キー列タイプ	テーブル・キー列のデータ型。

表 38. 「新しいグリッドの作成」ダイアログのフィールド (続き)

フィールド	説明
1 ページの行数	フォームの 1 ページに表示される行の数。この値は、100 を超えては なりません。
エクスポート・リ ンクを表示	このボックスを選択して、ユーザーがグリッド・データまたはデータ選 択項目をエクスポートできるようにします。

読み取り専用のデータを表示するグリッドでは、「新しいグリッドの作成」ダイア ログが以下の追加フィールドを示します。

表 39. 読み取り専用グリッドの「新しいグリッドの作成」ダイアログのフィールド

フィールド	説明				
データ投稿 URL	ユーザーが選択したデータの送信先サーバーの URL。 (このオプション				
	は、編集可能グリッドには使用できません。)				
親 ID でフィルタ	このチェック・ボックスを選択して、読み取り専用グリッドをフィルタ				
_	ーし、現在のプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトからの				
	エントリーのみを表示します。(このオプションは、編集可能グリッドに				
	は使用できません。)				
親 ID 列名	データを読み取り専用グリッドとして表示する編集可能グリッドのグリ				
	ッド・コンポーネントの「テーブル・キー列」の値。 (このオプション				
	は、「親 ID でフィルター」チェック・ボックスが選択されている場合				
	にのみ表示されます。)				
表示リンクを表示	このチェック・ボックスを選択して、ユーザーがグリッドの表示オプシ				
	ョンを設定できるようにします。 (このオプションは、編集可能グリッ				
	ドには使用できません。)				
リンクごとにグル	このチェック・ボックスを選択して、ユーザーがグリッドの行をグルー				
ープを表示	プ化する基準となる列を指定できるようにします。				

既存の編集可能グリッドを読み取り専用グリッドとして表示する方 法

編集可能グリッドにデータを収集して、その同じデータを読み取り専用のグリッド に表示するには、2 つの異なるフォームを作成します。

注:編集可能グリッドが含まれているフォームは、読み取り専用グリッドを作成す る前に公開する必要があります。それ以外の場合、読み取り専用グリッドが含まれ ているフォームを保存することはできません。編集可能グリッドと読み取り専用グ リッドを同じフォーム上に配置する場合は、編集可能グリッドを作成し、フォーム を公開してから、読み取り専用グリッドを作成する必要があります。

読み取り専用グリッドのグリッド・コンポーネントには、以下のプロパティーが必要です。 111 ページの『新しいグリッド・ダイアログの作成』を参照してください。

- 「グリッド・タイプ」は、「行の切り捨て表示」、「行の折り返し表示」、また は「2 行シフト表示」でなければなりません。
- 「データベース表」は、編集可能グリッドのデータベース表と同じでなければなりません。

・「テーブル・キー列」は、uap_grid_row_id でなければなりません。

注: IBM Marketing Operations は、すべての編集可能グリッドに対してこの列を 自動的に作成します。

読み取り専用グリッドに、ユーザーがこのオブジェクト・インスタンス (例えば、このプロジェクト)のグリッドに入力する値だけを表示する必要がある場合は、「親 ID でフィルター」 チェック・ボックスを選択し、編集可能グリッドの「テーブル・キー列」の値を読み取り専用グリッドの「親 ID 列」フィールドに入力します。

そうしない場合、読み取り専用グリッドには、すべてのオブジェクトの編集可能 グリッドに入力されたすべての値が表示されます。

読み取り専用グリッドに含まれている属性は、編集可能グリッドに含まれている属 性と完全に一致する必要があります。この要件は、以下の3つの方法のいずれかで 実現することができます。

- 編集可能グリッドが含まれているフォームをコピーします。編集可能グリッドの グリッド・コンポーネントを削除し、読み取り専用グリッドのコンポーネントを 作成して、グリッド属性を新規コンポーネント上にドラッグしてください。ただ し、グリッド属性を再作成する必要はありません。
- 編集可能グリッドを作成して、読み取り専用グリッドの作成時に属性をフォーム・エディターにインポートできるようにする場合は、共有属性を使用します。
- 読み取り専用グリッドを作成するときに、「フォーム・エディター」で属性を再 作成します。属性プロパティーは、元の属性と完全に一致していなければなりま せん。

注: 例外が 1 つあり、読み取り専用グリッドには「単一選択オブジェクト参照」属 性や「複数選択オブジェクト参照」属性を含めることはできません。編集可能グリ ッドにこれらのタイプの属性が含まれている場合は、これらを単一リスト・オブジ ェクト参照属性に置き換える必要があります。 139 ページの『属性タイプについ て』を参照してください。

グリッドをリストとして表示する方法

グリッドを参照し、それを別のフォームにリストとして表示することができます。 リストを正しく構成するには、Marketing Operations にどのようにグリッドが保管されるかを理解することが役立ちます。

- リスト・ビューは読み取り専用で、指定したデータベース表のすべての行が表示 されます。
- グリッド・ビューは、編集可能または読み取り専用のいずれかです。グリッド内の行は、グリッドの親(そのカスタム・フォームの一部にグリッドを含む、プロジェクトまたはマーケティング・オブジェクト・インスタンス)に「属して」います。

例えば、同じテンプレートから 2 つのプロジェクトを作成した場合、各プロジェクト内の対応するグリッドによって追加される行は、いずれも同じデータベース表に 追加されますが、各プロジェクトのグリッドからアクセスできるのは、その所有す るデータのみです。 これを行うには、グリッド・データを保持するデータベース表に、2 つの列がなけ ればなりません。 1 つは各行を一意に識別するもの、もう 1 つは親 ID (グリッド が含まれているプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトの ID) を識別す るものです。

グリッドに設定するテーブル・キー列には、行の親 ID が保持されます。単一のグ リッドでは、すべての行でこの列の値が同じものになっています。その結果、デー タの行を一意に識別することができません。

フォーム・エディターは、グリッドごとに uap_grid_row_id という列を自動生成し ます。リスト・ビューで必要になるのは、行を一意に識別する列だけです。したが って、リスト・ビューで同じテーブルを使用する場合は、uap_grid_row_id をリスト のキー列として指定できます。グリッド・データ・テーブルを指定した際に使用し たのと同じキー列を使用しないでください。

例

説明すると、以下の例のようになります。

- 展示会テンプレートには、「スタッフ (Staff)」というカスタム・タブが含まれています。「スタッフ」タブのフォームにはグリッドが含まれています。
- TRS001 および TRS002 という 2 つの展示会プロジェクトがあります。
- TRS001 および TRS002 には、それぞれ 121 と 122 というオブジェクト ID が 付いています。
- TRS001 および TRS002 のいずれの「スタッフ (Staff)」グリッドにも、データが 存在します。

これら 2 つのグリッドのデータを保持するデータベース表は、次の図のようになり ます。

	object_id	uap_grid_row_id	manager	emp_id	emp_name	salary
	121	118	Y	1001	Mary Manager	45000
	121	119	N	1002	Art Artiste	25000
	121	120	N	1003	Larry Lawyer	200000
	121	121	N	1004	Carl Contributor	25000
	121	122	Y	1005	Charlie CEO	1000000
	122	123	N	5000	Huey Lewis	25000
	122	124	Y	5001	Isaac Bashevis Sing	75000
	122	125	N	5002	Carl Sagan	100000
	122	126	Y	5003	Emiliani Torrini	300000
*						

🛅 Data in Table 'dyn_staffdetails' in 'SJMPIan73' on 'FORTUNA'

最初の数行は TRS001 のグリッドに属しています。最後の数行は TRS002 のグリッドに属しています。

各プロジェクトでは、その所有する部分のデータのみがこのテーブルに表示されま す。ただし、このテーブルを参照に使用するリストがある場合、そのリストには、 以下のようにテーブルのすべての行が表示されます。

TVCListStaff:

View | Export Data

Employee ID 🔺	Name	Base Pay	Manager?
1001	Mary Manager	\$45,000.00	Yes
1002	Art Artiste	\$25,000.00	No
1003	Larry Lawyer	\$200,000.00	No
1004	Carl Contributor	\$25,000.00	No
1005	Charlie CEO	\$1,000,000.00	Yes
5000	Huey Lewis	\$25,000.00	No
5001	Isaac Bashevis Singer	\$75,000.00	Yes
5002	Carl Sagan	\$100,000.00	No
5003	Emiliani Torrini	\$300,000.00	Yes

列名 uap_grid_row_id は予約されているため、グリッドの列を指定するときには、 これを列名として使用しないでください。

リストをフィルターして、その所有オブジェクト (プロジェクトまたはマーケティ ング・オブジェクト)のグリッド・エントリーだけが表示されるようにすることが できます。前述の例の続きで、2 つのカスタム・タブを含むプロジェクト・テンプ レートを作成します。

- スタッフ・フォーム (Staff Form): スタッフのメンバーの入力と編集に使用するグ リッドが含まれます。
- スタッフ・リスト (Staff List):「スタッフ・フォーム (Staff Form)」グリッドから のエントリーがリストとして表示されます。

現行プロジェクトからのエントリーだけが「スタッフ・リスト (Staff List)」タブに 表示されるようにするには、リストの親 ID にフィルターを適用します。

リストのグリッド・コンポーネントを作成したら、以下の値を設定します。

- 親 ID でフィルター: 選択されています。
- 親 ID 列: object_id (この例で先に示したデータベース表に示されているとお り)。この値は、グリッドのテーブル・キー列の値と一致する必要があります。

例:マーケティング・オブジェクトのリストの作成

以下の例では、マーケティング・オブジェクト参照のリストを表示する方法につい て説明します。

シナリオ

4 つの従属マーケティング・オブジェクト・タイプを持つプロジェクトがありま す。

- 2 つの異なるパンフレット
- ・1 つのメーラー
- 1 つのリソース・バンドル

プロジェクトを作成した後、参加しているどのマーケティング・オブジェクトが作 成済みであるかを定期的に検査して確認します。

この例では、IBM Marketing Operations でこのシナリオを作成するために必要なステップについて説明します。

前提事項

Marketing Operations には以下の項目があります。

- 「イベント計画 (Event planning)」という名前のプロジェクト・テンプレート。
- パンフレット、メーラー、およびリソース・バンドルのマーケティング・オブジェクト・テンプレート。

タスク

このシナリオを実装するには、以下のタスクを実行します。

- 1. フォーム・エディターを使用して、以下のフォームをセットアップします。
 - カスタムの「テキスト 1 行」属性である「発信プロジェクト (Originating Project)」を保持するフォームを作成します。

参加するマーケティング・オブジェクトを作成した後、ユーザーはこのフィー ルドに、発信プロジェクトのプロジェクト・コードの値を入力します。

カスタム・タブの「参加するマーケティング・オブジェクト (Participating Marketing Objects)」のフォームを作成します。

カスタム・タブの場合、「単一選択オブジェクト参照」属性をフォームに追加 します。この属性を構成するには、まずカスタム・ビューを作成する必要があ ります。

これらのフォームの作成について詳しくは、下記の『カスタム・タブと属性の作 成』を参照してください。

- 2. カスタム・ビューを作成します。下記の『カスタム・ビューの作成』を参照して ください。
- 3. フォームを適切なテンプレートに追加します。
 - 「発信プロジェクト (Originating Project)」属性を持つフォームを、「パンフレット」、「メーラー」、および「リソース・バンドル」の各テンプレートの「サマリー」タブのセクションとして追加します。
 - リストを持つフォームを、「イベント計画 (Event planning)」プロジェクト・ テンプレートのカスタム・タブとして追加します。
- 4. オブジェクト・インスタンスを、それぞれ対応するテンプレートから作成しま す。
 - プロジェクト「EventStuff001」。
 - パンフレット「Brochure001」。発信プロジェクトを「EventStuff001」のプロジェクト・コードに設定。
 - メーラー「Mailer001」。発信プロジェクトを「EventStuff001」のプロジェクト・コードに設定。

ユーザーが「EventStuff001」の「参加するマーケティング・オブジェクト (Participating Marketing Objects)」タブを開くと、関連するマーケティング・オブ ジェクトの詳細が表示されます。

カスタム・タブと属性の作成

このリストを保持できるタブが必要です。このタブを Marketing Operations のプロ ジェクト・テンプレートに追加します。さらに、プロジェクト・コードを保持する カスタム・フォームが必要です。カスタム・ビューは、同じデータベース表を使用 するこれら 2 つのフォームによって異なるため、このセクションでこれらをともに 作成します。

- 1. フォーム・エディターで、同じデータベース表を使用する 2 つのフォームをセ ットアップします。
- 2. データベース表を以下のように作成します。

フィールド	値
表名	dyn_mo_table
表示名	dyn_mo_table
キー列名	po_id
属性名	po_id

3. 以下のようにして、2 つのフォームを作成します。

フィールド	フォーム1	フォーム 2
内部名	OriginatingProj	linkedMOs
表示名	発信プロジェクト	関連付けられた MO
	(Originating Project)	(Associated MOs)
説明	発信プロジェクトをポイン	リスト内のリンクされたマ
	トする単一属性を保持しま	ーケティング・オブジェク
	す。	トを表示するフォーム。
属性名データベース表	dyn_mo_table	dyn_mo_table
(Attribute Name Database		
Table)		

4. リスト・グリッド・コンポーネントについて、以下のように指定します。

フィールド	値
参照データベース表 (Reference Database	proj_mos_by_proj_code
Table)	
参照テーブル・キー列	mo_id
親 ID でフィルター	checked
親 ID 列名	ProjID

5. 「単一選択オブジェクト参照」タイプのグリッド属性を作成します。「オブジェ クト参照プロパティー」セクションで、以下のように指定します。

フィールド	値
オブジェクト参照 ID 列	mo_id

フィールド	値
オブジェクト参照タイプ列	comp_type_name

6. プロジェクト・コードをテキスト属性として保持するフォーム属性を作成しま す。この属性について、以下のように指定します。

フィールド	値
属性タイプ	テキスト - 1 行
内部名	PID
フォーム	発信プロジェクト (Originating Project)
表示名	プロジェクト・コード
データベース列 (Database Column)	PID

7. フォームを保存します。

8. SQL スクリプトを実行して、dyn_mo_table とその列を作成します。

カスタム・ビューの作成

通常は、リスト・ビューにオブジェクト参照を追加する前に、カスタム・ビューを 作成します。この例では、プロジェクトのマーケティング・オブジェクトを参照し ます。この場合、マーケティング・オブジェクトには、プロジェクト・コードを保 持するテキスト・フィールドが含まれています。

この例では、3 つのテーブルを使用して、ビュー (uap_projects、uap_mktgobject) と カスタム・テーブル (dyn_mo_table) を作成します。このビューの名前は proj_mos_by_proj_code です。

前提条件となるカスタム・テーブル

ビューを作成する前に、カスタム・テーブル「dyn_mo_table」が作成されていること と、その中に以下の列が含まれていることを確認してください。

- po_id: キー列 (フォームの「DB テーブル (DB Tables)」 タブに指定されます)
- PID: テキスト列 (「フォーム属性 (Forms Attribute)」タブで作成され、プロジェ クト・コードがテキストとして保持されます)

カスタム・ビューの詳細

ビューには、以下の列が含まれます。

- uap_projects の proj_code および project_id
- ・ uap_mktgobject の name、comp_type_name、および mktg_object_id

ビューを作成するための実際の SQL コードは、次のようになります。

create view proj_mos_by_proj_code (
 asscProj, MOName, ProjID, mo_id, comp_type_name) As
 select PROJ.name as asscProj, MO.name as MOName,
 PROJ.project_id as ProjID, MO.mktg_object_id as mo_id,
 MO.comp_type_name as comp_type_name
 from uap projects PROJ, dyn mo table MOT, uap mktgobject MO

where PROJ.proj_code = MOT.PID and MOT.po_id = MO.mktg_object_id

asscProj	MOName	ProjID	mo_id	comp_type_name
BRAIN-001	RB-005	101	147	クリエイティブ
BRAIN-001	RB-006	101	148	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignMAIL01	149	145	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignBRO01	149	142	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignRB01	149	143	クリエイティブ
イベント水平線	CampaignRB02	149	144	クリエイティブ

次の表に、このデータベース・ビューの列名といくつかのサンプル行を示します。

ターゲット・セル・スプレッドシートについて

ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) は、定義済み属性のセットを含む、編 集可能なグリッド・コンポーネントです。ターゲット・セル・スプレッドシート は、IBM Marketing Operations-Campaign 統合が有効になっているときに使用しま す。TCS は、キャンペーンのターゲット・セルおよび制御セルを定義するために、 ユーザーがキャンペーン・プロジェクトに入力する必要のあるデータを指定しま す。TCS の各列は、属性に対応しています。定義済み、あるいはデフォルトの属 性の値は、自動的に Campaign に渡されます。これらのデフォルトの属性に加え て、カスタム属性をいくつでも TCS に追加することができます。

セル属性とグリッド属性

TCS には、IBM Campaign に渡される属性 (セル属性) と、IBM Marketing Operations だけに表示される属性 (グリッド属性) を含めることができます。

Campaign に渡す必要がある情報は、セル属性を使用します。例えば、出力リスト、 コンタクト履歴、またはレポートに含める属性の値は、セル属性として作成しなけ ればなりません。

グリッド属性は、Campaign では必要のない、説明、計算、およびデータに使用します。

ターゲット・セル・スプレッドシートとフォーム

TCS をフォームに追加するには、新しい編集可能なグリッドを作成して、それを TCS として識別します。 (フォームには、TCS に加えて、他の属性を含めることが できます。) TCS グリッド・コンポーネントをフォームに配置すると、そのフォー ムにはデフォルト・セル属性が入ります。デフォルト属性は削除できません。

セル属性データの転送

ユーザーがフローチャート・セルを TCS 行にリンクすると、デフォルト属性用の データ値が自動的に Campaign に渡されます。カスタム・セル属性は、Campaign で、コンタクト・プロセスの IBM Campaign 生成済みフィールドとして自動的に使 用可能になります。生成済みフィールドについて詳しくは、「*IBM Campaign* ユー ザー・ガイド」を参照してください。

ターゲット・セル・スプレッドシートとテンプレート

各キャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、TCS を 1 つだけ含めること ができます。

TCS を作成するには

TCS を作成する前に、そこに含めるすべてのカスタム・セル属性を作成する必要が あります。セル属性は IBM Campaign にマップされ、共有属性としてのみ作成でき ます。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「その他のオプション」の下で、「テンプレート構成」をクリックします。
- 3. 「テンプレート・コンポーネント (Template Components)」で、「フォーム」を クリックします。
- 4. 「フォーム定義」ページで、「新規フォーム作成」をクリックします。フォーム・エディター・インターフェースが表示されます。
- 5. 「フォーム・プロパティー」タブに入力して、「**変更の保存**」をクリックしま す。「要素の追加 (Add an Element)」タブが表示されます。
- 6. 「新しいグリッドの作成」をクリックします。 「新しいグリッドの作成」ダイ アログが開きます。
- 7. 「**グリッド・タイプ**」ドロップダウン・リストから、「**編集可能グリッド表** 示」を選択します。
- 8. 「TCS」チェック・ボックスを選択します。
- 9. 残りのオプションを入力して、「保存して終了」をクリックします。

「要素の追加」タブで、「フォーム属性」のリストをクリックして展開しま す。 TCS グリッド・コンポーネントが表示されます。

- TCS グリッドをフォームに追加するには、それをグループ内に配置する必要が あります。グリッドを含めるグループがまだフォームにない場合は、「属性グ ループ・ヘッダー」をクリックしてフォーム設計領域にドラッグし、適宜名前 を付けます。
- 11. 「**フォーム要素**」のリストから TCS グリッド・コンポーネントをクリックし てドラッグし、グループにドロップします。

デフォルト・セル属性がグリッドに表示されます。 121 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートのデフォルト・セル属性』を参照してください。

- 12. TCS に含める任意の属性を追加します。次のいずれかを行うことができます。
 - カスタム・セル属性をインポートして、それを TCS に追加し、追加の列を 作成します。これらの列は、IBM Campaign に渡されます。
 - グリッド属性を作成またはインポートして、それを TCS に追加し、追加の 列を作成します。これらの列は、IBM Marketing Operations にのみ表示され ます。
- 13. 「保存して終了」をクリックして TCS を保存し、「フォーム定義」リスト・ ページに戻ります。

ターゲット・セル・スプレッドシートのデフォルト・セル属性

デフォルトで、すべての TCS グリッドには以下の定義済みセル属性が含まれま す。これらの属性は TCS グリッドでのみ使用可能で、「共有属性」ページには表 示されません。

これらの属性がキャンペーン・プロジェクトでどのようにユーザーに表示されるかについて、以下で説明します。

表 40. デフォルト・セル属性

	TCS を公開す	
	る必要があるか	
名前	?	説明
セル名	はい	テキスト・フィールド。
セル・コード	いいえ	テキスト・フィールド。
説明	いいえ	テキスト・フィールド。
制御セルかどう	はい	「はい」と「いいえ」のオプションのドロップダウン・
か		リスト。
制御セル	いいえ	制御セルのドロップダウン・リスト。
割り当て済みオ	いいえ	1 つ以上のオファーまたはオファー・リストを選択する
ファー		ために使用できる選択制御。
承認済みかどう	いいえ	「はい」と「いいえ」のオプションのドロップダウン・
か		リスト。この列は、キャンペーン・プロジェクト・テン
		プレートで「承認が必要」がチェックされている場合に
		のみ含まれます。
フローチャート	いいえ	セルが使用されるフローチャートの名前を表示する、読
		み取り専用フィールド。
前回実行日	いいえ	このセルを含むフローチャートが前回実行された日時を
		表示する、読み取り専用フィールド。
実数	いいえ	このセルの前回の実行カウント (セル内の一意のオーデ
		ィエンス ID のカウント) を表示する、読み取り専用フ
		ィールド。
実行タイプ	いいえ	このセルを含むフローチャートの前回の実行の実行タイ
		プ (実稼働またはテストのフローチャート、ブランチ、
		またはプロセス・ボックス)を示す、読み取り専用フィ
		ールド。

TCS グリッドを追加したら、個別のセル属性の「属性表示名」、「説明」、および その他のプロパティーを編集できます。以下のプロパティーの事前定義値を編集す ることはできません。

- 属性カテゴリー
- 属性タイプ
- 属性内部名
- 属性表示名
- 属性データベース列名
- グループ化可能
- フォーム要素タイプ

特別な動作

フォームの公開

テンプレートに追加できるのは、公開されたフォームのみです。フォームを編集し たら、そのたびに再公開する必要があります。

フォームを公開する方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 2. 「テンプレート構成」をクリックします。
- 3. 「**フォーム**」をクリックします。
- 4. 公開するフォームの「公開」リンクをクリックします。

「公開」リンクが使用可能でない場合、最後の公開以降、そのフォームは変更さ れていません。

フォームのエクスポート

エクスポートできるフォームは、公開されたフォームのみです。最後に公開されて からフォームに加えられた変更は、いずれもエクスポートされたフォームには含ま れません。フォームをエクスポートするには、フォームをインポートする IBM Marketing Operations システムで使用されているデータベース・アプリケーションを 知っている必要があります。フォームをエクスポートするときに、データベース・ アプリケーションを指定します。

フォームをエクスポートする際に、Marketing Operations により、以下を含む圧縮さ れたアーカイブ・ファイルが作成されます。

- フォームのマップ・ファイル (XML 形式)。
- 指定のデータベース・アプリケーションの作成スクリプト。
- 指定のデータベース・アプリケーションのドロップ・スクリプト。
- 翻訳が存在する各ロケールのプロパティー・ファイル。
- フォーム上の「単一選択 データベース」属性または「複数選択 データベース」属性によって使用される各ルックアップ・テーブルの作成スクリプト、ドロップ・スクリプト、および挿入スクリプト。

フォームをエクスポートする方法

フォームをエクスポートするには、フォームのインポート先システムで使用されているデータベース・アプリケーションを知っておく必要があります。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 2. 「**テンプレート構成**」をクリックします。
- 3. 「**フォーム**」をクリックします。
- 4. エクスポートするフォームの「**エクスポート**」リンクをクリックします。
- 5. このフォームをインポートする Marketing Operations インストール済み環境で使 用されているデータベース・アプリケーションを選択します。
- 6. 「**エクスポート**」をクリックします。

フォームのインポート

フォームをインポートできるのは、IBM Marketing Operations 管理者だけです。フ ォームは、同一バージョンの Marketing Operations を実行しているシステムからの みインポートできます。

フォームは、以下の2つの方法のいずれかでインポートできます。

- 完全な、以前に圧縮形式でエクスポートされたアーカイブ・ファイルをインポートする方法。
- 単一の、以前にエクスポートした形式 (XML) のファイルをインポートする方 法。

圧縮形式のアーカイブ・ファイルをインポートすると、フォーム、ローカライズさ れたバージョン、およびフォーム属性が参照するルックアップ・テーブルを更新す るためのスクリプトがインポートされます。

フォーム (XML) ファイルをインポートすると、フォームのみがインポートされま す。フォームでは、それが作成されたロケールの言語が使用されます。フォーム属 性がルックアップ・テーブルを使用する場合は、ルックアップ・テーブルを手動で 作成または編集する必要があります。

システムに存在しているフォームの新しいバージョンをインポートできます。既存 のフォームが非公開の場合は、古いバージョンが新しいバージョンに置き換えられ ます。既存のフォームが公開されている場合は、「フォームの定義」ページで古い バージョンの下に新しくインポートされたバージョンがリストされ、「**公開**」アク ションが使用可能になります。公開されたバージョンを新しいバージョンに置き換 えるには、フォームを再公開する必要があります。

フォームをインポートする方法

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 「その他のオプション」セクションで、「テンプレート構成」をクリックします。
- 3. 「**フォーム**」をクリックします。
- 4. 「フォームのインポート (Import Form)」をクリックします。 「フォームのインポート (Import Form)」ダイアログが開きます。
- 5. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - a. 単一のフォームである XML ファイルをインポートするには、「**ファイル**」 を選択します。
 - b. 圧縮されたフォームであるアーカイブ・ファイルをインポートするには、 「**フォーム・アーカイブ**」を選択します。
- 単一の XML のフォーム・ファイルをインポートする場合は、フォームの名前を 入力します。

フォーム名には英数字、スペース文字、および下線文字のみを使用してください。

フォーム・アーカイブをインポートする場合、Marketing Operations がアーカイ ブからフォーム名を取得します。

- 7. インポートするファイルを参照します。
- 8. 圧縮されたフォームのアーカイブ・ファイルをインポートする場合は、「**ルック アップ・テーブルの削除**」または「**ルックアップ・テーブルの作成/更新**」のい ずれか、あるいは両方を選択します。
- 9. 「続行」をクリックします。

フォームのインポートにおけるトラブルシューティング

このセクションでは、フォームを「フォーム・エディター」にインポートする際に 発生する可能性があるいくつかの一般的なエラーを修正する方法について説明しま す。

エラー	解決策
フォーム名が複製	フォーム名が、システム上の既存のフォーム名と同じ重複しています。
している	フォーム・ファイルの名前を変更するか、新しいフォームを開いてフォ
	ーム・ファイルを再インポートしてください。
名前を使用できな	複数の <element> タグに同じ名前が付いています。<element> タグ内の</element></element>
63	複製している名前を変更するか、新しいフォームを開いてフォーム・フ
	ァイルを再インポートしてください。

コンピューター間でのフォームの移動

あるコンピューターからフォームをエクスポートし、別の IBM Marketing Operations インストール済み環境にインポートすることにより、フォームをコンピ ューター間で移動することができます。例えば、フォームは、開発環境からテスト 環境へ、さらにテスト環境から実稼働環境へと移動できます。

フォームのルックアップ値の管理

「単一選択 - データベース」属性および「複数選択 - データベース」属性は、値の リストをユーザーに提供し、ユーザーはリストから 1 つ以上の値を選択します。属 性のルックアップ値は以下のように管理します。

- データベース管理者と共に直接作業を行い、属性に関連付けられているルックア ップ・テーブルで値の追加または削除を行います。
- 以下の説明に従って、「フォーム定義」ページでルックアップ値を無効にします。「フォーム定義」ページで値を無効にすると、ユーザーは、データベースから値を削除せずに値を選択することができなくなります。複数のフォームで同じルックアップ・テーブルが参照される場合、「フォーム定義」ページで、あるフォームでは値を無効にして、別のフォームでは同じ値を有効にすることができます。

無効なルックアップ値に関する注意点

無効なルックアップ値については、以下のシステム動作に注意する必要がありま す。

 ルックアップ値のステータス(「有効」または「無効」)は、uap_1kup_manager システム・テーブルに保存されます。

- 既存のオブジェクトで選択された値を無効にすることができます。このオブジェ クトにユーザーが再度アクセスすると、値の横に「無効」と表示されます。
- 検索基準を満たしている場合、無効な値も、拡張検索の結果に含まれます。無効な値には、値の横に「無効」というテキストが表示されます。
- 「単一選択 データベース」属性または「複数選択 データベース」属性を編集 すると、その属性のすべての値のステータスがリセットされて「有効」になりま す。
- 値をフォームのデフォルトとして設定し、その後で無効にした場合、以下のよう な動作になります。
 - 無効になった値は、既存のオブジェクトで引き続き使用されます。
 - 既存のオブジェクトに再度アクセスし、そのオブジェクトのフォームの回答を 変更する場合、無効な値が含まれているフィールドに対して別の値を選択する 必要があります。

データベース表を変更せずにルックアップ値を無効にするには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 「その他のオプション」セクションで、「テンプレート構成」をクリックします。
- 3. 「フォーム」をクリックします。

「フォーム定義」リスト・ページが表示されます。

編集したいルックアップ値が含まれているフォームの「管理」をクリックします。

「ルックアップ値の管理」ダイアログが開きます。

5. 無効にしたいルックアップ値の「有効化」チェック・ボックスをクリアします。

このチェック・ボックスをクリックすると、設定が切り替わります。チェック・ マークの付いた値は有効になり、チェック・マークの付いていない値は無効にな ります。

6. 変更が完了したら、「変更の保存」をクリックします。

フォームのコピー

有効になっている公開済みのフォームは、どれでもコピーすることができます。 IBM Marketing Operations は、最後に公開されたフォームのバージョンをコピーします。

コピーの名前は「<form_name> のコピー」です。「<form_name> のコピー」が 50 文字を超えると、Marketing Operations によりエラー・メッセージが表示されるの で、コピーに新しい名前を指定する必要があります。

コピーのデータベース表名は、copy_of_<original_table_name> です。このテーブ ル名がデータベース内に存在している場合は、フォームを保存する前にその名前を 変更する必要があります。元のフォーム用に存在するローカライズされたプロパテ ィー・ファイルは、いずれも新しいフォーム用にコピーされます。 フォームをコピーするには、「フォーム定義」画面のフォームの行にある「**コピ** ー」アイコンをクリックします。

フォームのローカライズ

所属する組織で複数の言語がサポートされている場合は、フォームを複数の言語で 使用できるようにして、ユーザーが自分の言語でフォームを処理できるようにする ことが可能です。フォームのローカライズは、そのフォームをエクスポートした 後、サポートする必要があるロケールごとにプロパティー・ファイルを作成するこ とにより行います。

フォームをエクスポートする際に、IBM Marketing Operations により、フォーム・ アーカイブ zip ファイルが作成されます。この中には、使用するロケールのフォー ムのフォーム・プロパティー・ファイルが含まれます。所属する組織でサポートさ れるロケールごとにプロパティー・ファイルのコピーを作成し、グループ名、フィ ールド名、説明、およびヘルプのヒントを各ロケールの該当する言語に翻訳するこ とができます。フォームでルックアップ・テーブルが使用される場合に、データベ ースにルックアップ・テーブルのローカライズされたバージョンが含まれていると きは、そのロケールの正しいルックアップ・テーブルを参照するように、ロケール のプロパティー・ファイルを編集することができます。

プロパティー・ファイル名

プロパティー・ファイル名は、次のような形式にする必要があります。

<form name> <locale>.properties

ここで、<form_name> はフォームの名前、<locale> はロケール・コードです。認識 されるロケール・コードは、以下のとおりです。

コード	言語
de_DE	ドイツ語
en_GB	英語 (英国)
en_US	英語 (米国)
es_ES	スペイン語
fr_FR	フランス語
it_IT	イタリア語
ja_JP	日本語
ko_KR	韓国語
pt_BR	ポルトガル語
ru_RU	ロシア語
zh_CN	中国語

プロパティー・ファイルの例

columngroup.group1.header=group1 columngroup.group1.description=first group columngroup.offer.header=offer columngroup.offer.description=second group columngroup.offer2.header=offer columngroup.offer2.description=third group column.business_unit_id.label=Business Unit column.business_unit_id.message= Business Unit is a mandatory field column.business_unit_id.helptip= Business Unit is used for column.init_type_id.label= Initiative Type column.init_type_id.message= Initiative Type is a mandatory field column.offer_codes.label=Offer Code(s) column.effective_date.label=Effective Date column.drop_date.label=Drop Date column.business_unit_id.lookuptable=lkup_business_unit tvccolumngroup.group1.header=group1 tvccolumngroup.group1.description=group1 description tvccolumngroup.group1.helptip=group1 helptip tvccolumn.tvc_not_used_ref_1.label=Single Marketing Object

編集によるフォームのローカライズ

ロケールのフォームのローカライズは、そのロケールを自分のデフォルト・ロケー ルとして使用するユーザーがフォームを開き、手動で名前と説明を編集することに よっても行うことができます。ユーザーがフォームを保存すると、Marketing Operations により、ユーザーが入力した翻訳が保存され、それらの翻訳がそのデフ ォルト・ロケールを使用する他のユーザーに対して表示されます。しかし、このプ ロセスには時間がかかるため、これは通常、フォームの数とサポートされるロケー ルの数が少ない場合にのみ推奨されます。

IBM Marketing Operations による使用するプロパティー・ファイル の決定方法

ユーザーがフォームを表示する場合、Marketing Operations は、プロパティー・ファ イルが存在する以下のリスト内で最初のロケールのプロパティー・ファイルを使用 します。

- 1. ユーザーのロケール
- 2. システムのデフォルト・ロケール
- 3. フォームが作成されたロケール

フォームをローカライズする方法

フォームでルックアップ・テーブルを使用していて、それらのルックアップ・テー ブルのローカライズ済みバージョンを用意する必要がある場合は、フォームをロー カライズする前に、ローカライズされたテーブルを作成します。ローカライズされ たテーブルの名前が必要です。

エクスポートできるのは、公開されたフォームだけです。

- 1. フォームをエクスポートします。
- 2. フォーム・アーカイブの zip ファイルからプロパティー・ファイルを抽出しま す。
- 3. 組織がサポートする各ロケールごとに、そのプロパティー・ファイルのコピーを 作成します。
- 4. テキスト・エディターで各プロパティー・ファイルを開き、そのファイルの表示 テキストを該当する言語に変換します。フォームでルックアップ・テーブルを使

用していて、そのルックアップ・テーブルのローカライズ済みバージョンが存在 する場合は、ルックアップ・テーブル名を、そのファイルのロケール用の対応す るテーブルの名前に置き換えます。

- 5. 新規プロパティー・ファイルを、フォーム・アーカイブの zip ファイルに追加し ます。
- 6. フォームを Marketing Operations にインポートします。

フォームの新規バージョンが、エクスポートした公開済みバージョンの下に字下 げして表示されます。「公開」アイコンが使用可能になります。

フォームを公開して、前に公開されていたバージョンをインポートしたバージョンに置き換えます。

プロパティー・ファイルからローカライズされたテキストがデータベースにアッ プロードされ、すべてのユーザーが使用できるようになります。

リスト選択項目のデータ投稿の有効化

管理者は、読み取り専用リストを作成する場合に、ユーザーがフォーム内のリンク をクリックすることでデータ選択項目を指定のサーバーに送信できるようにするこ とが可能です。ユーザーが「データの投稿」リンクをクリックすると、選択した行 が新しいポップアップ・ウィンドウに表示されます。

データの投稿は、HTML POST メソッドに従い、名前と値のペアを使用して行われ ます。名前は列名で、値は選択した行の列の値です。ユーザーが複数の行を選択し た場合、値のペアはコンマで区切られます。

例えば、あるリストに 2 つの列 (ID と名前) があり、データ投稿 URL が http://serverRPT/testServlet に設定されているとします。 このリストの値は、 以下のとおりであるとします。

表 41. リストの値の例

ID	名前
1	name1
2	name2
3	name3

ユーザーが最初と 3 番目の行を選択し、その後でデータを投稿すると、システムに より、次の HTML フォームが新しいウィンドウ内に生成されます。

```
<form name="lvcPost" method="POST"
action="http://serverRPT/testServlet">
<input type="hidden" name="ID" value="1,3">
<input type="hidden" name="NAME" value="name1,name3">
</form>
```

投稿された列に複数のコンマ区切りの値が含まれている場合、これらの値は、投稿 時に二重引用符("")で囲まれます。投稿メソッドでは、通常、各列の値がコンマで 区切られるので、引用符により、これらの値は単一の列に属していると識別されま す。

既存のオブジェクトへのフォームの追加

既存のオブジェクト・テンプレートに新しいフォームを追加すると、その新しいフ ォームは、以前にそのテンプレートから作成したオブジェクトには表示されませ ん。フォームのデータベース表を手動で編集し、新しいフォームが、指定のタイプ (例えば、すべてのプロジェクト)のすべてのオブジェクトに表示されるようにする ことができます。

新しいフォームを既存のオブジェクトに表示するには、以下の SQL ステートメン トを使用して、そのオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクト ID を新しいフ ォームのデータベース表に挿入する必要があります。

INSERT INTO table_name (object_id) SELECT object_id
FROM object_system_table

ここで、

- table_name はフォームのテーブルの名前です
- object_id はオブジェクト・タイプのオブジェクト ID 列です
- object_system_table はオブジェクトのシステム・テーブルの名前です

このテーブルは、以下のような、各オブジェクト・タイプの ID 列とシステム・テ ーブル名を指定します

オブジェクト	ID 列	システム・テーブル
プロジェクト	project_id	uap_projects
プログラム	program_id	uap_programs
計画	plan_id	uap_plans
請求書	invoice_id	uap_invoices
マーケティング・ オブジェクト	mktg_object_id	uap_mktgobject

例えば、「dyn_x」という名前のテーブルを持つフォームをプロジェクト・テンプレートに追加した場合は、次の SQL ステートメントを実行して、すべての既存のプロジェクトにフォームを追加します。

INSERT INTO dyn_x (project_id) SELECT project_id FROM uap_projects

第7章 フォームでの属性の使用

属性は、ユーザーから収集する必要がある情報を定義します。情報には、テキス ト、整数、日付、事前定義されたリストからの選択項目などがあります。Marketing Operations で、これらのさまざまなタイプの情報を収集する属性を定義してから、 それらをフォーム上に配置します。その後で、1 つ以上のフォームがタブとしてテ ンプレートに追加されます。ユーザーは、項目を作成するときに、テンプレートを 選択します。各属性は、情報を収集するタブ上のフィールドまたはその他のユーザ ー・インターフェース制御に対応します。

すべての使用可能な属性タイプについては、139ページの『属性タイプについて』 を参照してください。

標準属性とカスタム属性

Marketing Operations は、すべてのマーケティング・オブジェクトの情報収集に使用 できる標準属性のセットを提供します。標準属性には、名前と説明が含まれていま す。追加情報を収集するには、カスタム属性を作成し、それらを有効にしてからフ ォームに追加します。

カスタム属性の作成を開始する前に、Marketing Operations 属性が共有またはローカ ルになるということと、フォームでの可能な使用方法に基づいてそれらが分類され ることに注意してください。

共有属性とローカル属性

カスタム属性は、さまざまなフォームで繰り返し使用されるのか、あるいは単一の フォームでのみ使用されるのかによって、共有またはローカルのいずれかになりま す。

- 共有属性は、任意のフォームにインポートして使用することができます。共有属 性を作成するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構 成」>「共有属性」をクリックします。
- ローカル属性は、単一のフォームにのみ適用されます。ローカル属性は、「新規 カスタム属性の作成」をクリックして、直接そのフォーム上で作成します。

属性のカテゴリー

カスタム属性は、情報収集の際に可能な使用方法に基づき、カテゴリーにグループ 化されます。この属性のカテゴリーは以下のとおりです。

- フォーム属性は、任意のフォーム上に配置できます。
- グリッド属性は、グリッド・インターフェースで使用できます。

IBM Marketing Operations と IBM Campaign が統合されている場合は、以下の属性 カテゴリーを使用できます。これらの属性は、IBM Campaign にマップされている 情報を収集します。

キャンペーン属性は、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートで使用できます。

- **セル**属性は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用できます。
- オファー属性は、オファー・テンプレートで使用できます。オファー属性は、オ プションのオファー統合が有効化されている場合に使用できます。

キャンペーン、セル、およびオファーの各属性は、共有属性としてのみ使用できます。

属性への必須のマーク付け

属性を作成するときは、その属性が必須であるかどうかを含め、属性の特別な動作 特性を指定できます。属性のこの特別な動作を選択する場合、その属性がユーザ ー・インターフェース制御としてフォームに実装されていると、対応するフィール ドの隣に赤いダブル・アスタリスク (**) が表示されます。システムにより、値が指 定されていることを確認するための編集検査も実施されます。

注: オファー属性に必須のマークを付けることはできません。オファー属性の特別 な動作は、フォームごとに定義します。

標準属性

標準属性セットは、すべてのマーケティング・オブジェクトに対して定義されま す。標準属性を以下に示します。

属性	説明
名前	マーケティング・オブジェクトの表示名。
説明	マーケティング・オブジェクトの作成または編集時に入力されたマ
	ーケティング・オブジェクトのテキスト記述。
TemplateName	このマーケティング・オブジェクトを作成する際のベースになった
	マーケティング・オブジェクト・テンプレートの ID。この ID
	は、マーケティング・オブジェクト・テンプレートの作成時に設定
	します。
Code	マーケティング・オブジェクトのオブジェクト・コード。
SecurityPolicy	このマーケティング・オブジェクトに関連付けられているセキュリ
	ティー・ポリシーの ID。この ID は、uap_security_policy テー
	ブルへの外部キーです。このテーブルでは、関連するセキュリティ
	ー・ポリシーの名前を見つけることができます。
Status	Active または Deleted です。すべてのマーケティング・オブジェク
	トは、削除されるまでは「Active」状況になっています。
State	マーケティング・オブジェクトの現在の状態。各マーケティング・
	オブジェクト・タイプには、それぞれ独自の状態と状態遷移のセッ
	トがあります。
CreatedBy	マーケティング・オブジェクトを作成したユーザーのユーザー
	ID。ユーザー ID は uap_user テーブルにリストされています。
CreatedDate	マーケティング・オブジェクトの作成日。
LastModUser	マーケティング・オブジェクトを最後に修正したユーザーのユーザ
	— ID。
LastModDate	マーケティング・オブジェクトに対して行われた最終変更の日付。

表 42. 標準のマーケティング・オブジェクト属性

表 42. 標準のマーケティング・オブジェクト属性 (続き)

属性	説明
ComponentID	このマーケティング・オブジェクトのベースとなっているマーケテ
	ィング・オブジェクト・タイプの内部名。

IBM Marketing Operations と **Campaign** が統合されたシステムでは、追加の標準オファー属性が使用可能です。「*IBM Marketing Operations and Campaign 統合ガイ* ド」を参照してください。

Marketing Operations と Campaign の統合の属性について

IBM Marketing Operations と Campaign が統合されているシステムでは、Marketing Operations を使用してキャンペーンとセルの属性を作成して有効にし、それらをフォーム上に配置してから、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートに入れます。オファー統合も有効化されているシステムでは、Marketing Operations を使用して、これらのオファー属性のタスクを実行し、オファー・テンプレートを作成します。

管理者のテンプレートが完成すると、ユーザーが Marketing Operations でキャンペーン・プロジェクトとオファーを追加および保守し、結果を Campaign に定期的に 公開します。

キャンペーン属性

IBM Marketing Operations と Campaign が統合されたら、Marketing Operations にカ スタム・キャンペーン属性を作成します。すべてのキャンペーン属性は共有され、 Marketing Operations を使用して、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを構 成するフォームにこれらの属性を追加します。

カスタム・キャンペーン属性を含んだテンプレートからキャンペーン・プロジェク ト用の連携キャンペーンを作成すると、対応する属性が Campaign に作成されま す。連携キャンペーンを作成した後で、キャンペーン属性によって作成されたフィ ールドに入力したデータを変更した場合、新しい情報を Campaign に送信するため に、キャンペーンを更新する必要があります。キャンペーン属性の説明およびフォ ームの説明を使用して、キャンペーンの更新が必要なフィールドをユーザーに通知 してください。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構 成」>「共有属性」を選択します。

セル属性

セル属性は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するために IBM Campaign にマップされる IBM Marketing Operations 属性です。 Marketing Operations には、すべての TCS に含まれるデフォルト・セル属性のセットがありま す。 Marketing Operations でカスタム・セル属性を作成することもできます。ユーザー が、カスタム・セル属性を含んだテンプレートから、キャンペーン・プロジェクト 用の連携キャンペーンを作成すると、対応するセル属性が Campaign に自動的に作 成されます。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構 成」>「共有属性」を選択します。

オファー属性

オファー統合が有効になると、Campaign の標準属性に対応する標準オファー属性の セットが Marketing Operations に提供されます。 Marketing Operations でカスタ ム・オファー属性を作成することもできます。すべてのオファー属性は、共有属性 です。

オファー属性を処理するには、「選択」>「Marketing Operations 設定」>「テンプ レート構成」>「共有属性」を選択します。

属性の作成、編集および削除について

「設定」> Marketing Operations「MO 設定」>「テンプレート構成」>「共有属 性」を選択し、「共有属性」ページから共有属性を作成、編集、および削除しま す。共有属性は、フォームで使用する前に、手動で有効にする必要があります。共 有属性は、有効にした後に編集したり削除したりすることはできません。

ローカル属性は、フォームから直接、作成、編集、および削除します。ローカル属 性は、作成すると自動的に有効になります。

共有属性を作成および有効化するには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「**テンプレート構成」**をクリックします。
- 3. 「共有属性」をクリックします。

表示されるページには、共有属性カテゴリーごとに 1 つのセクションがありま す。

4. 作成する属性について、「*<category>* 属性の作成 (Create a *<category>* Attribute)」をクリックします。

「新しい共有属性の作成」ダイアログが開きます。

- 5. 属性を定義する値を指定します。
- 6. 「保存して終了」をクリックし、属性を作成して「共有属性」ページに戻るか、 「保存して他を作成」をクリックし、属性を作成して別の新しい属性の値を入力 します。

別の属性カテゴリーを選択できます。

7. 「共有属性」ページで、各新規属性の行で「**有効にする**」をクリックして、フォ ームで使用できるようにします。

共有属性を編集する方法

共有属性を編集できるのは、その属性が使用可能になっていない場合のみです。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 2. 「**テンプレート構成**」をクリックします。
- 3. 「共有属性」をクリックします。
- 4. 編集する属性の属性名をクリックします。
- 5. 必要な変更を行い、「保存して終了」をクリックします。

共有属性を削除する方法

共有属性を削除できるのは、その属性が使用可能になっていない場合のみです。使 用可能になった属性は削除できません。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」をクリックします。
- 2. 「**テンプレート構成**」をクリックします。
- 3. 「共有属性」をクリックします。
- 4. 削除する属性の行で、「削除」をクリックします。

「共有属性」リスト・ページ

「共有属性」リスト・ページには、システムに定義されている各共有属性がリスト されます。属性は、属性カテゴリー (フォーム、グリッド、キャンペーン、セル、 およびオファー)別に編成されます。

属性ごとに、以下の列が表示されます。

表 43. 「共有属性」ページに関する情報

列	説明
表示名	属性の表示名。この名前がフォームに表示されます。
タイプ	属性タイプ。
使用者	この属性を使用するフォームのリスト。
有効化/削除 (Enable/Delete)	「有効化」をクリックして、属性をフォームで使用できるようにしま す。属性を有効化すると、「有効化/削除 (Enable/Delete)」が「有効化」 に置き換えられます。
	「 削除 」をクリックして、まだ有効化されていない属性を永久に削除し ます。

このリスト・ページには、以下のリンクが表示されます。

表 44. 「共有属性」ページ上のリンク

列	説明
フォーム属性の作	クリックして、フォームで使用する属性を作成します。
成 (Create a Form	
Attribute)	
グリッド属性の作	クリックして、グリッドで使用する属性を作成します。
成 (Create a Grid	
Attribute)	

表44. 「共有属性」ページ上のリンク (続き)

列	説明
キャンペーン属性	クリックして、IBM Campaign にマップする属性を作成します。
の作成 (Create a	
Campaign	
Attribute)	
セル属性の作成	クリックして、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するため
(Create a Cell	の、IBM Campaign にマップする属性を作成します。
Attribute)	
オファー属性の作	オプションのオファー統合が有効化されている場合に、クリックして、
成 (Create a Offer	IBM Campaign にマップする属性を作成します。
Attribute)	

ローカル属性を作成する方法

- 1. 属性を作成するフォームを開きます。
- 2. 「要素の追加」タブで、「新規カスタム属性の作成」をクリックします。
- 3. その属性に関する情報を指定します。
- 4. 「保存して終了」をクリックして、属性を作成してフォームに戻るか、または 「保存して他を作成」をクリックして、属性を作成して新規属性を作成する属性 画面を表示します。

フォームに戻り、「フォーム属性」のリストを展開します。新しい属性が表示され ているので、それをフォームにドラッグして、グループ上にドロップすることがで きます。

ローカル属性を編集するには

ローカル属性は、フォーム上に配置されてからのみ編集できます。「要素の追加」 タブの「**フォーム属性」**リストにある属性は編集できません。

- 1. 編集対象の属性があるフォームを開きます。
- 2. フォーム上で目的の属性をクリックします。

ダイアログが開きます。

- 3. 「カスタム属性の編集」をクリックします。
- 4. 必要な変更を行い、「保存して終了」をクリックします。

ローカル属性を削除する方法

フォーム上にある属性は削除できません。最初にその属性をフォームから移動させる必要があります。

- 1. 削除対象のローカル属性が含まれているフォームを開きます。
- 2. フォーム上の属性を見つけ、クリックして選択します。
- 3. 左上部にある「削除」アイコン (№) をクリックします。 属性がフォームから 削除されます。
- 4. 「要素の追加」タブで、「フォーム属性」リストを展開して、「カスタム属性」 リストから属性を選択します。

- 5. 「選択した属性の削除」をクリックします。確認ダイアログが開きます。
- 6. 「OK」をクリックします。

属性参照

属性の作成または編集時に表示されるオプションは、その属性のカテゴリーおよび 属性タイプによって異なります。ただし、フィールドの多くは、どのカテゴリーや 属性タイプでも同じです。

標準の属性フィールド

次の表では、属性タイプを作成または編集する際に、大部分の属性タイプで入力す る標準情報について説明します。「**属性タイプ**」を選択すると、追加のフィールド が表示されます。属性タイプについて詳しくは、139ページの『属性タイプについ て』を参照してください。

表 45. 基本オプション

フィールド	説明
属性カテゴリー	属性のカテゴリー。
	 ローカル属性の場合は、デフォルトの「フォーム属性」が使用されます。「グリッド属性」を指定することができます。
	 共有属性の場合、「共有属性」ページで選択したリンクに基づいてカ テゴリーが指定されます。
属性タイプ	属性のタイプ。属性タイプは、属性が保持するデータのタイプ、そのデ ータのデータベースへの入力方法、および表示されるユーザー・インタ ーフェース・コントロールのオプションを制御します。使用可能なタイ プは選択した属性カテゴリーによって異なります。139ページの『属性 タイプについて』を参照してください。
	注:新規属性を保存した後に属性タイプを変更することはできません。 誤ったタイプを選択した場合は、いったん属性を削除してから、新たに 属性を作成する必要があります。
属性内部名	内部で使用される、属性の固有の名前です。スペースや特殊文字を使用 しないでください。
属性表示名	オブジェクト・インスタンスのフォームやユーザー・インターフェース で使用される、属性の表示名。スペースおよび UTF-8 文字を使用でき ます。
属性データベース 列名	属性の値が保管されるデータベース列の名前。デフォルトでは、この名前は「 属性内部名 」と同じです。データベースの文字の長さ制限を超えないようにしてください。また、データベース用に予約されている語の使用は避けてください。 139ページの『属性データベース列についてのデータベースの考慮事項』を参照してください。
データベース列名 の編集	指定されている「 属性データベース列名 」の値を編集する場合に選択し ます。
	システム提供の属性では使用できません。
説明	属性の説明。
ヘルプ・テキスト	ユーザー・インターフェース・コントロールの隣に説明ツールチップと して表示される簡略メッセージ。

この表は、ほとんどのグリッド属性で定義する追加の情報について説明しています。

表 46. グリッド属性オプション

フィールド	説明
ソート可能	ユーザーがこの列の値に基づいてテーブル・データをソートできるよう
	にするには、このオブションを選択します。
ソート・タイプ	この列の値のソート方向。昇順でソートする場合は「昇順」を選択し、 降順でソートする場合は「降順」を選択します。
グループ化可能	このグリッド属性を読み取り専用グリッドに追加した後でのみ適用され ます。
調整	テーブル内での属性の配置。「左」、「中心」、または「右」から選択 できます。デフォルトは「左」です。
サマリー関数	「属性タイプ」が「10進数」、「整数」、「金額」、または「計算」 の場合にのみ使用できます。 その列で単純計算を行い、グリッドの最下部にあるサマリー行に結果を 表示します。オプションは「合計」、「平均」、「最小」、または「最 大」です。グリッドのどの列にもサマリー関数がない場合、サマリー行 は存在しません。

次の表には、すべての属性について入力する標準表示情報を示します。

表 47. 表示オプション

フィールド	説明
フォーム要素タイ プ	フォーム上に表示する、この属性のユーザー・インターフェース・コン トロールのタイプ。ユーザー・インターフェース・コントロールの例と して、テキスト・フィールド、チェック・ボックス、およびドロップダ ウン・リストなどが挙げられます。使用可能なタイプは、選択されてい る「 属性カテゴリー 」および「 属性タイプ 」によって異なります。
特別な動作	 オプションには、「なし」、「必須」、または「読み取り専用」があります。 ユーザーがこのフィールドの値を指定せずにフォームを保存することを回避するには、「必須」を選択します。選択されると、「追加されます。
	ない場合に表示されるエラー・メッセーシ」の追加のテキスト・フィ ールドが表示されます。 ・属性を表示しても、ユーザーが値を指定できないようにするには、 「読み取り専用」を選択します。
	デフォルトは「なし」です。 「イメージ」または「計算」属性タイプ、あるいはシステム提供の属性 には適用されません。
属性データベース列についてのデータベースの考慮事項

属性の「**属性データベース列名**」の値を設定する際は、注意が必要です。ご使用の データベースには予約語のセットがあり、これらのいずれかを属性名に使用する と、IBM Marketing Operations がデータベースに書き込みをするときにエラーが発 生する可能性があります。

各データベース管理システムには、異なる予約語のセットがあります。これらは変 更される可能性があるため、ここですべてをリストすることはできません。以下 に、この問題を説明する短いリストを示します。包括的なリストについては、ご使 用のデータベースの資料を参照してください。

DBMS	一部の予約語
MS SQL	Boolean, Browse, File, Group, Plan, Primary
Oracle	Cluster, Group, Immediate, Session, User
DB2 [®]	Blob, Column, Group, Rollback, Values

Oracle データベースを使用している場合、「属性データベース列名」の値は、30 文字に制限されています。その他すべてのデータベースの場合、この制限は32 文字です。

IBM Marketing Operations と IBM Campaign を統合している場合は、CLOB フィー ルドを避けてください。これは、Campaign がそれらをサポートしていないためで す。

Microsoft SQL Server データベースを使用している場合は、1 次キー・フィールドの「Identity」オプションはサポートされていないことに注意してください。

属性タイプについて

以下の属性タイプが使用可能です。各タイプの属性が実装された結果のユーザー対 話の説明が、後に続きます。標準フィールドと表示オプション以外にも情報を必要 とする属性タイプには、詳細情報のための相互参照が組み込まれます。

表 48. 属性タイプ

属性タイプ	説明
テキスト - 1 行	単一行のテキスト用のフィールドが表示されます。 142 ページの『「テキスト」属性タイプ』を参照してください。
テキスト - 複数行	複数行のテキスト応答用のフィールドが表示されます。 142 ページの『「テキスト」属性タイプ』を参照してください。
1 つ選択	ユーザーが単一項目を選択するための、ハードコーディングさ れたドロップダウン・リストまたはラジオ・ボタンのセットの 形式で、項目が表示されます。 (セル属性には使用できませ ん。)143ページの『「単一選択」属性タイプ』を参照してく ださい。

表 48. 属性タイプ (続き)

属性タイプ	説明
1 つ選択 - データベース	ユーザーが単一項目を選択するための、ドロップダウン・リス トまたはラジオ・ボタンのセットの形式で、データベース・ル ックアップ・テーブルの値が表示されます。 (セル属性には使
	用できません。)143 ページの『「単一選択 - データベース」 属性タイプ』を参照してください。
複数を選択 - データベース	ユーザーが1つ以上の項目を選択するための、複数選択リスト形式またはチェック・ボックス群の形式で、データベース・ ルックアップ・テーブルの値が表示されます。(フォーム属性 とグリッド属性にのみ使用できます。)144ページの『「複数 選択 - データベース」属性タイプ』を参照してください。
「はい」または「いいえ」	ユーザーが 2 つのオプション (True と False など) のいずれ かを選択するためのコントロールを提供します。ドロップダウ ン・リスト、ラジオ・ボタンのセット、またはチェック・ボッ クス群を選択できます。 145 ページの『「「はい」または 「いいえ」」属性タイプ』を参照してください。
日付の選択	日付を受け入れるようにフォーマットされたフィールドと、ユ ーザーがカレンダーから日付を選択するためのコントロールが 表示されます。
整数	整数値 (パーセンタイルや重みなど)を受け入れるようにフォ ーマットされたフィールドが表示されます。
10 進数	小数 (3.45 など) を受け入れるようにフォーマットされたフィ ールドが表示されます。 146 ページの『「10 進数」属性タイ プ』を参照してください。
金額	通貨の値を受け入れるようにフォーマットされたフィールドが 表示されます。146ページの『「金額」属性タイプ』を参照し てください。
ユーザー選択	ユーザーがユーザーを選択できるように、全システム・ユーザ ーのリストが表示されます。(フォーム属性とグリッド属性に のみ使用できます。)
外部データ・ソース	LDAP 検索ダイアログを開き、フィールドに Active Directory ユーザーのデータを埋め込むためのコントロールを提供しま す。(フォーム属性にのみ使用できます。)
算出値	他のフィールドの単純計算の結果が表示され、保管されます。 147 ページの『「計算」属性タイプ』を参照してください。
URL フィールド	Web ページへのハイパーリンクが表示されます。(グリッド属 性にのみ使用できます。) 148 ページの『「URL フィールド」 属性タイプ』を参照してください。
単一選択オブジェクト参照	フォームまたはグリッド上のマーケティング・オブジェクトを 参照します。 (フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できま す。)149 ページの『「オブジェクト参照」属性タイプ』を参 照してください。
複数選択オブジェクト参照	フォームまたは編集可能なグリッド上のマーケティング・オブ ジェクトを参照します。 (フォーム属性とグリッド属性にのみ 使用できます。)149 ページの『「オブジェクト参照」属性タ イプ』を参照してください。

表 48. 属性タイプ (続き)

属性タイプ	説明
イメージ	ユーザー指定のグラフィックが表示されます。(フォーム属性
	にのみ使用できます。) 150 ページの『「イメージ」属性タイ
	プ』を参照してください。
クリエイティブ URL	ユーザーが、既存のデジタル資産を選択するか、資産を追加し
	て、その資産に対するハイパーリンクを表示するためのコント
	ロールを提供します。 (標準のクリエイティブ URL 属性での
	み使用可能です。) 150 ページの『「クリエイティブ URL」属
	性タイプ』を参照してください。

以下の属性タイプは、ローカル属性でのみ使用可能です。

表49. ローカル属性でのみ使用可能な属性タイプ

属性タイプ	説明
オブジェクト属性フィール ド参照	マーケティング・オブジェクトの既存の属性が表示されます。 (フォーム属性とグリッド属性にのみ使用できます。)151ペー ジの『「オブジェクト属性フィールド参照」属性タイプ』を参 照してください。
単一リスト・オブジェクト 参照	読み取り専用グリッド上のマーケティング・オブジェクトの参照に使用します。(グリッド属性にのみ使用できます。)152ペ ージの『「単一リスト・オブジェクト参照」属性タイプ』を参照してください。
依存フィールド	別のフィールドによる制約を受ける値を持つフィールドを追加 します。 153 ページの『「依存フィールド」属性タイプ』を 参照してください。

キャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ

IBM Marketing Operations と IBM Campaign の両方に存在する属性タイプのみが、 キャンペーン属性およびセル属性で使用できます。

オファーも統合するシステムの場合、オファー属性にも同じ制約が適用されます。 ただし例外があり、Campaign に公開する場合は、「クリエイティブ URL」オファ ー属性の属性タイプが「テキスト・フィールド - ストリング」に変わります。

表 50. Marketing Operations のキャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タ イプ

	キャンペーン		
属性タイプ	属性	セル属性	オファー属性
テキスト - 1 行	Х	Х	Х
テキスト - 複数行	Х	Х	Х
1 つ選択	Х		Х
1 つ選択 - データベース	Х		Х
複数を選択 - データベース			
「はい」または「いいえ」	Х	Х	
日付の選択	Х	Х	Х

	キャンペーン		
属性タイプ	属性	セル属性	オファー属性
整数	Х	Х	
10 進数	Х	Х	Х
金額	Х	Х	Х
ユーザー選択			
外部データ・ソース			
算出值	Х	Х	Х
URL フィールド			
単一選択オブジェクト参照			
複数選択オブジェクト参照			
イメージ			
クリエイティブ URL			Х

表 50. Marketing Operations のキャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ (続き)

注: 「単一選択 - データベース」属性タイプの属性の場合、IBM Marketing Operations は選択のルックアップ値 (表示値ではなく) を IBM Campaign に渡しま す。ルックアップ値および表示値は、ルックアップ・テーブルを作成する際に決定 します。

Marketing Operations には、スタンドアロンの IBM Campaign のカスタム属性で使 用可能な「変更可能なドロップダウン・リスト」に対応する属性タイプはありません。

「テキスト」属性タイプ

フォームまたはグリッド・コンポーネントにテキストを表示するために、IBM Marketing Operations には 2 つの属性タイプが用意されています。

- テキスト 1 行: テキストを 1 行分だけ入力したり表示したりできる、小さなテ キスト・ボックスを追加します。
- テキスト 複数行: テキストを複数行入力したり表示したりできる、大きめの長 方形のテキスト・ボックスを追加します。

標準の属性フィールドに加え、テキスト属性では以下のような表示オプションを定 義します。

表 51. テキスト属性の表示オプション

フィールド	説明
フィールドの最大 長	ユーザーがフィールドに入力できる最大文字数です。最大長を入力しな い場合は、「Clob の使用」チェック・ボックスを選択します。
フィールドのデフ ォルト値	ユーザーが値を入力しない場合にフィールドに保管される値。
Clob の使用	CLOB データ型を使用します。このチェック・ボックスを選択すると、 「フィールドの最大長」フィールドの値は無視されます。このオプショ ンは、キャンペーン属性には使用できません。

「単一選択」属性タイプ

頻繁に変更されない、比較的短いオプションのリストからユーザーが値を 1 つ選択 できるようにする場合に、「単一選択」属性タイプをフォームに追加します。「フ ィールドで許可する値」フィールドで属性を作成する際に、ユーザーが選択するた めのオプションを定義します。また、「フィールド・タイプ」フィールドでは、属 性をドロップダウン・リストとして表示するか、ラジオ・ボタン・グループとして 表示するかを定義します。ユーザーはそのリストから 1 つの選択項目のみを選択で きます。

注: この属性タイプはセル属性には使用できません。

表 52.	「単	-選択」	属性のオ	フ	ショ	ン

フィールド	説明
フィールドで許可	新しい値を入力する場合に使用するテキスト・ボックス。値を入力した
する値	ら、「 追加 」をクリックして許可する値のリストに追加します。
	値のリストは、その表示順どおりにフォームに表示されます。このリス
	ト・ボックスの右側のコントロールをクリックすると、リストを編成で
	きます。
	• 削除 : 選択した値を削除します。
	• 上へ: 選択した値をリスト内で上に移動します。
	• 下へ: 選択した値をリスト内で下に移動します。
フィールドのデフ	属性のデフォルト値を指定する場合に使用するドロップダウン・リス
オルト値	ト。「 使用可能な値」 のうち、任意の値を選択できます。

「単一選択 - データベース」属性タイプ

「単一選択 - データベース」属性タイプは、「単一選択」属性タイプと同様に機能 しますが、選択項目のリストが、有効な項目を含むデータベース表から取得される 点が異なります。選択肢のオプションのリストが比較的長い場合や、変更される可 能性がある場合は、「単一選択 - データベース」属性タイプの使用を検討してくだ さい。

「単一選択 - データベース」属性を別のフィールドの値に依存させることができま す。例えば、市町村のリストの選択項目を、選択されている都道府県に依存させる ことなどが可能です。

注:この属性タイプはセル属性には使用できません。

「単一選択 - データベース」属性を作成する場合、ルックアップ・テーブルと、以下の表に示されているその他の情報を指定する必要があります。

追加の基本オプション・フィールド

「単一選択 - データベース」属性には、以下のような追加の基本オプションがあります。

表 53. 「単一選択 - データベース」属性のオプション

フィールド	説明
データベース表名	「このデータベース表の値を使用」フィールドのテーブル名のドロップ
のフィルター	ダウン・リストをフィルタリングする場合に使用する値。指定されたテ
	キストがテーブル名に含まれるルックアップ・テーブルのみがリストに
	含まれます。このフィールドが空の場合、データベース内のすべてのル
	ックアップ・テーブルがリストに含まれます。
このデータベース	ユーザーに表示する値を含むテーブルを選択します。
表の値を使用	
キー列	テーブルの1次キーを選択します。
表示列	フォームに表示する値を含むデータベース列を選択します。
ソート列	フォームに表示されるときのリストの順序を決定する列を選択します。
昇順 / 降順	リストからソート順を選択します。
このフィールドは	このリストに表示される値を、ユーザーが別のフィールドで選択する内
次の列に依存しま	容に依存するようにするには、チェック・ボックスを選択して、ドロッ
す	プダウン・リストからデータベース列を指定します。 (このオプション
	はグローバル属性には使用できません。)

「追加のグリッド・オプション (Additional Grid Attribute Options)」フィールド

「単一選択 - データベース」属性には、以下のような追加のグリッド・オプション があります。

表 54. 「単一選択 - データベース」属性のグリッド・オプション

フィールド	説明
ルックアップ値を	これを選択すると、ユーザーがグリッドを保存するたび、あるいはリフ
キャッシュしない	レッシュするたびにオプションのリストを更新します。

追加の表示オプション・フィールド

「単一選択 - データベース」属性には、以下のような追加の表示オプションがあります。

表 55. 「単一選択 - データベース」属性の追加の表示オプション

フィールド	説明
フィールドのデフ	その属性のデフォルト値を選択するか、またはその属性にデフォルト値
ォルト値	を指定しない場合は、このフィールドを空白のままにします。(リストに
	は、「表示列」フィールドに指定されたデータベース列のすべての値が
	含まれます。)

「複数選択 - データベース」属性タイプ

ユーザーがオプションの有効なリストから複数の値を選択できるようにする属性を 定義できます。例えば、銀行の特定のマーケティング・キャンペーン用の製品を指 定する場合に、以下のオプションのうち 1 つ、2 つ、またはすべてを選択すること ができます。

- 1 年ものの譲渡性預金
- 5 年ものの譲渡性預金
- 銀行クレジット・カード

フィールドで複数の選択をオファーするには、「複数選択 - データベース」という タイプの属性を使用します。複数選択属性の作成は「単一選択」属性の作成と類似 していますが、追加で行うセットアップがいくつかあります。

注: この属性タイプは、キャンペーン、セル、およびオファーの各属性には使用できません。

「複数選択 - データベース」属性を作成する場合は、ルックアップ・テーブル、およびその他の情報を指定する必要があります(143ページの『「単一選択 - データベース」属性タイプ』を参照してください)。

「複数選択 - データベース」属性を作成する場合は、以下の制約事項に留意してく ださい。

- 「属性データベース列名」フィールドの値は、属性カテゴリー全体で一意でなければなりません。(グリッド属性とフォーム属性の両方に、同じデータベース列名を使用することはできません。)
- 属性を作成した後は、キー列のデータ型を変更しないでください。

以下の表示オプションも指定する必要があります。

表 56. 「複数選択 - データベース」属性のオプション

フィールド	説明
複数選択結合テー	この属性に使用する結合テーブルの名前。各「複数選択 - データベー
ブル名	ス」属性には、一意の結合テーブルがなければなりません。
(Multi-Select Join	
Table Name)	

「「はい」または「いいえ」」属性タイプ

2 つの値 (true/false、yes/no など) のうち 1 つしか指定できない属性を作成できま す。例えば、ユーザーが質問に対して「はい」または「いいえ」のいずれかを入力 するフォームを作成できます。「「はい」または「いいえ」」属性タイプは、この ような目的に使用します。

「「はい」または「いいえ」」フィールドはチェック・ボックス、ドロップダウ ン・リスト、またはラジオ・ボタン・グループとして表示できます。

注:この属性タイプはオファー属性には使用できません。

「「はい」または「いいえ」」属性には、以下のような追加の基本オプションがあ ります。

表 57. 「「はい」または「いいえ」」属性のオプション

フィールド	説明	
デフォルト値	属性のデフォルト値を指定します。「はい」、「いいえ」、または「利	
	用不可」を選択できます。(フォーム要素タイプに「チェック・ボック	
	ス」を選択した場合、「利用不可」は「いいえ」と同じです。)	
表示名フィールド	それぞれの有効値の表示名を指定します。デフォルトは「はい」、「い	
(Display name	いえ」、および「利用不可」です。	
fields)		
	表示オフションでフォーム要素タイフとして「ナエック・ホックス」を	
	選択した場合、表示名は使用されません。	
ソート順フィール	これらのフィールドの値は、有効値をフォームにリストするときの順序	
ド (Sort Order	を指定します。デフォルトでは、その順序が「はい」、「いいえ」、お	
fields)	よび「利用不可」になります。	
	値のソート順フィールドをクリアすると、その値はユーザーに表示され ません。	
	表示オプションでフォーム要素タイプとして「チェック・ボックス」を	
	選択した場合、ソート順は適用されません。	

「10 進数」 属性タイプ

10 進数属性を使用して、非整数値を表示することができます。例えば、10 進数属性を使用して、パーセンテージを含むフィールドを表します。

10 進数属性には、次のような追加の基本オプションがあります。

表 58.10 進数属性のオプション

フィールド	説明
フィールドの小数	ユーザーが小数点以下に入力できる桁数。最大値は 7 です。
点以下の桁数	

10 進数属性には、次のような追加の表示オプションがあります。

表 59.10 進数属性の表示オプション

フィールド	説明
フィールドのデフ	ユーザーが値を入力しない場合に使用される値。
ォルト値	

「金額」属性タイプ

金額属性は、給与や項目コストなどの通貨の値を表します。

通貨記号は、ユーザーのロケール情報から設定されます。

金額属性には、次のような追加の基本オプションがあります。

表 60. 金額属性の基本オプション

フィールド	説明
フィールドの小数	ユーザーが小数点以下に入力できる桁数。デフォルト値は 2 です。属
点以下の桁数	性にコンバージョン率 (通常は小数点以下 5 桁) または単位あたりのコ
	スト (マイクロセント) が表示される場合は、さらに小数点以下の桁数
	を指定できます。最大値は7です。

金額属性には、次のような追加の表示オプションがあります。

表 61. 金額属性の表示オプション

フィールド	説明
フィールドのデフ	ユーザーが値を入力しない場合に使用される値。
ォルト値	

「計算」属性タイプ

計算属性は、指定の式に基づいて値が計算される読み取り専用フィールドです。

計算属性が含まれているフォームを保存する場合、IBM Marketing Operations により式が検査され、それらが有効であることが確認されます。

計算属性には、以下の追加の基本オプションがあります。

表 62. 計算属性のオプション

フィールド	説明	
式	値を計算する式。この式で使用される属性は、計算属性と同じフォーム に含まれていなければなりません。	
フィールドの小数 点以下の桁数	小数点以下の表示桁数	

式の構文

以下の2項演算を実行できます。

- 加算 (+)
- 減算 (-)
- 乗算 (*)
- 除算 (/)

任意の数のコンマ区切りオペランドについて、以下の演算を実行できます。

- 合計: 例えば、Sum(Salary, 1000, Bonus)
- 平均: 算術平均 (例えば、Avg(BudgQtr1, BudgQtr2, BudgQtr3))
- 最小: 最小値を選択します (例えば、Min(IQ, 125))
- 最大: 最大値を選択します (例えば、Max(Sale1, Sale2, Sale3, Sale4))

オペランドは、以下のいずれかになります。

• 10 進定数 (例えば、2.5)。

 以下のようなタイプの現行フォームの属性の属性内部名。金額、整数、10 進数、 または計算。式がフォームに含まれていない属性を参照している場合、フォーム を保存すると、エラーになります。

計算属性の例

「給与 (Wages)」フォームに以下の通貨フィールドが含まれているとします。「基本給 (BaseSalary)」、「ボーナス」、「保険」、および「連邦税 (FedTax)」。「手取り (Net pay)」という名前の計算フィールドを作成し、そのフィールドに次の式を入力できます。BaseSalary+Bonus-FedTax-Insurance

避けるべき例

ある計算フィールドを別の計算フィールド内で参照することができるので、無限に 反復しないよう注意してください。例えば、以下の属性を持つフォームを考えてみ てください。

- 給与: 整数または金額の属性
- 歩合 (Commission) = 給与 + (ボーナス * 0.10)
- ボーナス = (歩合 * 0.5) + 1000

「歩合 (Commission)」と「ボーナス」の属性は相互に参照し、システムが値の計算 を試みると無限ループになります。

グリッド属性の例

計算フィールドは、グリッドでもフォームでも使用できます。単純な例として、グ リッドに単位と単位あたりのコストの列が含まれている場合は、グリッドの列を作 成し、合計コスト Units * CostPerUnit を表すことができます。

「URL フィールド」属性タイプ

グリッドまたはフォームにハイパーテキスト・リンクを追加するには、「URL フィールド」属性を使用します。グリッドの場合、グリッドに追加された行ごとに、 URL へのリンクを指定できます。

「URL フィールド」属性では、実際の URL を保持するデータベース列 (URL の データベース列) と、最終的なグリッドまたはフォームに表示するリンク・テキス ト (データベース列) を指定します。

注: この属性タイプは、キャンペーン、セル、およびオファーの各属性には使用できません。

例えば、ベンダーのデータを含むグリッドがあり、ベンダーごとにそれぞれの Web サイトを指定する必要があるとします。フォーム・エディターで、以下のように 「URL フィールド」属性を作成することができます。

表 63. ベンダーの URL フィールドをグリッドに追加する場合の設定例

フィールド	値	説明
属性タイプ	URL フィールド	「URL フィールド」属性タイプを指定
		します。
属性内部名	vendorURL	属性の固有の識別子。

表 63. ベンダーの URL フィールドをグリッドに追加する場合の設定例 (続き)

フィールド	値	説明
属性表示名	Vendor URL	ユーザー・インターフェースに表示され
		るラベル。
属性データベース列名	textURL	リンクの表示テキストを保持するために
		追加するデータベース列。
URL のデータベース列	linkURL	実際の URL を保持するために追加され
		るデータベース列。
		http:// を入力する必要けありません。例
		http:// とハリッジシ安はのりよど/0。内 ラげ Google にリンクする場合
		えな、Google にリンクリる場合、
		www.google.com
		http://www.google.com のどちらを入力
		してもかまいません。

このフォームを使用する IBM Marketing Operations でオブジェクトをセットアップ したら、グリッド行の追加またはフォームへのデータ追加を行うユーザーが URL を指定します。グリッドでは、ユーザーは各行に URL を指定できます。これ以降 にユーザーがリンクをクリックすると、新しいウィンドウにその Web サイトが開 きます。

「オブジェクト参照」属性タイプ

「オブジェクト参照」属性を使用して、マーケティング・オブジェクトをプロジェ クトやその他のマーケティング・オブジェクトに関連付けます。「オブジェクト参 照」属性により、セレクターがアタッチされたフィールドが作成されます。ユーザ ーは、セレクター内で特定のマーケティング・オブジェクトを検索した後、それを 作成または編集中のプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトに追加する ことができます。

「複数選択オブジェクト参照」属性と「単一選択オブジェクト参照」属性は類似し ていますが、結果のユーザー・インターフェース・フィールドに含むことができる のは、前者は複数エントリーであるのに対して後者は単数エントリーです。

これらの属性は、読み取り専用グリッドに追加することはできません。マーケティ ング・オブジェクト参照を読み取り専用グリッドに追加するには、「単一リスト・ オブジェクト参照」属性を使用します。

注: これらの属性タイプは、キャンペーン、セル、およびオファーの各属性には使 用できません。

「オブジェクト参照」属性を指定するには、以下のような、この属性タイプに固有 の情報を入力します。

表 64. 「オブジェクト参照」属性のオプション

フィールド	説明
マーケティング・	ユーザーに表示されるリストに載せる項目のマーケティング・オブジェ
オブジェクト・タ	クト・タイプ。
イプ	

表 64. 「オブジェクト参照」属性のオプション (続き)

フィールド	説明
テンプレート ID	指定されたマーケティング・オブジェクト・タイプの特定のテンプレートの ID。以下の「自動作成」チェック・ボックスを選択すると、このテンプレートを使用してオブジェクトが作成されます。それ以外の場合、指定のテンプレートを使用して作成されたマーケティング・オブジェクトのみがユーザーに表示されます。
クリックで実行	 フォーム上のオブジェクト・リンクをクリックするときに、以下のよう な宛先画面を選択します。 「サマリー」タブ:マーケティング・オブジェクトのサマリー・ページが開きます 「分析」タブ:分析ページが開きます 注: このフィールドは、グリッドにのみ使用できます。
修正	このフォームが含まれているオブジェクトが、マーケティング・オブジ ェクトのコンテンツの変更または更新(例えば、「順序の変更」または 「作業要求」プロジェクト)を目的とする場合は、このオプションを使 用します。 注:このフィールドは、フォームにのみ使用できます。
参照	このオプションを使用して、マーケティング・オブジェクトを参照する だけで、変更しないことを示します。 注: このフィールドは、フォームにのみ使用できます。
自動作成	 このオプションを選択して、ユーザーがオブジェクトを作成するときに、この属性を持つフォームを含むテンプレートを選択した場合に、「空の」マーケティング・オブジェクトを作成します。以下の点に注意してください。 このチェック・ボックスは、「複数選択オブジェクト参照」属性には使用できません。 このチェック・ボックスは、フォームがマーケティング・オブジェクトに追加される場合は無効です。これは、マーケティング・オブジェクトが他のマーケティング・オブジェクトを自動的に作成できないためです。 このフィールドは、フォーム上の「単一選択オブジェクト参照」属性にのみ使用できます

「イメージ」属性タイプ

ユーザーがプロジェクトまたはマーケティング・オブジェクトのタブ上にグラフィ ックを表示できるようにするには、イメージ属性を使用します。この属性により、 イメージの表示領域と、「参照」ボタンを備えたフィールドが作成されるので、ユ ーザーは表示するグラフィックを選択することができます。

注: この属性タイプは、グリッド、キャンペーン、およびセルの各属性には使用できません。

「クリエイティブ URL」属性タイプ

「クリエイティブ URL」属性を使用すると、ユーザーは Marketing Operations 資産 ライブラリーのデジタル資産をオファーに含めることができます。「クリエイティ ブ URL」属性タイプは、ユーザーが資産を選択してその資産に対するハイパーリン クを表示するためのユーザー・インターフェース・コントロールを提供します。

表 65. 「クリエイティブ URL」属性タイプのオプション

フィールド	説明
フィールドのデフ	ユーザーが、資産ライブラリーから既存のデジタル資産を選択するか、
ォルト値	資産を追加してからそれを選択するためのコントロールを提供します。
	選択した資産の名前は、デジタル・ファイルへのリンクとして、対応す
	るフィールドに表示されます。このタイプの属性を含んだオファー・イ
	ンスタンスのユーザー・インターフェースに、同じコントロールが表示
	されます。

「オブジェクト属性フィールド参照」属性タイプ

ローカルの「オブジェクト属性フィールド参照」属性を特定のフォームに追加し て、フォームにリンクされたマーケティング・オブジェクトに関する情報を表示し ます。例えば、フォームに、「Brochure01」という名前のマーケティング・オブジ ェクトの「単一選択オブジェクト参照」属性が含まれている場合は、「オブジェク ト属性フィールド参照」属性を追加して、「Brochure01」の任意の属性 (そのステ ータスなど)を表示することもできます。

注:「複数選択オブジェクト参照」属性に対応する「オブジェクト属性フィールド 参照」属性を作成することはできません。

結果のオブジェクト属性フィールド情報は、表示専用です。ユーザーはこれを編集 することはできません。

この属性タイプは、ローカル属性としてのみ使用可能です。

標準マーケティング・オブジェクト属性とカスタム属性の両方を参照できます。カ スタム属性の場合は、属性名と、マーケティング・オブジェクト・テンプレート内 の属性が含まれているフォームの名前を知っている必要があります。標準マーケテ ィング・オブジェクト属性のリストについては、132ページの『標準属性』を参照 してください。

「オブジェクト属性フィールド参照」属性に必要な追加の基本オプションは、以下 のとおりです。

フィールド	説明
属性名	参照するマーケティング・オブジェクト属性の名前。
	標準属性を参照するには、ドロップダウン・リストからその属性を選択 します。
	カスタム属性を参照するには、フォーム <form_name>.<internal_name> に名前を入力します。ここで、</internal_name></form_name>
	 form_name は、マーケティング・オブジェクト・テンプレート内のカ スタム属性が含まれるフォームの名前です。
	 internal_name は、カスタム属性の「属性内部名」フィールドの値です。

表 66. 「オブジェクト属性フィールド参照」属性の追加の基本オプション

表 66. 「オブジェクト属性フィールド参照」属性の追加の基本オプション(続き)

フィールド	説明
参照オブジェクト	マーケティング・オブジェクトを参照する現在のフォーム上の属性の内
	部名。

「単一リスト・オブジェクト参照」属性タイプ

ローカルの「単一リスト・オブジェクト参照」属性を特定のフォームに追加して、 以下を行います。

- リスト上のマーケティング・オブジェクトを参照します(「単一選択オブジェクト参照」または「複数選択オブジェクト参照」の属性を使用して、グリッド上のマーケティング・オブジェクトを参照する場合と同じ方法で行います)。
- グリッドをオブジェクト (プロジェクトまたはマーケティング・オブジェクト)の リストとして表示します。詳しくは、113ページの『グリッドをリストとして表 示する方法』を参照してください。

この属性タイプは、グリッドのローカル属性としてのみ使用できます。

115ページの『例:マーケティング・オブジェクトのリストの作成』には、「単一リスト・オブジェクト参照」属性の使用例が用意されています。

単一リスト・オブジェクト参照属性を指定するには、以下のような、この属性タイ プに固有の情報を入力する必要があります。

フィールド	説明
クリックで実行	オブジェクトのタブ (リスト・ビューからオブジェクト・リンクをクリ ックすると開きます) を選択する場合に使用します。選択すると、「サ マリー」タブまたは「分析」タブのいずれかにナビゲートできます。
オブジェクト参照	リスト・ビューでマーケティング・オブジェクトのリストを表示する場
ID 列	合に使用します。このオプションを選択すると、「 オブジェクト参照タ
	イプ列 」フィールドがアクティブになります。
	マップしているオブジェクトのオブジェクト・インスタンス ID 列に対
	応する値を入力します。
オブジェクト参照	リスト・ビューでマーケティング・オブジェクト参照を表示する場合
タイプ列	に、「オブジェクト参照 ID 列」フィールドとともに使用します。
	マップしているオブジェクトのオブジェクト・タイプ列に対応する値を 入力します。

表 67. 「単一リスト・オブジェクト参照」属性のオプション

表 67. 「単一リスト・オブジェクト参照」属性のオプション (続き)

フィールド	説明
グリッド・オブジ	グリッドをリスト・ビューとして表示する場合に使用します。このオプ
エクト参照列	ションを選択する場合は、フィールドに以下の情報を入力する必要があ ります。
	 グリッドが含まれているフォームの名前。このフィールドは、フォームが Marketing Operations にアップロードされたときに選択された、Marketing Operations 内のフォームの名前を示します。 グリッドに定義された、「単一選択オブジェクト参照」属性の内部名。
	構文は、 <form_name>.<attribute_name> です。</attribute_name></form_name>
	 例えば、「Brochure」という内部名の「単一選択オブジェクト参照」属 性を持つグリッドがあり、グリッドが Marketing Operations の 「EventCollateral」という名前のフォームに含まれている場合は、この
	フィールドに「EventCollateral.Brochure」と入力します。

「依存フィールド」属性タイプ

依存フィールドは、値が別のフィールドによって制約される属性です。例えば、選 択した都道府県のすべての市区町村を表示するフィールドが必要な場合は、市区町 村のフィールドを都道府県のフィールドに依存させることができます。ある属性を 別の属性に依存させることができるのは、それを特定のフォームに追加する場合だ けです。つまり、共有属性を作成する場合、その属性が追加されるフォームの範囲 を除き、作成時にその属性を依存フィールドにすることはできません。

このセクションでは、市区町村/都道府県の例を示します。

まず、市区町村と都道府県のルックアップ・テーブルを作成する必要があります。 以下に、これら 2 つのテーブルの最初の数行を示します。

1kup_state テーブルは次のようになります。

state_id (1 次キー)	state_name
1	マサチューセッツ
2	ニューヨーク

1kup_city テーブルは次のようになります。

city id (1 次キー)	city name	state_id (lkup_state の 1 次キーを 指す外部キー)
1	ボストン	1
2	ケンブリッジ	1
3	ニューヨーク	2
4	オールバニー	2

これらのテーブルができたら、親(都道府県)と子(市区町村)の属性を作成します。

都道府県の属性には、以下の値を使用します。

フィールド	値
データベース列 (Database Column)	state_id
このデータベース表の値を使用	lkup_state
キー列	state_id
このフィールドは次の列に依存します	このボックスはクリアのままにしておきま す。

市区町村の属性には、以下の値を使用します。

フィールド	値
データベース列 (Database Column)	city_id
このデータベース表の値を使用	lkup_city
キー列	city_id
このフィールドは次の列に依存します	このボックスにチェック・マークを付け、都 道府県(都道府県の属性用に定義した内部名) を選択します。

以下の点に注意してください。

- 「複数選択 データベース」属性を「単一選択 データベース」属性に依存させることはできますが、その逆はできません。前述の例では、市区町村フィールドを「複数選択 データベース」属性にすることはできますが、都道府県フィールドではできません。
- ルックアップ値は、ルックアップ値のテキスト記述または ID のいずれかに基づいてソートすることができます。

第8章 メトリックの操作

メトリックはオブジェクトのパフォーマンスを測定します。標準的なメトリックに は、コストや売上などの財務メトリック、および特定のマーケティング・キャンペ ーンにおけるコンタクト数やレスポンス数などのパフォーマンス・メトリックがあ ります。メトリックは常に数値で表されます。

メトリックは、その値を他のメトリックの値に基づいて計算するように定義するこ とができます。例えば、キャンペーンの利益を、売上からコストを引いた金額とし て定義することができます。また、プロジェクトからプログラムへ、プログラムか ら計画へとロールアップするメトリックを定義することもできます。

メトリックをメトリック・テンプレートに関連付けると、メトリック・テンプレー トが他のオブジェクトのテンプレートに関連付けられます。したがって、オブジェ クトを追加すると、両方のテンプレートを通じて識別されるメトリックが「追跡」 タブに表示されます。

定義するメトリックを編成するために、メトリック・テンプレート内でグループを 作成することができます。作成したグループは、必要に応じて他のメトリック・テ ンプレートに追加できます。また、メトリック・ディメンションを定義して、各メ トリックで複数の種類の値(例えば、実際の値、ターゲット値、予想値(楽観的)、 および予想値(悲観的))を追跡することもできます。メトリック・ディメンション は、すべてのメトリック・テンプレートに適用され、「追跡」タブの入力列として ユーザーに表示されます。

メトリックのタイプ

ユーザー入力メトリックのほかに、計算済みメトリック、ロールアップ・メトリッ ク、および計画メトリックの3つのタイプのメトリックがあります。メトリック・ タイプの設定は、メトリックを特定のメトリック・テンプレートに追加するときに 行います。したがって、同じメトリックが、プロジェクトでは計算済みメトリック であり、プログラムまたは計画ではロールアップ・メトリックであることがありま す。

計算済みメトリック

メトリックがユーザー入力メトリックではなく計算済みメトリックであることを指 定するには、メトリック・テンプレートにメトリックを追加するときに、「**計算済** み」ボックスにチェック・マークを付けて、式を入力します。

例えば、ROI (投資収益率) メトリックを作成するとします。このメトリックをメト リック・テンプレートに追加するときに、次の式を使用して、これが計算済みメト リックであることを定義します。

((TotalRevenue - TotalCost)/TotalCost)*100

メトリックの式を定義するときは、各メトリックに対して定義された「内部名」
 を式の中で使用します。

 「式」フィールドでは、+、-、*、/、SUM、AVG、MIN、MAX、ROLLUPの各演 算子を使用できます。

注:式に NULL 値を含めた場合、NULL 値の取り扱いは演算子によって異なりま す。集計関数 (SUM、AVG、MIN、および MAX) では NULL 値が無視されます。 算術計算では NULL 値が 0 として処理されます。ただし、#/0 または #/NULL を 入力すると、Marketing Operations により #DIV/0! が表示されます。

メトリックのロールアップ

メトリックをメトリック・テンプレートに追加するときに、そのメトリックが子オ ブジェクトから親オブジェクトに「ロールアップ」するように指定できます。例え ば、プロジェクト・メトリックは親プログラム・レベルに、プログラム・メトリッ クは親計画レベルに、それぞれロールアップできます。

ロールアップするメトリックは、親オブジェクトの「追跡」タブに表示できます。

- ロールアップ用に構成したすべてのプロジェクト・メトリックは、親プログラムの「追跡」タブの「プロジェクト・ロールアップ (Project Rollups)」テーブルに表示されます。
- ロールアップ用に構成したすべてのプログラム・メトリックは、親計画の「追跡」タブの「プログラム・ロールアップ (Program Rollups)」テーブルに表示されます。

例えば、あるプログラムのすべてのプロジェクトに対するレスポンダーの数を追跡 するには、以下のメトリックを定義します。

- NumberOfRespondersPassed: プロジェクトからのレスポンダーの数を表します。
- NumberOfProgramResponders: プログラムにおけるレスポンダーの数を表します。

次に、以下のようにして、メトリックをメトリック・テンプレートに追加します。

- プロジェクト・メトリック・テンプレートの場合は、グループ(例えば、「パフ オーマンス」)を追加し、「NumberOfRespondersPassed」メトリックをそれに追 加します。メトリックをグループに追加する場合は、「計算済み」または「ロー ルアップ」を選択しないでください。
- プログラム・メトリック・テンプレートの場合は、グループ(例えば、「パフォ ーマンス」)を追加し、「NumberOfProgramResponders」メトリックをそれに追 加します。メトリックをグループに追加する場合は、「計算済み」または「ロー ルアップ」を選択しないでください。
- プログラム・メトリック・テンプレートの場合は、
 「NumberOfRespondersPassed」メトリックを以下の2つの場所に追加します。
 - グループを使用しないでメトリック・テンプレートに追加します。それには、
 「メトリックの管理 (Manage Metrics)」をクリックし、「ロールアップ」ボックスにチェック・マークを付けます。
 - 任意のグループ(通常は、プロジェクト・メトリック・テンプレート内のグル ープに一致するグループであり、この例では「パフォーマンス」)に追加しま す。「ロールアップ」ボックスをクリアします。「計算済み」にチェック・マ ークを付け、次の式を入力します。NumberOfProgramResponders+ROLLUP (NumberOfRespondersPassed)

計画メトリック

計画およびプログラムの目標およびパフォーマンス予測を組み込むために、計画済 みのメトリックとしてメトリックを識別することができます。計画メトリックは、 階層内のあるオブジェクトから別のオブジェクトに値が継承される点でロールアッ プに似ていますが、継承は反対の方向で行われ、子オブジェクトが親オブジェクト から計画メトリックを継承します。

計画メトリックを定義するには、メトリックを計画メトリック・テンプレートまた はプログラム・メトリック・テンプレートに追加するときに、「**ロールアップ**」ボ ックスと「**計画済み**」ボックスの両方にチェック・マークを付けます。それぞれの 子オブジェクトの「追跡」タブにあるメトリック・テーブルの「計画」列に、計画 メトリックが表示されます。

メトリック作成の概要

オブジェクトにメトリックを追加するには、メトリック・テンプレートを作成します。

- IBM EMM から、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「メトリック」を選択します。
- 2. メトリック・ディメンションを追加します (オプション)。
- 3. メトリックを追加します。
- 4. メトリック・テンプレートを追加します。
- グループまたはメトリック・テンプレート自体へのメトリックの追加や、メトリ ックのタイプの定義を行って、メトリック・テンプレートでメトリックを管理し ます。
- メトリックをローカライズするために、各ロケールのプロパティー・ファイルを エクスポートし、変換し、インポートします (オプション)。

メトリック、メトリック・ディメンション、およびメトリック・テンプレー トの操作

メトリック、メトリック・ディメンション、およびメトリック・テンプレートを操 作するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」> 「メトリック」と進みます。

メトリックとメトリック・テンプレートは、「ID」フィールドによって英字順にソートされます。メトリック・ディメンションは、追加されたときの順序でソートされます。

 メトリック、メトリック・ディメンション、またはメトリック・テンプレートを 追加するには、「メトリック・テンプレート」ページで、対応する「追加」リン クをクリックします。追加できるメトリックおよびメトリック・テンプレートの 数には制限がありません。メトリック・ディメンションは最大 5 つまで追加で き、それぞれのメトリック・ディメンションがすべてのメトリック・テンプレー トに適用されます。

- メトリック、メトリック・ディメンション、またはメトリック・テンプレートを 編集するには、「メトリック・テンプレート」ページで、対応する「編集」リン クをクリックします。
- メトリック、メトリック・ディメンション、またはメトリック・テンプレートを 削除するには、「メトリック・テンプレート」ページで、対応する「削除」リン クをクリックします。他のオブジェクトによって使用されているメトリックまた はメトリック・テンプレートを削除することはできません。他のオブジェクトに よって該当項目が使用されている場合、「削除」リンクは無効になっています。

メトリック・プロパティー

メトリックを追加または編集するときに、以下のフィールドの値を指定します。

表 68. メトリック・プロパティー

プロパティー	説明
内部名	メトリックの ID。スペースと特殊文字は使用しないでください。
	メトリックは、「メトリック・テンプレート」ページでこの内部名
	を使用してソートされます。
	メトリック・テンプレートで計算メトリックとしてメトリックを指
	定する場合、入力する式の中では、内部名を使用して各メトリック を識別します。
表示名	Marketing Operations で使用されるときのメトリックの名前。
	注: この名前は、10 文字からなる 3 つの単語か、それ以下の長さ にしてください。Marketing Operations におけるメトリック・ロー
	ルアップ・テーブルの表示限度は 32 文字です。例えば、「Mailed
	Client Savings」は完全に表示されますが、「Savings Mailed to
	Prospective Clients」は完全には表示されません。
	「表示名」はプロパティー・ファイルを使用して翻訳できます。
説明	メトリックの記述テキスト。このテキストは、メトリックの目的を
	判別する場合に役立ちます。
単位タイプ	メトリックのタイプ。「数値」、「10 進数」、「パーセント」、 または「金額」から選択します。
表示形式	オブジェクトの「追跡」タブでのメトリックの表示方法。一般に、
	「表示形式」は「単位タイプ」に対応します。以下から選択してく
	たさい。
	 # - 数値または 10 進数
	• #% - パーセント
	• \$# - 金額
	通貨メトリックを定義するときに \$# を選択すると、ユーザー
	は、そのユーザーの定義済みロケールの通貨でそのメトリックの
	値を入力できるようになります。

表 68. メトリック・プロパティー (続き)

プロパティー	説明
精度	精度の桁数。最大 9 桁。
	精度は、メトリック値の小数点以下の桁数を制御します。
	値は「round half up」規則を使用して丸められます。
	破棄する桁の左の桁が奇数の場合は、切り上げられます。破棄する 桁の左の桁が偶数の場合は、切り捨てられます。以下に例を示しま す。
	 9/2=4.5:5 の前の数字は4(偶数)であるため、4に切り捨てられます。
	 7/2=3.5:5 の前の数字が3(奇数)であるため、4に切り上げられます。

メトリック・ディメンションのプロパティー

メトリック・ディメンションを追加または編集するときに、以下のフィールドの値 を指定します。

表 69. メトリック・ディメンションのプロパティー

プロパティー	説明
表示名	Marketing Operations で使用されるディメンションの名前。ユーザ ーがオブジェクトのメトリックを入力するときに、「追跡」タブで 列ヘッダーとして表示されます。 「表示名」はプロパティー・ファイルを使用して翻訳できます。
説明	ディメンションの記述テキスト。このテキストは、ディメンション の目的を判別する場合に役立ちます。
タイプ	 Actual: 手動で入力されたメトリック、あるいは Campaign また は他の何らかの追跡ソフトウェアから Marketing Operations にロ ードされたメトリックを取得するために使用します。
	• Target: 計画や目標設定を行うために組織が使用するメトリックの 値を取得するために使用します。「Target」ディメンションのみ が、オブジェクトの作成に使用されるウィザードに表示されま す。
	 その他:オブジェクトの作成に使用されるウィザードに表示しない、「Actual」でないディメンションに使用します。

メトリック・テンプレートおよびメトリック・テンプレート・グループの作 成

メトリック・テンプレートはメトリックの集合です。メトリックを Marketing Operations に追加するには、メトリック・テンプレートを追加します。同様に、メ トリックをオブジェクト・テンプレートに付加するには、メトリック・テンプレー トを選択します。 各メトリック・テンプレートは、1 つのオブジェクト・タイプ(「計画」、「プロ グラム」、または「プロジェクト」)のみを対象とします。各オブジェクト・テン プレートでは 1 つのメトリック・テンプレートしか使用できず、計画用のテンプレ ート・ファイルは 1 つしかないため、「計画」タイプのメトリック・テンプレート は複数定義しないでください。

1 つのメトリックが複数のメトリック・テンプレートに属することは可能です。

テンプレート内のメトリックは、(必須ではありませんが) メトリック・グループと して編成することができます。 1 つのメトリック・テンプレートに、グループ化さ れたメトリックとグループ化されていないメトリックを混在させることができま す。

メトリック・テンプレートを作成または編集する方法

メトリックをオブジェクト・テンプレートに追加するには、その前に、そのメトリ ックをメトリック・テンプレートに編成する必要があります。

- 1. 「メトリック・テンプレート」ページで「**メトリック・テンプレートの**追加 (Add Metrics Template)」または「編集」をクリックします。
- 2. 「**内部名**」、「表示名」、および「説明」のフィールドで入力または編集を行い ます。
- このメトリック・テンプレートを使用するオブジェクトのタイプ(「計画」、 「プログラム」、または「プロジェクト」)を選択します。

注: 計画にはテンプレートが 1 つしかないため、「計画」タイプでは複数のメ トリック・テンプレートを定義しないでください。

- 4. テンプレートにメトリックを追加します。
 - グループを使用しないでメトリックをテンプレートに追加するには、「メトリ ックの管理 (Manage Metrics)」をクリックします。
 - メトリックのグループを追加するには、「メトリック・グループの追加」をクリックします。

既存のグループを選択することも、グループを作成することもできます。

- 5. 個々のメトリックを選択して、このテンプレート内のメトリックのプロパティー を定義します。
 - メトリックがオブジェクトでユーザーによって個別に入力される場合は、「式 によって計算済み」、「ロールアップ」、および「計画」の各チェック・ボッ クスをクリアします。
 - メトリックが計算される場合は、「式によって計算済み」チェック・ボックス を選択し、「式」を入力します。
 - メトリックが他のメトリックから収集される場合は、「ロールアップ」チェック・ボックスを選択します。ロールアップ・メトリックは、計画テンプレートおよびプログラム・テンプレートでのみ使用可能です。
 - メトリックが計画される場合は、「ロールアップ」および「計画」のチェック・ボックスを選択します。計画メトリックは、計画テンプレートおよびプログラム・テンプレートでのみ使用可能です。
- 6. 「変更の保存」をクリックしてメトリック・テンプレートを保存します。

重要:メトリック・テンプレートを編集する場合、変更は新しいオブジェクトのみ に影響します。

例えば、「基本キャンペーン」メトリック・テンプレートを使用するプロジェクト があるとします。このメトリック・テンプレートにメトリックを追加します。既存 のプロジェクトはその新しいメトリックを取得しません。しかし、「基本キャンペ ーン」メトリック・テンプレートを使用するプロジェクトを追加した場合、そのプ ロジェクトには新規メトリックが含まれます。

メトリック・グループ

メトリック・テンプレートでメトリック・グループを作成して、類似のメトリック を編成したり、共通のメトリック・セットを複数のメトリック・テンプレートで共 有したりします。

メトリック・テンプレートの作成後、メトリック・グループを追加することができ ます。メトリックをグループに追加するには、メトリック・グループの名前の横の 「**メトリックの管理 (Manage Metrics)」**をクリックします。「メトリックの管理 (Manage Metrics)」ダイアログでグループ内のメトリックを順序付けすることもでき ます。メトリックは、この順序でレポートに表示されます。

メトリック・グループを変更した場合、その変更は、そのグループを含んでいるす べてのメトリック・テンプレートに影響を与えます。例えば、「基本キャンペー ン」メトリック・テンプレートで「Financials」メトリック・グループを作成したと します。後で、その「Financials」メトリック・グループを「季節キャンペーン」メ トリック・テンプレートに追加します。その後、「季節キャンペーン」メトリッ ク・テンプレートを編集し、「Financials」メトリック・グループにメトリックを追 加します。これにより、その新しいメトリックは、「基本キャンペーン」メトリッ ク・テンプレートにも含まれるようになります。

メトリック・グループをメトリック・テンプレートから削除することができます。 別のメトリック・テンプレートに同じメトリック・グループが含まれている場合、 そのメトリック・グループは引き続き存在します。この場合でも、そのメトリッ ク・グループを他のメトリック・テンプレートに追加することができます。メトリ ック・グループのすべてのインスタンスをすべてのメトリック・テンプレートから 削除すると、そのメトリック・グループが Marketing Operations から削除されま す。

メトリックのローカライズ

メトリックは、以下の方法のうちの1つを使用してローカライズできます。

- さまざまなロケール用に翻訳されたプロパティー・ファイルをアップロードします。
- さまざまなロケールを環境設定として設定しているユーザーと連携します。各ロケールに属するユーザーが、該当するメトリックの「表示名」および「説明」を変更することができます。

翻訳用にプロパティー・ファイルを生成するには、「メトリック・テンプレート」 ページの「**プロパティー・ファイルのエクスポート**」をクリックします。ご使用の ロケールのプロパティー・ファイルが含まれている圧縮ファイルをダウンロードします。ファイル名の形式は、metric-definition <*locale*>.properties です。

メトリックの表示名キーと説明キーは、計画、プログラム、およびプロジェクトの メトリック関連のテーブルに保存されています。キーと実際の値を区別するため に、キーの接頭部 **\$_\$** を使用します。

Marketing Operations の稼働中に、システムにより、メトリック・キーがメトリック・プロパティー・ファイルからの値に置き換えられます。

プロパティー・ファイルの例は、次のとおりです。

\$ \$.metric.AVFee.display=Audio Visual Fee (\$)

\$ \$.metric.AVFee.description=Audio Visual Fee

\$_\$.metric-group.BoothExpenses.display=Booth Expenses

\$_\$.metric-dimension.metricValue0.display=Actual

\$_\$.metric-template.CampaignProject.display=Campaign Project

\$_\$.metric-template.CampaignProject.description=Metrics for Campaign Project Template

メトリック・プロパティー・ファイルのインポート

metric-definition_<*locale*>.properties ファイルを翻訳したら、新しいロケール 用にそのファイルをアップロードします。

- 「メトリック・テンプレート」ページで「メトリック・テンプレートのインポート (Import Metrics Template)」をクリックします。
- 2. 「プロパティー・ファイル」チェック・ボックスを選択します。
- 3. 「参照」をクリックしてプロパティー・ファイルを選択します。
- 4. 「続行」をクリックします。

メトリック・テンプレートのエクスポートおよびインポート

複数の Marketing Operations システムがある場合、メトリック・テンプレートをエ クスポートおよびインポートすることにより、メトリックのメタデータを 1 つのイ ンスタンスから別のインスタンスに転送することができます。

システム間でメトリック・テンプレートを転送するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「データ・マイグレーション」を選択し、「テンプレート」の 隣にある「エクスポート」または「インポート」をクリックします。圧縮アーカイ ブ・ファイルを作成または受信するために「メトリック」チェック・ボックスを選 択します。

データ・マイグレーションについて詳しくは、201ページの『第 13 章 メタデータ のエクスポートおよびインポート』を参照してください。

注: 8.5 より前のバージョンからエクスポートされたメトリック仕様ファイルをイン ポートするには、「メトリック・テンプレート」ページで「メトリック・テンプレ ートのインポート (Import Metrics Template)」をクリックし、XML ファイルを選 択します。

第9章 セキュリティーのセットアップ

IBM Marketing Operations のすべてのインストール済み環境で、IBM Marketing Platform が必要です。統合されたユーザー・インターフェースを介して両方のアプ リケーションの機能にアクセスします。Marketing Operations のセキュリティーをセ ットアップするため、Marketing Platform と Marketing Operations の両方の機能を使 用します。開始前に、Marketing Platform のセキュリティー機能について「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

管理者は、IBM Marketing Platform とともにユーザーおよびユーザー・グループを 作成および管理します。次に、IBM Marketing Operationsで、割り当てられたアクセ ス役割によって特定のオブジェクトと機能にアクセスするための権限をユーザーに 付与する、セキュリティー・ポリシーを構成します。アクセス役割に付与される権 限は、セキュリティー・ポリシーによって決まります。いずれの役割も割り当てら れていないユーザーは、デフォルトのセキュリティー・ポリシー (グローバル) によ って統制されます。

Marketing Operationsでは、複数のアクセス役割のレイヤーによってセキュリティー を実現し、さまざまな方法でアクセス役割をユーザーに割り当てることができま す。例えば、管理者はデフォルト(または基準)アクセス役割をユーザーに割り当て ます。続いて、プロジェクトを作成するプロジェクト・リーダーは、参加可能なユ ーザーと、使用する役割をさらに指定します。

グローバル・セキュリティー・ポリシーについて

グローバル・セキュリティー・ポリシーは、システムのデフォルトのセキュリティ ー・ポリシーとしての役割を果たします。「グローバル」と言っても、すべてのユ ーザーが全項目に対してフルアクセス権限を持つということではなく、このセキュ リティー・ポリシーがデフォルトですべてのユーザーにグローバルに関連付けられ ることを意味しています。グローバル・セキュリティー・ポリシーを拡張するセキ ュリティー・ポリシーをさらに作成することができますが、グローバル・セキュリ ティー・ポリシーは、作成する他のセキュリティー・ポリシーに関係なく常に有効 です。

グローバル・セキュリティー・ポリシーには、以下のような特性があります。

- Marketing Operations にログインするあらゆるユーザーに適用されます。
- 無効にすることはできません。
- 他のすべてのポリシーに優先します。ユーザーのアクセス権限がシステムで判別 される際は必ず、グローバル・セキュリティー・ポリシーにおける、そのユーザ ーの持つ役割が考慮されます。
- デフォルトの役割である計画管理者および計画ユーザーの権限設定を含んでいます。それらの役割の権限設定は、何らかの別のセキュリティー・ポリシー内の役割、オブジェクト役割、またはプロジェクト役割の資格を現在持たないすべてのユーザー用に、フォールバックまたはデフォルトとして使用されます。

役割について

どの組織でも、アプリケーションを使用する各ユーザーは、それぞれ異なる責任を 担い、異なる作業を遂行します。IBM Marketing Operations におけるセキュアな協 調作業をサポートするため、役割を定義してそれらをユーザーに割り当てることに より、システムの各機能に対するアクセスを認可したりブロックしたりします。

Marketing Platform がインストールされている場合、グローバル・セキュリティー・ ポリシーが使用できます。グローバル・セキュリティー・ポリシーには、Marketing Operations などといった IBM Enterprise Marketing Management (EMM) スイートの 各アプリケーション用の、事前定義された一式の役割が含まれます。これらの定義 済み役割を必要に応じて変更してからユーザーに割り当てたり、独自のセキュリテ ィー・ポリシーと役割をセットアップしたりすることができます。

Marketing Operations における特定のオブジェクトおよびプロジェクトに対するアク セスを制御するために、オブジェクト・アクセス役割とプロジェクト役割も使用し ます。

デフォルトのセキュリティー・ポリシー役割について

デフォルトの役割である計画管理者および計画ユーザーは、デフォルトのグローバル・セキュリティー・ポリシーに含まれています。これらの役割は、Marketing Platform の Marketing Operations のアプリケーション・アクセス・レベルを指定するもので、常に有効です。

- Marketing Platform を使用して PlanAdminRole レベルのアクセス権限が付与され ているユーザー・グループにユーザーを追加すると、そのユーザーには Marketing Operations で「計画管理者」ユーザー役割が割り当てられます。デフォルトで は、この役割を持つユーザーはすべての管理設定および構成設定に対するアクセ ス権限を持ちます。
- Marketing Platform を使用して PlanUserRole レベルのアクセス権限が付与されて いるユーザー・グループにユーザーを追加すると、そのユーザーには Marketing Operations で「計画ユーザー」ユーザー役割が割り当てられます。デフォルトで は、この役割を持つユーザーには、ほとんど権限が与えられません。

これらの役割の割り当ては、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「ユーザー 権限」ページに表示されます。

これらの役割の割り当てをの「ユーザー権限」ページでオーバーライドすること も、これらの役割をグローバル・セキュリティー・ポリシーから削除することもで きません。ユーザーに割り当てられるデフォルトのセキュリティー・ポリシー役割 を変更するには、Marketing Platform を使用してユーザー・グループの割り当てを変 更する必要があります。

Marketing Platform でユーザーに対して加えられた変更は、ユーザー・データベース 表を同期して初めて Marketing Operations に反映されます。ユーザーの同期は一定 の間隔で自動的に実行されます。その間隔は、「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「usermanagerSyncTime」で指定します。ある いは、ユーザー・データベース表を手動で同期するには、自分か、または別の管理 者が「設定」>「Marketing Operations設定」>「ユーザーの同期」を開始します。

カスタム・セキュリティー・ポリシー役割について

カスタム・セキュリティー・ポリシー役割とは、追加したセキュリティー・ポリシ ー内にセットアップする役割のことです。それらの役割は、組織全体におけるユー ザーの責任を特徴づける肩書きまたは職務に基づいた IBM Marketing Operations の 機能に対する、アクセス権限を制御することを目的としています。

例えば、マーケティング担当管理職には、すべての計画、プログラム、およびプロ ジェクトに対するフルアクセス権限が必要です。個々のマーケティング担当者は、 計画とプログラムについては表示する必要があるだけですが、プロジェクトについ ては表示と作成の両方を行う必要があります。機能に関するこうした異なるニーズ に対応するには、マーケティング担当管理職とマーケティング担当者それぞれに対 する別々の役割を含めたセキュリティー・ポリシーを追加します。

管理者は、セキュリティー・ポリシーに追加した役割と、デフォルトの役割 (計画 管理者と計画ユーザー)を、「ユーザー権限」ページで個々のユーザーに割り当て ます。

オブジェクト・アクセス役割について

IBM Marketing Operations では、オブジェクト・タイプごとにオブジェクト・アク セス役割のセットがあります。プロジェクトおよび承認については、オブジェク ト・アクセス役割は「アクセス・レベル」とも呼ばれます。

ユーザーは、Marketing Operations で作業を行う場合には、該当のオブジェクト・ア クセス役割がシステムによって割り当てられます。例えば、プロジェクトを作成す るユーザーにはプロジェクト所有者アクセス・レベルが付与されており、プロジェ クト役割に割り当てられるユーザーにはプロジェクト参加者アクセス・レベルが付 与されています。プロジェクトおよび承認のオブジェクト役割は、アクセス・レベ ルとも呼ばれます。なぜなら、該当の権限を持っているプロジェクト参加者は、オ ブジェクト・アクセス役割とプロジェクト役割の両方を参加者に割り当てることが できるからです。

すべてのオブジェクト・タイプには所有者が存在し、デフォルトでは、作成者が所 有者になります。また、多くのオブジェクト・タイプには、次の表に示すように、 その他の役割もあります。

オブジェクト・タイプ	オブジェクト・アクセス役割 / アクセス・レベル	
計画	計画の所有者、計画の参加者	
プログラム	プログラムの所有者、プログラムの参加者	
プロジェクト	プロジェクトの所有者、プロジェクトの参加者、プロジェクトの要 求者	
要求	要求の受信者、要求の所有者	
資産	資産の所有者	
アカウント	アカウントの所有者	
承認	承認の所有者、承認の承認者	
請求書	請求書の所有者	
チーム	チーム・マネージャー、チーム・メンバー	

表 70. オブジェクト・タイプおよびそれに関連付けられる役割

表 70. オブジェクト・タイプおよびそれに関連付けられる役割(続き)

オブジェクト・タイプ	オブジェクト・アクセス役割 / アクセス・レベル
カスタム・マーケティ	<マーケティング・オブジェクト・タイプ> の所有者
ング・オブジェクト・ タイプ	例えば、「クリエイティブ」という名前のマーケティング・オブジ ェクトの場合、そのオブジェクト役割名は「クリエイティブの所有 者」です。

オブジェクト・アクセス役割は、一般のシステム処理をサポートしています。その ため、カスタム・セキュリティー・ポリシーを介してアクセスできません。

「プロジェクトの役割」について

プロジェクトの役割は、プロジェクトに参加するユーザー、またはプロジェクト要 求を作成するユーザーの職務を表します。テンプレート開発者は、各プロジェク ト・テンプレートの「プロジェクトの役割」タブで、適切な役割のリストを作成し ます。その後、セキュリティー・ポリシーの構成時にテンプレートを選択すると、 テンプレートのプロジェクトの役割がシステムによって他のアクセス役割と一緒に 表示されます。このようにして、システム役割、オブジェクト役割、セキュリティ ー役割のほかに、プロジェクトの役割に基づいて、異なるテンプレートに異なる権 限を構成することができます。

さらに、各テンプレートで、異なるタブ(カスタム・タブとデフォルト・タブの両 方)に異なる権限を構成することができます。例えば、あるプロジェクトの役割の 参加者に対して、ワークフローの表示権限だけを設定し、編集権限は設定しない場 合などが考えられます。または、各プロジェクトについて「会計」という名前の付 いたプロジェクトの役割に参加するユーザーに対してのみ、その他のアクセス役割 には関係なく、「予算」タブの編集を許可する場合も考えられます。

プロジェクトの役割に基づいたテンプレート・タブのカスタム・セキュリティー は、必要に応じて無効にすることができます。これを行うには、「設定」>「構成」 >「Marketing Operations」>「umoConfiguration」をクリックして、 customAccessLevelEnabled 構成プロパティーを false に設定します。

セキュリティー・ポリシーおよび権限について

セキュリティー・ポリシーは、肩書きまたは責任を反映した役割で構成されていま す。セキュリティー・ポリシー内の各役割は、一式の権限、つまり IBM Marketing Operations 内の機能およびオプションに対するユーザー・アクセスを付与またはブ ロックするルールに相当します。例えば、セキュリティー・ポリシーを構成して、 以下のことが確実に行われるようにすることができます。

- 管理職は、自身が所属する事業部門のすべてのプロジェクトに対するアクセス権 限を有する。
- プロジェクトに対するユーザーのアクセス権限は、そのユーザーの事業部門と職務の両方に基づいて決定される。
- あるユーザーについてはプロジェクトを作成できるようにし、それ以外のユーザーについてはプロジェクトを開始するために要求を使用しなければならないようにする。

計画、プログラム、プロジェクト、要求など、Marketing Operations で作成されるあ らゆるオブジェクトは、セキュリティー・ポリシーによって統制されます。新規オ ブジェクトに割り当てられるセキュリティー・ポリシーは、作成時に使用されたテ ンプレートによって決まります。

権限について

セキュリティー・ポリシーの権限は、「<セキュリティー・ポリシー>の権限 (Permissions for *<security policy>*)」ページで管理します。171ページの『セキュリ ティー・ポリシーを作成するには』を参照してください。

セキュリティー・ポリシー内の役割の権限を設定するために、一式のテーブルを使用します。マーケティング・オブジェクト・タイプ(計画やプログラムなど)ごとに異なるテーブルがあります。テーブル列は、セキュリティー・ポリシー内のすべての役割を示します。行は機能とオプションを表し、それらへのアクセスが行われるタブでグループ化されています。

プロジェクトまたは要求のセキュリティーを構成する際、テンプレートも選択しま す。これを行うと、テンプレートに定義されたプロジェクト役割ごとに、追加の列 が表示されます。

セキュリティー・ポリシーで構成される権限は、IBM Marketing Operations のすべての機能にわたるアクセスを制御します。

例えば、検索の結果はアクセス権限よって制約されます。ユーザーが特定のプロジェクトの「ワークフロー」タブに対するアクセス権限を持っていない場合、そのプロジェクトのタスクは「**すべてのタスク**」検索には表示されません。さらに、ユーザーが添付ファイルをプロジェクトに追加できない場合には、そのユーザーは、他の参加者が「添付ファイル」タスクを実行したときに発行されるアラートを受信できません。

所定のオブジェクト (例えば、プロジェクト、計画、プログラムなど) について所定 の時点で有効になるセキュリティー・ポリシーは、オブジェクトのテンプレートで 指定されているセキュリティー・ポリシーによって異なります。例えば、テンプレ ート開発者は、プロジェクト・テンプレートを作成する場合には、テンプレートの 「サマリー」タブでセキュリティー・ポリシーを指定します。そうすることによ り、そのテンプレートに基づいてプロジェクトが作成されると、それらのプロジェ クトに対するアクセス権限が、テンプレートで指定されているセキュリティー・ポ リシーによって決められます。

セキュリティー・ポリシーの権限設定について

「<セキュリティー・ポリシー> の権限 (Permissions for *security policy*>)」ページ で権限を構成するには、役割と機能またはオプションの交点にあるテーブル・セル をクリックします。セル内をクリックすると以下の設定が切り替わります。

表 71. 「<セキュリティー・ポリシー> の権限 (Permissions for <security policy>)」ページ での権限設定

記号	名前	説明
\checkmark	付与済み	機能に対するアクセス権限を、役割が割り当てられ ているユーザーに付与します。

記号	名前	説明
×	ブロック済み	システム役割およびセキュリティー・ポリシー役割 の場合のみ、役割が割り当てられているユーザーが 機能にアクセスするのを拒否します(プロジェクト役 割またはオブジェクト役割を使用して機能をブロッ クすることはできません)。
		権限のブロックは他のあらゆる設定に優先します。 例えば、あるユーザーのプロジェクト役割は、特定 のテンプレートから作成されたプロジェクトの「予 算」タブへのアクセス権限を付与するものである一 方、セキュリティー・ポリシー役割は、そのタブへ のアクセスをブロックするものであるとします。こ のユーザーは「予算」タブにアクセスできません。
\times	継承済み	明示的に定義しません。ユーザーに割り当てられた プロジェクト役割およびオブジェクト役割におけ る、明示的な権限設定を継承します。他の役割のい ずれにも権限が設定されていない場合は、適切なデ フォルトのグローバル・セキュリティー・ポリシー の役割 (計画管理者または計画ユーザー)の設定を継 承します。ユーザーに権限を付与する役割がない場 合、この機能はブロックされます。
該当なし	アクセス不可	プロジェクト役割およびオブジェクト役割につい て、権限設定を変更できないことを示します。

表 71. 「<セキュリティー・ポリシー> の権限 (Permissions for <security policy>)」ページ での権限設定 (続き)

複数の役割の資格がユーザーにある場合には、権限が累積されます。例えば、ユー ザーのセキュリティー役割が、現在のプロジェクトの役割とは異なる権限を付与す るものである場合、そのユーザーは、それら両方の役割によって付与される権限の すべてを持つことになります。

セキュリティー・ポリシーのプランニング

セキュリティー・ポリシーの追加および構成を開始する前に、セキュリティーに対 する組織のニーズを見極めてからセキュリティー戦略を立てる必要があります。

最初に、必要なセキュリティー・ポリシー役割およびプロジェクトの役割の数を決 定します。次に、ニーズを満たすために、いくつかの異なる役割を含めたセキュリ ティー・ポリシーを作成する必要があるかどうか、あるいは、グローバル・セキュ リティー・ポリシーに用意された役割を変更するだけでよいかを見極めます。

組織内のすべての事業部門が同じルールに従う場合や、プロジェクト役割とセキュリティー・ポリシー役割を組み合わせることによってアクセス権限の差異を適切に実現できる場合には、1つのセキュリティー・ポリシー、つまりグローバル・セキュリティー・ポリシーに変更を加えたものを実装することが妥当です。役割は、必要な数だけグローバル・セキュリティー・ポリシーに追加することができます。

- 異なるタイプのアクセス権限を必要とする職務グループが組織内に多数存在する 場合には、グローバル・セキュリティー・ポリシーをデフォルト状態のままに し、職務グループごとに、1つ以上の役割を含むセキュリティー・ポリシーを追 加してください。
- ユーザーは随時、オブジェクト役割、プロジェクト役割、およびセキュリティ ー・ポリシー役割を持つことができます。ベスト・プラクティスは、単一のセキ ュリティー・ポリシーの1つのセキュリティー・ポリシー役割のみをユーザーに 割り当てることです。したがって、自分自身のプロジェクト役割とオブジェクト 役割に加えて複数のセキュリティー・ポリシー役割を必要とするマルチタスク・ ユーザーが存在する場合には、さらにセキュリティー・ポリシーを作成し、該当 するそれぞれのセキュリティー・ポリシーにおける1つの役割をユーザーに割り 当てることをお勧めします。

ベスト・プラクティスとして、実装するセキュリティー・ポリシーの数は可能な限 り少なくしてください。単一のセキュリティー・ポリシー内で、マーケティング・ オブジェクト・タイプごとに異なる権限を構成することができます。また、プロジ ェクト・テンプレートおよび要求テンプレートごとに異なる権限を構成することも できます。さらに、各プロジェクト・テンプレートで、プロジェクトとプロジェク ト要求について別々に、タブ(標準タブとカスタム・タブ)ごとに異なるセキュリテ ィー役割権限とプロジェクト役割権限を構成することができます。

役割の権限をセットアップする際、個々の権限は細かく設定されています。例え ば、特定の役割のユーザーがプロジェクトの「サマリー」タブを編集できるように する場合には、その役割に「編集」権限と「表示」権限の両方を付与する必要があ ります。「表示」権限を付与しなかった場合、その役割のユーザーに対して「サマ リー」タブが表示されないため、編集権限を持っていても役には立ちません。同様 に、メッセージを読むための権限を併せて付与せずにメッセージを投稿する権限を 付与しても、意味がありません。

セキュリティー・ポリシーの構成について

セキュリティー戦略が決まったら、適切なセキュリティー・ポリシーおよび役割を 構成して作成します。次に、それらの役割を持つスタッフがどのユーザーに対して プロジェクト役割とアクセス・レベルを割り当てられるかを指定します。

グローバル・セキュリティー・ポリシーを編集する方法

組織のセキュリティー戦略を 1 つのセキュリティー・ポリシーで実装できる場合 は、グローバル・セキュリティー・ポリシーを単一のポリシーとして使用します。 多くの場合、提供されている「計画管理者」システム役割と「計画ユーザー」シス テム役割のデフォルトの権限は、変更しません。代わりに、新しいセキュリティ ー・ポリシー役割を追加して、ユーザー自身のセキュリティー目標を実現します。

- 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「セキュリティー・ポリシー設定」> 「グローバル」を選択します。「<セキュリティー・ポリシー>のプロパティー (Properties for *<security policy*>)」ページが表示されます。
- 2. セキュリティー役割を追加します。
 - a. 「別の役割を追加」をクリックします。
 - b. 役割の「名前」と「説明」を入力します。

追加する役割ごとに、これらの手順を繰り返します。

- 3. 「権限の保存および編集」をクリックします。「<セキュリティー・ポリシー> の権限 (Permissions for <security policy>)」ページが表示されます。このページ にはテーブル・インターフェースが用意されており、役割ごとに、各機能へのア クセス権限を付与したりブロックしたりすることができます。
- プロジェクトおよび要求以外のオブジェクトの権限を構成するには、「アクセス 先」リストからマーケティング・オブジェクト・タイプを選択します。チェッ ク・ボックスを使用して、各セキュリティー役割の権限設定を構成します。 167ページの『セキュリティー・ポリシーの権限設定について』を参照してくだ さい。

「**アクセス先**」リストにあるオブジェクト・タイプごとに、この手順を繰り返し ます。

- 5. プロジェクト権限を構成するには、以下の手順を実行します。
 - a. 「**アクセス先**」リストから、プロジェクト・オブジェクト・タイプを選択し ます。
 - b. 「全般」セクションで、オブジェクト役割およびセキュリティー役割ごと
 に、「プロジェクトの追加」と「プロジェクトをリストに表示」権限を構成します。
 - c. プロジェクト・テンプレートを選択します。このテンプレートの「プロジェ クトの役割」タブの「チーム・メンバー」セクションで指定されているプロ ジェクトの役割ごとに1つの列がセキュリティー・ポリシーに表示されま す。テンプレート内のタブごとにアクセス制御セクションが表示されます。
 - d. プロジェクト役割、オブジェクト役割、およびセキュリティー役割のテンプ レートで、それぞれのタブ (カスタム・タブを含む) ごとに権限を構成しま す。
 - e. プロジェクト・テンプレートごとに、ステップ c) および d) を繰り返しま す。
- 6. 要求権限を構成するには、以下の手順を実行します。
 - a. 「アクセス先」リストから、要求オブジェクト・タイプを選択します。
 - b. 「要求の追加」権限と「要求をリストに表示」権限を、オブジェクト役割お よびセキュリティー役割ごとに構成します。
 - c. プロジェクト・テンプレートを選択します。このテンプレートの「プロジェ クトの役割」タブの「プロジェクト要求の受信者」セクションで指定されて いるプロジェクトの役割ごとに1つの列がセキュリティー・ポリシーに表示 されます。テンプレート内のタブごとにアクセス制御セクションが表示され ます。
 - d. プロジェクト役割、オブジェクト役割、およびセキュリティー役割のテンプ レートで、それぞれのタブ (カスタム・タブを含む)ごとに権限を構成しま す。要求を構成する場合は、「要求の受信者」オブジェクト役割に設定する 権限が、少なくとも1つの受信者プロジェクト内の役割に設定された権限に 一致する必要があることに注意してください。
 - e. 要求のカスタム権限を構成するプロジェクト・テンプレートごとに、ステップ c) および d) を繰り返します。

- 7. カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプの場合、テンプレートごとに 権限を構成するようにしてください。
- 8. 「保存して終了」をクリックします。

セキュリティー・ポリシーを作成するには

組織のセキュリティー・セットアップを実装するために複数のセキュリティー・ポ リシーを使用する必要がある場合には、グローバル・セキュリティー・ポリシーを デフォルトの状態のままにして、以下の手順を実行してください。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「セキュリティー・ポリシー設定」> 「セキュリティー・ポリシーの追加」を選択します。
- 2. 「<セキュリティー・ポリシー名> のプロパティー (Properties for *<security policy name>*)」ページで、「ポリシー名」と「説明」を入力します。名前は一意 でなければなりません。
- 「役割」セクションで、このセキュリティー・ポリシーに含めることになっている、最初の2つの役割の「名前」と「説明」を入力します。3つ以上の役割が必要な場合には、「別の役割を追加」をクリックします。
- 「権限の保存および編集」をクリックします。「<セキュリティー・ポリシー>の権限 (Permissions for <security policy>)」ページが表示されます。このページにはテーブル・インターフェースが用意されており、役割ごとに、各機能へのアクセス権限を付与したりブロックしたりすることができます。

「**アクセス**」リストを使用して各オブジェクト・タイプを選択し、続いてセキュ リティー・ポリシー内の役割の権限を構成します。169ページの『グローバル・ セキュリティー・ポリシーを編集する方法』を参照してください。

5. 「保存して終了」をクリックします。

セキュリティー・ポリシーを無効にするには、随時、「セキュリティー・ポリシ ー設定」ページに移動し、「無効」をクリックします。セキュリティー・ポリシ ーを無効にするということは、ユーザーは以降に作成するプロジェクト、要求、 または承認についてそのセキュリティー・ポリシーを選択できなくなり、管理者 はユーザーをそのセキュリティー・ポリシーに割り当てることができなくなると いうことです。

役割に対するユーザー可視性オプションを構成する方法

プログラム、計画、プロジェクトなどを作成する場合、参加するユーザーまたはチ ームを指定します。また、プロジェクトの場合は、プロジェクトの役割に割り当て るユーザーまたはチームを指定します。デフォルトでは、どのユーザーまたはチー ムを参加者として追加できるか、どのユーザーまたはチームをプロジェクトの役割 に割り当てることができるかについての制限はありません。

特定のセキュリティー・ポリシー役割を持つユーザーに対して「チーム・メンバー の選択」または「メンバーのアクセス・レベルの選択」ダイアログに表示されるユ ーザーのリストを制限するには、その役割のユーザー可視性機能を構成します。

「設定」>「Marketing Operations 設定」>「セキュリティー・ポリシー設定」
 を選択します。

- 「セキュリティー・ポリシー設定」ページで、該当するセキュリティー・ポリシーまでスクロールして、役割の名前をクリックします。「役割: <役割名> (Role:
 <role name>)」ページに、ユーザー可視性の選択内容が表示されます。
- 左側にあるユーザー・グループおよびチームのリストから、この役割のユーザーのリストに表示させたいグループまたはチームを選択して、>> をクリックして右側のリストに移動させます。 選択した役割を持つユーザーが参加者を追加したりプロジェクト役割を割り当てる場合、右側のリストにあるグループ内のユーザーの中から選択します。

注:右側の選択ボックスが空(デフォルト)の場合には制約事項が存在しないの で、この役割のユーザーが参加者を追加したりプロジェクトの役割を割り当てる 際には、すべてのグループおよびチームが表示されます。

- 4. 「**変更の保存**」をクリックします。「セキュリティー・ポリシー設定」ページが 表示されます。
- 5. 構成する役割ごとに、ステップ 2 から 4 までを繰り返します。

セキュリティー・ポリシー役割を割り当てるには

役割をセキュリティー・ポリシーに追加することが終了したら、それらの役割を該 当のユーザーに割り当てることができます。ユーザーにセキュリティー・ポリシー 役割が明示的に割り当てられていない場合、システムは、グローバル・セキュリテ ィー・ポリシーを使用してそのユーザーの権限を指定します。

セキュリティー・ポリシー役割は、「ユーザー権限」ページで直接、個々のユーザ ーに割り当てます。

- 1. 「**設定」>「Marketing Operations 設定**」を選択します。 「管理設定」ページ が表示されます。
- 2. 「**ユーザー権限**」をクリックします。 「ユーザー権限」ページが表示されま す。
- 3. ユーザーが属しているユーザー・グループを展開し、クリックしてユーザーを選 択します。 「<ユーザー名> のプロパティー (Properties for *<user name*>)」ペ ージが表示されます。
- 4. 「選択可能な役割」リスト・ボックスで、このユーザーに割り当てるセキュリティー役割が含まれているセキュリティー・ポリシーをクリックして展開します。
- 5. 役割を選択し、「>>」をクリックして「選択した役割」リストに移動します。

ベスト・プラクティスは、各ユーザーに、1 つのセキュリティー・ポリシー内の 1 つの役割を割り当てることです。

6. 「変更の保存」をクリックします。

役割が、「ユーザー権限」ページの「割り当てられた役割 (Assigned Roles)」列 に表示されます。

7. 必要に応じて、他のユーザーについてもステップ3から6を繰り返します。

テンプレートのアクセス権限の制御について

セキュリティー・ポリシーに関するセクションで説明したように、セキュリティ ー・ポリシーに含まれている権限を使用して、以下のようなアクセス権限を制御し ます。

- セキュリティー・ポリシー役割は、どのユーザーが新規のプロジェクト、計画、 プログラムなどを作成できるかを制御します。
- セキュリティー・ポリシー役割は、どのユーザーが、(自分では作成できなくても) 他のユーザーによって作成された項目を表示および操作できるかを制御します。
- プロジェクト役割およびオブジェクト役割は、ユーザーがプロジェクトを作成する際にどのタブにアクセスできるかを制御します。

また、セキュリティー・ポリシー役割を使用して、項目の作成時にユーザーが選択 可能なプロジェクト・テンプレートまたは要求テンプレートを指定します。

テンプレート開発者がテンプレートを作成するときに、「サマリー」タブに 1 つま たは複数のセキュリティー・ポリシー・フィールドが含まれます。セキュリティ ー・ポリシー・フィールドで指定される値によって、テンプレートにアクセスでき るユーザーが決まります。つまり、テンプレートに割り当てられたセキュリティ ー・ポリシーに含まれる、該当のタイプのオブジェクトを作成できる役割を持って いない場合は、該当のタイプのオブジェクトを作成するときにそのテンプレートは テンプレート・リストに表示されません。

プロジェクトと要求に関するアクセス制御について

組織におけるプロジェクトの管理方法によっては、特定のユーザーのみがプロジェ クトを作成できるようにセキュリティー・ポリシーを構成する場合があります。そ の他のユーザーはプロジェクトに対する要求を作成し、所定のユーザーがその要求 を承認または拒否することとなります。この場合、あるユーザー・グループがこう した要求を基にプロジェクトを作成し、このグループによって作成されたプロジェ クトを、別のユーザー・グループが処理することもできます。

このビジネス・ケースをサポートするため、プロジェクト・テンプレートには以下 の 2 つのセキュリティー・ポリシー設定が用意されています。

- 「表示」ポリシーでは、ユーザーがプロジェクトまたはプロジェクトの要求を作成するときに、どのユーザーがテンプレートを選択できるかを指定します。テンプレート開発者は、プロジェクト・テンプレートごとに1つ以上の表示ポリシーを指定できます。
- 「使用」ポリシーでは、要求に基づいてプロジェクトが作成された後に、どのユ ーザーがプロジェクトにアクセスできるかを指定します。

「使用」ポリシーは、以下の 2 つの方法のいずれかで指定できます。

- テンプレート開発者がテンプレートの「サマリー」タブでセキュリティー・ポリシーを指定する。
- プロジェクトまたはプロジェクト要求を作成するユーザーが「使用」ポリシーを 指定できるように、テンプレート開発者がテンプレートを構成する。

「使用」ポリシーを指定する方法は、「セキュリティー・ポリシーの使用モデル」 と呼ばれます。使用モデルが「**テンプレート」**に設定されている場合、テンプレー ト開発者は「使用」ポリシーを指定します。使用モデルが「ユーザー」に設定され ている場合、テンプレートを使用してプロジェクト要求を作成するユーザーは、表 示されているリストからセキュリティー・ポリシーを選択します。

プロジェクト要求のセキュリティー構成例

この例では、マーケティング活動チーム、戦略的マーケティング・チーム、その他 のマーケティング担当者が在籍する XYZ 社という組織について説明します。ユー ザーは、展示会および戦略的アカウントという 2 種類のプロジェクトと要求を作成 します。

- 展示会プロジェクト:下級マーケティング担当者が、展示会プロジェクトの要求 を作成します。この要求は、マーケティング組織内の全員に送信でき、作成され たプロジェクトも全員が処理できます。
- 戦略的アカウント・プロジェクト:下級マーケティング担当者は戦略的アカウント・プロジェクトの要求も作成できますが、情報を入力できるのは「サマリー」 タブだけです。また、要求を送信できるのは、このプロジェクトに参加する唯一のチームである戦略的マーケティング・チームのメンバーに対してだけです。

セキュリティー・ポリシー

XYZ 社のシステム管理者は、以下の 2 つのセキュリティー・ポリシーを構成しました。

- マーケティング活動担当者。マーケティング活動チームのメンバーが対象です。
 各テンプレートのセキュリティーは、このポリシー内で以下のように構成されています。
 - 展示会のテンプレート: すべてのプロジェクトの役割が、すべてのタブにアク セスできます。
 - 戦略的アカウントのテンプレート: 「要求所有者」の役割がアクセスできるの は「サマリー」タブだけです。
- 戦略的マーケティング担当者。マーケティング・スタッフの上級メンバーが対象 です。各テンプレートのセキュリティーは、以下のように構成されています。
 - 展示会のテンプレート: すべてのプロジェクトの役割が、すべてのタブにアク セスできます。
 - 戦略的アカウントのテンプレート: すべてのプロジェクトの役割が、すべての タブにアクセスできます。

テンプレートのアクセス権

上記のワークフローをセットアップするため、テンプレート開発者は以下の権限を 使用してテンプレートを構成しました。

- 「展示会」テンプレートの「サマリー」タブには、以下のセキュリティー・ポリシー設定が表示されます。
 - **セキュリティー・ポリシー使用モデル**: ユーザー。要求を作成するユーザー が、要求に適用されるセキュリティー・ポリシーを指定します。
 - セキュリティー・ポリシーの表示:マーケティング活動担当者、戦略的マーケティング担当者(すべてのユーザーが「展示会」テンプレートを選択できます)。
- セキュリティー・ポリシーの使用: 空白。使用モデルが「ユーザー」に設定されている場合、「セキュリティー・ポリシーの使用」フィールドは使用不可になります。このテンプレートを使用してプロジェクトまたは要求を作成する場合、セキュリティー・ポリシーを指定する必要があります。
- 「戦略的アカウント」テンプレートの「サマリー」タブには、以下のセキュリティー・ポリシー設定が表示されます。
 - **セキュリティー・ポリシー使用モデル**: テンプレート。テンプレート開発者 は、「セキュリティー・ポリシーの使用」フィールドに値を設定します。
 - **セキュリティー・ポリシーの表示**: マーケティング活動担当者、戦略的マーケ ティング担当者 (すべてのユーザーが「戦略的アカウント」テンプレートを選 択できます)。
 - セキュリティー・ポリシーの使用:戦略的マーケティング担当者。これは、要求を作成するユーザーは、要求のセキュリティー・ポリシーを指定できないことを意味します。代わりに、このテンプレートから作成された要求には、戦略的マーケティング担当者のセキュリティー・ポリシーが割り当てられます。これにより、戦略的マーケティング担当者のセキュリティー・ポリシーによって割り当てられたセキュリティー役割を持つ上級マーケティング担当者のみが、プロジェクト要求と、これらのプロジェクト要求に基づいて作成されたプロジェクトにアクセスできるようになります。

使用例

以下のセキュリティー・ポリシーに割り当てられているユーザーについて考えてみ ます。

- 戦略的アカウントのセキュリティー・ポリシー: Mary Manager、Strategic Sam
- マーケティング活動担当者: Junior Jim、Sophomore Sally

ユーザーは、要求とプロジェクトを以下のように作成します。

表 72. プロジェクト要求の例

プロジェクトまたは要求	作業手順
展示会プロジェクト	Junior Jim は展示会の要求を作成し、この要求を
	Strategic Sam に送信します。Strategic Sam はこの要
	求を承認し、Vendor Vinny をプロジェクトの所有者と
	して設定します。
戦略的アカウント・プロジェクト:	Junior Jim は、アクセスできる唯一のタブである「サ
	マリー」タブに情報を入力して、戦略的アカウント要
	求 SA01 を作成します。この要求は、戦略的アカウン
	トのセキュリティー・ポリシーに自動的に割り当てら
	れます。Jim は、これを変更することはできません。

まとめ

- 展示会プロジェクトまたは戦略的アカウント・プロジェクトの要求は、どのユー ザーでも作成することができます。
- 展示会要求はどのユーザーでも受信でき、展示会プロジェクトにはどのユーザー でも割り当てることができます。

• 戦略的アカウント・プロジェクトで作業できるのは、戦略的アカウントのセキュ リティー・ポリシーに基づく役割を持つユーザーだけです。

第 10 章 アラートのセットアップ

アラートとは、ユーザーが知る必要のある重要な変更に関する通知や、ユーザーが 実行する必要があるアクションに関するリマインダーのことです。アラートの例と して、プロジェクト・ステータスの変更についての通知や、承認の対応が必要であ ることについての通知などがあります。

Marketing Operations ユーザーは、以下の方法でアラート通知を受信します。

Marketing Operations 内: 「アラート」アイコン([▶])が、すべてのページの上部に表示されます。これには、アラートを受信するたびに増分されるカウンターが付いています。ユーザーはこのアイコンをクリックして、「アラート」ダイアログで通知メッセージを表示します。

ヒント:システムがアラート・カウントを更新する頻度を構成してください。 186ページの『アラート数のリフレッシュ間隔の変更』を参照してください。

E メールによる:有効な E メール・アドレスによってセットアップされたユーザーは、自分の E メール・アプリケーションでメッセージとして通知を受信します。

アラートをセットアップするには、構成プロパティーの値を定義します。過去の変 更を追跡するイベント・トリガー式のアラートと、近づくイベントについてユーザ ーに知らせるアラーム・タイプのアラートをシステムがチェックする頻度を別々に 構成します。 『イベントでトリガーされるアラートについて』および 178ページ の『リマインダーについて』を参照してください。

デフォルトのアラート・サブスクリプションも指定します。 Marketing Operations オブジェクト・タイプごとに、デフォルトでアラートを受信するチームの役割と、 対象となる変更およびリマインダーのタイプを選択します。 179 ページの『デフォ ルトのアラート・サブスクリプションの設定について』を参照してください。

ヒント: ユーザーは、Marketing Operations オブジェクトの特定のインスタンスについて、デフォルトの通知サブスクリプションをオーバーライドすることができます。ユーザーがアラートを操作する方法については、「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してください。

オプションで、送信されるアラートのメッセージのテキストをカスタマイズするこ とができます。アラートをトリガーする Marketing Operations オブジェクト・タイ プごとに異なるメッセージを定義することができます。 183 ページの『「アラート 設定」ページ』を参照してください。

イベントでトリガーされるアラートについて

イベントでトリガーされるアラートとは、システム・イベントに応じて Marketing Operations が送信する通知のことです。発生済みの変更が追跡されます。例えば、あるユーザーが承認を作成すると、システムによって、その承認者となるユーザー にアラートが送信されます。

IBM Marketing Operations は、イベントでトリガーされるアラートの通知を、ほぼ 発生直後に送信することができます。アラートをトリガーするイベント (新規承認 要求など) が発生するたびに、Marketing Operations はそれをキューに追加します。 指定された間隔で、Marketing Operations はキューをチェックし、すべての待機イベ ントに関する通知を送信します。デフォルトでは、この間隔つまりポーリング周期 は 5 秒ごとです。このデフォルトの頻度は、notifyEventMonitorPollPeriod プロ パティーを設定することで変更できます。「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「通知」をクリックしてください。

イベント関連のすべての構成プロパティーについては、「*IBM Marketing Operations* インストール・ガイド」を参照してください。

リマインダーについて

単一の固有のイベントによってトリガーされないアラートは、リマインダー、ある いはアラームと呼ばれます。通常、このタイプのアラートには、オブジェクト(タ スクまたはプロジェクトなど)から時間、または別のオブジェクトへの関係が組み 込まれてます。

各種のリマインダー通知を何日前に送信するか構成します。例えば、

notifyProjectAlarmMonitorScheduledStartCondition プロパティーは、プロジェクトの開始日の何日前に開始通知をユーザーに送信するかを設定し、

notifyProjectAlarmMonitorTaskOverdueCondition プロパティーはタスクの終了日 の何日後にタスクが完了しなかったことをユーザーに通知するかを設定します。こ れらの代わりに -1 を指定すると、リマインダー・タイプでは通知を送信しないよ うに設定することができます。

また、オブジェクト・インスタンスがリマインダー通知を送信するかどうか判断す るのを、システムがどれくらいの頻度で反復するかも構成します。例えば、各タス クの開始予定日の1日前に通知を送信するように Marketing Operations を構成しま す。これらの通知を送信するかどうか判別するために、Marketing Operations は以下 のようにします。

- 1. 現在日時を判別する。
- 2. 現在日時と各ワークフロー・タスクの予定開始日とを比較する。
- 3. 差異を検出する。
- 4. 差異が1日以下である各タスクのリマインダーを送信する。

タイプの異なるオブジェクトごとに、異なるポーリング期間を構成することができ ます。このプロセスはイベントでトリガーされる通知のチェックより多くのシステ ム・リソースを消費するため、それぞれのデフォルトのポーリング期間は 60 秒で す。デフォルトのポーリング期間を変更するには、次のプロパティーを構成しま す。

- notifyProjectAlarmMonitorPollPeriod
- notifyApprovalAlarmMonitorPollPeriod
- notifyAssetAlarmMonitorPollPeriod

これらのプロパティーのデフォルト値を変更するには、「設定」>「構成」 >「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「通知」をクリックします。 すべての構成プロパティーについて詳しくは、「*IBM Marketing Operations インス* トール・ガイド」を参照してください。

デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定について

管理者は、一式のデフォルトのアラート・サブスクリプションを定義することがで きます。オブジェクト・タイプごとに、オブジェクト・アクセス役割に対する配信 登録または配信解除を行うことで、各種タイプのアラートを受信するチーム・メン バーを選択します。

以下の IBM Marketing Operations オブジェクトおよびアクセス役割に対して、デフ ォルトのアラート・サブスクリプションをセットアップします。

オブジェクト・タイプ	オブジェクト・アクセス役割
プロジェクト	 プロジェクト所有者
	• プロジェクト参加者
	 プロジェクト要求元
要求	 要求受信者
	• 要求所有者
プログラム	 プログラム所有者
	• プログラム参加者
承認	• 承認所有者
	• 承認承認者
資産	資産の所有者
請求書	請求書の所有者
アカウント	アカウントの所有者
計画	• 計画所有者
	• 計画参加者
カスタム・マーケティング・オブジェクト・	所有者
タイプ	
オファー *	オファー所有者

表 73. アラート受信のために配信登録できるオブジェクト・アクセス役割

* IBM Marketing Operations-Campaign の統合が有効なインストール済み環境にのみ 適用されます。

デフォルトのアラート・サブスクリプションをセットアップするには、「設定」 >「Marketing Operations 設定」>「デフォルトのアラート・サブスクリプション」 をクリックします。オブジェクト・タイプごとに、各種アラートのリストが表示さ れます。該当するアクセス役割を持つチーム・メンバーの配信登録を行うには、チ ェック・ボックスを選択します。例えば、新しいメンバーがプロジェクトに追加さ れた際に通知を送信するために、プロジェクト所有者とプロジェクト参加者のチェ ック・ボックスを選択し、プロジェクト要求元のチェック・ボックスをクリアする ことができます。

デフォルトのアラート・サブスクリプションの設定に関する注意

デフォルトのアラート・サブスクリプションを使用して作業を行う場合には、以下 のことに注意してください。

- 作成するのはデフォルト設定です。(所定のセキュリティー権限を持つ) ユーザーは、各オブジェクト・インスタンスにおけるこれらのデフォルト設定を変更することができます。
- デフォルトのアラート・サブスクリプションを変更しても、既存のオブジェクト・インスタンスには作用しません。この変更後に作成するオブジェクト・インスタンスにのみ、変更内容が適用されます。

ユーザーによるデフォルトのアラート・サブスクリプションのオーバ ーライド

ユーザーはオブジェクト・インスタンスごとに、デフォルトで配信登録されている アラートを確認し、それらを変更することができます。これを行うには、プログラ ム、プロジェクト、または他のオブジェクト・インスタンスを開き、「**通信**」(

・ ・ ・ ・ ・ をクリックし、「アラートの配信登録」を選択します。

デフォルトのアラート・サブスクリプションを設定するには

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「デフォルトのアラート・サブスク リプション」を選択します。

「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページに、オブジェクト・タイ プ別にグループ化されたすべてのアラートがリストされます。『「デフォルトの アラート・サブスクリプション」ページ』を参照してください。

2. オブジェクト・アクセス役割の 1 つを持つチーム・メンバーの配信登録を行う には、該当するチェック・ボックスを選択します。

チーム・メンバーの配信解除を行うには、該当するチェック・ボックスをクリア します。

3. 「変更の保存」をクリックします。

「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページ

「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページは、プロジェクト、要求、 プログラム、承認などといった各マーケティング・オブジェクト・タイプのセクシ ョンに分かれています。また、ご使用のシステムで定義された各カスタム・マーケ ティング・オブジェクト・タイプのセクションもあります。送信可能なアラートの リストが、各セクションに表示されます。それらのアラートはタイプ別にグループ 分けされます。

- 変更トラッキング (Change Tracking): このセクションには、イベントでトリガー されるアラートがリストされます。例えば、「新しいプロジェクトを要求から作 成します」アラートは、プロジェクトの「変更トラッキング (Change Tracking)」サブセクションに表示されます。
- **リマインダー**: このセクションには、現在日付とオブジェクト・インスタンスの 予定日またはターゲット日との比較によりトリガーされる、リマインダー・アラ

ームがリストされます。例えば、プロジェクトの「**リマインダー**」サブセクションに「プロジェクトは 3 日遅れています (A project is 3 days late)」が表示されます。

これらの各種タイプのアラートの構成については、177ページの『イベントでトリ ガーされるアラートについて』と178ページの『リマインダーについて』を参照し てください。

リマインダーとワークフロー・タスクの日付について

デフォルトのアラート・サブスクリプションをセットアップする際、プロジェクト・ワークフロー・タスクのために、ターゲット日、予測日、またはその両方に基づく通知を送信することができます。「デフォルトのアラート・サブスクリプション」ページで、「プロジェクト」|「リマインダー」のセクションには、プロジェクト・ターゲット日に基づく以下のアラートが含まれます。

- ワークフロー・タスクは n 日以内に開始することになっています
- ワークフロー・タスクは n 日以内に終了することになっています
- ワークフロー・マイルストーンは n 日以内に終了することになっています
- 目標の日付と比べてワークフロー・タスクは期限を過ぎています (最大 n 日間ア ラート)
- 目標の日付と比べてワークフロー・タスクは遅延しています (最大 n 日間アラート)

以下のアラートは、予測日に基づいたものです。

- ワークフロー・タスクは n 日以内に開始すると予想されます
- ワークフロー・タスクは n 日以内に終了すると予想されます
- ワークフロー・マイルストーンは n 日以内に終了すると予想されます
- 予想日付と比べてワークフロー・タスクは期限を過ぎています (最大 n 日間アラ ート)
- 予想日付と比べてワークフロー・タスクは遅延しています (最大 n 日間アラート)

各タイプのアラートの日数を設定するために通知プロパティーを構成します。 178 ページの『リマインダーについて』を参照してください。

アラートの通知メッセージのカスタマイズ

管理者は、アラートの件名、メッセージ・テキスト、ヘッダー、およびフッターを カスタマイズすることができます。また、メッセージをローカライズすることもで きます。これを行うには、カスタマイズする各メッセージのロケールを選択しま す。

システム全体か、あるいは選択したテンプレートを対象に、アラート・メッセージ をカスタマイズすることができます。例えば、プログラムが開始されるたびに送信 されるメッセージをカスタマイズできます。あるいは、ある特定のプログラム・テ ンプレート (展示会サンプル・テンプレートなど)専用にメッセージをカスタマイズ できます。 送信するアラートのデフォルト・メッセージをカスタマイズするには、「管理設 定」ページの「**アラートのカスタマイズ**」オプションを使用します。特定のテンプ レートのメッセージをカスタマイズするには、すべてのテンプレート・タイプで用 意されている「アラートのカスタマイズ」タブを使用します。 『アラート通知メッ セージをカスタマイズする方法』を参照してください。

ヒント: プロジェクト・テンプレートのタブに対するカスタム権限を構成した場合、システムにより、アラートが適宜フィルターに掛けられます。例えば、一部の プロジェクト参加者が「**添付ファイル**」タブへのアクセス権限を持っていない場合、システムでは、それらの参加者に添付ファイルに関するアラートは送信されま せん。

カスタム・メッセージを構成する際、テキストに加えて、変数と、システム・タブ へのリンクを含めることができます。これらの項目を追加すると、それらはシステ ム定義タグとして表示されます。システムはアラート通知の送信時に、メッセージ 内のすべてのタグを、そのマーケティング・オブジェクト・タイプおよびオブジェ クト・インスタンスで適切な値に置き換えます。

変数の追加について

標準の計画オブジェクト・データ、またはイベントに関連したシステム・データに 関して、プレースホルダー変数を挿入することができます。変数を件名、本文、ヘ ッダー、およびフッターに挿入することができます。

ヒント:「アラート設定」ページの「**属性**」リストで、追加可能な変数について確認してください。

標準タブへのリンクの追加について

選択したマーケティング・オブジェクト・タイプで表示される任意の標準タブへの リンクを含めることができます。タブへのリンクを組み込むと、E メール・メッセ ージには、オブジェクト・インスタンスの指定タブに直接つながるリンクが含めら れます。例えば、プロジェクトの開始時に、「ワークフロー」タブへのリンクが通 知メッセージに含まれるようにすることができます。

テンプレートには、件名、本文、ヘッダー、およびフッターに対して、タブへのリ ンクを追加できます。システム・レベルでは、タブ・リンクを追加できるのは件名 と本文の中だけです (ヘッダーとフッターには追加できません)。

アラート通知メッセージをカスタマイズする方法

- アラートをシステム全体でカスタマイズするか、または特定のテンプレートに 限ってカスタマイズするかを決定します。
 - アラートをシステム全体でカスタマイズするには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「アラートのカスタマイズ」をクリックします。
 - 特定のテンプレートのアラートをカスタマイズするには、テンプレートを追加または編集してから、そのテンプレートの「アラートのカスタマイズ」タブをクリックします。

「アラートのカスタマイズ」ページまたはタブが表示されます。

2. ロケールを選択します。

注:ご使用のシステムで複数のロケールがサポートされている場合は、この手順を繰り返して、カスタマイズするアラートごとにロケール固有のカスタム・ テキストを設定してください。

3. 「計画オブジェクト」を選択します。

テンプレートを構成しているときに、このフィールドが使用不可になっている ことがあります。例えば、プロジェクト・テンプレートを処理しているとき は、このフィールドでは「**プロジェクト**」が選択されていて、それ以外のもの は選択できません。

- 4. アラート・イベントを選択します。
- 5. 「アラートの詳細を取得」をクリックします。メッセージの件名および本文に 現在定義されている値が表示されます。人員配置の変更によるアラートや、そ の他の仕方で特定のユーザーに関わるアラートの場合は、影響を受けるユーザ ーに対するオプションの個人テキストを格納するために使用できる、追加フィ ールドが表示されます。
- 6. このアラート用の「**件名**」および「**メッセージ本文**」のテキストを入力または 編集します。
- 7. オプションで、件名、本文、ヘッダー、またはフッターについて、属性とタブ へのリンクを指定します。

次のことに注意してください。

- ・ 変数と、タブへのリンクを含めるには、編集するセクションのページの右側 にあるリストを使用します。 181ページの『アラートの通知メッセージのカ スタマイズ』を参照してください。
- 詳細なタスク・アラートを使用している場合は、ワークフロー・タスク・ア ラートにおいてアラート・ヘッダーおよびアラート・フッターのみをカスタ マイズできます。
- アラートをシステム全体でカスタマイズしている場合、ヘッダーとフッター にタブへのリンクを追加することはできません。
- 8. 「**アラートのカスタマイズ**」セクションで、「変更の保存」をクリックします。
- 9. オプションで「**ヘッダーとフッターを取得**」をクリックします。 メッセージの ヘッダーおよびフッターに現在定義されている値が表示されます。
- 10. アラートの「**ヘッダー**」および「**フッター**」に、テキストを入力し、変数とタ ブへのリンクを含めます。
- 11. 「**ヘッダーとフッターのカスタマイズ**」セクションで、「変更の保存」をクリ ックします。

「アラート設定」ページ

「アラート設定」ページ(またはタブ)には、メッセージの件名および本文とそのヘ ッダーおよびフッターをカスタマイズするセクションが含まれています。 182 ペー ジの『アラート通知メッセージをカスタマイズする方法』を参照してください。

「アラートのカスタマイズ」セクション

ページの上部領域には、メッセージの件名および本文をカスタマイズするためのコ ントロールが用意されています。

表 74. 「アラートのカスタマイズ」セクション

フィールド	説明
ロケール	カスタム・テキストのロケールを選択します。
	複数の言語またはロケールがシステムでサポートされている場合 は、カスタマイズするアラートごとに、サポートされているすべて のロケールのテキストを必ず設定してください。
計画オブジェクト	カスタム・テキストを適用するオブジェクトを選択します。 注: テンプレートには適用されません。
アラート・イベント	このカスタム・メッセージ・テキストをトリガーするアラートのタ イプを選択します。
アラートの詳細を取得	クリックすると、「件名」フィールドと「メッセージ本文」フィー ルドに、このアラート用の現行またはデフォルトのテキストが設定 されます。特定のアラート・イベントの場合は、これらのフィール ドが更新されて、2 つの件名フィールドと 2 つのメッセージ・フ ィールドが表示されます。 185 ページの『汎用メッセージ・フィ ールドとパーソナライズされたメッセージ・フィールド』を参照し てください。
件名	アラートの件名が入っています。テキスト、属性、およびタブへの リンクを入力するか置き換えて、件名を変更します。
メッセージ本文	アラートのメッセージ・テキストが入っています。テキスト、属 性、およびシステム・タブへのリンクを入力するか置き換えて、メ ッセージを変更します。
属性 / タブ	「属性」または「タブ」を選択して、変数か、またはシステム・タ ブへのリンクを、件名またはメッセージ・テキストに追加します。 181 ページの『アラートの通知メッセージのカスタマイズ』を参照 してください。
<<	属性またはタブ・リンクを含めるには、その名前をクリックしてか ら「<<」をクリックして、「件名」または「メッセージ本文」フィ ールドに移動します。

「ヘッダーとフッターのカスタマイズ」セクション

このページの下部領域には、メッセージのヘッダーとフッターをカスタマイズする制御が含まれています。

表 75. 「ヘッダーとフッターのカスタマイズ」セクション

フィールド	説明
ロケール	カスタム・テキストのロケールを選択します。
	複数の言語またはロケールがシステムでサポートされている場合 は、カスタマイズするアラートごとに、サポートされているすべて のロケールのテキストを必ず設定してください。

表 75. 「ヘッダーとフッターのカスタマイズ」セクション (続き)

フィールド	説明
ヘッダーとフッターを	クリックすると、「 ヘッダー 」フィールドと「 フッター 」フィール
取得	ドに、このアラート用の現行またはデフォルトのテキストが設定さ
	れます。
ヘッダー	アラートのヘッダー・テキストが入っています。テキストを入力す
	るか置き換えて変更します。
フッター	アラートのフッター・テキストが入っています。テキスト、属性、
	およびシステム・タブへのリンクを入力するか置き換えて変更しま
	す。
属性 / タブ	「属性」または「タブ」を選択して、変数か、またはシステム・タ
	ブへのリンクを、件名またはメッセージ・テキストに追加します。
	181 ページの『アラートの通知メッセージのカスタマイズ』を参照
	してください。
<<	属性またはタブ・リンクを含めるには、その名前をクリックしてか
	ら「<<」をクリックして、「 ヘッダー 」または「 フッター 」フィー
	ルドに移動します。

汎用メッセージ・フィールドとパーソナライズされたメッセージ・フ ィールド

特定のタイプのアラートの場合に、変更による直接的影響を最も受けるユーザーに はある通知メッセージを送信し、他のチーム・メンバーには別のメッセージを送信 することができます。例えば、プロジェクトが開始されると、システムにより、影 響を受けるすべてのユーザーに同じアラートが送信されます。しかし、あるワーク フロー・タスクが特定のユーザーに割り当てられている場合、システムにより、割 り当てられたユーザーにはあるメッセージ(個人メッセージと呼ばれる)が送信さ れ、影響を受けるその他すべてのユーザーには汎用メッセージが送信されます。

「アラート設定」ページまたはタブで「**アラート・イベント**」を選択した後、「**ア** ラートの詳細を取得」をクリックします。選択したイベントが個人メッセージと汎 用メッセージの両方に対応しているなら、このページが最新表示されて、メッセー ジ件名の2つのフィールド(個人と一般)と、メッセージ本文の2つのフィールド (個人と一般)が示されます。183ページの『「アラート設定」ページ』を参照して ください。

カスタム・アラート・メッセージの例

以下の例では、要求から新規プロジェクトが作成されたことについてユーザーに通 知するアラートの、カスタム・メッセージを構成します。対応する必要があるユー ザーのために、カスタム・メッセージを用意します。

- 1. 「アラート設定」ページで、以下を指定します。
 - ロケール: 英語 (または使用するロケールを選択してください)
 - 計画オブジェクト: 要求
 - アラート・イベント: プロジェクト要求が送信されます
- 2. 「**アラートの詳細を取得**」をクリックします。このページが最新表示されて、現在の汎用メッセージと個人メッセージが示されます。

- 3. 「**件名 (個人)**」および「**メッセージ本文 (個人)**」のデフォルト・テキストを選 択して削除します。
- 4. 「**属性**」および「**タブ**」のリストを使用して、以下の件名とメッセージを構成し ます。

件名 (個人)

<attribute>ログイン・ユーザー</attribute> would like you to approve the request, <attribute>コード付きの要求名</attribute>

メッセージ本文(個人)

Hello <attribute>受信者</attribute>,

Your approval is needed to start this project. This request was created on <attribute>作成日</attribute>.

You can approve the project here: <tab link="Summary">プロジェクトの「サマリ ー」 タブ</tab>

5. 「アラートのカスタマイズ」セクションの「変更の保存」をクリックします。

窓口担当の Connie (Connie Contact) がマネージャーの Mary (Mary Manager) に要 求を送信するとします。 Mary は、次のようなアラートを受け取ります。

Connie Contact would like you to approve the request, "July Magazines (TRS100)"

Hello Mary Manager, Your approval is needed to start this project. This request was created on June 15, 2008. You can approve the project here: Summary tab for the project.

アラート数のリフレッシュ間隔の変更

ユーザーが IBM Marketing Operations にログインすると、「アラート」アイコン (

▶) に未読の通知の数が表示されます。

デフォルトでは、システムはこのカウントを 3 分 (180 秒) ごとに更新します。こ のデフォルトの間隔は、alertCountRefreshPeriodInSeconds プロパティーを設定し 変更できます。「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「通知」をクリックします。

注: リフレッシュ間隔を短くすると、マルチユーザー環境ではパフォーマンスに影響が出る場合があります。

構成パラメーターについて詳しくは、「*IBM Marketing Operations インストール・* ガイド」を参照してください。

IBM Marketing Operations によるアラート送信元の決定方法

IBM Marketing Operations が E メールでアラート通知を送信する際、送信者の E メール・アドレスになるのは、以下のうち最初の有効なアドレスです。

- 1. アラートをトリガーしたアクションを開始したユーザー。
- 2. オブジェクト・インスタンスの所有者。
- notifyDefaultSenderEmailAddress プロパティーの値。「設定」>「構成」
 >「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「E メール」をクリックし
 ます。

これらの E メール・アドレスがいずれも有効でない場合、Marketing Operations は (ログ・ファイルに) 警告を出し、E メール・アラートを送信しません。

第 11 章 リスト・オプションの定義

IBM Marketing Operations のユーザー・インターフェースにはいくつかのリスト・ ボックス・コントロールがあり、これらをカスタマイズされたオプション・セット を提供するように構成できます。例えば、組織内のスタッフが持つ役割(つまり職務)のリストや、法定または会社の祝日など、休業日とする日のタイプのリストな どがあります。これらのリストにデータを設定するには、管理者としてそれらのオ プションを定義します。

IBM Marketing Operations をカスタマイズする他の方法について詳しくは、 16 ペ ージの『IBM Marketing Operations インターフェースのカスタマイズ』を参照して ください。

カスタマイズ可能リスト

独自のサイト固有のオプションを指定することで、IBM Marketing Operations に表示されるリストをカスタマイズすることができます。カスタマイズ可能なリストと、それらが表示されるユーザー・インターフェース内の場所は、以下のとおりです。

表 76. カスタマイズ可能リスト

リスト・タイプ	説明	場所
事業領域	計画が属する事業領域。主に予算 に計上された資金の割り振りに使 用します。	ユーザーが計画を作成または編集 するときに、その「 事業領域」 を 指定できます。ユーザーは「計画 サマリー」セクションでこのリス トを利用できます。
プログラム域	計画において 1 つ以上のプログラ ムがグループ化されている単位。 プログラム域は、計画にリンクさ れているプログラムを関連付けて グループ化したものに資金を割り 当てる場合に特に役立ちます。	ユーザーが計画を作成または編集 するときに、その「プログラム 域」を指定できます。ユーザーは 「計画サマリー」セクションでこ のリストを利用できます。
コスト・カテゴリ ー	予算または請求書の明細項目コス トを定義するのに役立つカテゴリ ー。	ユーザーが請求書または予算の明 細項目を作成または編集するとき に、その「 コスト・カテゴリー 」 を選択できます。
ベンダー	請求書の明細項目の購入先の企業 の名前。 詳しくは、14ページの『予算のベ ンダー列の有効化』を参照してく ださい。	ユーザーが請求書を作成または編 集するときに、その「ベンダー 名」を選択する必要があります。 ユーザーは「請求書サマリー」セ クションでこのリストを利用でき ます。

表 76. カスタマイズ可能リスト (続き)

リスト・タイプ	説明	場所
役割 休業日タイプ	職務またはスキル・セット。役割 を使用すると、プロジェクト内の タスクに担当者を簡単に割り当て られるようになります。 注:これらの役割は職務上のもので あり、Marketing Operations インタ ーフェースの領域へのアクセス権 限を決定するセキュリティー役割 とは異なります。 休業日のカテゴリー。例えば、祝	ユーザーは、プロジェクトを追加 または編集するときに、プロジェ クトの実行に必要な役割を特定 し、「スタッフ」タブでそれらの 役割にチーム・メンバーを割り当 てます。すると、「ワークフロ ー」タブで、ユーザーが役割また はチーム・メンバーをタスクに割 り当てることができます。 管理者が休業日を入力するとき
	日、社内行事日、企業の休業日な ど。 詳しくは、8ページの『システム 全体の休業日について』を参照し てください。	に、各日の「 タイプ 」を特定しま す。 すると、ユーザーがプロジェク ト・ワークフロー・タスクを追加 または編集するときに、「スケジ ユール終了日」設定を指定できま す。タスク・スケジュールには、 営業日のみ、営業日と週末、営業 日とこれらの休業各タイプ、また はすべての日付を含めることがで きます。
ワークフロー・マ イルストーン・タ イプ	プロジェクト・ワークフローに含 めることのできるマイルストー ン。	ユーザーがプロジェクト・ワーク フロー・タスクを追加または編集 するときに、その「 マイルストー ン・タイプ」を選択することによ って、プロジェクト・マイルスト ーンとして特定できます。
承認拒否理由	承認用に受け取られた項目を拒否 する理由。 承認が拒否される場合に理由が必 要なインストール済み環境にのみ 適用されます。詳しくは、25ペー ジの『「拒否理由」を必須にする には』を参照してください。	ユーザーは、承認に応答するとき に承認を拒否することができま す。拒否するには、「 拒否理由 」 を指定しなければなりません。
Coremetrics® クラ イアント	 IBM Digital Recommendations 実装 からのクライアント ID および名前。 IBM Marketing Operations と Campaign を統合し、なおかつ、オ プションのオファー統合も有効に するインストール済み環境にのみ 適用されます。詳しくは、「IBM Marketing Operations および Campaign 統合ガイド」を参照して ください。 	管理者はオファー・テンプレート を構成して、ユーザーがカテゴリ ー ID と名前を、手動で入力する のではなく Digital Recommendations システムから選択 できるようにすることができま す。テンプレートを構成するに は、管理者は Digital Recommendations の URL と 1 つ 以上の有効な「 クライアント ID 」 を指定します。

オプションをリストに追加するには

管理者として、カスタマイズ可能なリストに値を設定することができます。カスタ マイズできるリストについて詳しくは、189ページの『カスタマイズ可能リスト』 を参照してください。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」をクリックします。

「管理設定」ページが表示されます。

2. 「**リストの定義**」をクリックします。

「リストの定義」ページが表示されます。

3. オプションを追加するリストの名前をクリックします。

「リスト・プロパティー」ページが表示されます。

- このページのフィールドに値を指定します。各フィールドについて詳しくは、 『リスト・プロパティーについて』を参照してください。
- 5. 「変更の保存」をクリックすると、変更内容が保存されます。

リスト・プロパティーについて

カスタマイズ可能リストの項目を定義するには、「リスト・プロパティー」ページ で値を指定してから「**変更の保存」**をクリックします。詳しくは、『オプションを リストに追加するには』を参照してください。

フィールド	説明
リスト名	選択したリストの名前を表示します。
説明	リストの説明を入力します。 Marketing Operations には、編集または置き換えが可能なデフォルトの説明が用意されています。
表示	このリストのオプションの表示方法および順序 (コード番号順で後ろに 名前を表示するか、名前順で後ろにコード番号を表示するか)を指定し ます。
保存場所	このリストのオプションが保管されているデータベース表の名前が表示 されます。
新規項目または選 択した項目	オプションを追加するには、固有の識別コードと表示名を入力し、「承認」をクリックします。 Marketing Operations により「リスト項目」フィールドにオプションが追加されます。
	既存のオプションを編集するには、「 リスト項目 」フィールド内でオプ ションをクリックして選択します。これらのフィールドには、必要に応 じて編集できるコードおよび名前が表示されます。変更が完了したら、 「 承認 」をクリックします。
リスト項目	このフィールドには、リストにデータを設定するために定義するすべて のオプションが表示されます。

また、このページには「**リスト項目**」フィールド内のオプションを有効にする、無 効にする、または削除するためのコントロールもあります。詳しくは、 192 ページ の『リスト・オプションを有効化、無効化、または削除するには』を参照してくだ さい。

コントロール	説明
無効	選択したオプションをデータベース内に保持しますが、それらを Marketing Operations ユーザー・インターフェースには表示しません。 「リスト項目」フィールドには、無効にされたオプションがグレーのフ ォントで表示されます。
	オブジェクトに対して既に選択されているオプションを無効にしても、 そのオプションはそれらのオブジェクトと関連付けられたままになりま す。ただし、ユーザーは他のオブジェクトに対してそのオプションを選 択することはできません。
有効	無効なオプションを復元して、ユーザー・インターフェースで完全に操 作できるようにします。 デフォルトでは、新規オプションは有効になります。
削除	選択したオプションを Marketing Operations ユーザー・インターフェー スおよび「 リスト項目 」フィールドから削除します。既にオブジェクト に対して選択されているオプションは削除できません。

リスト・オプションを有効化、無効化、または削除するには

カスタマイズ可能リストにオプションを追加すると、それはユーザーが選択できる 値としてユーザー・インターフェース内に表示されます。

組織におけるニーズの変化に応じて、使用しなくなったオプションを削除すること ができます。オプションは、リストから削除すると、完全に削除されます。そのオ プションをもう一度追加することが必要になった場合、再追加しなければなりませ ん。

オプションを無効にすることもできます。そうすると、オプションはリストに表示 されませんが、将来使用する場合に備えて保持しておくことができます。オプショ ンが再び必要になったときに、有効にしてください。

- 1. 191 ページの『オプションをリストに追加するには』に説明されている手順に従ってください。
- 2. 「リスト項目」フィールドで、有効化、無効化、または削除する値を選択しま す。 Ctrl キーを押しながらクリック、または Shift キーを押しながらクリック することにより、複数の項目を選択することもできます。
- 3. 「無効」、「有効」、または「削除」をクリックします。
- 4. 「変更の保存」をクリックします。

リストのローカライズについて

リストを保存すると、システムは該当するリストのプロパティー・ファイルを生成 します。ファイル名は *<list_category>_<defaultLocale>.properties* です。例え ば、事業領域のリストを編集する場合、デフォルト・ロケールが en_US であれば、 システムは以下のファイルを生成します。

BUSINESS_AREAS_en_US.properties

このファイルは、managedListDir プロパティーで指定されたディレクトリーに保存 されます。「設定」>「構成」>「Marketing

Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」をクリックします。基礎となるテーブルからのコードがキーになり、基礎となるテーブルからの名前が値になります。

リストを翻訳し、IBM Marketing Operationsでサポートするロケールごとにプロパティー・ファイルを作成します。

ユーザーの役割もローカライズすることができます。プロジェクト・テンプレート のローカライズされた役割は、「役割」リストに対して行われたローカリゼーショ ンに基づいています。

注: デフォルト・ロケールを使用してリスト定義を作成および更新する必要があり ます。

第 12 章 プロジェクト正常性ルールの実装

プロジェクト所有者と参加者がプロジェクトの全体的な状況を追跡できるようにす るため、プロジェクト正常性を計算するようにシステムを構成します。

Marketing Operations はプロジェクトに対して重要業績評価指標 (KPI)のセットを 指定します。プロジェクトが正常、警告状態、または重大な状態のいずれであるか を客観的に判断するには、KPI を選択して、正常性ルールのしきい値を指定しま す。さまざまな基準を使用して各種プロジェクトの正常性を判断するために、作成 した各ルールを 1 つ以上のプロジェクト・テンプレートに関連付けることができま す。システムはバッチ・ジョブを実行して、適切なルールを自動的に各プロジェク トに適用し、ユーザー・インターフェースで正常性ステータスのインジケーターを 更新します。

組織にプロジェクト正常性ルールを実装するには、次のようにします。

- 1. デフォルトの正常性ルールを評価し、必要に応じてカスタム正常性ルールを構成 します。
- 2. 正常性ルールをプロジェクト・テンプレートに割り当てます。
- 日次バッチ・ジョブの開始時刻、および1日の中で追加のバッチ・ジョブを実行する頻度をスケジュールに設定します。詳しくは、「*IBM Marketing Operations インストール・ガイド*」で、「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「Scheduler」>「daily」構成プロパティー

および「intraDay」構成プロパティーを参照してください。

4. オプションで、正常性ステータスに対して表示されるラベルとカラー・インジケ ーターをカスタマイズします。

ある Marketing Operations システムに対して定義された正常性ルールをエクスポートして、別のシステムにインポートすることができます。詳しくは、201ページの 『第 13 章 メタデータのエクスポートおよびインポート』を参照してください。

実装が完了したら、プロジェクト所有者と参加者は次の方法を使用して、正常性ス テータスをモニターできます。

- 日次バッチ・ジョブによって生成される E メール通知をサブスクライブします。
- プロジェクト正常性ステータス・ポートレットをダッシュボードに追加します。
- プロジェクト・リストのページの「プロジェクト正常性」列のインジケーターを 確認します。
- 各プロジェクトの「プロジェクト正常性」タブを開きます。
- 月次およびトレンドのプロジェクト正常性レポートを実行します。

これらの機能について詳しくは、「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」 を参照してください。

重要業績評価指標について

正常性ルールには、目標のしきい値に対するプロジェクト実績を評価する重要業績 評価指標 (KPI) が含まれます。例えば、プロジェクトの予算超過が 5% 未満の場 合、そのプロジェクトを正常だと見なしますが、予算超過が 10% のプロジェクト は重大な状態だと見なします。

表 77. プロジェクト正常性の KPI

КРІ	説明
% マイルストーン期限超過	「進行中」と「完了」のすべてのプロジェクト・マイルス トーンに関して、遅延時間の合計と計画時間の合計を比較 します。
%予算超過	プロジェクトに関して、推定予算の合計から実績経費を引 いた値と推定予算の合計を比較します。この KPI には、 財務管理モジュールが必要です。
%期限超過	「進行中」と「完了」のすべてのプロジェクト・タスクに 関して、遅延時間の合計と計画時間の合計を比較します。
% タスク遅延	プロジェクトに関して、期限超過タスクの数と未完了タス クの合計数を比較します。
% マイルストーン・タスク遅延	プロジェクトに関して、期限超過マイルストーンの数と未 完了マイルストーンの合計数を比較します。

期限超過タスクとマイルストーンをシステムが判別する方法

KPI のいくつかでは、タスクまたはマイルストーンが期限超過しているかどうかを システムが判断する必要があります。この判断を行うために、Marketing Operations は現在日付 (今日) と、タスクまたはマイルストーンの予測/実際の日付およびター ゲット終了日を比較します。

注:

- システムはサーバーの日付、時刻、およびタイム・ゾーンを現在日付として使用します。
- システムは、正常性ステータスを計算する日次バッチ・ジョブのタイム・スタンプを「今日」として使用します。
- システムは常に、状況が「スキップ」のタスクを「期限超過なし (Not Overdue)」 と分類します。

表 78. 日付の比較の結果

State	その他すべての状	完了
条件	態	
今日 > 予測/実際の終了 > 目標終了日	期限超過	期限超過
今日 > 目標終了日 > 予測/実際の終了	期限超過	期限超過なし (Not
		Overdue)
目標終了日 > 今日 > 予測/実際の終了	期限超過なし (Not	期限超過なし (Not
	Overdue)	Overdue)
目標終了日 > 予測/実際の終了 > 今日	期限超過なし (Not	期限超過なし (Not
	Overdue)	Overdue)

表 78. 日付の比較の結果 (続き)

State	その他すべての状	完了
条件	態	
予測/実際の終了 > 目標終了日 > 今日	期限超過なし (Not	期限超過
	Overdue)	
予測/実際の終了 = 空、AND	期限超過なし (Not	期限超過*
目標終了日 > 今日	Overdue)	
予測/実際の終了 > 今日 > 目標終了日	期限超過	期限超過
予測/実際の終了 = 空、AND	期限超過	期限超過なし (Not
今日 > 目標終了日		Overdue)

* タスク状況が「終了」に変わると、システムは「実際の終了日」にタイム・スタンプを入力します。次の正常性ステータスの計算の間に、システムがタスクを「期限超過なし (Not Overdue)」と再評価します。

デフォルトの正常性ルールについて

独自のプロジェクト正常性ルールを作成する前に、システムの提供するデフォルト の正常性ルールを評価してください。プロジェクトの正常性を判別するために独自 にカスタマイズしたルールを設計する際に、これをモデルとして使用できます。ま た、必要に応じてこれをプロジェクト・テンプレートに割り当てることもできま す。

表 79. デフォルト・ルールの条件

IF	THEN
% タスク遅延 = 0 AND	正常
% 期限超過 = 0 AND	
% 予算超過 <= 0	
ELSE IF	警告
% タスク遅延 <= 5% AND	
% 期限超過 <= 5% AND	
% 予算超過 <= 5%	
ELSE IF	重大
% タスク遅延 > 5% AND	
% 期限超過 > 5% AND	
% 予算超過 > 5%	
OTHERWISE	不明

組織のカスタム・ルールを設計する際には、以下の点に注意します。

- デフォルトの正常性ルールには、可能なプロジェクト・ステータス(「正常」、 「警告」、および「重要」)のそれぞれに解決される条件が含まれます。カスタム・ルールに、各ステータスの条件を組み込んでください。
- 条件の演算子および値は、可能な値の全範囲を網羅し、未割り当ての値はありません。システムは、該当しない値に対して「不明」ステータスを割り当てます。

例えば、最初の条件で % 予算超過 KPI を <= 0 の代わりに < 0 に設定するように変更します。その結果、システムはタスク遅延も時間遅延もない予算未満の プロジェクトのステータスを、「正常」ではなく「不明」と判別します。

 条件の順序は、システムがプロジェクトに関して導き出すステータスに影響を与 えます。

例えば、このルール内の条件の順序を、「警告」に解決される条件が最初に来る ように変更します。その結果、このルールでは、どのプロジェクトにも「正常」 ステータスが割り当てられなくなります。

プロジェクトの正常性ステータス・ルールを構成するには

プロジェクトの正常性ステータス・ルールを追加、編集、および削除して、ルール をプロジェクト・テンプレートに割り当てることができます。既存のルールを変更 する前に、他の管理者がそのルールで作業していないことを確認します。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「正常性ルール」をクリックしま す。 ページに正常性ステータス・ルールがリストされます。
- 2. ルールを追加するには、「正常性ルールの追加」をクリックします。 システム によってルール名と説明のフィールドがある行が追加されます。
- 名前と説明を入力して、「ルールの作成」(20)をクリックします。 プロジェクトの正常性を判断する if-then ステートメントを入力するためのダイアログが開きます。
- 4. 最初の 「IF」節に次のように入力します。
 - a. KPI を選択するには、「属性の選択」をクリックします。
 - b. クリックして演算子を選択します。
 - c. しきい値を入力します。
 - d. 「追加」をクリックします。ダイアログの中央に節が表示されます。
 - e. 節に複数の KPI を含めるには、「AND」または「OR」を選択して、これら の手順を繰り返します。
- 5. 「**THEN**」節に次のように入力します。条件を満たすプロジェクトに割り当て る正常性ステータスを選択します。
- 6. 「**複合条件の保存**」をクリックします。ダイアログの上部に条件が表示されま す。
- 7. ルールに「正常」、「警告」、および「重大」の正常性ステータスの条件が含 まれるように、これらの手順を繰り返します。
- ルールを一連の IF... THEN ステートメントとして確認するには、「プレビュー」をクリックします。確認後にルールを変更するには、「条件」をクリックします。

- 9. システムが、ダイアログの上部に表示されている順序で条件を適用します。必要に応じて、チェック・ボックス、および「上へ」コントロールと「下へ」コントロールを使用して、順序を変更します。
- 10. 「保存して終了」をクリックします。
- 11. ルールの「ルールの保存」 (圖) をクリックします。

ルールを実装するために、1 つ以上のプロジェクト・テンプレートにルールを割り 当てます。『ルールをプロジェクト・テンプレートに割り当てるには』を参照して ください。

ルールを編集する場合、他の管理者がそのルールで作業していないことを確認しま す。次に、「正常性ルール」ページに戻り、ルールの「**ルールの編集**」 (~) をク リックします。

プロジェクト・テンプレートに割り当てられていないルールを削除できます。他の 管理者がそのルールで作業していないことを確認します。次に、「正常性ルール」 ページの「**アクション**」で、ルールの 💥 をクリックします。

ルールをプロジェクト・テンプレートに割り当てるには

この手順を使用して、1 つ以上のプロジェクト・テンプレートへのルールの割り当 てを変更します。

- 「設定」>「Marketing Operations 設定」 >「正常性ルール」をクリックしま す。ページに正常性ステータス・ルールがリストされます。
- 2. 割り当てようとしているルールで、「ルールの編集」 (4) をクリックします。

注: プロジェクトの正常性ステータス・ルールを編集する前に、他の管理者がそのルールで作業していないことを確認します。オブジェクト・ロックはプロジェクトの正常性ステータス・ルールには適用されません。

- 3. 「テンプレートの関連付けの変更」 () をクリックします。 ダイアログが開き、左側には有効なプロジェクト・テンプレートのリスト、右側にはルールが割り当てられているテンプレートのリストが表示されます。
- 「選択 >>」と「削除 <<」を使用して、選択したテンプレートをリスト間で移動 します。複数のテンプレートを選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押し たままクリックします。
- 5. 「保存して閉じる」をクリックします。 「正常性ルール」ページに、ルールが あるプロジェクト・テンプレートがリストされます。
- 6. ルールの「**ルールの保存**」 (<u></u>) をクリックします。

注: 「ルールの保存」をクリックするまで、選択内容は保存されません。編集を キャンセルするには、「**アクション**」でルールの¥ をクリックします。

また、個々のプロジェクト・テンプレートにルールを割り当てることもできます。 テンプレートを編集して、「プロパティー」タブで「**プロジェクトの正常性ステー タス・ルール (Project Health Status Rule)**」を選択します。

ラベルと色をカスタマイズするには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」 >「正常性ステータス」をクリックし ます。 設定可能な各正常性ステータスの現在のラベルと色のインジケーターを 含むページが表示されます。
- 2. ステータスに別の表示名を入力するには、「**ラベル**」フィールド内でクリックします。

注: デフォルト・ロケールのラベルを入力します。ローカライズはサポートされていません。

- 3. ステータスで別の色インジケーターを使用するには、「**色の選択**」をクリックして、いずれかの色をクリックします。
- 4. 「保存」>「保存して終了」をクリックします。

第 13 章 メタデータのエクスポートおよびインポート

データ構造 (メタデータ) を、エクスポートおよびインポート機能を使用して IBM Marketing Operations システム間で転送することができます。

1 つの Marketing Operations システムから別のシステムにメタデータを効率的に転送するために、1 つのインスタンスからメタデータをエクスポートし、それを別の インスタンスにインポートします。

例えば、テスト・サーバーでテンプレートを作成した後にそのテンプレートをテス トし、組織のニーズが確実に満たされるように改善します。そのテンプレートを一 般利用できるようにデプロイする準備ができたら、テスト・サーバーでエクスポー ト機能を使用して圧縮アーカイブ・ファイルを作成し、その後に、本番サーバーで インポート機能を使用してそのファイルをロードし、テンプレートをインストール します。

Marketing Operations には、メタデータをパッケージ化し、一括してマイグレーションするためのオプションが用意されています。一括してマイグレーションできるメ タデータは以下のタイプです。

- セキュリティー・ポリシーおよび関連するユーザーの役割
- プロジェクトの正常性ステータスのルール
- ・チーム
- マーケティング・オブジェクト・タイプ
- テンプレート

メタデータを 1 つの Marketing Operations システムから別のシステムにマイグレー ションするときは、以下の点に注意してください。

- ソース・システムとターゲット・システムの両方が同じバージョンの Marketing Operations を実行している必要があります。
- ソース・システムとターゲット・システムは、異なるオペレーティング・システムの下で実行できます。
- ソース・システムとターゲット・システムは、異なるタイプのデータベース・サ ーバーを使用していても構いません。

メタデータのエクスポートについて

メタデータを一括してエクスポートするときに、Marketing Operations は選択された タイプのすべての項目について、データベース全体で同じ作業を繰り返します。そ の結果、エクスポート・プロセスに長時間かかる場合があります。

エクスポート・プロセスを行うと、1 つ以上の xml ファイルを含む圧縮アーカイ ブ・ファイルが作成されます。一部のタイプのメタデータでは、いくつかの追加フ ァイル (プロパティー・ファイルや SQL スクリプトなど) もエクスポートされま す。エクスポートされたすべてのデータでは、ロケール固有のデータを保存するた めに UTF-8 エンコード方式が使用されます。

メタデータを一括してエクスポートする方法

- 1. 「設定」メニューで「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「データ・マイグレーション」をクリックします。
- 「テンプレート」、「チーム」、「セキュリティー・ポリシー」、または「マー ケティング・オブジェクト・タイプ」の横にある「エクスポート」をクリックし ます。
- 4. テンプレートをエクスポートする場合は、「**テンプレートのエクスポート**」ダイ アログが開きます。
 - a. エクスポートに含めるテンプレートのタイプを選択します。デフォルトで は、すべてのテンプレート・タイプが選択されます。
 - b. インポート操作を通じてテンプレートのメタデータを受け取るシステムのデ ータベース・タイプを指定します。選択されたデータベース・タイプによっ て、エクスポート中に生成される SQL スクリプト・ファイルの形式が決ま ります。
 - c. 「**エクスポート**」をクリックします。
- 他のタイプのメタデータをエクスポートする場合、または「テンプレートのエク スポート」ダイアログを完了した後、標準の「ファイルのダウンロード (File Download)」ダイアログが開きます。エクスポートを開始するには、「開く」ま たは「保存」をクリックします。

テンプレートのエクスポート結果

テンプレートをエクスポートするときは、計画テンプレート、プロジェクト・テン プレート、クリエイティブ・テンプレートなど、エクスポート対象として 1 つ以上 の異なるタイプのテンプレートを選択します。また、テンプレートのメタデータを 受け取るターゲット・システムのデータベース・タイプも指定します。

Marketing Operations は選択されたテンプレート・タイプに応じて、以下を含む圧縮 アーカイブ・ファイルを生成します。

- そのタイプのすべてのテンプレートのメタデータを含む、<type>_templates.xml という名前の xml ファイル。
- <name>.xml ファイルを含む、各テンプレート・タイプごとの個別ディレクトリー、およびそのタイプのすべてのテンプレートのローカライズ済みプロパティー・ファイル・セット。

以下に例を示します。

File I	Edit View Favorites Tools	Help								
Address	C project		💌 🛃 Go	G Back 🔹		5 🔎	Search	B	Folders	Links
Folders		×	Name 🔺	Туре	Packe	Has	Size	R	Date	-
	🖃 🚺 templateArchive.zip	~	collateralproduction.xml	XML Document	1 KB	No	3 KB	65%	2/19/2012 2:13 AM	
	asset	_	collateralproduction_de_DE.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	54%	2/19/2012 2:13 AM	
	🗄 🫅 attachments		collateralproduction_en_US.properties	PROPERTIES	1 KB	No	2 KB	60%	2/19/2012 2:13 AM	
	Campaign		collateralproduction_es_ES.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	55%	2/19/2012 2:13 AM	
	Creatives		collateralproduction_fr_FR.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	54%	2/19/2012 2:13 AM	
	a folders		collateralproduction_it_IT.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	55%	2/19/2012 2:13 AM	
	i forms		collateralproduction_ja_JP.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	48%	2/19/2012 2:13 AM	_
	🗉 🧰 icons	-	collateralproduction_ko_KR.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	47%	2/19/2012 2:13 AM	
	invoice		collateralproduction_pt_BR.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	55%	2/19/2012 2:13 AM	
	metrics		collateralproduction_ru_RU.properties	PROPERTIES	1 KB	No	2 KB	50%	2/19/2012 2:13 AM	
	a milestones		collateralproduction_zh_CN.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	46%	2/19/2012 2:13 AM	
	🛅 plan		radeshow.xml	XML Document	1 KB	No	3 KB	69%	2/19/2012 2:13 AM	
	program		tradeshow_de_DE.properties	PROPERTIES	1 KB	No	2 KB	57%	2/19/2012 2:13 AM	
	project		tradeshow_en_US.properties	PROPERTIES	1 KB	No	1 KB	53%	2/19/2012 2:13 AM	
	Con roles	~	tradeshow_es_ES.properties	PROPERTIES	1 KB	No	2 KB	58%	2/19/2012 2:13 AM	
<		>	Tradeshow fr FR.properties	PROPERTIES	1 KB	No	2 KB	57%	2/19/2012 2:13 AM	~

- 選択されたタイプのテンプレートに関連付けられた項目のディレクトリー (roles や milestones など)。それらの項目のローカライズ済みプロパティー・ファイル を含みます。
- attachments ディレクトリー (含まれる項目に添付ファイルがある場合)。添付ファイルが入っている、各項目に因む名前のサブディレクトリーを含みます。
- forms ディレクトリー。XML 形式のフォーム定義ファイル、および選択された データベース・タイプに応じたそれぞれ別個の SQL スクリプトを含みます。こ れらのスクリプトにより、インポートした新しいテンプレートを操作するために ターゲット・データベースをどのように更新するかを制御することができます。 つまり、すべてのテーブルをドロップしてから、テンプレート・データ用に新し いタブを作成するか、あるいは create スクリプトまたは insert スクリプトのみを 実行して、既存のテーブルおよびデータを削除せずに新しい列およびテーブルを 追加することができます。

表 80. 生成されるスクリプト・ファイル

ファイル	説明
create.sql	既存のテーブルに列を追加し、テンプレートに必要な新しいテーブルを
	作成します。
createlkup.sql	既存のルックアップ・テーブルに列を追加し、テンプレートに必要な新
	しいルックアップ・テーブルを作成します。
drop.sq1	テンプレートによって使用されている既存のテーブルを削除します。デ
	ータが削除される可能性があっても構わない場合は、create.sql の前
	にこのスクリプトを実行して、データベースが確実に正しくセットアッ
	プされるようにします。
drop1kup.sq1	テンプレートによって使用されている既存のルックアップ・テーブルを
	削除します。データが削除される可能性があっても構わない場合は、
	createlkup.sql の前にこのスクリプトを実行して、データベースが確
	実に正しくセットアップされるようにします。
insert1kup.sq1	データをルックアップ・テーブルに挿入します。このスクリプトを使用
	すると、テンプレート・アーカイブによって完全なルックアップ・テー
	ブル (スキーマとデータ) を保存することができます。

プロジェクト正常性ルールのエクスポート結果

プロジェクト正常性ルールのメタデータをエクスポートすると、圧縮アーカイブ・ ファイルに単一の health_status_rule.xml ファイルが含まれます。このファイル には、システム上のすべてのルールについて、条件と結果、名前、および説明が収 められています。

チームのエクスポート結果

チームのメタデータをエクスポートすると、圧縮アーカイブ・ファイルに、システムで定義されているすべてのチームの個別の xml ファイルが含まれます。各ファイルの名前は team<*ID*>.xml です。

セキュリティー・ポリシーのエクスポート結果

セキュリティー・ポリシーのメタデータをエクスポートすると、圧縮アーカイブ・ ファイルに以下が含まれます。

- システムで定義されているすべてのセキュリティー・ポリシーの個別の xml ファ イル (名前は securityPolicy<ID>.xml)。関連するユーザーの役割はすべてこのフ ァイルに含まれます。
- securityPolicyFunctions.xml ファイル。これには、各 securityPolicy<*ID*>.xml ファイルで参照されている権限のリストが含まれます。

マーケティング・オブジェクト・タイプのエクスポート結果

マーケティング・オブジェクト・タイプのメタデータをエクスポートすると、圧縮 アーカイブ・ファイルに、サポートされるすべてのロケールについて個別のサブデ ィレクトリー (米国英語の場合は en_US) が含まれます。各サブディレクトリーには 以下の xml ファイルが含まれます。

- compTypes.xml には、すべてのマーケティング・オブジェクト・タイプのメタデ ータが含まれます。
- globalstates.xml には、システムで定義されているすべてのステータスのメタデ ータが含まれます。
- mo_<name>_state.xml は、各マーケティング・オブジェクト・タイプに提供され ます。これらのファイルには、ステータス間に定義されている遷移のメタデータ が含まれます。

メタデータのインポートについて

メタデータを Marketing Operations システムにインポートするには、事前にエクス ポートされたアーカイブ・ファイルを選択します。

インポート・プロセスでは、アーカイブとそのコンポーネント・ファイルが検証さ れます。ソース・システムとターゲット・システムには同じバージョンの Marketing Operations がインストールされている必要があり、すべてのファイルが正しくフォ ーマットされていることも必要です。

Marketing Operations のデータ構造は相互に関連しています。ソース・システムのデ ータ構造の複製は反復プロセスです。アーカイブ・ファイルをインポートし、手動 構成を実行し、場合によってはアーカイブ・ファイルを再インポートします。

インポートするメタデータのタイプが複数ある場合、この手順が最も効率的です。

1. マーケティング・オブジェクト・タイプ

最初にマーケティング・オブジェクト・タイプをインポートすることにより、テ ンプレートのインポート時にこれらのマーケティング・オブジェクト・タイプの すべてのテンプレートも確実にインポートされるようにします。

- 2. プロジェクト正常性ルール
- 3. テンプレート
 - ターゲット・システムのグローバル・セキュリティー・ポリシーは、ターゲット・システムに存在しないセキュリティー・ポリシーを持つテンプレートに割り当てられます。
 - ターゲット・システムに存在しないユーザーに関係する定義済みルールを使用 するテンプレートは、インポートされません。
 - ターゲット・システムに存在しないチームに関係する定義済みルールを使用するテンプレートは、インポートされますが、機能しません。

セキュリティー・ポリシーとチームをインポートすることによって続行し、必要 に応じてテンプレート・アーカイブを再度インポートするか、ターゲット・シス テムを更新します。

4. セキュリティー・ポリシー

ターゲット・システムに存在しないチームおよびユーザー・グループのユーザー 可視性定義は、インポートされません。チームをインポートすることによって続 行し、必要に応じてセキュリティー・ポリシーを再度インポートするか、ターゲ ット・システムを更新します。

5. チーム

チームをインポートした後で、必要に応じてルールおよびユーザー可視性定義を レビューして更新します。

メタデータ・アーカイブをインポートした後で、必ずターゲット・システムで結果 をレビューしてください。ユーザー、ルール、チーム、ユーザー・グループ、セキ ュリティー・ポリシー、およびテンプレートを必要に応じて構成し、ターゲット・ システムに新規構造を統合します。

テンプレート・メタデータをインポートする方法

以下の手順は、テンプレート・メタデータのアーカイブをインポートする場合に適 用されます。

- 1. 「設定」メニューで「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「データ・マイグレーション」をクリックします。
- 3. 「**テンプレート**」の横の「**インポート**」をクリックします。 「**テンプレートの インポート**」ダイアログが開きます。
- 4. 「参照」をクリックして、事前にエクスポートされたアーカイブ・ファイルを選 択します。
- 5. インポートする**テンプレート・タイプ**を選択します。デフォルトでは、すべての テンプレート・タイプが選択されます。

- 6. 「データベースの更新」セクションで、インポート・プロセス中に実行するオプ ションのデータベース・スクリプトを選択します。
 - テーブルの削除
 - ・ テーブルの作成/更新
 - ルックアップ・テーブルの削除
 - ・ ルックアップ・テーブルの作成/更新

どのスクリプトも選択しない場合、インポート・プロセスによりテンプレートの データ値が上書きされますが、対応するデータベース表は更新されません。

注: これらのアクションをすべて選択すると、選択されたテンプレートおよび関 連のファイルがすべてインポートされます。ただし、ターゲット・システムに存 在するテンプレートがアーカイブ・ファイルに含まれる場合にテーブルを削除す ると、インポート・プロセスにより、既存のテンプレートを使用して作成された すべてのオブジェクトのすべてのデータが削除されます。

例えば、インポートによってキャンペーン・プロジェクト・テンプレートのメタ データを更新する場合に、テーブルを削除すると、そのテンプレートを使用して 作成されたプロジェクト内の TCS のデータはすべて失われます。

データを上書きすることに不安がある場合は、テンプレート・アーカイブ内の SQL スクリプト・ファイルを調べて、必要なテーブルと列を手動で作成するこ とができます。

- 「続行」をクリックします。 サマリー・ページに、インポートするテンプレートがリストされ、現在のテンプレート・ファイルが上書きされることについての 警告が表示されます。
- 8. 「保存」をクリックします。

注: Marketing Operations をインストールしても、この製品と一緒に提供されるオプ ションのサンプル・テンプレートはインストールされません。サンプル・テンプレ ートを使用するには、ここに示す手順に従ってそれをインポートしてください。サ ンプル・テンプレートのアーカイブ・ファイルは、Marketing Operations のインスト ール済み環境下の ¥tools¥admin¥sample_templates フォルダーにあります。サポー トされるデータベース・タイプごとに異なるアーカイブ・ファイルが提供されま す。例えば、DB2 データベースを使用する場合は sample_templatesDB2 を使用し ます。サンプル・テンプレートについて詳しくは、53 ページの『サンプル・テンプ レートのリスト』を参照してください。

テンプレートのインポート結果

Marketing Operations 8.0.0 にアップグレードする前に作成したキャンペーン・プロ ジェクト・テンプレートはインポートできますが、それらのテンプレートは使用不 可になっています。ユーザーはそれらのテンプレートをプロジェクトの作成に使用 できません。

テンプレート・アーカイブに以下のいずれかの項目が含まれる場合、テンプレート のインポートは失敗します。

- Marketing Operations 8.0.0 より前に作成されたキャンペーン・プロジェクト・テンプレートで、システム内に既に存在するキャンペーン・プロジェクト・テンプレートと同じ名前のもの。
- システム内に既に存在する非キャンペーン・プロジェクト・テンプレートと同じ 名前のキャンペーン・プロジェクト・テンプレート (およびその逆の場合)。
- システム内に既に存在する非 TCS フォームと同じ名前の TCS フォーム (または その逆の場合)。
- システム内に既に存在する共有属性と名前は同じだが、データ型が異なる共有属性。

テンプレート・アーカイブ内のフォームで使用されている共有属性は、ターゲット・システムで共有属性として作成されます。

メタデータをインポートする方法

以下の手順は、プロジェクト正常性ルール、チーム、セキュリティー・ポリシー、 またはマーケティング・オブジェクト・タイプのメタデータのアーカイブをインポ ートする場合に適用されます。

- 1. 「設定」メニューで「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「データ・マイグレーション」をクリックします。
- 「プロジェクトの正常性ステータス・ルール」、「チーム」、「セキュリティ ー・ポリシー」、または「マーケティング・オブジェクト・タイプ」の横にある 「インポート」をクリックします。「インポート」ダイアログが開きます。
- 4. 「参照」をクリックして、事前にエクスポートされたアーカイブ・ファイルを選 択します。
- 5. 「続行」をクリックします。 アーカイブ内の項目を示す 2 部構成のサマリーが 表示されます。
 - 作成する項目: つまり、ターゲット・システムに存在しない固有の ID を持つ 項目。
 - 上書きする項目: つまり、ターゲット・システムに存在する固有の ID を持つ 項目。
- 6. インポートする項目を選択します。
- 7. 「保存」をクリックします。

プロジェクト正常性ルールのインポート結果

プロジェクト正常性ルールのメタデータをインポートすると、インポート・プロセスでは、各ルールの固有の ID とターゲット・システムに存在するルールが比較されます。

- プロジェクト正常性ルールがターゲット・システムに存在しない場合、インポート・プロセスはアーカイブを使用してそのルールを作成します。
- ターゲット・システムに存在するプロジェクト正常性ルールの場合、そのルール と条件、名前、および説明の値が、インポート・プロセスによって上書きされます。

注: ソース・システムでプロジェクト正常性ルールとプロジェクト・テンプレート の間に確立された関連付けは、テンプレート・メタデータと共にエクスポートおよ びインポートされます。

チームのインポート結果

チームのメタデータをインポートすると、インポート・プロセスでは、選択された 各チームの固有の識別子がターゲット・システムに存在するチームと比較されま す。ターゲット・システムにチームが存在しない場合、インポート・プロセスで は、アーカイブを使用してチームが作成され、その上で以下が行われます。

- アーカイブ内のセキュリティー・ポリシー・データがターゲット・システムに存 在するセキュリティー・ポリシーと比較してチェックされます。存在するセキュ リティー・ポリシーのチーム関連データが、アーカイブからコピーされます。ア ーカイブ内のセキュリティー・ポリシーがいずれもターゲット・システムに存在 しない場合、新しいチームにデフォルトのグローバル・セキュリティー・ポリシ ーが割り当てられます。
- アーカイブ内のメンバー・データを調べて、ターゲット・システムに存在するメンバーがあるかチェックされます。メンバーがターゲット・システムに存在し、順序付けモデルの定義を満たしている場合、それらのメンバーはチームに追加されます。存在が確認されたメンバーまたはマネージャーが順序付けモデルの定義を満たしていない場合、そのチームはインポートされません。

ターゲット・システムに存在するチームの場合、インポート・プロセスでは以下が 行われます。

- 説明、ステータス、スキル・セットなど、チームの値が上書きされます。
- 関連するセキュリティー・ポリシー・データを調べて、ターゲット・システムに 存在するセキュリティー・ポリシーがあるかチェックされます。存在するセキュ リティー・ポリシーのチーム関連データが、アーカイブからコピーされます。ア ーカイブ内のセキュリティー・ポリシーがいずれもターゲット・システムに存在 しない場合、そのチームにデフォルトのグローバル・セキュリティー・ポリシー が割り当てられます。
- アーカイブからのデータを使用して順序付けモデルが更新されます。
- アーカイブ内のメンバー・データを調べて、ターゲット・システムに存在するメンバーがあるかチェックされます。アーカイブ内のチームに関連付けられたメンバーは、それらがターゲット・システムに存在する場合はチームに追加されます。ターゲット・システム上のチームに関連付けられたメンバーは、それらがどのタスク、承認、またはプロジェクト要求にも割り振られておらず、アーカイブ内に存在しない場合は削除されます。存在が確認されたメンバーまたはマネージャーが順序付けモデルの定義を満たしていない場合、そのチームはインポートされません。

また、インポート・プロセスでは、ターゲット・システムで追加または更新された すべてのチームについて以下が行われます。

- 各チームのアラートおよび通知設定がターゲット・システムにコピーされます。
- 更新を記録するために、チームの「分析」タブにエントリーが追加されます。

セキュリティー・ポリシーのインポート結果

セキュリティー・ポリシーをインポートすると、インポート・プロセスでは、選択 された各ポリシーの固有の識別子がターゲット・システムに存在するポリシーと比 較されます。ターゲット・システムにセキュリティー・ポリシーが存在しない場 合、インポート・プロセスでは、アーカイブ内のオブジェクト・レベルおよびテン プレート・レベルの権限設定をすべて使用してセキュリティー・ポリシーが作成さ れます。ターゲット・システムに存在するセキュリティー・ポリシーの場合、イン ポート・プロセスではポリシーのすべての値が上書きされ、すべてのユーザーの役 割と関連付けが削除され、そのうえで、アーカイブからターゲット・システムにす べてのユーザーの役割がコピーされます。

また、インポート・プロセスでは、ターゲット・システムで追加または更新された すべてのセキュリティー・ポリシーについて以下が行われます。

- オブジェクト・レベルの関数設定がターゲット・システムにコピーされます。
- アーカイブ内の関連するテンプレート・レベルのセキュリティー・ポリシー設定 がターゲット・システムのテンプレートと比較してチェックされ、存在するすべ てのプロジェクト・テンプレートまたはコンポーネント・テンプレートのテンプ レート・レベルのセキュリティー・ポリシー設定がコピーされます。
- アーカイブ内のユーザー・データを調べてターゲット・システムに存在するユー ザーがあるかチェックされ、存在するユーザーのユーザーの役割割り当てがコピ ーされます。
- アーカイブ内のグループ・データを調べてターゲット・システムに存在するグル ープがあるかチェックされ、存在するグループの役割のグループ可視性がコピー されます。
- アーカイブ内のチーム・データを調べてターゲット・システムに存在するチーム があるかチェックされ、存在するチームの役割のチーム可視性がコピーされま す。

マーケティング・オブジェクト・タイプのインポート結果

マーケティング・オブジェクト・タイプをインポートすると、インポート・プロセ スでは、アーカイブにターゲット・システムのデフォルト・ロケールのファイルが 含まれているか検証されます。続いて、インポート・プロセスでは、選択された各 マーケティング・オブジェクト・タイプごとに以下が検証されます。

- マーケティング・オブジェクト・タイプがターゲット・システムに存在していないこと。
- アーカイブ内のマーケティング・オブジェクト・タイプが、ターゲット・システムに存在するすべての制限にパスしていること。
- アーカイブ内のマーケティング・オブジェクト・タイプのすべての状態と状態遷
 移が、ターゲット・システムのデフォルト・ロケールに存在していること。

これらの条件を満たすマーケティング・オブジェクト・タイプについて、インポート・プロセスはマーケティング・オブジェクト・タイプを作成し、その関連データをすべてコピーします。それぞれの新しいマーケティング・オブジェクト・タイプのアラートと通知設定も、ターゲット・システムに作成されます。

インポート・プロセスにより、ターゲット・システムに存在するマーケティング・ オブジェクトがアップグレードされることはありません。
第 14 章 デジタル資産のライブラリーのセットアップ

オプションのデジタル資産管理モジュールにより、IBM Marketing Operations は、 デジタル資産の集中管理、セキュアな保管、および Web ベースのアクセスを実現 します。 Marketing Operations では、ユーザーはデジタル資産をライブラリーに追 加します。ライブラリーには以下の特性があります。

- Marketing Operations 管理者は、デジタル資産のためのライブラリーを作成できます。ユーザーは、ライブラリーが少なくとも1つセットアップされるまでは Marketing Operations に資産を保管できません。
- Marketing Operations ユーザーは、「操作」>「資産」を選択して、ライブラリー にアクセスし、ライブラリーに資産を追加します。
- 資産ライブラリー自体を階層構造に編成することはできません。セットアップしたライブラリーはすべて、同じ編成レベルとなります。
- ユーザーは、追加する資産を編成するために、フォルダーをライブラリーに追加 することができます。

ライブラリーのセットアップ後にユーザーがデジタル資産を操作する方法については、「*IBM Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してください。

ライブラリーの作成方法

管理者は、ユーザーがデジタル資産を保管するライブラリーを作成します。ライブ ラリーを削除することはできませんが、その状態を変更して無効化することはでき ます。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「ルート・レベルのオブジェクト定義」セクションで、「資産ライブラリー定義」をクリックします。「すべてのライブラリー」ページが表示されます。
- 3. 「**ライブラリーの追加**」をクリックします。 「新しいライブラリー」ページが 表示されます。
- ライブラリーの「名前」と「説明」を入力します。 例えば、ライブラリーに 「Brand Materials」という名前を付け、その説明として、ブランド管理に関連し たすべてのイメージと文書の保管場所とします。
- 5. ライブラリーに使用する「セキュリティー・ポリシー」を選択します。
 - 選択したセキュリティー・ポリシーを持つユーザーのみが、このライブラリー にアクセスできます。
 - このライブラリーに追加されるすべてのフォルダーと資産には、当該セキュリ ティー・ポリシーによって指定されている同じアクセス制御ルールが付与され ます。
 - 一式の特定の文書に、異なるアクセス制御を許可する必要がある場合は、それらの文書のために別のライブラリーを作成します。
- 6. 「変更の保存」をクリックします。

「すべてのライブラリー」ページに、このライブラリーが有効化された状態でリ ストされます。ユーザーは、「操作」>「資産」をクリックすることにより、す ぐにライブラリーに資産を追加し始めることができます。

ライブラリーを編集するには、「すべてのライブラリー」ページでその名前をクリックします。

有効化されたライブラリーと無効化されたライブラリーについて

ライブラリーを作成した時点では、デフォルトでは有効化された状態です。ライブ ラリーを無効にするには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「資産ライブ ラリー定義」をクリックして、「無効化」をクリックします。もう一度有効にする には、「有効化」リンクをクリックします。

ライブラリーの状態をいつでも変更して無効化できますが、ライブラリーを無効に すると以下のようになります。

- ユーザーは、無効化されたライブラリーにも、それらに含まれる資産にもアクセスできません。無効化されたライブラリーの資産を表示したり、編集したりすることはできません。また、ライブラリーを参照して、プロジェクトに添付ファイルを追加したり、承認項目を追加したりすることもできません。
- ユーザーがプロジェクトまたは承認に新規ファイルを添付する場合、無効化されたライブラリーは選択リストに表示されません。
- アラートまたは E メール・メッセージに、無効化されたライブラリー内の資産へのリンクがある場合、そのリンクは機能しません。
- ただし、無効化されたライブラリー内の資産が、プロジェクトまたは承認に対す る添付ファイルでもある場合、ユーザーはそのプロジェクトまたは承認からその 資産にアクセスすることができます。
- 無効化されたライブラリーを変更できるのは、管理者だけです。

第 15 章 アカウントのセットアップ

IBM Marketing Operations におけるアカウントとは、費用とキャッシュ・フローの 追跡と管理のために財務部門が設定した、特定の企業総勘定元帳 (GL) アカウント のことです。アカウントは、オプションの財務管理モジュールの機能です。

アカウントの主要な機能により、以下を行うことができます。

- アカウントおよびサブアカウントの階層を定義する。
- 現会計年度の各月と、続く 2 年間のアカウントに資金の割り当てを行う。
- 期間ごとに、これらのアカウントからの予測される引き出しと実際の引き出しを 追跡する。

Marketing Operations では、アカウントがトップレベル・アカウントとサブアカウントに分かれています。階層を作成するには、サブアカウントをトップレベル・アカウントと他のサブアカウントに追加します。サブアカウントは、「設定」

>「Marketing Operations 設定」>「アカウント定義 (Account Definitions)」ページ で、トップレベル・アカウントおよび親アカウントの下に表示されます。

重要: サブアカウントは、もっぱら組織上の目的で、その親アカウントに属しま す。サブアカウントの財務情報は、親アカウントにロールアップされません。機能 的には、トップレベル・アカウントとサブアカウントは同一です。

アカウント管理者について

組織のアカウント管理者は、マーケティングの予算と費用を追跡するための会計フ レームワークのセットアップを担当する、財務部門または会計部門のメンバーであ る場合があります。あるいはアカウント管理者は、そのフレームワークにおけるマ ーケティング費用の詳細を財務/会計部門に対して報告する責任を負う、マーケティ ング部門のメンバーである場合もあります。

IBM Marketing Operations アカウント管理者の責任は、以下のとおりです。

- アカウントおよびサブアカウントの定義。
- アカウントの資金割り当て、すなわち期間ごとに予算金額で各アカウントを更新。
- アカウントの継続的なモニターと管理を行う、アカウント所有者の割り当て。

アカウント管理者は、Marketing Operations におけるベンダーおよびコスト・カテゴ リーのリストに含めるオプションを定義することもできます。ベンダーは、請求書 を作成する際に必要です。コスト・カテゴリーは、予算または請求書の明細項目ご とに選択することができます。詳しくは、189ページの『第 11 章 リスト・オプシ ョンの定義』を参照してください。

注: アカウント管理者がこれらの作業を実行するには、Marketing Operations の「計 画管理者」セキュリティー・ポリシー役割を持つユーザーとしてセットアップされ ていなければなりません。

アカウント所有者について

組織のアカウント所有者は、通常、中位から上位のマーケティング管理者で、特定 の事業領域の予算の管理を担当します。特に、事業領域が借り越しにならないよう に、キャッシュ・フロー、および費用と予算を追跡する責任を担います。

IBM Marketing Operations アカウント所有者の責任は、以下のとおりです。

- アカウントのレベルとステータスをモニターし、それらの予測が借り越しとならないように、また、残高がプラスを維持するようにする。アカウント所有者は、「会計」>「アカウント」をクリックしてアカウント情報を検討し、アラート、ビュー、およびレポートの組み合わせを利用してアカウント・アクティビティーをモニターすることができます。
- プロジェクトまたはプログラムの予算明細項目のアカウントを選択する。プロジェクトまたはプログラムの予算タブで、この情報は明細項目の「ソース・アカウント」列に保管されます。
- 請求書明細項目のアカウントを選択する。請求書のサマリー・タブで、この情報 は明細項目の「ソース・アカウント」列に保管されます。
- 企業の会計担当者と会計システムにアカウント・アクティビティーの詳細を伝達 および転送する。

会計機能をマーケティング機能から分離するには、Marketing Operations の PlanUserRole をアカウント所有者に付与します。この役割を持つユーザーは、アカ ウントの作成または資金割り当てを行うことはできませんが、アカウント所有者と して指定されている場合に、自分のアカウントのデータを参照したり、予算および 請求書のためにそれらのアカウントを選択したりすることができます。

アカウントを作成する方法

IBM Marketing Operations 管理者は、アカウントを追加できます。トップレベル・ アカウントまたはサブアカウントのいずれでも追加できます。任意のレベルで既存 のアカウントにサブアカウントを追加して、組織階層を作成します。例えば、米国 北東部のマーケティング活動に資金を割り当てるトップレベル・アカウントが存在 するとします。特にニューヨーク州での活動のためにサブアカウントを追加し、さ らにニューヨーク州のニューヨーク市と他の地域のためにサブアカウントを「ニュ ーヨーク州」アカウントに追加することができます。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「ルート・レベルのオブジェクト定義」セクションで、「アカウント定義 (Account Definitions)」をクリックします。「アカウント定義 (Account Definitions)」ページが表示されます。
- トップレベル・アカウントを追加するには、「トップレベル・アカウントの追加」をクリックします。

任意のアカウントにサブアカウントを追加するには、そのアカウントに対して 「追加」をクリックします。 「アカウント・プロパティー (Account Properties)」ページが表示されます。

4. 「基本情報」セクションのフィールドに値を入力します。 215 ページの『「ア カウント・プロパティー (Account Properties)」ページ』を参照してください。 5. オプションで、「予算 (次の 3 年間)」セクションを使用して次の 3 年間の各月 の予算金額を入力します。

注: サブアカウントに入力された財務情報は、その親アカウントにロールアップ されません。

6. 「変更の保存」をクリックしてアカウントを保存します。

アカウントは、無効化された状態で「アカウント定義 (Account Definitions)」ページ に表示されます。 217 ページの『アカウントを有効または無効にする方法』を参照 してください。サブアカウントは、それ自体またはその親が所属するトップレベ ル・アカウントの下で階層内に表示されます。

アカウントを編集するには、その名前を「アカウント定義 (Account Definitions)」ペ ージでクリックします。

「アカウント・プロパティー (Account Properties)」ページ

アカウント管理者がアカウントを作成または編集する際、「アカウント・プロパティー (Account Properties)」ページが表示されます。基本情報および予算 (次の3年間)のセクションが表示されます。

「基本情報」セクション

「基本情報」セクションには、以下のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
アカウント名	必須。Marketing Operations では、この名前を使用してアカウント をユーザー・インターフェースで識別します。固有の名前を入力し てください。
説明	アカウントの説明 (オプション)。この説明は、「アカウント定義 (Account Definitions)」ページに表示されます。
チーム・メンバー	必須。アカウントの所有者のリスト。デフォルトでは、アカウント の作成者は所有者としてリストされます。216ページの『アカウン ト所有者を追加または削除する方法』を参照してください。 アカウント管理者ではないアカウント所有者は、「会計」>「アカ ウント」をクリックしてアカウント情報を参照し、プログラムおよ びプロジェクトの予算タブと請求書の明細項目に対して、自分が所 有するアカウントを選択することができます。「アカウント・プロ パティー (Account Properties)」ページにはアクセスできません。
アカウント番号	必須。アカウントの一意の英数字 ID。スペースを使用しないでく ださい。
セキュリティー・ポリ シー	必須。アカウントのセキュリティー・ポリシー。アカウントにアク セスできるのは、このセキュリティー・ポリシー内のユーザーだけ です。
ソース・アカウント	サブアカウントのみで表示。親アカウントの読み取り専用名。

「予算 (次の 3 年間)」 セクション

「予算」セクションは、本年度と続く 2 年間の各月の予算金額を入力するためのグ リッド・インターフェースを備えています。 IBM Marketing Operations は、各四半 期の入力金額を集計し、暦年ごとにアカウントに対する割り当て資金を合計しま す。

アカウント所有者が「会計」>「アカウント」をクリックしてアカウント情報を参照 すると、デフォルトでは本年度のデータが表示されます。「アカウント・サマリー (Account Summary)」リストから別の年を選択すると、新規ブラウザー・ウィンド ウが開いてその年のアカウント情報が表示されます。

注:他の年のアカウントから予算または請求書の明細項目が引き出されると、それ らの年も「アカウント・サマリー (Account Summary)」リストに表示されます。

アカウント所有者を追加または削除する方法

アカウントを参照または編集できるのは、そのアカウントの所有者のみです。アカ ウントを作成した人は、作成の際に所有者として自動的に追加されます。このトピ ックでは、アカウント所有者として他のチーム・メンバーを追加および解除する方 法について説明します。

1. 編集するアカウントにナビゲートします。

- 2. 「メンバーの追加/削除」をクリックします。 「メンバーのアクセス・レベルの 選択」ダイアログが開きます。
- 3. 別のチーム・メンバーをアカウント所有者にするには、以下を行います。
 - a. 「**フォルダー**」リストでユーザーを選択します。
 - b. 「>>」をクリックして、そのユーザーを「**選択したチーム・メンバー**」のリ ストに追加します。

「**選択したチーム・メンバー**」リストの各チーム・メンバーは、このアカウ ントの所有者です。

- 4. アカウント所有者を解除するには、以下を行います。
 - a. 「選択したチーム・メンバー」リストでユーザーを選択します。
 - b. 「<<」をクリックして、そのユーザーを解除します。
- 5. 「変更の保存」をクリックします。

有効化されたアカウントと無効化されたアカウントについて

アカウントには、有効化と無効化の 2 つの状態があります。例えば、アカウントを 将来の使用に備えてセットアップし、使用開始の準備が整うまで無効化された状態 にしておくことができます。

アカウント管理者がアカウントを作成する際は、無効化された状態で作成されま す。アカウントをアカウント所有者が参照して選択できるようにユーザー・インタ ーフェースに表示するには、その前にアカウントを有効化しておく必要がありま す。管理者は、任意のアカウントの状態をいつでも変更できます。

- 有効化されたアカウントは、プロジェクトおよびプログラムの予算の明細項目に 対して選択することができます。プロジェクトまたはプログラムの予算タブで、 この情報は明細項目の「ソース・アカウント」列に保管されます。
- 有効化されたアカウントは、請求書の明細項目に対して選択することもできます。請求書のサマリー・タブで、この情報は明細項目の「ソース・アカウント」 列に保管されます。
- ・ 無効化されたアカウントの名前は、「設定」>「Marketing Operations 設定」> 「アカウント定義 (Account Definitions)」ページに、灰色のイタリック・フォン トで表示されます。管理者はこのページから、無効化されたアカウントの情報と 予算を編集することができます。
- ・ 無効化されたアカウントは、請求書の明細項目に対して、あるいはプロジェクト またはプログラムの予算の明細項目に対して選択することができません。
- 予算または請求書の明細項目がリンクされているアカウントは、無効化されて
 も、引き続きそれらの明細項目に対してアクティブです。ただし、無効化された
 アカウントを新規明細項目に対して選択することはできません。
- アカウント管理者は、無効化されたトップレベル・アカウントにサブアカウント を追加できます。しかし、(例えば、新しい会計年度または期間の初めに)このサ ブアカウントを使用する準備が整ったら、そのトップレベル・アカウントを有効 化する必要があります。

『アカウントを有効または無効にする方法』を参照してください。

アカウントを有効または無効にする方法

管理者は、アカウントを有効にしたり、無効にしたりすることができます。 Marketing Operations 管理者ではないアカウント所有者は、アカウントの状態を変更 できません。

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 「ルート・レベルのオブジェクト定義」セクションで、「アカウント定義 (Account Definitions)」をクリックします。「アカウント定義 (Account Definitions)」ページでは、有効にされたアカウントは標準フォントで、無効にさ れたアカウントは灰色のイタリック・フォントでリストされます。
- 3. アカウントを有効にするには、「有効にする」をクリックします。

アカウントを無効にするには、「無効にする」をクリックします。

第 16 章 詳細トピック

この章では、IBM Marketing Operations インターフェースにおける、高度なカスタマイズ・オプションについて説明します。以下のトピックがあります。

- 「サマリー」タブのフィールドにプログラマチックに値を入力
- カスタム・データ検証ルールの作成

Marketing Operations を他のアプリケーションを統合するために使用できるサービス については、「*IBM Marketing Operations統合モジュール*」ガイドを参照してくださ い。

フィールドにプログラマチックに値を入力

Marketing Operations では、他のフィールドの値を基にプログラマチックに値が設定 される、カスタム・フィールドを作成することができます。フィールドにプログラ マチックに値が設定されるように指定するには、「外部データ・ソース」という属 性タイプの属性をフォームに追加し、実行するプログラムを指定します。このプロ グラムは、Marketing Operations と同じサーバー上で実行される Java プログラムで も、Web サービス (任意の場所に存在)でも構いません。

例えば、事業部門および製品の各フィールドに入力された値に基づくジョブ番号を 生成するプログラムを、あるフィールドで呼び出すことなどができます。

「外部データ・ソース」属性タイプの属性は、読み取り専用のデータ入力フィール ドとして、「生成」ボタンとの組み合わせでユーザー・インターフェースに表示さ れます。ユーザーが「生成」をクリックすると、IBM Marketing Operations は指定 プログラムにアクセスし、結果をこのフィールドに表示します。

プログラムを指定するには、<column> タグ内に <servicedetails> タグを含める必要 があります。<servicedetails> タグには、以下のタグを含めることができます。

タグ	説明
type	javaclass または webservice のいずれかをタイプとして入力します。
classname	このタグには、サーバー・サイドのカスタム Java クラスを入力しま す。このカスタム・クラスは、com.unicacorp.common.template.IdGenerate インターフェースを実装する必要があります。このタグに値を指定する 場合、 <methodname> タグはオプションです。</methodname>
param	このタグには、以下の属性があります。 • parameter name • type • valuecolumn すべてのパラメーターを同じマップ・ファイル (projectatts.product_id な ど) に定義する必要があります。これらのパラメーターは、プログラム で要求される順序で指定する必要があります。

タグ	説明
wsdl	このタグには、Marketing Operations サーバーにある Web サービス定義
	ファイルか、またはこのファイルへの URL を入力します。
methodname	このタグには、Web サービス・メソッド名を入力します。 <classname></classname>
	タグを指定する場合、このタグは必須ではありません。

フィールドにプログラマチックに値を入力する例

```
この例では、<servicedetails> タグを使用して、
com.unicacorp.common.template.IdGenerate インターフェースを実装し、製品 ID
を渡すことにより、サーバー・サイドの Java クラス・アプリケーションをセットア
ップします。
<servicedetails>
<classname>com.unicacorp.uap.webservice.FormIdGenImpl
</classname>
<param name="param1" type="string"
```

```
valuecolumn="dyn_projectatts.product_id" /> </servicedetails>
```

前述の例と同様に、以下の例は同じ動作を構成する方法を示していますが、

com.unicacorp.common.template.IdGenerate インターフェースを実装しない汎用 Java クラスを使用しています。

```
<servicedetails>
```

```
<classname>com.unicacorp.uap.webservice.FormIdGenImpl
</classname>
<param name="param1" type="string"
valuecolumn="dyn_projectatts.product_id" />
<methodname>getFormId</methodname>
</servicedetails>
```

```
以下に、<servicedetails> タグを使用して Web サービス・アプリケーションをセットアップし、事業部門 ID を渡す方法の例を示します。
```

サーバー・サイドの ID 生成およびプロジェクト属性の検証

カスタム・ルーチンを使用して ID 値を自動生成し、オブジェクトの「サマリー」 タブに入力された値を検証するためのテンプレートをセットアップすることができ ます。自動生成の対象として設定できる ID 値には、プロジェクト、計画、または プログラムの ID が含まれます。

カスタム ID ジェネレーターを定義するには、 com.unicacorp.uap.project.helper.PidGenerate インターフェースを実装する Java クラ スを作成する必要があります。そして、テンプレート定義内に、pidGenClass 属性の 値として Java クラス名を指定し、pidprefix 属性を使用してオプションの接頭部を 含めることができます。

同様に、プロジェクト、計画、またはプログラムの属性値を検証するカスタム・ル ーチンを定義することもできます。カスタム検証ルーチンを定義するには、次のイ ンターフェースを実装する Java クラスを作成する必要があります。 com.unicacorp.uap.common.template.IdValidate。

その後、プロジェクトのテンプレート定義内に、validateClass 属性の値として Java クラス名を指定できます。

サーバー・サイドの ID 生成の例

オファー用のカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプがあるとします。 そのテンプレートにより、作成されるオファー・インスタンスごとにカスタム・コ ードを生成します。このコードには、以下のような特性がなければなりません。

- 最初の数値は 900001 で始まります。
- 生成可能な最後の数値は 999999 です。
- コードは、連続していなければなりません。

自動 ID 生成をセットアップするために、IdGenerate インターフェースを使用して、以下の手順に従います。

- 1. CustomComponentPidGenerateImpl.java という名前のカスタム Java 実装を作成 します。 222 ページの『サンプル Java インターフェース』を参照してくださ い。
 - この実装では、IDRange.properties というファイルを使用して、カスタム ID の最小値と最大値が保持されます。
 - CUST_GENIDS というデータベース表を使用して、このクラスが使用される 各オブジェクト・タイプのカスタム ID の現行値を保持します。
- クラスをコンパイルします。コンパイルされたクラスの名前は CustomComponentPidGenerateImpl.class です。
- 3. このクラス・ファイルを、次のディレクトリーにコピーします。

<MarketingOperations_Home>¥unwar¥WEB-INF¥classes¥com¥unica¥uap¥component¥helper

4. IDRange.properties という名前のファイルを作成し、このファイルに次のテキ ストを追加します。

mktOBJId.min=900001

mktOBJId.max=999999

- 5. このファイルを、<*MarketingOperations_Home*>¥unwar¥WEB-INF ディレクトリー にコピーします。
- 6. データベース管理プログラムを使用して、以下の列を含む CUST_GENIDS とい う名前のテーブルを作成します。
 - ENTITY_NAME (ストリング、長さ 50)
 - ID_VALUE (整数、すべてファイル・フォーマット)

- 7. Web サーバーを再始動します。
- このマーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを作成または編集 し、その「プロパティー」タブを開きます。
- 9. 「**ID 生成クラス**」フィールドで、以下に示すように、完全修飾クラス名または 正規名を使用してカスタム・クラスを指定します。

CustomComponentPidGenerateImpl

このテンプレートから最初のオファーを作成する際に、その ID が 900001 になることを確認してください。

サンプル Java インターフェース

このセクションでは、以下について説明します。

- インターフェース IdValidate
- インターフェース IdGenerate
- カスタム ID ジェネレーター

インターフェース - IdValidate

```
package com.unicacorp.uap.common.template;
import java.util.HashMap;
/**
This is an interface to be implemented by the end user of a Marketing Operations
system for the purpose of validating system generated id values
as per business logic.
Implementations of this Interface are called by the Marketing Operations Server.
*/
public interface IdValidate
/**
Returns true if the specified attribute values are valid.
* Oparam id - current project or program id. This will be the
      value if it is new project/program
* Oparam values - This is a set of name/value pairs, referring to
         a current database connection, the appropriate
        template id and another HashMap that contains
        name/value pairs, corresponding to the fields and
        values on the screen.
                     - if it is valid; otherwise returns false or throws
* @return true
       exception.
               com.unicacorp.uap.user.IdValidateException
* @throws
          Should contain a message value that is meaningful
*
         about what went wrong.
*/
public boolean isValid(int id, HashMap values) throws
 IdValidateException;
/**
 The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
 that refers to a current database connection to the Marketing Operations
 system tables.
 This connection is available for use to implementations of this
 interface.
*/
 public final String PLAN DB CONNECTION = "dbconnection";
  /**
  * The name of the hashkey in the HashMap passed to
  idValidate.isValid(..) that refers to the id of the related
  template.
```

```
*/
 public final String OBJECT TEMPLATE ID = "templateid";
  /**
  * The name of the hashkey in the HashMap pass to
   * IdValidate.isValid(..) that refers to another Hashmap which
   * contains name/value pairs. The name corresponds to a field on
   * the screen for project/program and the value corresponds to the
  * user entered text or selection.
   */
 public final String OBJECT_ATTRIB_VALUES = "attributeValues";
インターフェース - IdGenerate
package com.unicaorp.uap.common.template;
import java.util.HashMap;
/* This is an interface to be implemented by the end user
* of a Marketing Operations
* system for the purpose of generating unique Project Code (PIDs). The intent
* is to allow users to attach to existing enterprise systems to help make
* project IDs meaningful in their enterprise.
* Implementations of this Interface are called by the Marketing Operations Server.
* It is the responsibility of the Marketing Operations Server
* to assure that there is
* only one ID being generated at a time. When implementation of this
* interface are called, they can assume that there are no other IDs
* that are being generated concurrently.
*/
public interface IdGenerate {
    /**
  * Returns a string code used to define a Project object with Marketing Operations
  * Oparam uniqueId - This is an integer value that is generated by
  * the Marketing Operations system. This is guaranteed to be unique across
  * the system; hence, if the project ID returned is the string
  * representation of this integer, it will be a unique

    * Project Code (PID).

  * Oparam values - This is a set of name/value pairs, referring to the current
  * database connection, appropriate template id, code prefix,
    request flag, and another HashMap that contains name/value
     pairs, corresponding to the fields and values on the screen.
  * Oparam uniqueChecker - An implementation used to verify the uniqueness of
    of ID's generated by this instance.
  * @return
             - A string that represents the ID of the project we are
          creating.
  * @throws com.unicacorp.uap.user.IdGenerateException
    Should contain a message value that is meaningful about
  *
  *
    what went wrong
*/
    public String generateID (int uniqueId, HashMap values, IdUniqueChecker
  uniqueChecker)
  throws IdGenerateException;
 /**
  * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
  * that refers to a current database connection to the Marketing Operations
  * system tables.
  * This connection is available for use to implementations of this interface.
```

```
public final String PLAN DB CONNECTION = "dbconnection";
```

```
/**
 * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
 * that refers to the id of the related template.
 */
public final String OBJECT TEMPLATE ID = "templateid";
/**
* The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
 * that refers to the desired string prefix to prepend the generated id.
 */
public final String OBJECT CODE PREFIX = "pidprefix";
/**
 * The name of the hashkey in the HashMap passed to IdValidate.isValid(..)
 * that refers that indicates whether the calling object is a request.
 */
public final String OBJECT REQUEST FLAG = "flagprojectrequest";
/**
* The name of the hashkey in the HashMap pass to IdValidate.isValid(..)
 * that refers to another Hashmap which contains name/value pairs. The name
* corresponds to a field on the screen for project/program and the value
 * corresponds to the user entered text or selection.
 */
public final String OBJECT ATTRIB VALUES = "attributeValues";
/**
* Default start plan code start number
 */
public final int PLAN CODE SUFFIX START = 1000;
/**
 * Default start program code start number
 */
public final int PROGRAM CODE SUFFIX START = 1000;
/**
 * Default start project code start number
 */
public final int PROJECT CODE SUFFIX START = 1000;
/**
* Default start rfq code start number
 */
public final int RFQ CODE SUFFIX START = 1000;}
```

カスタム ID ジェネレーター

```
package com.unica.uap.component.helper;
import com.unicacorp.uap.common.db.*;
import com.unicacorp.uap.common.template.*;
import org.apache.commons.lang.StringUtils;
import java.io.File;
import java.io.FileInputStream;
import java.sql.Connection;
import java.sql.PreparedStatement;
import java.sql.ResultSet;
import java.sql.SQLException;
import java.util.HashMap;
import java.util.Properties;
/**
* The Class CustomComponentPidGenerateImpl.
*/
public class CustomComponentPidGenerateImpl implements IdGenerate,
IdUniqueChecker {
/** The lower limit. */
public static int LOWER LIMIT = 0;
/** The upper limit. */
 public static int UPPER LIMIT = 0;
 static {
 Properties attrPro = new Properties();
 try {
```

```
String planHome = System.getProperty("plan.home");
  System.out.println("planHome : " + planHome);
  File file = new File(planHome + "/unwar/WEB-INF/IDRange.properties");
  FileInputStream fi = new FileInputStream(file);
  if (fi != null) {
   attrPro.load(fi);
   String min = (String) attrPro.get("mktOBJId.min");
   String max = (String) attrPro.get("mktOBJId.max");
   LOWER_LIMIT = Integer.parseInt(min);
   UPPER LIMIT = Integer.parseInt(max);
  System.out.println("Lower Limit :" + LOWER_LIMIT);
System.out.println("Upper Limit :" + UPPER_LIMIT);
  } else {
   System.out.println("IDRange Property file can not be found");
   throw new RuntimeException("IDRange Property file can not be found");
  }
 } catch (Exception e) {
  e.printStackTrace();
  throw new RuntimeException("IDRange Property file can not be found");
}
/**
 * The Constructor.
 */
public CustomComponentPidGenerateImpl() {
/**
* Generate ID.
 * Oparam uniqueChecker the unique checker
 * Oparam values the values
 * Oparam instanceId the instance id
 * Oreturn the string
 * Othrows IdGenerateException the id generate exception
 */
 public synchronized String generateID(int instanceId, HashMap values,
 IdUniqueChecker uniqueChecker) throws IdGenerateException {
 print("inside 'generateID' method");
 print("instanceId : " + instanceId);
 String prefix = (String) values.get("pidprefix");
 print("prefix : " + prefix);
 String templateid = (String) values.get("templateid");
 print("templateid : " + templateid);
 Connection con = (Connection) values.get("dbconnection");
 //int nextValue = -1;
 boolean isEmptyPrefix = false;
 try
 if (StringUtils.isEmpty(prefix)) {
   isEmptyPrefix = true;
  }
  //GET THE CURRENT VALUE OF THE TEMPLATE ID - from CUST GENIDS table
  String sqlString = "SELECT ID VALUE FROM CUST GENIDS WHERE ENTITY NAME = ?";
  print("sqlString : " + sqlString);
  PreparedStatement ps = null;
  ResultSet rs = null;
  int cnt = 0;
  try {
  ps = new UAPSQLPreparedStatement(con, sqlString);
   UAPSQLUtils.setupPreparedStatement(ps, 1, templateid, "string");
   rs = ps.executeQuery();
   if (rs.next())
    cnt = rs.getInt(1);
   }
   print("current ID vlaue :" + cnt);
```

```
UAPSQLUtils.closeResultSet(rs, ps);
  } catch (SQLException ex) {
   ex.printStackTrace();
   UAPSQLUtils.closeResultSet(rs, ps);
   throw new RuntimeException(ex);
  } catch (Exception exception) {
   exception.printStackTrace();
   UAPSQLUtils.closeResultSet(rs, ps);
   throw new RuntimeException(exception);
  if (cnt == 0) {
   //insert first new record for the template id into table
   cnt = LOWER_LIMIT;
   String sqlInsertStr = "INSERT INTO CUST_GENIDS values (?,?)";
   print("sqlInsertStr : " + sqlInsertStr);
   ps = new UAPSQLPreparedStatement(con, sqlInsertStr);
   ps.setString(1, templateid);
   ps.setInt(2, cnt);
       }
       else if ((cnt >= LOWER LIMIT) && (cnt < UPPER LIMIT)) {</pre>
   //increase the counter and update the row for the template id
   cnt++;
   String sqlUpdateStr =
    "UPDATE CUST GENIDS SET ID VALUE= ? WHERE ENTITY NAME = ?";
   print("Update : " + sqlUpdateStr);
   ps = new UAPSQLPreparedStatement(con, sqlUpdateStr);
   ps.setInt(1, cnt);
   ps.setString(2, templateid);
  } else {
   print("Current ID is out of range, ID Range [" + LOWER LIMIT +
    "-" + UPPER LIMIT + "]");
    //throw exception that can not generate id, limit is over
    throw new IdGenerateException(
     "Current ID is out of range, ID Range [" + LOWER LIMIT +
     "-" + UPPER LIMIT + "]");
       }
  //UAPSQLUtils.beginTransaction(con);
  ps.execute();
  //UAPSQLUtils.endTransaction(con, true);
  String pid = (isEmptyPrefix ? "" : prefix) + cnt;
  print("return from 'generateID' method with pid : " + pid);
  return pid;
 } catch (Exception ex) {
  ex.printStackTrace();
  throw new IdGenerateException(ex);
 }
}
/**
 * Checks if is unique.
 * Oparam values the values
 * Oparam Id the Id
 *
 * @return true, if is unique
 */
public boolean isUnique(String Id, HashMap values) {
 print("inside 'isUnique' method");
 //provide actual implementation for uniqueness check
 return true;
/**
 * Print.
 *
 * Oparam str the str
 */
```

```
private void print(String str) {
   System.out.println(str);
}
```

グリッドの検証

IBM Marketing Operations では、カスタム・データ検証ルールの作成に使用できる 検証インターフェースが公開されています。バリデーター・インターフェースを使 用したサンプル・ルールと、

com.unicacorp.uap.grid.validation.plugin.GridValidatorPluginImpl バリデーターが Marketing Operations に付属しています。

編集可能グリッドが含まれるフォームをプロジェクト・テンプレートに追加する 際、そのグリッドに入力されるデータを検証するためのデータ検証クラスおよびル ールを指定することができます。

検証ルールを扱う際は、以下の点に留意してください。

- 検証ルールを含むファイルは、特定のフォーマットを使用したものでなければなりません。ルールの XML ファイルは、インポートする際に gridrules.xsd XML スキーマに照らして検証されます。
- 通常、ルールはフォームに固有のものです。これはルールが、基礎テーブルの構造と密接な結びつきがあるためです。このため、各ルールを、1つの(編集可能グリッド)フォームのみで使用してください。
- Marketing Operations には、ほとんどの検証タスクに使用可能な、いくつかのサン プル・ルールが付属しています。必要に応じ、さらにカスタム・ルール・ファイ ルを作成してインポートすることができます。

編集可能グリッドの扱いについては、109ページの『グリッドの作成』を参照して ください。データ検証ルールのインポートについては、228ページの『データ検証 ルールについて』を参照してください。

バリデーター・インターフェース

バリデーター・インターフェースでは、以下の関数が公開されています。

関数	説明
init(config:GridConfig)	この関数は、バリデーターを初期化します。
process(rulesToExecute:Validator.RulesEnum)	この関数は、検証ルールを実行します。 rulesToExecute パラメーターにより、検証プ ラグインが実行するルールのタイプが決まり ます。これは列挙値で、以下のような値を指 定できます。 • allRules • gridRules • rowRules
destroy()	この関数はオブジェクトのデストラクター で、ガーベッジ・コレクションを行います。

IBM Marketing Operations には、サンプル・バリデーター RangeCheckRule.java が 用意されています。このオブジェクトは、グリッドを入力として受け取った後、グ リッド内のすべてのレコードを反復して、XML ファイルに定義されているルールに 照らして検証を行います。

データ検証ルールについて

ルールとは、XML ファイルで定義してから、インポートしてフォームに関連付ける データ検証機能のセットのことです。フォームにデータ検証ルールの関連するセッ トがある場合、ユーザーがマーケティング・オブジェクト・インスタンスのデータ を入力したときに、Marketing Operations がそれらを自動的に適用します。データ検 証ルールのセットアップ方法について詳しくは、227 ページの『グリッドの検証』 を参照してください。

「ルール定義」ページでは、以下を実行できます。

 「ルール定義の追加 (Add Rules Definition)」をクリックして、XML ルール定義 ファイルをロードします。

ルールを追加した後で、グリッド・スタイルのフォームを使用してデータを収集 するタブにリンクします。テンプレートを編集して「タブ」タブをクリックしま す。詳しくは、72ページの『ユーザー・インターフェースをカスタマイズするた めの、テンプレートの「タブ」タブ』を参照してください。

- 「**削除**」をクリックして、ルールを削除します (どのテンプレートでも使用され ていない場合)。
- ルールをクリックしてルール・ファイルを更新するか、ルールの名前を変更します。

注:既存のルール・ファイルを上書きしようとすると、警告が表示されます。

「ルール定義」ページにナビゲートするには

- 1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
- 2. 「その他のオプション」セクションで、「**テンプレート構成**」をクリックしま す。
- 「テンプレート・コンポーネント」セクションで、「ルール」をクリックします。

検証ルール

バリデーター・インターフェースは、一連のルールを呼び出し、それらのルールと 入力データ値を比較することで機能します。各ルールは、Rule インターフェースを 実装する実行可能な Java ファイルです。

検証プラグインは、2 つのタイプのルールをサポートします。

- ROW: 行レベルのルールが最初に実行されます。
- GRID: グリッド・レベルのルールが行レベルのルールの後に実行されます。

所定の検証プラグインが使用されているグリッドのデータをユーザーが保存する と、すべてのルールが適用されます。最初に行レベルのルールが適用され、次にグ リッド・レベルのルールが適用されます。各ルールは、ルール・ファイルに宣言さ れている順序で適用されます。

データ検証ルール・ファイルの構造

検証ルール・ファイルは、1 つ以上のルールが含まれている XML ファイルです。 各ルールには、以下のタグを含めることができます。

表 81. 検証ルール・ファイルのタグ

タグ	説明
rule	ルールを開始し、ルール・タイプを設定します。これは、ROW または
	GRID のいすれかです。
name	ルールの名前。
desc	ルールのテキストによる記述。
enable	以下のような、ルールを有効化または無効化するためのブール値。
	• false: ルールは無効化されます
	• true: ルールは有効化されます
applies-to-tvc-id	ルールが適用されるグリッド・コンポーネントの内部名。複数のグリッ
	ドにルールを適用するには、各グリッド・コンポーネントに
	applies-to-tvc-id タグを個別に使用します。このタグはオプションです。
	このタグが省略された場合、ルールは指定されたフォーム上のすべての
	グリッドに適用されます。
class	ルールを処理するためのコマンドが含まれている Java クラス。サンプ
	ル範囲検査ルールを使用するには、
	com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.RangeCheckRule と入
	カします。
set-property	set-property タグにより、ルールにパラメーターが渡されます。各ルール
	には、0 個以上の set-property タグを含めることができます。

サンプル・データ検証ルール

IBM Marketing Operations には、以下のサンプル・ルールが含まれています。

表 82. サンプル・データ検証ルール

ルール	説明
BeginsWithRule	検証中のテキスト列が指定した文字で始まることを確認します。 beginCharacter プロパティーと column プロパティーを設定します。以 下に例を示します。
	<pre><set-property property="beginCharacter" value="A"></set-property> <set-property property="column" value="dyn_vendors.Name"></set-property></pre>
	このルールでは、dyn_vendors データベース表の Name フィールドを検 査して、その値の先頭文字が A であることを確認します。
	クラス名: com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.BeginsWithRule

表 82. サンプル・データ検証ルール (続き)

ルール	説明
DateCheckRule	検証中の日付列が指定の範囲内に収まっていることを確認します。以下
	のプロパティーを設定します: greaterThan、lessThan、column。
	以下に例を示します。
	<set-property property="greaterThan" value="12/31/1999"></set-property> <set-property property="lessThan" value="Today"></set-property> <set-property property="column" value="<br">"dyn_vendors.invoiceDate"/></set-property>
	このルールでは、dyn_vendors データベース表の invoiceDate フィール ドを検査して、その値が 2000 年より前でないことを確認します。
	オプションで、dateFormat プロパティーを設定することもできます。こ のプロパティーを追加する場合は、日付を指定の形式で入力する必要が あります。以下の形式値を設定できます: dd/MM/yyyy、MM/dd/ yyyy、dd/MM/yy、MM/dd/yy、yyyy-MM-dd、yyyy.MM.dd
	クラス名:
	com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.DateCheckRule
RangeCheckRule	検証中の整数列が指定の範囲内に収まっていることを確認します。以下 のプロパティーを設定します: minValue、maxValue、column
	以下に例を示します。
	<set-property property="minValue" value="1"></set-property> <set-property property="maxValue" value="9999999"></set-property> <set-property property="column" value="<br">"dyn_vendors.numEmployees"/></set-property>
	このルールでは、dyn_vendors データベース表の numEmployees フィー ルドを検査して、その値が 1 から 999,999 までの範囲内であることを 確認します。
	クラス名:
	com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.RangeCheckRule
UniqueCheckRule	検証中の列に複製値が含まれていないことを確認します。column プロ パティーを設定します。
	クラス名:
	com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.UniqueCheckRule 注: このルールは、行レベル・ルールであることを示す「ROW」が使用 されている場合であっても、常にグリッド全体に適用されます。

検証ルールの例

以下のサンプル・ルールでは、グリッドの numEmps フィールドに設定される値が 10 から 1000 までの範囲内であることを検証します。

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
 <validation-rules xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
 <rule validationType="ROW">
 <name>Range Check</name>
 <desc>Checks Range for numeric type. Note: for field numEmps</desc>
 <class>com.unicacorp.uap.grid.validation.rule.basic.RangeCheckRule</class>
 <enable>true</enable>

```
<applies-to-tvc-id>vendors</applies-to-tvc-id>
    <set-property property="minValue" value="10"/>
    <set-property property="maxValue" value="1000"/>
    <set-property property="column" value="dyn_vendors.numEmps"/>
    </rule>
</validation-rules>
```

このルールでは、numEmps フィールドは、vendors という内部名のフォーム上にあ ります。以下の手順では、このフォームがシステムにセットアップされていること を前提としています。

以下の手順では、検証ルール・ファイルを Marketing Operations にインポートし、 テンプレートに追加し、テストする方法について説明します。

- 1. サンプル検証ルールを含む XML ファイルを作成します。
- 2. 以下のようにして、ルール・ファイルを Marketing Operations にアップロードします。
 - a. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「ルー ル」をクリックします。
 - b. 「ルール定義の追加 (Add Rules Definition)」をクリックします。
 - c. 「更新規則 (Update Rule)」ダイアログ・ボックスで、識別名を入力し、 XML ファイルを指定します。
 - d. 「続行」をクリックして、ルール・ファイルを Marketing Operations に追加 します。
- 3. テンプレート上のタブにルール・ファイルを割り当てます。
 - a. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「テンプ レート」をクリックします。
 - b. テンプレートを選択し、その「**タブ**」タブをクリックします。
 - c. 「**タブの追加**」をクリックします。「**フォーム**」では、vendors を選択しま す。「**データ検証ルール**」では、ルールの識別名を選択します。

ルール・ファイルを選択すると、システムによって「**データ検証クラス**」が 指定されます。

- 4. 変更を保存し、このテンプレートを使用してオブジェクトを作成します。
- 5. ルールをテストするために、empNum フィールドに無効データを入力します。

例えば、5000 を入力します。エラー・メッセージが出されるなら、ルールは設 計どおりに機能しています。

IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通 じて IBM 技術サポートに電話することができます。 このセクションの情報を使用 するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデー タ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられること があります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」 ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリ ケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「**ヘルプ」>「バージョン情報」**を選択することによ り表示できます。 「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプ リケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある version.txt ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番 号を入手できます。

IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、 IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照して ください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービス に言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能 であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を 侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用す ることができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの 評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM お よびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提 供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むす べての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっ ては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限 を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation170 Tracer Lane Waltham, MA 02451 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があ ります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それら の製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行 価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を 例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されていま す。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式 においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを 経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、 利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。 これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるも のであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プ ログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それ ぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リスト については、http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」)では、製品の使用に関する情報の収集、エン ド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のた めに、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie と は Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピュ ーターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多 くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使 用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテ クノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的 事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、 お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれ のお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie お よび持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効 にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできま せん。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令 等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie および さまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能 を提供する場合、 お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイ ドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同 意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関す る方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件 (例えば、プライバシー・ ポリシー) への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者の コンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、 および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへ の閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前 に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、 IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他 のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan